

ラオス国天然資源環境省
ラオス国農林省

**ラオス国
持続可能な森林経営及びREDD+推進の
ための森林セクター
政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ**

業務完了報告書

平成27年 9月
(2015年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

国際航業株式会社

環境
JR
15-142

ラオス国天然資源環境省
ラオス国農林省

**ラオス国
持続可能な森林経営及びREDD+推進の
ための森林セクター
政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ**

業務完了報告書

平成27年 9月
(2015年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

国際航業株式会社

目 次

調査対象地域位置図

略語集

要約

第 1 章	プロジェクトの概要	1-1
1.1	プロジェクトの背景と経緯	1-1
1.2	目的と成果	1-1
1.3	業務フローチャート	1-3
第 2 章	専門家活動内容と成果達成状況	2-1
2.1	作業工程	2-1
2.2	投入実績	2-2
2.3	活動結果と考察	2-4
2.3.1	国内作業	2-4
2.3.2	現地業務	2-4
2.3.3	成果品リスト	2-12
2.3.4	収集資料	2-13
第 3 章	受入国、協力先の現状と問題点	3-1
3.1	カウンターパートの人員不足	3-1
3.2	DFRM-DOF 間の協力関係とコミュニケーションの課題	3-1
3.3	森林セクター情報の更新と新戦略の策定に向けた準備	3-1
3.4	ラオス REDD+の進展と協調された取り組みの必要性	3-2
3.5	REDD+における県レベルの役割の段階的特定	3-2
第 4 章	本格フェーズ開始に向けて残された課題	4-1
4.1	日本人専門家及びスタッフの執務環境の準備	4-1
4.2	実施体制と CP の決定	4-2
第 5 章	類似プロジェクト、類似分野への教訓・提言	5-1
5.1	「2 段階方式」について	5-1
5.2	自立発展性に向けた資金確保、他事業との連携	5-3

図・表 目 次

図 1-1 : プロジェクトの全体像と準備フェーズ、本格フェーズの関係	1-3
図 1-2 : 業務のフローチャート	1-4
図 2-1 : 作業工程計画	2-1
図 2-2 : 要員計画・実績	2-3
図 4-1 : 本格フェーズ実施体制	4-2
表 1-1 : プロジェクトの基本的枠組	1-1
表 2-1 : 本格フェーズにおける他事業との連携可能性	2-5
表 2-2 : 成果品リスト	2-12
表 2-3 : 収集資料リスト	2-13
表 4-1 : 本格フェーズのオフィスと備品	4-1
表 5-1 : 2段階方式に関する考察	5-2

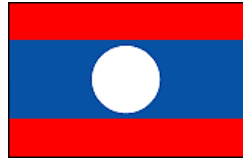
添付資料

別添 1	詳細計画策定調査用インプット資料一式
別添 2	ルアンプラバン県での FCPF Carbon Fund 3 県合同コンサルテーション及び本格フェーズ紹介ワークショップ資料
別添 3	第 3 回 NRTF における発表資料
別添 4	FSSWG 第 1 回会合 (FSSWG07) 議事録
別添 5	FSSWG 第 2 回会合 (FSSWG08) 議事録
別添 6	本格フェーズ Record of Discussion (R/D)
別添 7	NFMS 研修日程表 (資料一式は CD-R に収録)
別添 8	REDD+等国際森林行政に係る現地講習 参加者リスト
別添 9	FCPF Carbon Fund 会合 (CF12) ラオス発表資料
別添 10	ルアンプラバン県カウンターパートに係る県決定

別冊 収集資料

調査対象地域位置図

ラオス国持続可能な森林経営及び REDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト準備フェーズ



ラオス人民民主共和国



略 語 集

略語	英語名	日本語名
ACIAR	Australian Centre for International Agricultural Research	n.a.
CliPAD	Climate Protection through Avoided Deforestation Project	n.a.
C/P	Counter Part	カウンターパート
DDMCC	Department of Disaster Management and Climate Change	災害気候変動局
DFRM	Department of Forest Resource Management	森林資源管理局
DOF	Department of Forestry	林野局
ER-PIN	Emission Reductions Program Idea Note	排出削減プログラム企画書
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
FCPF	Forest Carbon Partnership Facility	森林炭素パートナーシップ基金
FIP	Forest Investment Program	森林投資計画
FIPD	Forest Inventory and Planning Division	森林調査計画課
FPP	Forest Preservation Program	森林保全計画
FREL	Forest Reference Emission Level	森林参照排出レベル
FRL	Forest Reference Level	森林参照レベル
FS2020	Forest Strategy 2020	森林戦略 2020
FSCAP	Forest Sector Capacity Development Project	森林セクター能力開発プロジェクト
FSSWG	Forest Sub-Sector Working Group	森林サブセクター・ワーキンググループ
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JCM	Joint Crediting Mechanism	二国間クレジット制度
JICA	Japan International Cooperation Agency	(独) 国際協力機構
JIRCAS	Japan International Research Center of Agricultural Science	国際農林水産業研究センター
LEAF	Lowering Emission from Asia's Forest	n.a.
LENS2	Second Lao Environment and Social Project	n.a.
MAF	Ministry of Agriculture and Forestry	農林省
MONRE	Ministry of Natural Resources and Environment	天然資源環境省
MRV	Measurement, Reporting and Verification	測定・報告・検証
NSED	National Socio-Economic Development Plan	国家社会経済開発計画
NFI	National Forest Inventory	国家森林調査
NFIS	The Capacity Development Project for Establishing National Forest Information System for Sustainable Forest Management and REDD+	持続可能な森林経営及び REDD+のための国家森林情報システム構築に係る能力向上プロジェクト
NFMS	National Forest Monitoring System	国家森林モニタリングシステム
NRESWG	Natural Resources and Environment Sector Working Group	天然資源環境セクターワーキンググループ
NRTF	National REDD Task Force	国家 REDD タスクフォース
PAFO	Provincial Agriculture and Forest Office	県農林事務所
PAREDD	Participatory Land-use and Management for Reducing Deforestation	森林減少抑制のための参加型土地・森林管理プロジェクト
PES	Payment for Environmental Services	環境サービス支払い
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PEFC	Programme for Endorsement of Forest Certification	PEFC 森林認証プログラム
PFRM	Provincial Forest Resource Management Section	県森林資源管理課

PO	Plan of Operation	活動計画表
PONRE	Provincial Office of Natural Resources and Environment	県天然資源環境事務所
ProFLEGT	Support to the Lao EU-FLEGT process	n.a.
R/D	Record of Discussion	協議議事録
RECOFTC	The Center of People and Forests	n.a.
REDD+	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation and the role of conservation of forests and enhancement of forest carbon stocks	開発途上国における森林の減少及び劣化による排出の削減並びに森林保全、持続可能な森林経営及び森林炭素蓄積の増加の役割
RTIM	Round Table Implementation Meeting	円卓実施会議
SUFORD SU	Sustainable Forest and Rural Development Scale Up (Project)	n.a.
TFT	The Forest Trust	n.a.
TOR	Terms of Reference	業務指示書
TWG	Technical Working Group	技術ワーキンググループ
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNFCCC	United Nations Framework Convention on Climate Change	国連気候変動枠組み条約
UN-REDD	United Nations REDD Programme	n.a.
WG	Working Group	ワーキンググループ

要約

プロジェクト名

ラオス国持続可能な森林経営及び REDD+推進のための森林セクター政策・戦略プロジェクト 準備フェーズ

プロジェクト期間

2014 年 12 月-2015 年 9 月 (9 ヶ月間)

専門家構成

専門家氏名	担当業務	派遣期間	所属先
北村 徳喜	業務主任者 (森林政策・REDD+)	合計 4MM	国際航業(株)
江頭 英二	副業務主任 森林経営/業務調整	合計 5MM	国際航業(株)

供与機材及び携行機材の供与実績

本プロジェクトは「森林セクター能力開発プロジェクト」(FSCAP) の執務室及び機材を継続利用したため、供与機材及び携行機材は発生していない。

専門家活動内容と成果達成状況

本業務は、全体で 5 年 10 ヶ月の期間を持つプロジェクトの準備フェーズとして当初の 9 か月分のみを担うものであり、専門家活動内容と成果達成状況は以下の通りである。

活動内容	成果達成状況
① ワークプランの作成と合意	JICA 及びラオス側との協議を経てワークプランを合意し、2014 年 12 月 16 日に JICA へ提出。 恒常的に他の開発パートナーとの情報交換・協議を行い、その結果を準備フェーズ業務並びに本格フェーズの形成に活用した。特にラオス政府の FCPF Carbon Fund への申請においては、発案当初から ER-PIN 作成までの過程で積極的に協力した。 恒常的にセクター関連情報の収集を行い、準備フェーズ業務並びに本格フェーズの形成に活用した。
② 森林サブセクター・ワーキンググループ (FSSWG) の運営	当初予定通り、2015 年の四半期ごとの FSSWG 開催を支援した (但し第 1 四半期は 4 月初旬に開催)。 また、森林セクターの開発パートナーを代表して第 7 次 NSEDP の包括的評価と第 8 次 NSEDP 策定に協力した。
③ FS2020 レビュー結果を受け	FS2020 と上位戦略である NRE セクター戦略、農業

た、FS2020 改訂を含む政策対応の検討	<p>セクター戦略、国家 REDD+戦略、国家土地政策、北部開発戦略等の主要政策との関係性の整理と、森林戦略 2020 レビューの結果を元に優先アクションの特定と将来に向けたオプションを分析し、カウンターパートに提供した。</p> <p>ラオス側は 2025 年目標、2030 ビジョンからなる新たなセクター戦略策定の意向を強めているのを受けて、同戦略策定を本格フェーズの森林セクター政策支援（成果 1）における主要活動の一つとすることが合意された。</p>
④ プロジェクト詳細計画策定への支援	<p>2015 年 3 月に実施された詳細計画策定調査の準備、実施、結果の取りまとめを支援した。調査後は R/D 署名（2015 年 7 月 1 日完了）及び本格フェーズの円滑な立ち上げに向けたフォローアップを行った。</p> <p>また、本格フェーズにおけるルアンプラバン県での LENS2 プロジェクトとの連携関係を構築した。</p>
⑤ REDD+等の森林政策動向、森林セクター改革の影響に関する調査・報告書作成	本活動は必要性が低いと判断されたため、実施せず。
⑥ カウンターパートの能力向上	ルアンプラバン県にて「REDD+理解促進と本格フェーズ紹介にかかるワークショップ」を実施した。ビエンチャンで「NFMS 研修」並びに「REDD+等国際森林行政に係る現地講習」を実施した。第 12 回 FCPF Carbon Fund 会合における C/P の参加を支援した。
⑦ 業務進捗報告書の作成・提出	2014 年 3 月に提出。
⑧ プロジェクト業務完了報告書の作成・協議・提出	2015 年 9 月に本報告書を提出。

第1章 プロジェクトの概要

第1章 プロジェクトの概要

1.1 プロジェクトの背景と経緯

ラオスの森林率は1940年代には70%以上であったが、水力発電、鉱山開発、プランテーション開発等の土地利用変化により1989年には47%まで減少し、2010年には40%まで低下した。ラオス政府は森林率を70%に回復させることを目標とした「森林戦略2020」を策定した。また、途上国の森林減少・劣化に由来する温室効果ガス排出の削減等（Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation（以下、「REDD+」という））は、全てのレベルにおける管理能力強化と行政歳入及び地域住民の生計向上に資する有効な手段ととらえ、REDD+タスクフォースを設置し、実施準備に取り組んでいる。

一方で、REDD+につながる森林保全を促進するためには、森林セクター担当行政官の政策策定・実施能力の強化が必要であるが、2011年の省庁再編に伴い、森林行政は保護林・保全林が天然資源環境省森林資源管理局、生産林は農林省林野局の所管に分離されたことから、総合的に森林保全に対応するための実施体制が十分に整備されていない。県、郡レベルの森林管理は、地方分権化に伴い、県農林事務所、郡農林事務所等が担っており、地方レベルの森林管理能力の強化についても対策が急務となっている。

さらに、REDD+の実施においては、衛星情報解析等による精度の高い森林資源情報の整備が不可欠であるものの、当国において森林資源情報管理は処理能力や容量がREDD+関連データの適切な解析・管理に対応できるものではない他、情報を集積・分析する人材が不足しており、REDD+を通じた森林保全の基盤が脆弱である。

これまでJICAは、技術協力「森林減少抑制のための参加型土地・森林管理プロジェクト（以下、「PAREDD」という）」でルアンブラバン県において土地森林管理手法の確立、「森林セクター能力強化プロジェクト（以下、「FSCAP」という）」では森林セクターの政策立案・実施を支援してきた。また、「持続可能な森林経営及びREDD+のための国家森林情報システム構築に係る能力向上プロジェクト（以下、「NFISプロジェクト」という）」は、全国レベルの森林動態情報の整備等を支援している。加えて、無償資金協力では、「森林資源情報センター計画」及び「森林保全計画」を実施している。

ついで、これらの成果を活用しつつ、ラオス国の課題である持続可能な森林経営及びREDD+実施能力強化を目的とした「ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための森林セクター政策・戦略プロジェクト」がラオス国より要請されたため、2014年12月から本プロジェクトを開始することとなった。

プロジェクトの段階的な計画策定の詳細計画策定フェーズ（以下、「準備フェーズ」という）において、先行のFSCAPが担ってきた政策支援を継続するとともに、案件形成に必要な森林資源情報、REDD+等の森林セクター政策、参加型森林資源管理等に関する情報の収集および整理を行い、2015年に予定されている詳細計画策定調査の実施支援を行うものである。

1.2 目的と成果

JICAとラオス国が2014年9月16日に締結したR/D（Record of Discussions）（但し、別途署名交換されたMinutes of Meetingsにより暫定版扱いとされている）において、本プロジェクトの基本的枠組は以下の表1-1の通りに提示されている。

表 1-1：プロジェクトの基本的枠組

【上位目標】 ラオス国全国において持続可能な森林経営がなされる。
【プロジェクト目標】 ラオス国の持続可能な森林経営及びREDD+実施に係る能力が強化される。

【期待される成果と活動】

- ① 中央政府の持続可能な森林経営の政策策定及び実施能力が強化される
 - 1-1 森林関連法令や政策策定の支援を行う
 - 1-2 森林政策策定能力強化のための研修の実施
 - 1-3 森林政策とフィールドレベルの活動の統合促進
- ② 国家森林モニタリングシステムが整備される
 - 2-1 国家森林モニタリングシステムの開発
 - 2-2 国家 MRV システムの開発
- ③ REDD+ (JCM 等を含む) の実施及び管理能力が強化される
 - 3-1 国家レベルの REDD+政策の策定支援と実施及びタスクフォースの整備と運営
 - 3-2 UNFCCC や JCM の REDD+フォーカルポイントの支援
- ④ 地方（県）レベルの REDD+の実施及び管理能力が強化される
 - 4-1 ルアンプラパン県における REDD+実施枠組の策定
 - 4-2 準国家レベルの REDD+実施枠組の策定
 - 4-3 REDD+に関連する森林資源情報の取得、適用、利用を行う

（１）準備フェーズの位置づけと本格フェーズの内容

本プロジェクトは 2015 年後半より詳細設計調査で合意される活動（以下、「本格フェーズ」という）が開始予定と見込まれ、上記の REDD+を含む森林政策や森林資源情報整備に関する中央及び地方における課題に対応する予定である。準備フェーズは本格フェーズが課題に的確に対応出来るよう関連情報の収集・整備、ラオス側との事前調整等を行い 2015 年初旬に予定される詳細設計調査を支援することとなる（図 1-1）。また、FSCAP が担ってきた FSSWG の運営を引続き担当し、第 6 回会合で残された課題や新たな課題に適時・適切に対応し、政府・ドナー及びドナー間調整・対話を促進するものとする。さらに、森林戦略 2020 レビューにおいて提言された新たな森林に関する戦略の策定についても関係セクターの動向や MONRE/MAF との協議を通じて適切な方向性を見出し、それを確実に実施するよう政府関係機関を支援することとなる。

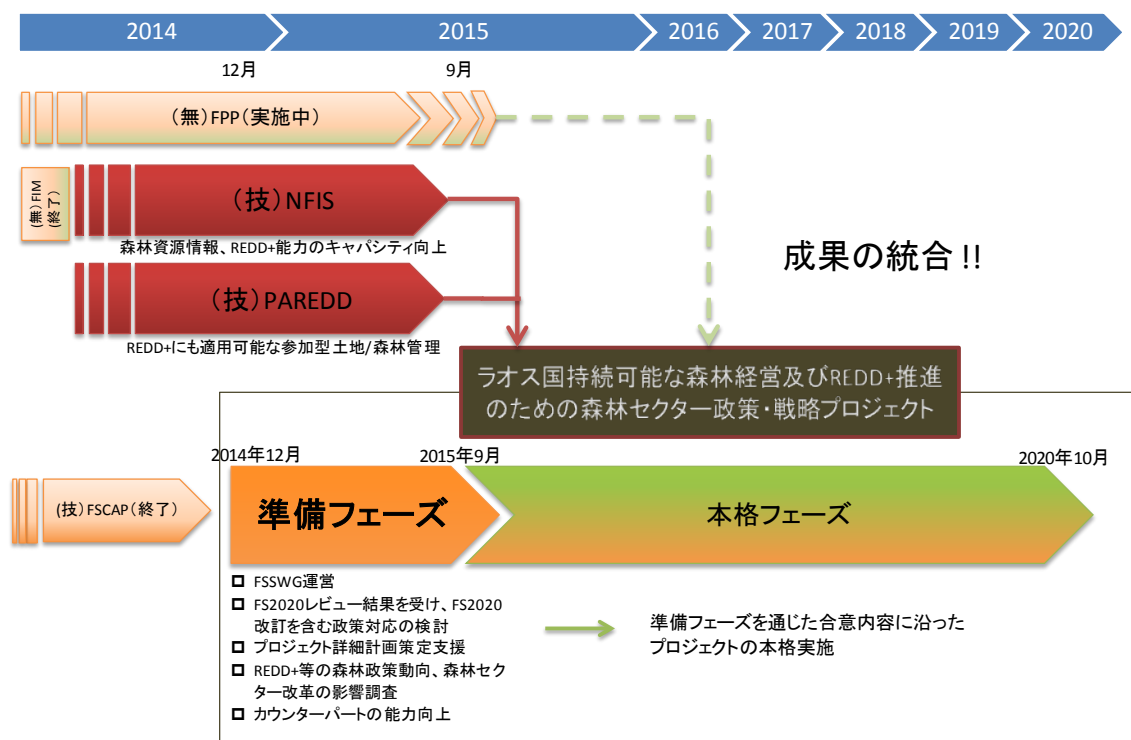


図 1-1：プロジェクトの全体像と準備フェーズ、本格フェーズの関係

(2) 準備フェーズにおける業務の目的

プロジェクトの準備フェーズにおいて、先行の「ラオス国森林セクター能力強化プロジェクト (FSCAP)」が担ってきた政策支援を継続するとともに、案件形成に必要な森林資源情報、REDD+等の森林セクター政策、参加型森林資源管理等に関する情報の収集および整理を行い、2015年初旬に予定している詳細計画策定調査の実施支援を行う。

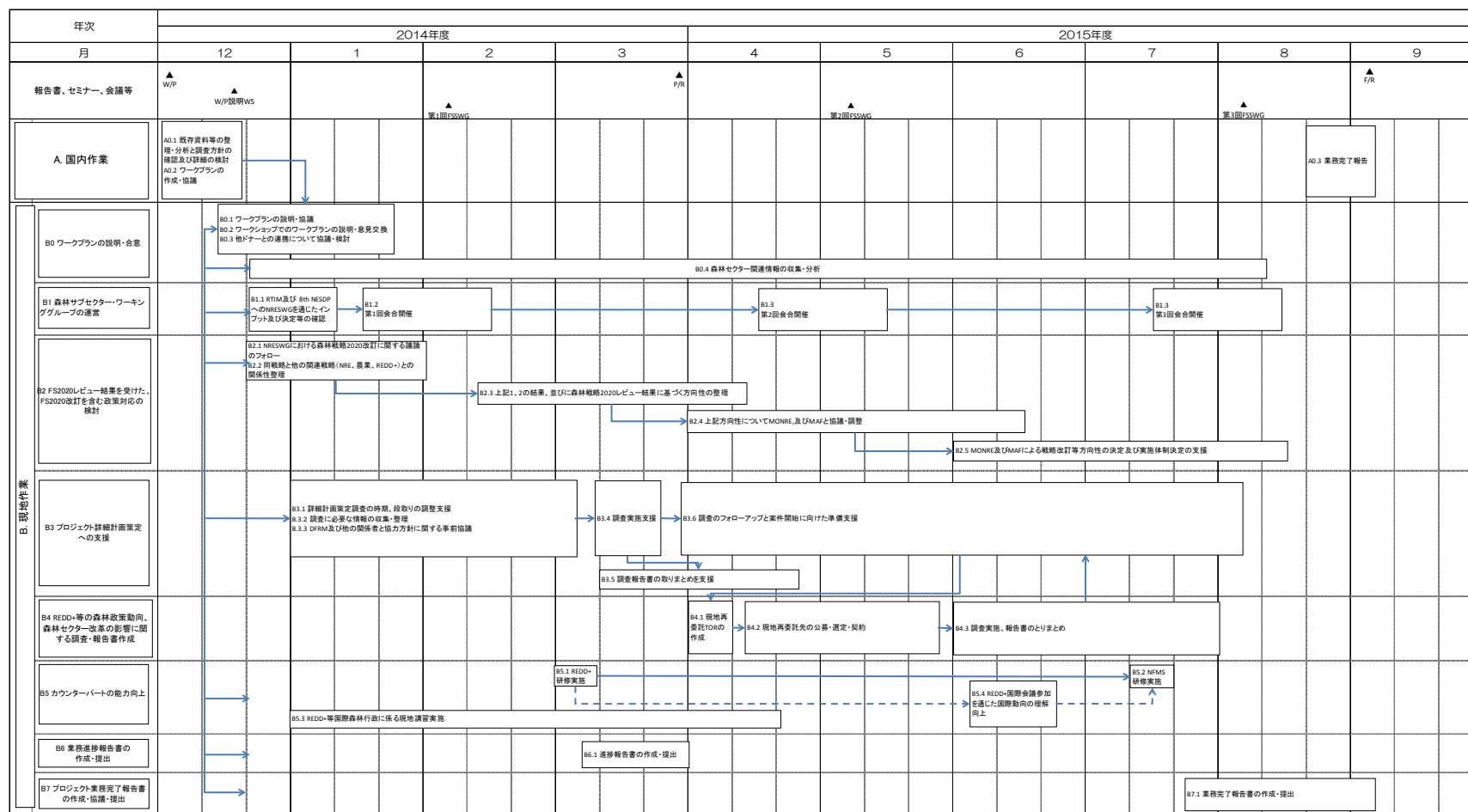
(3) 業務の内容

- ① ワークプランの作成と合意
- ② 森林サブセクター・ワーキンググループ (FSSWG) の運営
- ③ FS2020 レビュー結果を受けた、FS2020 改訂を含む政策対応の検討
- ④ プロジェクト詳細計画策定への支援
- ⑤ REDD+等の森林政策動向、森林セクター改革の影響に関する調査・報告書作成
- ⑥ カウンターパートの能力向上
- ⑦ 業務進捗報告書の作成・提出
- ⑧ プロジェクト業務完了報告書の作成・協議・提出

1.3 業務フローチャート

準備フェーズの業務の流れは次ページの表に示すとおりである (図 1-2)。

図 1-2: 業務のフローチャート



第2章 専門家活動内容と成果達成状況

第2章 専門家活動内容と成果達成状況

2.1 作業工程

準備フェーズは JICA の業務指示書に沿ってワークプランを作成し、以下の図 2-1 の通り作業工程を設定した。

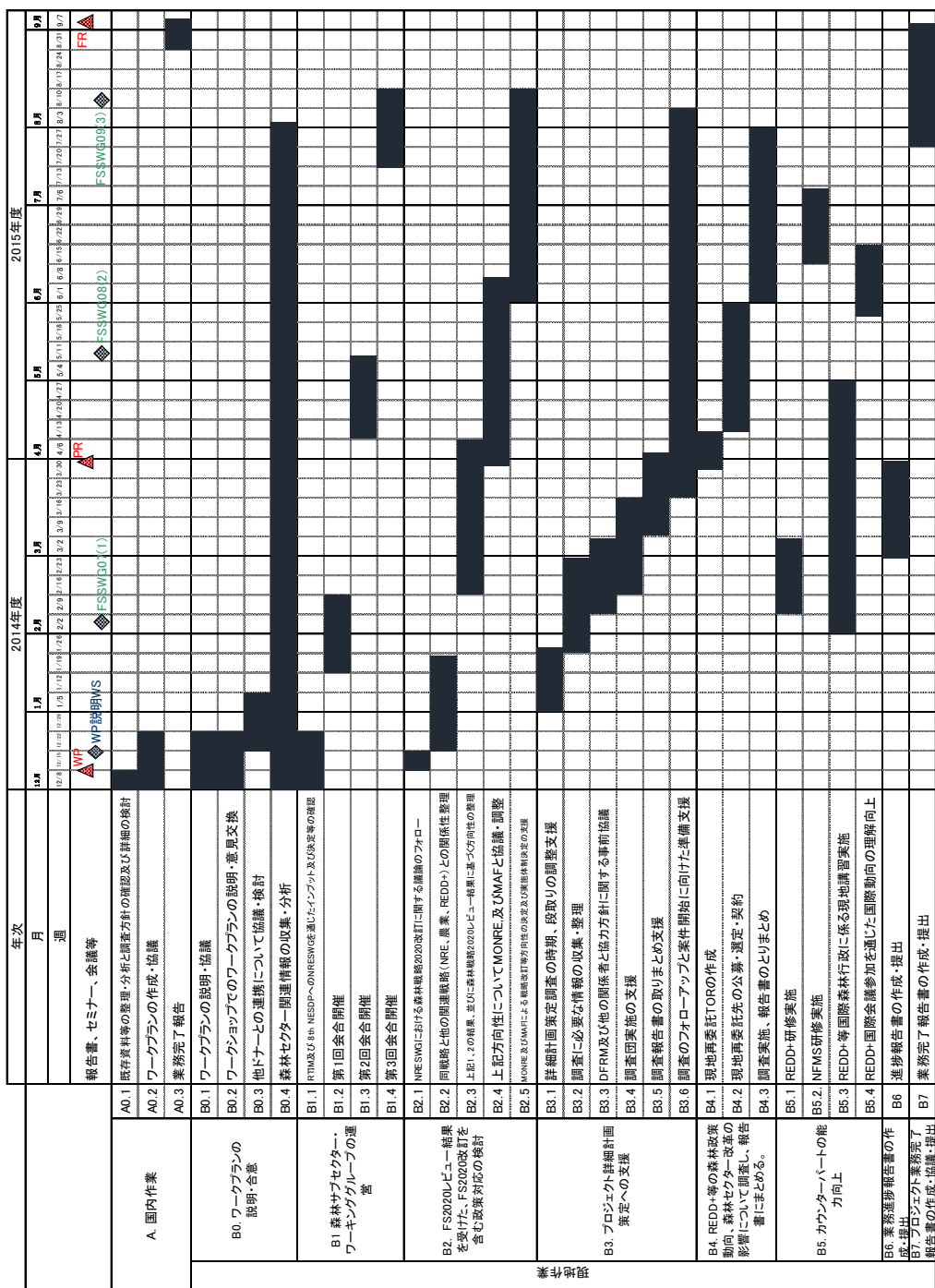


図 2-1 : 作業工程計画

2.2 投入実績

専門家構成

専門家氏名	担当業務	派遣期間	所属先
北村 徳喜	業務主任者 (森林政策・REDD+)	合計 4MM	国際航業㈱
江頭 英二	副業務主任 森林経営/業務調整	合計 5MM	国際航業㈱

要員配置計画、並びに、実績は次ページに示すとおりである（図 2-2：要員計画・実績）。
































2015年9月 月報 別添1

































業務従事者の従事計画・実績表

契約案件名:ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト 準備フェーズ

監督職員確認印: 神内 圭 印

図 2-2: 要員計画・実績

	担当業務	格付		渡航 回数	契約期間									日数 合計	人月 合計		
					2014	2015											
					12	1	2	3	4	5	6	7	8			9	
現 地 業 務	北村徳喜 （業務主任） 森林政策/REDD+	2	計画	0											32	1.05	
			実績	0												21	0.70
	江頭 英二 （副業務主任） 森林経営/業務調整	3	計画	2												132	4.40
			実績	0													135
												現 地 業 務 小 計	計画	164	5.45		
													実績	156	5.20		

国 内 業 務	北村徳喜 （業務主任） 森林政策/REDD+	2	計画														59	2.95
			実績														66	3.30
	江頭 英二 （副業務主任） 森林経営/業務調整	3	計画													12	0.60	
			実績														10	0.50
												国 内 業 務 小 計	計画	71	3.55			
													実績	76	3.80			

凡例：

業務従事実績

業務従事計画

自社負担

補足：

1) 業務主任者はラオス国ビエンチャン市に居住のため、「現地業務」はラオス居住地外及び日本国内における業務、「国内業務」はラオス居住地での業務を意味する。

2) 業務主任者の現地業務期間は30日、国内業務期間は20日で除した数字の小数点以下第3位を四捨五入して算定している。

3) 業務主任者の現地業務には、現地における出張（5日間×4回）も含む。

4) 業務主任者の現地作業人月と国内作業人月の配分修正については、2014年12月16日付で打合簿で確認した内容を反映してある。

合計	計画	9.00
	実績	9.00

凡例:  業務従事実績
 業務従事計画
 自社負担

補足:

- 1) 業務主任者はラオス国ビエンチャン市に居住のため、「現地業務」はラオス居住地外及び日本国内における業務、「国内業務」はラオス居住地での業務を意味する。
- 2) 業務主任者の現地業務期間は30日、国内業務期間は20日で除した数字の小数点以下第3位を四捨五入して算定している。
- 3) 業務主任者の現地業務には、現地における出張(5日間×4回)も含む。
- 4) 業務主任者の現地作業人月と国内作業人月の配分修正については、2014年12月16日付で打合簿で確認した内容を反映してある。

供与機材及び携行機材の供与実績

本プロジェクトは「森林セクター能力開発プロジェクト」(FSCAP)の執務室及び機材を継続利用したため、供与機材及び携行機材は発生していない。

2.3 活動結果と考察

以下にワークプランに沿って活動結果と考察を記す。

2.3.1 国内作業

A0 国内作業

活動項目

- A0.1 既存資料等の整理・分析と調査方針の確認及び詳細の検討
- A0.2 ワークプランの作成・協議
- A0.3 業務完了報告

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(A0.1)

既存及び収集した資料等を整理・分析し、プロジェクトの基本方針に基づき全体の実施方針を明確にするとともに、手法の詳細を検討した。ワークプラン案の作成に先立って、可能な範囲で日本側関係者、ラオス側関係者、開発パートナーの見解を求め、ワークプラン案へと反映させた。

(A0.2)

2014年12月16日にJICA本部で開催された実施方針会議において、課題部、地域部参加の下、ワークプラン案の説明・協議を行った。いくつかの検討事項等を確認した上でワークプラン案は承認された。同日、ワークプランとして最終化したものを提出した。

(A0.3)

業務完了報告は成果品提出後・業務完了後の9月を予定している。

成果品

ワークプラン (2014年12月)

2.3.2 現地業務

B0 ワークプランの説明・合意

活動項目

- B0.1 ワークプランの説明・協議
- B0.2 ワークショップでのワークプランの説明・意見交換

B0.3 他ドナーとの連携について協議・検討
B0.4 森林セクター関連情報の収集・分析

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(B0.1)

2014年12月10日にビエンチャンでワークプラン会議を開催し、DFRM、DOF、JICA事務所参加の下、ワークプラン案の説明・協議を行い、検討事項等を確認した上でワークプラン案は承認された。また、直接のカウターパートメンバーではないもののキーパーソンとなるDFRM局長やDOF局長、日本大使館などへは必要に応じて随時情報共有と協議を行った。

(B0.2) (B0.3)

2015年1月14日に主要ドナーとの会合を開催し、準備フェーズの背景、活動予定、ドナー間調整・協調が想定されるテーマについて意見交換を行った。本ドナー会合とは別に、CliPAD Technical Component、CliPAD Financial Component、ProFLEGT、SUFORD-SU、世銀 FCPF 準備支援プロジェクト、世銀、UNDP、英国大使館、UN-REDD/FAO、ACIAR、The Forest Trust (TFT)、Program for the Endorsement of Forest Certification (PEFC)、国際農林水産業研究センター (JIRCAS)、SNV 等と個別に面談し、双方の協力内容や連携可能性等についての意見交換を行った。他ドナーの支援状況については別添1「詳細計画策定調査用インプット資料一式」の「別添3 ファクトシート」にまとめている。

今後、本格フェーズ実施する当たって、特に連携の可能性が高い事業は以下の通りである（表 2-1）。

表 2-1：本格フェーズにおける他事業との連携可能性

成果 1, 2, 3 中央	
略称	連携内容
CliPAD	中央での REDD+政策、コーディネーション、キャパビル。県レベル REDD+（フアパン県）。
FCPF 準備支援	中央での REDD+政策（国家 REDD+戦略、セーフガード、FREL/FRL 等）
ProFLEGT	木材合法性を中心とした森林政策
SUFORD-SU	生産林及び村落林管理を中心とした森林政策
成果 4 ルアンプラバン県	
略称	連携内容
LENS2（申請中）	PONRE-PFRM のキャパビル、同県内保護林の参加型管理支援
FCPF Carbon Fund（申請中）	同県を含む北部 6 県の REDD+結果支払いを目指すもので 6 県共通の計画や活動及び連携
環境省 JCM-REDD+事業	同県ポンサイ郡内の対象村落クラスターにおける JCM-REDD+事業（JCM の制度等に関するラオス側理解の促進等間接的支援）
FIP/SUFORD-SU 追加支援（申請中）	同県生産林及び周辺村落支援、同県 Forest Landscape Planning。

本格フェーズは県の REDD+準備を支援するものであるものの、具体的な現場活動支援やインセンティブが計画されていないため、特に他事業や資金との連携を模索した。その一つである FCPF Carbon Fund（CF）への参加申請については、初期構想から申請

書（ER-PIN）の準備についてラオス側及び関連ドナーと協調しながら支援している。具体的には、プログラムコンセプトの形成、ER-PINのうち特にJICA支援と関連の深い森林面積変化情報、FREL/FRL、森林モニタリング、排出削減・吸収ポテンシャルの検討等、そして県コンサルテーション開催に係るロジ、発表資料作成、当日の進行を支援した。

(B0.4)

森林セクター関連情報の収集・分析については上記記載の関連機関・プロジェクトとの協議等を通じて恒常的に行うとともに、非公式に世銀森林・環境担当者、SUFORD、CLiPAD、ProFLEGT等のチーフアドバイザーとFSSWG開催前に情報・意見交換を行った。収集資料については別冊「収集資料」を参照。

2015年7月10日開催された第3回NRTFでは本プロジェクトが他の開発パートナーを代表して、REDD+に特化した協議会の設置（FSSWGのREDD+版のような位置づけ）、ラオスREDD+関係者の共通ビジョンと協調を促すための「REDD+ロードマップ」の早期策定（詳細計画策定調査で原案提示し、必要性を確認したもの）、その他TWGsの構成や早期稼働に対する提案を行った。

そのほか、2015年6月にはタイ・バンコクにて、JICA本部とRECOFTC本部が合同開催の“Program Planning Workshop”に参加し、今後のラオスにおける連携の方向性議論、参加各国の状況に関する情報交換等を行った。また、2015年7月には環境省・JICA共催のシンポジウム「REDD+の早期実現に向けて」及びJICA自然環境保全グループ主催の会合に参加し、ラオスにおけるREDD+の状況についての情報提供等を行った。

以上の多岐に亘る活動は各月ごとに月報に詳述している。

成果品

別添1	詳細計画策定調査用インプット資料一式
別添2	ルアンプラバン県でのFCPF Carbon Fund 3 県合同コンサルテーション及び本格フェーズ紹介ワークショップ資料
別添3	第3回NRTFにおける発表資料

B1 森林サブセクター・ワーキンググループ（FSSWG）の運営

活動項目

- B1.1 Round Table Implementation Meeting（RTIM）及び第8次国家社会経済開発計画（第8次NSED）への天然資源・環境セクターWGを通じたFSSWGインプット及び決定等の確認
- B1.2 第1回会合開催
- B1.3 第2回会合開催
- B1.4 第3回会合開催

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(B1.1)

ラオスにとって2015年は第7次NSED（2010-2015の5ヵ年計画）の最終年、かつ、第8次NSED（2016-2020の5ヵ年計画）の開始年である。そのため、前年次計画の包括的評価、及び、次年次計画に向けた議論がラオス政府と開発パートナーの共同作業を通じて為されている。FSSWGの共同議長であるJICAラオス事務所からの要請を受けて、これらに対する分析、森林セクター関係ドナーからのコメント取りまとめ、政府・

ドナー対話会合への参加・発言等を行った。

(B1.2)

FSSWG 第 1 回会合 (FSSWG07) は 4 月 3 日午前中に開催され、DFRM 局長と JICA 事務所次長の共同議長の下で約 50 名が参加した。主な議題としては NRE 戦略 (案) と第 8 次 NSEDP (案)、村落林 WG 設置、森林 3 区分再ゾーニング、森林率調査、PES 等についての発表と議論が為された。本プロジェクトでは FSSWG 事務局 (DFRM) を支援する形で、これらの日程及び議題調整、開催支援、議事録取りまとめを行った。

(B1.3)

FSSWG 第 2 回会合 (FSSWG08) は 6 月 19 日午前中に開催され、DFRM 局長と JICA 事務所次長の共同議長の下で約 50 名が参加した。主な議題としては世銀 FCPF Carbon Fund への申請準備状況、世銀 FIP の中間報告、第 8 次 NSEDP (案) の森林分野に関する最新情報、RTIM で提言された適切な目標森林率設定及び違法伐採対策への効果的な支援についての活動・指標設定に関するマトリクス、新規・既存プロジェクトや取り組みの紹介がされた。本プロジェクトでは FSSWG 事務局 (DFRM) を支援する形で、これらの日程及び議題調整、開催支援、議事録取りまとめを行った。また、上記活動・指標設定について関係機関の調整を行い共同議長の承認を経て NRESWG へ報告した。

(B1.4)

FSSWG 第 3 回会合 (FSSWG09) は 9 月 4 日午前中に開催され、DFRM 局長と JICA 事務所次長の共同議長の下で約 50 名が参加した。主な議題としては RTIM 提言フォローアップ・マトリクス (適切な目標森林率設定及び効果的な違法伐採対策に関する指標) の現状・進捗状況報告に関する提案・議論 (後日事務局/共同議長が取りまとめ上部 WG である NRESWG へ報告予定)、第 4 回 NRTF の報告 (FCPF Carbon Fund に提出する ER-PIN 案の議論・了承を含む) が為された。本プロジェクトでは FSSWG 事務局 (DFRM) を支援する形で、これらの日程及び議題調整、開催支援、議事録取りまとめを行った (議事録は後日、発言者の確認を経て最終化のため、本報告書には添付せず)。

成果品

別添 4 FSSWG 第 1 回会合 (FSSWG07) 議事録 (2015 年 5 月月報にも添付済み)

別添 5 FSSWG 第 2 回会合 (FSSWG08) 議事録 (2015 年 6 月月報にも添付済み)

B2 森林戦略 2020 レビュー結果を受けた、森林戦略 2020 改訂を含む政策対応の検討

活動項目

- B2.1 NRESWG における森林戦略 2020 改訂に関する議論のフォロー
- B2.2 上位戦略である NRE セクター戦略及び農業セクター戦略、並びに内容的に重複が想定される REDD+戦略との関係性の整理
- B2.3 上記 1 及び 2 の結果、並びに森林戦略 2020 レビュー結果をもとにした、(1)優先アクションの特定、(2)FS2020 の将来方針に向けたオプションの取りまとめ
- B2.4 上記方向性について MONRE 及び MAF との協議・調整
- B2.5 FS2020 改訂、或いは/及び、優先アクションが合意された後の MONRE 及び MAF による実施工程作りを支援

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(B2.1) (B2.2) (B2.3)

森林戦略 2020 の改訂を検討するにあたり、NRESWG における議論を MONRE 計画局、

DFRM、NRESWG 共同議長である独大使館等から情報収集を行った。また、上位戦略である NRE セクター戦略、農業セクター戦略、国家 REDD+戦略、国家土地政策、北部開発戦略等の主要政策との関係性の整理と、森林戦略 2020 レビューの結果を元に優先アクションの特定と将来に向けたオプションを分析し、カウンターパートに提供した。同内容については別添 1「詳細計画策定調査用インプット資料一式」、別添 4「FS2020 レビュー等に基づき行われた提言に関する分析及び対応方向(案)」を参照。

(B2.4) (B2.5)

2015 年 3 月の詳細計画策定調査において、DFRM 及び DOF からは森林戦略 2020 年を残された 5 年間のうちに改訂するのではなく、他セクター戦略と同様に 2025 年目標、2030 ビジョンからなる新たな森林戦略策定の意向を強めていることが確認された。それを受けて、同戦略策定を本格フェーズの森林セクター政策支援（成果 1）における主要活動の一つとすることが合意された。以上の理由から活動 2.5 については本格フェーズにおいての対応へと回される。

なお、新戦略は 2018～2019 年にかけて調査・分析・起草されると想定し、そのためには 2017 年あたりから作業工程やステアリング・コミッティの設置等の準備を開始する必要があると想定される。また、国家 REDD+戦略が 2017 年中の決定を目標とされていることから、新戦略の策定に当たってはその内容を精査し、整合性を持った形で取り込むこともと考えられる。

成果品

別添 1「詳細計画策定調査用インプット資料一式」

B3 プロジェクト詳細計画策定への支援

活動項目

- B3.1 詳細計画策定調査の実施時期及び段取りの、JICA 側とラオス側の調整支援
- B3.2 詳細計画策定に必要な情報の整理、調査団への提供
- B3.3 DFRM 及び他の関係者との協力方針に関する事前協議
- B3.4 調査実施の支援
- B3.5 調査報告書の取りまとめ支援
- B3.6 調査の実施後に必要なフォローアップ、円滑な案件開始に向けた準備支援

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(B3.1) (B3.2) (B3.3) (B3.4) (B3.5)

本格フェーズの詳細計画策定調査として、2015 年 3 月 22 日～31 日にかけて地球環境部森林・自然環境第 1 チーム長、並びに、担当職員が調査を行った。本プロジェクトでは、その準備、実施、実施後のフォローアップに係る一連の業務を支援した。

具体的には、日程案及び調査方針案の提示、背景情報の提供、DFRM 並びに DOF との事前協議、ドナー関係者に対する協力方針の説明、詳細計画策定調査への参画と各種資料の準備（PDM、PO、会議ごとのプレゼンテーション等）、翻訳、会議の進行補助、調査団への助言・提案、ロジ支援、調査報告書のとりまとめ支援などである。提供された背景情報は別添 1「詳細計画策定調査用インプット資料一式」の通り。

(B3.6)

調査終了後は R/D 案の作成支援と DFRM/DOF との事前協議、調査で保留事項となったルアンプラバン県の実施体制決定の促進、R/D 署名取り付け、本格フェーズのプロジ

エクトオフィスの準備支援、本格フェーズ及び NFIS プロジェクト並びに PAREDD で利用している資機材の本格フェーズでの継続利用に関する調整、を行った。さらに、2015 年 8 月 11 日にはルアンプラバン県で、FCPF Carbon Fund の 3 県合同コンサルテーション（ルアンプラバン、ファパン、サヤブリ）と組み合わせる形で、本格フェーズの理解促進を目的としたワークショップを開催し、カウンターパートの理解醸成に努めた。

なお、本格フェーズの方針並びに予算的制約から、現時点ではルアンプラバン県の現場支援は予定されていない。一方で、PAREDD アプローチの普及展開は同プロジェクトから引き継がれた命題であることから、他のドナー事業等との連携を模索した。その一つに同県 PONRE-PFRM が LENS2 へと申請中のプロジェクトがあり、その中で今後 Phoupherng Phouphatoon - Tad Kuangxee 保護林の参加型保全活動が事業として形成される可能性があることから、本格フェーズでの連携構想について DFRM、PONRE-PFRM、世銀との意見交換と同プロジェクトのプロポーザルへのインプットを行った。

成果品

別添 1 「詳細計画策定調査用インプット資料一式」
別添 6 「本格フェーズ Record of Discussion (R/D)」

B4 REDD+等の森林政策動向及び森林セクター改革の影響に関する調査・報告書作成

活動項目

- B4.1 現地再委託 TOR 作成
- B4.2 現地再委託先の公募・選定・契約
- B4.3 調査実施・報告書作成

達成状況、計画との比較、専門家の役割

本活動は実施しないことで JICA の了承を得た。理由は以下の通りである。

「REDD+等の森林政策動向に関する調査」については、専門家を通じて全般的に十分な情報収集が為されたこと。従って、本業務期間において別途現地再委託を通じて調査を実施する必要性は低いと判断された。

「森林セクター改革の影響に関する調査」（当初は「森林セクターの省庁再編の動向に関する調査」であったが、キックオフ会合でのラオス側意見を踏まえて変更）については、当初は 2011 年の森林セクターの省庁再編による影響調査を行うことが想定されていた。ところが現在、森林セクターの省庁再々編が現実味を帯びて議論されていることから、有効な調査・分析を行うには不都合な状況と判断された。

成果品

特になし。

B5 カウンターパートの能力向上

活動項目

- B5.1 REDD+研修
 - B5.2 国家森林モニタリングシステム（NFMS）研修
-

B5.3 REDD+等国际森林行政に係る現地講習

B5.4 REDD+国際会議参加を通じた国際動向の理解向上

達成状況、計画との比較、専門家の役割

(B5.1)

REDD+研修は、ワークプラン上は2015年3月頃を予定していたが、詳細計画策定調査とのバッティングを避け、かつ他ドナーとの共催の可能性を模索するために2015年7月頃の実施を再検討した。その後、むしろこのような研修は体系的かつ協調された形で行うことがラオス側にとってもドナー側にとっても望ましいと考えられたこと、さらに、停滞していたNRTFとTWG設置が再び動き出したために研修対象の特定をするにはタイミングが不適と考えられた。

他方で、機を同じくしてFCPF Carbon Fundへの申請準備の一環として、対象6県の一つであるルアンプラバン県でのコンサルテーション案が浮上した（結果、8月11日にルアンプラバン県で3県合同開催）。これが県関係者のREDD+及び本格フェーズの意義についての理解を促す好機と見られたことから、同日午前にCarbon Fundのコンサルテーション、午後に本格フェーズの紹介ワークショップを開催とすることとした。当日は成果4のカウンターパートとして決定されている総勢24名が参加し、他2県の参加者を含めた総勢70名と共に、REDD+について、Carbon Fundへの申請案について、本格フェーズについて、そしてCliPADのフアパン県における活動について理解を深める機会として有意義であった。

(B5.2)

NFMS研修は、ワークプラン上は2015年7月頃を予定していたが、関係者のスケジュール調整の結果2015年5月28日～29日の2日間、ラオス側DFRM、DOFに加えて、気候変動分野の主管であるMONRE-DDMCC（災害気候変動局）から約25名の参加の元で開催した。実施にあたっては進行中のNFISプロジェクト（技プロ）並びにFPP（無償）専門家（いずれも弊社要員）の協力を得て、それら支援の成果と本格フェーズで予定される活動との連続性、関係性、目指すべき成果についての理解促進を主要な目的とした。それに加えてFAO専門家の協力を得てベトナム事例の紹介も為された。わが国の過去・現在から本格フェーズ成果2に向けた一連の協力の流れを理解してもらうことにはなったが、今後さらに政策的・技術的内容の具体的議論に入るには参加者の理解レベルの底上げが不可欠との印象を得た。従って、今後折に触れてREDD+の基礎的な理解向上を図っていくことが重要と考える。

(B5.3)

REDD+等国际森林行政に係る現地講習は、ワークプラン上は合計3クールに分けて2015年2月初旬～5月上旬にかけた実施を予定していた。しかしながら、委託先の授業日程等の関係から2015年4月後半～8月下旬へ後ろ倒して実施することとなった。形式はFSCAPの例を参考にしてDFRM及びDOFから合計20名を事前スクリーニングを経て10名×2グループ（初級、中級）に分けた小グループ形式とした。従来のものよりも特に森林行政官向けの情報、用語、テーマをより取り入れた講習となるように企画した。第1クールの平均出席率は71%、第2クールは73%、第3クールは70%との結果となり、終了時には各人英語での口頭プレゼンテーションを行い、講師による習熟度評価が為された。参加者がたびたび公務や出張で已む無く欠席せざるを得ないことを考えると、この出席率は必ずしも低くはないと考えられるが、今後もし同様の研修を行う場合にはインターネットコースの履修など、より参加者に便利な形態も検討されて良いと考えられる。

(B.4)

REDD+国際会議参加を通じた国際動向の理解向上については、2015年4月末のフラ

ンスのパリで開催された FCPF Carbon Fund 会合（CF12）において、ラオス側代表団の一員である DOF REDD+室長補佐の参加費用を支援した。同会合では DFRM 次長がラオスを代表して初期構想（Early Idea）の発表を行ったが、当人は異動間もないために経緯に詳しい当室長補佐の参加が要望され、JICA の承認を得て支援したものである。結果的に当室長補佐は現在も ER-PIN 作成の主要メンバーの一人として積極的に活躍していることから、本支援の意義は高かったと考えられる。

成果品

- | | |
|------|---|
| 別添 2 | ルアンプラバン県での FCPF Carbon Fund 3 県合同コンサルテーション及び本格フェーズ紹介ワークショップ資料 |
| 別添 7 | NFMS 研修日程表（研修資料一式は CD-R に収録） |
| 別添 8 | REDD+等国際森林行政に係る現地講習 参加者リスト |
| 別添 9 | FCPF Carbon Fund 会合（CF12）ラオス発表資料 |
-

B6 業務進捗報告書の作成・提出

活動項目

n.a.

達成状況、計画との比較、専門家の役割

2015 年 3 月に提出。

成果品

業務進捗報告書（2015 年 3 月）（カウンターパート向けにラオ語版も作成）

B7 プロジェクト業務完了報告書の作成・協議・提出

活動項目

n.a.

達成状況、計画との比較、専門家の役割

2015 年 9 月に本報告書を提出。

成果品

業務完了報告書（2015 年 9 月）（カウンターパート向けにラオ語版も作成）

2.3.3 成果品リスト

本業務の成果品は以下の表 2-2：成果品リストに示す通りである。

表 2-2：成果品リスト

ワークプラン	2014 年 12 月
業務進捗報告書	2015 年 3 月
業務完了報告書	2015 年 9 月
詳細計画策定調査用インプット資料一式	別添 1
ルアンプラバン県での FCPF Carbon Fund 3 県合同コンサルテーション及び本格フェーズ紹介ワークショップ資料	別添 2
第 3 回 NRTF における発表資料	別添 3
FSSWG 第 1 回会合（FSSWG07）議事録（2015 年 5 月月報にも添付済み）	別添 4
FSSWG 第 2 回会合（FSSWG08）議事録（2015 年 6 月月報にも添付済み）	別添 5
本格フェーズ Record of Discussion (R/D)	別添 6
NFMS 研修日程表（資料一式は CD-R に収録）	別添 7
REDD+ 等国際森林行政に係る現地講習 参加者リスト（資料は CD-R に収録）	別添 8
FCPF Carbon Fund 会合（CF12）ラオス発表資料	別添 9
ルアンプラバン県カウンターパートに係る県決定	別添 10

2.3.4 収集資料

本業務の成果品は表 2-3 に示す通りである。これらは別冊にて提出する。

表 2-3 : 収集資料リスト

森林セクター 一般				
	資料名	形態	保管場所	概要
1	FSSWG より 2014 年政府・ドナー円卓会議実施会合 (Round Table Implementation Meeting: RTIM) に向けた提言案 (事務局ドラフト)	英語 電子	別冊	RTIM に向けた FSSWG から上位 WG である NRESWG への提言案。森林率目標、違法伐採対策、村落林管理、特定樹種の保護、ゴム林管理、FS2020 の後継戦略策定、等を提言。
2	Report : The Round Table Implementation Meeting 2014, November 2014	英語 電子	別冊	RTIM2014 に係る MPI の公式報告書。
3	FSSWG より第 8 次国家経済社会開発計画 (SEDP 2016-20) に向けたインプット (案) (事務局ドラフト)	英語 電子	別冊	SEDP 2016-2020 に向けた FSSWG から上位の WG である NRESWG への提言案。
4	FSCAP が行った森林戦略 2020 レビュー報告書	英語 電子	別冊	結論要約 (Conclusion) と、本文となる「Part I: Synthesis report of FS2020 review」「Part II: Implementation Framework Review (IFW)」「Part III: Forestry Sector Performance Indicators 2014 (FSPI 2014)」の 3 部構成。
5	MAF から MONRE への業務移管 (REDD+, UNCCD, FSSWG, CBD) に関する覚書, (No. 0052/MAF, 2013/05/31)	ラ語・英 仮訳 電子	別冊	MAF から MONRE に REDD+ に関係する事務局機能、UNCCD、CBD の国フォーカルポイント、FSSWG 議長職を移管。
6	ラオス森林法令集	ラ語 冊子	DOF 内 JICA プロ ジェクト オフィス	件名の通り。
REDD+関係				
	資料名	形態	保管場所	概要
7	気候変動ワーキンググループの設置にかかる MONRE 大臣令	英仮訳 電子	別冊	件名の通り。
8	国家 REDD+タスクフォースの設置およびメンバーの任命に関する MONRE 大臣令 (No.7176/MONRE, 2013/10/30)	ラ語・英 仮訳 電子	別冊	件名の通り。
9	ラオス REDD+におけるガバナンス分析報告書 (要	英語 電子	別冊	FCPF の REDD+準備支援プロジェクトの一環として行われた参加型ガバナ

	約) (世銀)			ンス分析の結果。
10	Annual Review of REDD+ Activities in Lao PDR 2012-2013, SUFORD	英語 電子	別冊	2012-2013 にかけてのラオス REDD+の進展、REDD+の要素ごとの活動内容、関連ドナープロジェクトに関する報告。
11	REDD+ Glossary, Department of Forestry	冊子	DOF 内 JICA プロ ジェクト オフィス	件名の通り。

第3章 受入国、協力先の現状と問題点

第3章 受入国、協力先の現状と問題点

本業務は、全体で5年10ヶ月の期間を持つプロジェクトの準備フェーズとして当初の9か月分のみを担うものであることから、本章では特に本格フェーズの運営面に関連したラオス側の現状と問題点に焦点を当てて記載する。

3.1 カウンターパートの人員不足

当初から懸念されていたことであり、業務進捗報告書でも報告した問題ではあるが、DFRM、DOFのカウンターパートは基本的に人員不足の状態にあり、「限られた人材」に業務が集中する傾向がある。この場合の「限られた人材」は大抵の場合、実務能力のみならず一定程度の英語力も有することから、他の開発パートナーからも重宝され、なお更に負荷は高まる。これはラオス側のみならず、開発パートナー側の援助協調、効率化に関わる問題でもある。

このような状況に対しては、引き続き FSSWG といった公式の場、或いは、それ以外の場を通じて援助効率の向上を目指すことがラオス側と開発パートナーの双方にとっての利益に繋がる。また、本格フェーズは5年の期間があることから、カウンターパートにはメンバーの可能な限り固定することを依頼し、計画的な能力向上を目指せることが望ましい。

3.2 DFRM-DOF 間の協力関係とコミュニケーションの課題

ラオスの森林セクターがDFRMとDOFに分割された弊害は未だに大きいというのが、開発パートナーの大方一致した見解である。また、DFRMとDOF間のみならず、両局内部でのコミュニケーションも期待しているように十分とは言えず、多くの場面でプロジェクト専門家とスタッフがつなぎ役として動き回っているのが現実である。また、DFRMとDOF両局が協力する際には、協力に関する公式な合意や指示が必要といった官僚的な場面も多く、セクター全体を効率的かつ円滑に管理して行く上での障害となっている。

本格フェーズの実施においてはカウンターパートの範囲が準備フェーズよりも格段に広がるため、円滑な運営には一層の工夫が求められる。まず開始後に各成果のカウンターパートごとにTORを作成し、合意することが必要である。その上で、緊密なコミュニケーション、ワークプランや活動状況の共同管理を通じて、カウンターパートの関心と自主性を引き出す工夫が求められる。また、各成果は相互に関連するため、カウンターパート全体が共通の枠組み下で管理されていくようなプロセス（定期会議、情報管理と共有メカニズム）を業務に組み込んで行くことが望ましい。

なお、現在森林セクターの省庁再々編が現実味を帯びて議論されており、早ければ2016年中に政府決定が下される可能性があることから、その行く末次第ではこれらの状況や問題は大きく変わる可能性がある。

3.3 森林セクター情報の更新と新戦略の策定に向けた準備

ラオス政府が2005年に決定した「森林戦略2020」は、森林セクターの中・長期的な方向性を定め、内外のリソースを協調させるための基本戦略として認識されている。2014年にFSSWGの枠組みを活用して実施された同戦略のレビューの結果、現状に則した改訂の必要性が指摘されたが、本プロジェクトの詳細計画策定調査を通じてDFRM及びDOFは他セクター戦略と同様に2025年目標、2030ビジョンからなる新たな森林戦略策

定の意向を示している。

新戦略は 2018～2019 年にかけて調査・分析・起草されると想定され、そのためには 2017 年あたりから作業工程やステアリング・コミッティの設置等の準備を開始する必要がある。さらに、2015 年を最終年とする第 7 次 NSEDP、同年からの第 8 次 NSEDP、森林法改訂、国家土地政策、森林 3 区分の再設定に向けた見直し・検討、2017 年中の完成が目標とされている国家 REDD+戦略、といった重要政策が議論される、あるいは、議論が予定されていることから、これらと新戦略との関係性整理を行っていくには相応の時間と労力が必要と予想される。

JICA は過去に森林戦略 2020 の策定（2005 年）以降、その実施推進と FSCAP による同戦略のレビュー（2014 年）などを支援してきており、本格フェーズでは新戦略の策定支援がラオス側との間で合意されていることから、他の開発パートナーからの期待も高い。また、同戦略のレビューはセクター動向の更新情報としても高く評価されており、新戦略に関する調査等開始前の 2016 年あたりに同様なセクター動向の調査・報告等をカウンターパートと行うことも必要であろう。

3.4 ラオス REDD+の進展と協調された取り組みの必要性

本業務の開始当初、ラオス REDD+の全体調整と牽引力の欠如はラオス側と他のステークホルダーに共通した認識であった。本業務の開始後は REDD+支援を行っている主要な開発パートナーと協力しながら、2014 年 5 月の第 2 回会合を最後に開催されていなかった NRTF の再開と、TWG の設置・稼動を DFRM を始めとするラオス側に働きかけてきた。その間には FCPF 準備支援プロジェクトの開始、本格フェーズ詳細計画策定調査を通じた後押し、DFRM の REDD+担当次長の交代、NRTF 議長である DFRM 局長の交代、FCPF Carbon Fund への申請表明、FIP 追加資金への申請表明等いくつかの出来事があり、これらが好材料として働いたことも影響して、結果としてラオス REDD+の再活性化への期待感がもたれている。

その中でも、FCPF Carbon Fund が「REDD+結果支払い」というインセンティブをもってラオス側の REDD+取り組み意欲を高めている効果は顕著である（但し、その準備作業は限られたラオス側キーパーソンの参画を得て、本プロジェクトを含む一部の開発パートナー主導で進んでいるのも事実である）。今後 9 月上旬の ER-PIN 提出と翌 10 月の FCPF 会合を経てラオスの Carbon Fund パイプラインへの採択可否が決まることになる。当然ながらラオスが採択されることが強く期待されるが、万が一に不採択となった場合でも、申請過程を通じて議論された REDD+に関する方針や技術的手法、協力関係、そして REDD+の推進に向けた意欲はぜひとも維持されるべきである。特に Carbon Fund の要件は UNFCCC の要件に沿って、ないしはより詳しく規定されており、ラオスの ER-PIN もこれらの要件への適合と将来的な国レベルへのスケールアップを前提に形成されていることから、ラオスにとっては採択・不採択に関わらず有益な経験である。

なお、2.3 で記載の通り、第 3 回 NRTF では本プロジェクトが他の開発パートナーを代表して、REDD+に特化した協議会の設置、ラオス REDD+関係者の共通ビジョンと協調を促すための「REDD+ロードマップ」の早期策定、その他 TWG の構成や早期稼動に対する提案を行った。これらは基本的に賛同を得たものの、今後の早期実現に向けて、ラオス側が機を逃さずに行動することが求められる。これに対しては引き続き JICA を含む開発パートナーも協力して行くものと考えられる。

3.5 REDD+における県レベルの役割の段階的特定

上記 3.4 の通り、ラオス REDD+は一時停滞を見たものの、国レベルでは再活性化の兆しが表れている。しかしながら、実際の森林管理活動を担うのは県、郡、村落の集合体である村落クラスター、或いは森林利用権を付与されている世帯・個人、コンセッショ

ンを有する民間事業者、などである。従って、今後ラオスが REDD+を実施して具体的な森林からの排出削減・吸収増加を達成するには、これら県以下の現場レベルによる取り組みが成否を握ると言える。

しかしながら現在までのところ、国としての一体的に REDD+を進める上で、県レベルには何を求めるのか、何ができるのか、といった検討はほとんど進んでいない。それは国レベルからの指針がないと県レベルは行動が取れず、一方で県レベルの役割が具体的に想像できないと国レベルの指針も作れない、という「鶏と卵」の関係と言えよう。

現時点で県レベルでの REDD+支援（パイロットという位置づけ）が計画されているのは CliPAD が支援するフアパン県、FCPF 準備支援プロジェクトが支援するフアパン県及びチャンパサック県、そして JICA が PAREDD に続いて本格フェーズで支援するルアンプラバン県である。従って、これらの県レベル REDD+支援が中央と県の橋渡し役となり、今後ラオスの REDD+における県の役割を具体化していくことが期待されている。

第4章 本格フェーズ開始に向けて残された課題

第4章 本格フェーズ開始に向けて残された課題

本章では準備フェーズが終了して本格フェーズへと移行するにあたっての課題として、特に運営面を中心に記す。

4.1 日本人専門家及びスタッフの執務環境の準備

本業務では詳細計画策定調査以降のフォローアップとして、プロジェクトオフィスの確保と準備フェーズ、NFIS プロジェクト、PAREDD プロジェクトの資機材の継続利用をラオス側に働きかけてきた。現時点では以下の表 4-1 の示す状況に整理されている。

表 4-1：本格フェーズのオフィスと備品

オフィス	状況	備品
DFRM 内オフィス (全体対応)	DFRM ビル内に確保されることだが、未確保。確保されるまでの間、準備フェーズで使用した事務室の継続利用の確認が必要。	準備フェーズ備品を継続利用。 それ以外は新規調達。
DOF 内オフィス (主として成果 2 対応)	FIPD 内の NFIS プロジェクト事務所が継続して確保される見込みだが、確認が必要。	NFIS プロジェクト備品を継続利用。 それ以外は新規調達。
ルアンプラバン県オフィス (成果 4 対応)	PONRE-PFRM 内に確保済み。但し、PAFO 内の PAREDD オフィスが利用可能となる可能性もある模様につき保留。	新規調達。(DOF の計らいで PAREDD 備品が継続利用できる可能性もあるようだが、未決定)。 それ以外は新規調達。

なお、これ以外のプロジェクトオフィス向け備品や資機材については、プロジェクト開始の後に必要性に鑑みて調達されれば問題ないとする。

4.2 実施体制と CP の決定

本格フェーズ向けの改訂 R/D では、図 4-1 に示す実施体制が合意されている。

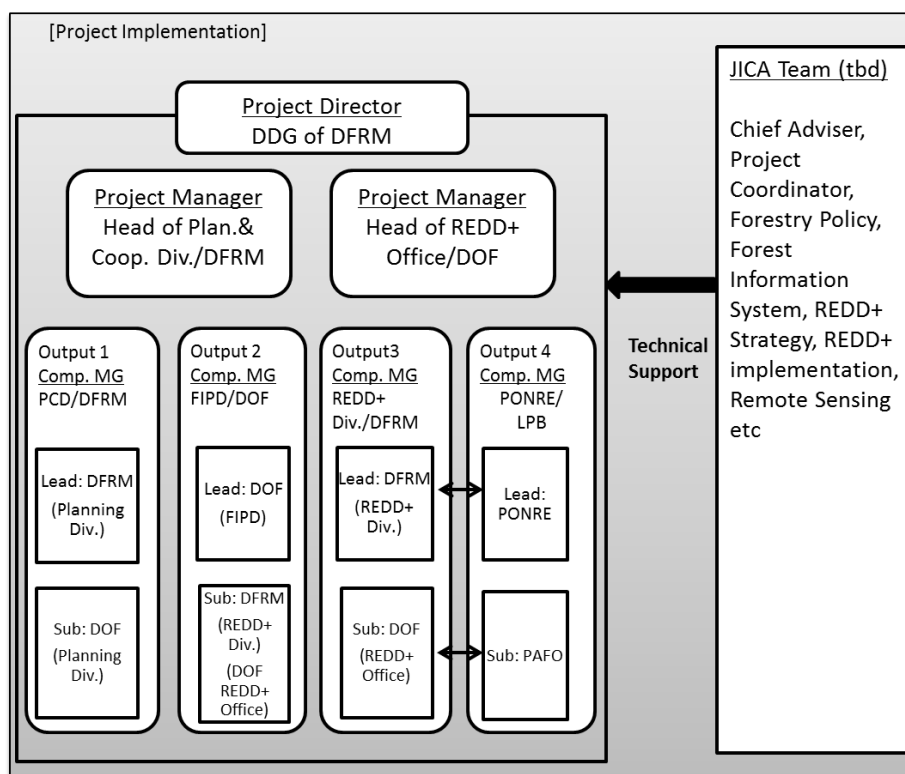


図 4-1：本格フェーズ実施体制

いままで実施したラオスの JICA 森林プロジェクト（FSCAP、NFIS プロジェクト）においては、カウンターパートの具体的なメンバーについて担当部局（FSCAP 及び NFIS プロジェクトの場合は DOF）から特別な公式決定は出されていない。すなわち、プロジェクトの内容に従って担当部局が比較的柔軟にメンバーを決定していくのが実情と考えられる（但し、今回の実施機関は DFRM につき手順が異なる可能性もある）。従って、本格フェーズに当たっては、専門家チームの渡航後のインセプション会合等の場でまずプロジェクトの内容に関する理解を十分に得て、カウンターパートの TOR を設定・合意した上で、具体的なメンバーの選定を依頼することを提案する。

なお、成果 2 は NFMS、FREL/FRL、MRV、NFI が主要な活動項目であるが、2015 年 7 月の第 3 回 NRTF の結果、当初は別個に設置案が出されていた FREL/FRL と MRV の TWG を統合して「FREL/FRL&MRV TWG（仮名）」とすることが決定された。従って、成果 2 のカウンターパートチームの設定に当たっては同 TWG を参照しながら、可能な限り成果 2 のメンバーと同 TWG のメンバーが一致するように働きかけるべきと考える。

一方で、ルアンプラバン県のカウンターパートを PONRE、PAFO のいずれかをリードとするかは詳細計画策定調査で結論が出なかった。そのため、同調査後に DFRM が県側と協議した結果 PONRE をリードとすることが決定し、県側は既にカウンターパートとなるメンバーを決定している（省決定 No.313/GoLPB、2015 年 6 月 26 日）（別添 10「ルアンプラバン県カウンターパートに係る県決定」）。それによれば県副知事を県ステアリング・コミッティ議長とし、PONRE、PAFO に加え、ルアンプラバン郡、シェンゲン郡、ポンサイ郡の 3 郡からメンバーを選定としたカウンターパートグループを編成している。本格フェーズは独自に特定のサイトでの現場活動は予定していないことから（政策パイ

ロットや森林モニタリングは除く)、ここに3郡が加わっている必要性は不明である。従って、本格フェーズ開始の後に成果4の同県活動に入る際には、改めて活動内容を説明すると共に、3郡の関わり方を議論する必要があると考えられる。

なお、JCCメンバーについてはプロジェクト開始後にR/Dに基づいて正式な決定が為されるのが通例である。

第5章 類似プロジェクト、類似分野への教訓・提言

第5章 類似プロジェクト、類似分野への教訓・提言

本業務はプロジェクト役割と期間が限定されたものであることから、そこで得られた教訓・提言は限定的であるものの、その中で得られた教訓・提言を整理すると以下の通りである。

5.1 「2段階方式」について

本業務は案件を準備フェーズと本格フェーズに分割して実施する、通称「2段階方式」として設計されている。これはJICAにとってまだ事例の少ない方法であることから、今後の参考にメリットとデメリットを次ページに記す（表 5-1）。なお、当然ながらプロジェクトの個別状況や委託される業務の内容によりこれらメリット、デメリットは異なる。

表 5-1 : 2 段階方式に関する考察

	メリット	デメリット
案件開始まで	<ul style="list-style-type: none"> 従来は要請～採択～形成～開始に時間がかかるところを、より早期の開始が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初から 2 段階方式を見越すと、要請段階での案件内容検討の質が低下する懸念。
準備フェーズの実施	<ul style="list-style-type: none"> 通常の詳細計画策定調査に比して、ラオス側との協議やドナー協議、日常的な情報収集において有利。 詳細計画策定調査において、プロジェクト専門家とスタッフが調査団に先行して現地から支援できることから、調査の準備（資料準備、ラオス側との事前すり合わせ）やロジ面（アポイントメント、プロジェクトオフィスの使用）で JICA 調査団及び現地事務所の負担軽減が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期間ゆえに、一定期間を必要とする支援（政策形成等）や中・長期的視点に基づく支援（キャパシティ・ビルディング等）が設定、実施しづらい。 同様に、ラオス側都合による再調整（例：FSSWG 開催日程）や状況変化に沿った活動の再検討（例：現地再委託調査）など、ワークプランの変更を行う余地に限りがある。
本格フェーズに向けて	<ul style="list-style-type: none"> 従来に比して R/D の改訂という形で本格フェーズの詳細計画の完了から開始までの期間、プロセス短縮が可能。 詳細計画策定調査から案件開始までの間も準備フェーズがフォローアップやブリッジング機能を果たすことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> コンサルタント調達の結果として準備フェーズ受注者と本格フェーズ受注者が異なる可能性あり。その場合、ラオス側に混乱を生む懸念がある。 上記の理由から、準備フェーズが担う活動と本格フェーズが担う活動の線引きが時として曖昧（例：本格フェーズの内容や実施方針に関係した議論に対する準備フェーズ受注者の対応）
専門家の形態	<ul style="list-style-type: none"> 業務実施型の裁量の範囲内で迅速、柔軟に活動できる場合あり（社のバックアップ、予算管理・執行、等） 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は実質的に FSCAP という直営プロジェクトの後継案件であったが、直営型と短期派遣の業務実施型では大きく異なるので、同じような業務方法を求めるのは難しい（今回は現地居住者と自社負担による長期対応であったので例外）。 柔軟な活動・対応が必要な場合に、契約管理上の調整の手間が発生。

5.2 自立発展性に向けた資金確保、他事業との連携

ラオス政府から日本政府に対して 2013 年 8 月に提出された本プロジェクトの要請書 (P.4) の成果 4 は「ルアンプラバン県の JCM を含む REDD+実施管理・実施能力を強化する」ものとし、(但し)「直接的な現場活動は予定せず」(No direct field intervention is planned) とされていた。

また、2014 年 2 月～3 月にかけて実施された PAREDD の終了時評価報告書では、同プロジェクトは「参加型土地・森林管理による森林減少・劣化抑制に貢献するシステム」の開発はほぼ達成し (p.vii)、カウターパートも自立的に展開する技術は習得したと評価されている (p.21)。二箇所ある現場支援対象エリアの一方であるシェンゲン郡では PAREDD アプローチの有効性が一定程度検証されており、1 年間の延長期間ではもう一方のポンサイ郡での有効性検証と、類似地域における展開策を検討することとされた。そして、今後の同アプローチの普及上の困難はラオス側の財源確保にあると結論づけられていた (p.vii)。

これに基づいて JICA は、本プロジェクトで PAREDD アプローチの普及と面的展開は希望するものの、自ら直接的な現場支援 (すなわち普及に必要な財源の支援) は行わないという方針を示した。そこで、本業務では当初より REDD+に関連する実施資金 (例えば FIP)、他事業との連携 (例えば LENS2)、結果支払い (例えば FCPF Carbon Fund) といった可能性を積極的に開拓し、その具現化に努力した。その結果、FIP は追加資金申請に同県が含まれることになり (採択可否は未定)、LENS2 では同県森林セクターのキャパシティ・ビルディング並びに将来的な県内保護林に対する LENS2 資金と JICA 技術支援の連携が基本的に合意され (採択の見込み)、FCPF Carbon Fund は同県を含む北部 6 県を結果支払いの対象とする (採択可否は未定)、といった結果が見られた。

自立発展性と必要な資金確保は多くの JICA プロジェクトが直面する問題である。これに対しては、案件形成時点からこの問題を克服するような将来構想、出口戦略を設定することが重要である。特に昨今は、国際的に REDD+を始めとする気候変動緩和策に関する資金、防災等の気候変動適応策に関する資金が相当な額でコミットされているが、必ずしも良質な使途・支援案件が十分に積み上がっているわけではない印象である。従って森林セクターはもちろんのこと、他のセクターにおいても気候変動系資金やその他の国際的資金オプションを獲得する機会はあるものと考ええる。そのような意味で、JICA 全体としてこのような資金へのアクセスを通じたインパクト拡大、自立発展性の確保、さらにはグローバル・スタンダードに合わせた事業実施能力や技術力を養う機会とすることも考えられる。

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 1 詳細計画策定調査用インプット資料一式

1. 背景
2. 要請内容
3. 調査の目的、日程、出張者

4. 案件に関する基本情報

4.1. ラオス森林セクターの状況

(ア) 概況

ラオスは低い人口密度の内陸国、かつ、起伏も多いという地理的条件から比較的良好な森林を維持してきたが、輸出を目的とした内外資本による商品作物生産（ゴム林含む）、鉱業・水力等のインフラ開発、人口増加に起因する焼畑地拡大等による土地需要の増大により森林の減少が進んでいる。また、優良天然木に対する内外の旺盛な需要等に起因する違法伐採も引き続き行われており、森林劣化も継続している。

国所有の森林は森林法（2007 年）に基づき、保護林（49 箇所、約 820 万 ha）、保全林（24 箇所と 2 コリドー、約 470 万 ha）及び生産林（51 箇所、約 310 万 ha）に区分されている¹。森林率²は 1992 年の 47%以降、2002 年の 41.5%、2010 年の 40.3%と、減少率は低減しているものの依然として減少傾向にあり、森林戦略 2020 で掲げている 2020 年に 70%へと回復させる目標は達成不可能な状況にある³。

現在、国家土地利用政策の最終化を待ちながら森林法（2007 年改正）の改正が準備されている他、実態に合っていない森林 3 区分の全国的な再ゾーニングなど、森林政策と森林管理の基礎に関わる改革が進行中である。また、政府は国が管理する全国 51 箇所の生産林の全てに、FSC に準じた管理計画を策定することを目標とし、2010 年時点で 18 箇所（130 万 ha）が既に管理計画策定を終えている⁴。

生物多様性については、国及び県以下の保護区全体が国土の 20.2%を占めている。国家生物多様性戦略・行動計画（NBSAP）（2004）では 8,000～10,000 の開花植物を始め、両生類、鳥類、魚類、哺乳類等の推定数が報告されているが、44 種の哺乳類、36 種の鳥類、7 種の魚類、1 種の両性類、8 種の爬虫類が絶滅危惧にあるとされている。MONRE は本年中に NBSAP を改訂予定、CBD 向け第 5 次国家報告書も準備中である。

(イ) 森林セクターに関連した主要政策等

ラオスの森林セクターに関係する主要政策には以下がある。国家の開発方針を定める経済社会開発 5 カ年計画は第 7 次計画が最終年を迎え、第 8 次計画を準備中。また、国家土地利用政策、森林法改定、MONRE 及び MARD の長期戦略、といった重要な基本政策が並行して準備中である。

表 1 森林セクターに関連した主要政策

第 7 次国家経済社会開発 5 カ年計画（第 7 次 NSEDP 2011-2015）	ラオス政府と開発パートナーによる 2014 年次円卓会合において、第 7 次 NSEDP の進捗報告が為された。それに先立ち、環境分野の報告者である NSEWG に対して FSSWG からは、2015 年に森林率 65%というミレニアム開発目標は達成方向になく、現実的な目標設定と国内外努力の動員の必要性、特に懸念が増している違法伐採減少へのコミットメントに関する政府への支援、その他、村落林管理の推進、伐採保護種のより厳格な管理、無秩序ゴム林拡大への対応、森林戦略 2020 の後継となる戦略の必要性、等を提言した。
第 8 次 NSEDP	また、第 8 次 NSEDP は本年 6 月の国民議会への提出と 10 月施行に合わせて策定作業が進められており、森林セクターにおいては FSSWG から NSEWG を通じて昨年 9 月にインプットを行っている。
国家土地政策	（2014 年に国民議会へ提出以後、党政治局による最終化が為される模様） 現内容・議論は不明だが、森林法改正は当政策に倣う必要あり。
森林法改正案	（最終ドラフトは政府へ提出されているが、国家土地政策の決定を受けて改正される。2014 年 4 月案における主な改正点は以下の通り） 「森林」の再定義、PES、インフラ開発における伐採許可申請、REDD+と炭素に関

¹ MONRE Vision toward 2030 - Natural Resources and Environment Strategy; 10 Years 2016-2025, unofficial draft Dec. 2014.

² ラオスでは、林冠密度 20%以上（但し胸高直径 10cm 以上の樹木のみ）、平均樹高 5m 以上、面積 0.5ha 以上の森林地を「森林」と定義している。これは林冠密度 10%以上（平均樹高、面積については同じ）を「森林」とする FAO の定義に比べて、より高い基準を設定していることになる。

³ 現在、日本他の協力により 2015 年森林率調査が準備されており、6 月の国民議会に向けて速報値が集計される予定。

⁴ MONRE Vision toward 2030 - Natural Resources and Environment Strategy; 10 Years 2016-2025, unofficial draft Dec. 2014.

	する規定（取引、所有権、資金メカニズム等）、森林コンセッション（アグロフォレストリー、エコツーリズム、鉱業、PES など）と事前のコンサルテーション、森林基金の役割、MONRE-MAF 及び県の行政体制、等。
森林 3 区分（保護林、保全林、生産林）の再設定に向けた見直し・検討に関する国民議会指示 *1	第 7 回国民議会総会の結果を受けて森林 3 区分の完全で正確な再調査、境界再設定を、特に以下の要点を踏まえて政府に指示するもの：①既に別用途で承認されている森林 3 区分の除外と代替箇所設定による埋め合わせ、②森林 3 区分の「状態」に合わせた適切な保全・再生計画の設定、③森林 3 区分内住民の農業生産用地の調査と利用権の付与並びに 3 区分からの除外、④村落共有林の調査・把握と適切な管理計画の策定、⑤森林からの収入を森林管理に再投資する財政メカニズムの参加型による策定、⑥森林管理・開発における民間セクターの参画についての規則・メカニズムの策定。
MONRE 2030 ビジョン - 2016-2025 戦略 *2	(2014 年 12 月 MONRE から MPI への提出向け最終ドラフト) 戦略目標 1.4 で森林セクターについて記載： 持続的な森林・生物多様性の管理による 2020 年に森林率 70%達成と、森林再生、農村振興、野生生物の保護を通じた農村生計の向上。特に森林 3 区分の再ゾーニング、CFM、森林生態系の調査・モニタリング・報告、NTFP の持続的利用、保護区の管理と適正利用、REDD+等に取り組む。
MAF 2030 ビジョン - 2016-2025 戦略 *3	(2015 年 3 月に MONRE から MPI への提出に向けた作業中ドラフト) 大半が農業セクター中心に記載されており、森林への記載は極めて少ない。
山岳部農業・農村開発計画 *4	(EU 等が支援する NUDP 向け戦略ペーパー的な位置づけの模様) 自然資源管理が 4 つの重点目標の 1 つ。参加型土地利用計画 (PLUP)、自然観光、NTFP、小規模植林、CFM 等、参加型森林管理、生態系サービス、などの促進。

*1 National Assembly Cabinet Office Order *The review/consideration, for endorsement, of the three forestry types/categories (Protection Forest, Conservation Forest and Production Forest)*, 21 Aug. 2014, unofficial translation

*2 MONRE *Vision toward 2030 - Natural Resources and Environment Strategy, 10 Years 2016-2025*, unofficial draft Dec. 2014.

*3 MAF *Vision toward 2030 - Agriculture and Forestry Strategy, 10 Years 2016-2025*, unofficial draft.

*4 MAF *Upland Development Strategy for Agriculture and Rural Development 2016-2020*.

(ウ) 森林戦略 2020 及びレビュー結果

FSCAP は DFRM とともに 2013 年・2014 年にかけて森林戦略 2020（2005 年策定）のレビューを実施した。その中で、146 の行動提案の実施状況及び近年の森林セクター動向に関する多数の指標を取りまとめ、総合的なレビュー結果を FSSWG 他に報告している。提案されている 146 行動のうち約 6 割が実施済み・実施中とされ、低い実施率の要因として予算的・能力的制約、担当者の異動等が挙げられている。指標の収集分析においては主に違法伐採による丸太輸出の急増、これに伴う国家歳入の逸失、これらに関する正確な情報の欠如、ゴム林の急拡大に伴う価格変動への対応・管理に関する社会的問題等が明らかになった。当面の政策対応及び森林戦略について以下のような提言をまとめている。

表 2 森林戦略 2020 レビュー結果の要約

違法伐採対策
木材輸出見直し、特に CITES 付属書への記載；木材流通・貿易の透明性確保・統計の向上；生産林及び転用地における伐採量の把握を通じた違法伐採量の推定；国際熱帯機関(ITTO)への加盟。
森林セクター資金戦略の策定
違法伐採対策と並んで違法伐採以外の転用林における伐採収入の確保及びその分配方法の改善、一定量の森林管理への使用。
その他
ゴム林の経営戦略の策定；価格変動、ラオス人土地提供者・ゴム林所有者への適正な収入の確保、外国人労働者流入等への対応。

森林戦略に関する提言

目的・目標を分野毎に再整理；M&E と 5 年毎の更新；戦略自体の実施現状と進捗把握に資する目標と指標設定、モニタリング；優先事項と実施能力のバランスを見た優先順位付け；各省との目標・優先事項共有；関連する他政策との一貫性確保；能力開発戦略の策定。

(エ) ラオス政府の森林セクター管理体制

2011 年の省庁再編と MONRE の新設以降、ラオス森林セクターは MONRE (DFRM) と MAF (DOF 及び DOFI) によって分担管理されている。

表 3 森林セクターに関する MONRE と MAF の分掌

MONRE 所掌 (首相令第 435 号、2011/11/28)	<ul style="list-style-type: none"> a. 保護林、保全林（回廊地域を含む）及び貴重かつ絶滅の恐れのある動植物の存する地域について森林資源調査、区画、管理基準設定、保全、開発、再生及び登記。 b. 全国において森林利用、木材伐採、NTFP 及び野生生物収穫、並びに森林・林地の便益利用をモニター。
MAF 所掌 (首相令第 262 号、2012/6/28)	<ul style="list-style-type: none"> a. 環境植林のための調査、計画及び区域決定。商業植林を管理・促進。 b. MAF 管轄の森林・林地に関する業務に係る森林法、野生生物法及びその他法令の実施状況監理。 c. 生産林、村落林及び管轄する森林における NTFP の調査、管理計画樹立。全国における森林被覆のモニターに参加。
MAF-MONRE 覚書 MAF 0052 号、2013/05/31	<ul style="list-style-type: none"> a. MAF から MONRE に REDD+に関する事務局機能と、UNCCD、CBD の国フォーカルポイントを移管。 b. MAF から MONRE に FSSWG 議長を移管。

本プロジェクトの CP となる MONRE-DFRM、MAF-DOF の組織図は下記図の通り（組織詳細は「別添 3 ファクト・シート」参照）。

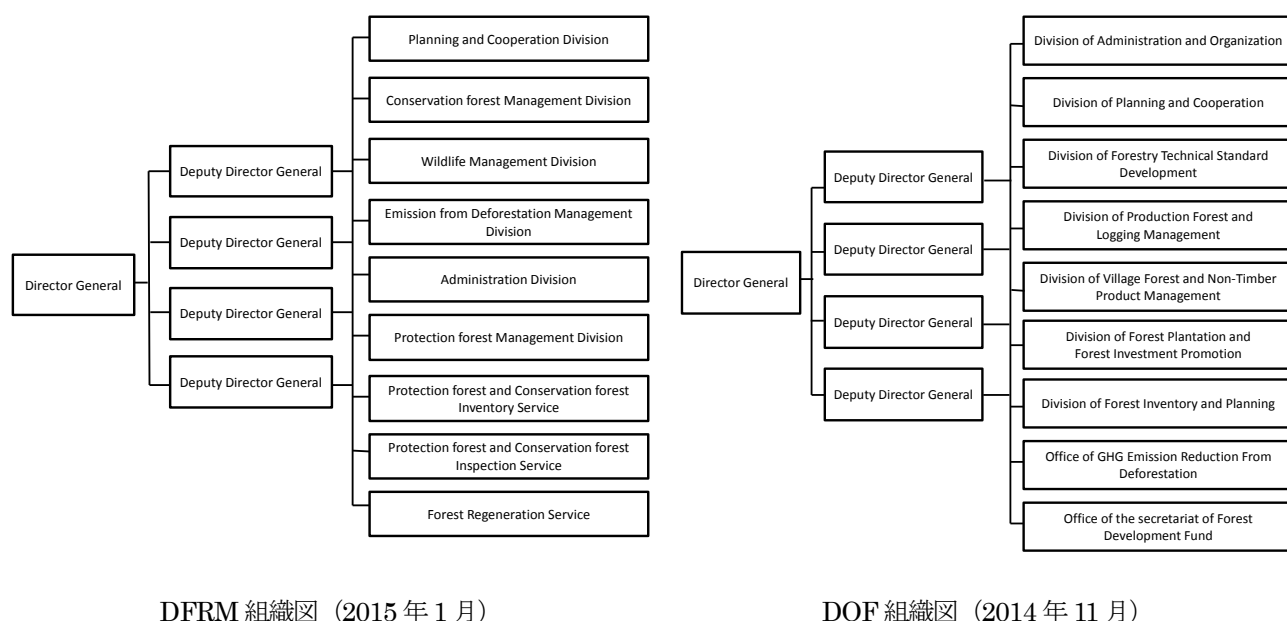


図 1 MONRE-DFRM と MAF-DOF の組織図

(オ) ドナー支援状況

ラオス森林セクターの主要なドナーとしては、わが国の他に、多国間では世銀（SUFORD-SU プロジェクト、FIP/IFC、FCPF）、ADB（CEP II、FIP/ADB）、二国間ではフィンランド（SUFORD SU プロジェクト）、ドイツの GIZ（CliPAD TC、ProFLEGT）と KfW（CliPAD FC、生物多様性プロジェクト）、USAID（LEAF プロジェクト）、研究機関或いは非営利団体では WCS、WWF、RECOFTC、CIFOR、ACIAR、が挙げられる。この中で、程度や直接・間接的な違いはあれど、大半のプロジェクトが REDD+ も視野に入れた協力を謳っている。

また、ルアンプラバン県では農業・地域開発プロジェクトとして SDC（TABI）、EU/BMZ-GIZ/SDC/AfD grant（NUDP）、畜産プロジェクトの ADB（NSLCP）がある、林業プロジェクト ACIAR（VALTIP）が主要なプロジェクトである。

各プロジェクトの概要及び本プロジェクトとの関係性については後述 5.1（イ）及び「別添 3 ファクト・シート」参照。

4.2. ラオス REDD+ の状況

(ア) 概況と準備状況

ラオスは 2008 年 7 月に FCPF の当初参加国 14 カ国の一員となったのを皮切りにわが国を含む多くのドナーの支援を受けながら REDD+ に関連する取り組みが進められてきた。しかしながら、政府のキャパ、利用可能な情報、人的リソース、さらには省庁再編等の影響から、その進展は停滞が見られている。その間、ドナー・コミュニティによる支援を通じて個別技術や県レベル以下での試行錯誤は為されてきたが、国全体の REDD+ 構築に関する青写真の不在もあり、包括的な取り組みには到っていない。今般、FCPF-RSP や本プロジェクトなどの主要プレーヤーが揃ったことから、ラオス側と共に REDD+ 準備～試行的実施に向けた本格的取り組みを再開するタイミングとの期待が関係者間でもたれている。

一方で、日本とラオスの二国間では Joint Crediting Mechanism (JCM) が 2013 年 8 月に署名された。これを受けて 2014 年 5 月に実施規則及び合同委員会運営規則の署名及び第 1 回合同委員会が開催され、現在は各種手続きやガイドライン作成の段階にあるようだが、目だった進捗が見られているわけではないようである。これに関連して、経済産業省及び環境省の委託を受けて以下の関連事業が行われている。

表 4 JCM 設備補助事業、実証事業及び実現可能性調査の採択案件

事業種別	事業名	採択年度	所管	事業者名
JCM 実現可能性調査 (FS)	REDD+	2010 年	経済産業省	王子製紙㈱
途上国における森林の減少・劣化の防止等への我が国企業の貢献可視化に向けた実現可能性調査事業	ラオス国ルアンプラバン県における REDD+ 実現可能性調査	2013 年	経済産業省	(一社) 日本森林技術協会
REDD+ 実証調査	ルアンパバーン県における REDD+	2014 年	環境省	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)、 (一社) 日本森林技術協会、 丸紅(株)

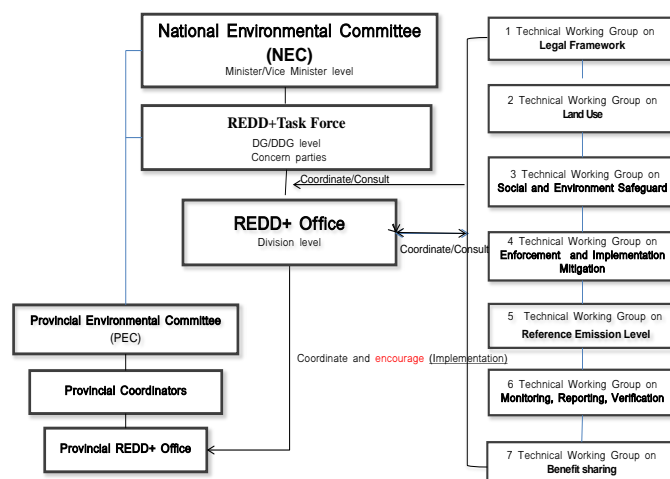
出典：新メカニズム情報プラットフォーム <<http://www.mmechanisms.org/support/adoption.html>>

尚、ラオス REDD+ の状況、将来見通し、JICA の協力範囲案については後述 5.1（イ）及び「別添 3 ファクト・シート」参照。

(イ) ラオス政府の REDD+ 管理体制

ラオスの REDD+ 実施体制として、2008 年に最初の NRTF が設置され、その後 2 回の改造を経て 2013 年 10 月に現 NRTF に到っているが、TOR は調整中である。NRTF の下に、個別課題に対応した 7 つの TWG の設置が合意されているが、未だ設置には到っていない。尚、NRTF は国の環境・気候変動問題を指

導・決定するための副首相を議長として関連省庁が参加する NEC の下に位置づけられている。



出典: Annual Review of REDD+ in Lao PDR 2013-2014 (draft as of February 2015)

図 2 NRTF、NRO、TWG s の関係

2011 年の省庁再編以前は DOF が REDD+ の担当であり、省庁再編以降も重要な役割担ってきた。省庁再編の結果、2013 年 5 月に正式に REDD+ の所管が MAF (すなわち DOF) から MONRE (すなわち DFRM) へ移管された。これを受けて、国の REDD+ フォーカルポイント並びに NRTF の事務局として NRO が DFRM の REDD+ 課に設置された。一方で、これに先駆けて DOF の REDD+ 担当部局である DOF-REDD+ 室が 2012 年に設置されている。両者の TOR は現在調整中である。

4.3. ルアンプラバン県の概況

県では現在、農業・森林開発 5 カ年計画 2016 - 2020 が策定中である。2015 年 1 月時点の暫定版から森林セクターに関する部分を抜粋・要約すると、以下のような計画が提示されている。尚、本計画は PAFO が自身の所掌範囲である生産林と森林 3 区分外の森林を中心に計画されており、PONRE が所掌する保護林と保全林については、基本的には計画対象外と考えられる。尚、PONRE の優先事業については別添 3 ファクト・シートを参照：

表 5 ルアンプラバン県農業・森林開発 5 カ年計画 2016-2020 (暫定版) の要約

地勢的特長 ルアンパラババン県は傾斜地が県土の 85% を占め、水田開発の余地が限られており、商業目的の植林と農業 (チーク、ゴム、メイズ、ゴマ、家畜など) に適している。
森林セクターの目標 ➤ 2020 年に森林率 70% を目指す。そのために、森林再生エリア (保護規制のある自然林 177,003ha) と植林エリア (12,500ha) の確定を進める ➤ 引き続きチーク、カントンアブラギリ (<i>vernica montana</i>) (種子から搾油して印刷や防水、艶出し、塗料等に利用される。木材も利用可能)、果樹などの植林振興。
持続可能な森林経営に向けたプログラム ➤ 関連規定の改定と普及 ➤ 森林率 70% 目標に対して、本プログラムではその 20% 分に貢献 ➤ 森林再生候補地 255,271ha の確定 ➤ 官民を通じた植林 12,500ha の実施 ➤ 生産林、及び、森林 3 区分外の森林、合計 663,328ha のインベントリ

- 森林管理を通じた環境保全、土壌、水源、気候の保全に係る取り組みの継続
- セクター関係者の能力向上
- 森林減少からの排出削減
- 絶滅危惧種の生息地保全

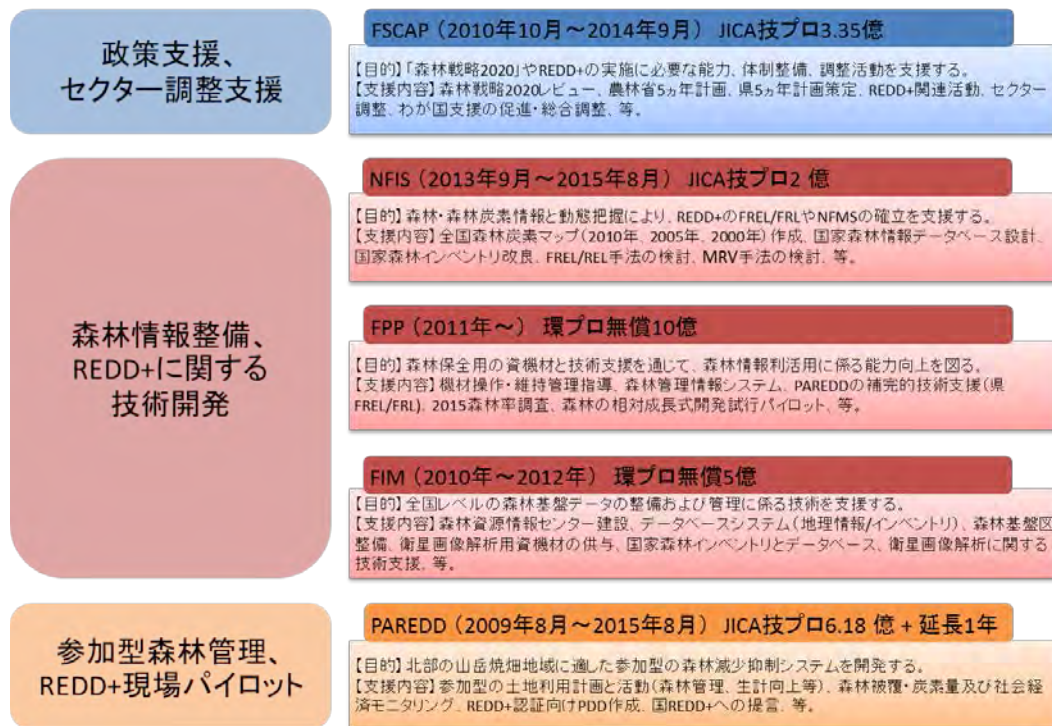
優先 6 プログラムと予算（生産林、及び、森林 3 区分外の森林を対象としたもの）

➤ 生産林と人工林管理	LAK 15 百万
➤ 環境保全と経済利用を目的とした森林再生	LAK 115,400 百万
➤ 森林及び林地の計画策定と調査	LAK 13,400 百万
➤ 森林政策・規則の促進	LAK 4,280 百万
➤ 組織及び人的能力開発	LAK 2,220 百万
➤ 森林火災予防・対策	LAK 6,000 百万

出典：Luang parbang Province Agriculture and Forestry Development Plan in 2016-2020（仮訳）、2015 年 1 月時点暫定版。

4.4. わが国の協力

過去から現在にかけて、わが国 ODA はラオス森林セクターに対して技術協力と無償資金協力の組み合わせにより支援を行ってきた。それらは大きく以下の 3 分野に分けられる。これら協力の成果を受けた本プロジェクトの構造については 5.1 以降で後述する：



FSCAP：森林セクター能力開発プロジェクト

NFIS：持続的な森林経営及びREDD+のための国家森林情報システム構築に係る能力向上プロジェクト

FIM：森林資源情報センター整備計画

FPP：森林保全計画

PAREDD：森林減少抑制のための参加型土地・森林管理プロジェクト

図 3 森林セクターに対する近年のわが国の協力（2009 年以降）

森林戦略2020目標	生産林	保護林	保全林	その他の森林	国政策	資源・管理情報	資機材
森林再生、植林	SUFORD FIP/IFC TABI (FSCAP)	TABI ICBF FPP TA5 FIP/ADB	TABI CEP-BCI ICBF WWF WCS FIP/ADB	CFM: RECOFTC	森林戦略: (FSCAP)	全国森林: NFIS, FPP, (FIM)	森林一般: FPP
林産物の利用促進					森林法: CiiPAD	生産林: SUFORD	生産林: SUFORD
絶滅危惧種及び生息地の保全					木材合法性: ProFLEGT PES: FIP/ADB, ANU, CIFOR	木材合法性: ProFLEGT	
土壌及び水源地の保全による環境の保全					REDD+: FCPF, PAREDD, CiiPAD, LEAF, WWF, RECOFTC, FIP/ADB; SN- REDD	農業生物資源: TABI	

太字はJICA或いは日本の支援。()書きは終了済み。

本プロジェクトの具体的協力内容については、ラオス森林セクターでのわが国/JICA の優位性はカウターパート並びに他ドナー等にも認められており、本プロジェクトによる引き続きの貢献に期待が寄せられている。他方で、いずれの成果もラオス側の施策並びに他ドナー支援との関係性の中で成り立つものであることから、本プロジェクトの役割を明確にしながらも、継続的なドナー協調を進める必要がある。本プロジェクトが事務局機能を支援する FSSWG はセクター関係者の協調を進める場であることから、本プロジェクト自体が引き続きドナー協調の推進役となる役割にある。

また、とりわけ REDD+については多くのドナーが直接・間接の支援を実施、或いは、表明している。現在までのところ、FSSWG やドナー同士の自主的な協力により一定程度の協調は為されているが、今後いよいよ REDD+準備～実施の進展が期待される中、政府とドナー共通のロードマップの必要性が関係者の間では認識されている。以下は、今後想定される REDD+の進展（政府及びドナーへとは未共有）と本プロジェクトで想定される JICA の協力範囲、並びに、関連ドナーを図示したものである。

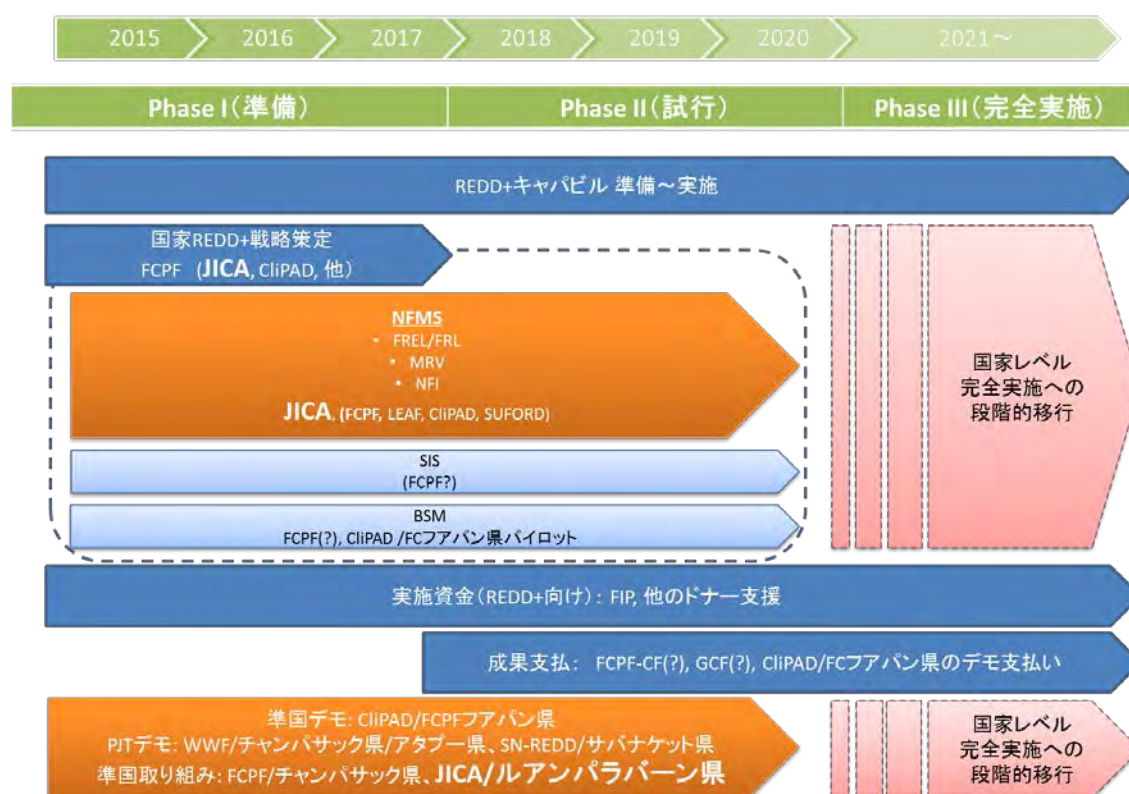


図 5 期待される REDD+の進展と JICA 支援

(ウ) REDD+活動実施資金、及び、REDD+成果支払いの財源オプションの模索 (JCM 含む)

PAREDD では 2014 年 8 月までに森林減少抑制に資する参加型土地利用計画と活動（森林管理、生計向上）の開発と試行を終え、CP も自立的に展開する技術は習得したと評価されている（終了時評価報告書参照）。二箇所ある対象エリアの一方では PAREDD アプローチの有効性が一定程度検証されており、1 年間の延長期間ではもう一方での有効性検証と、類似地域における展開策を検討することとなっている。

今後県内での普及展開上の最大の困難はラオス側の財源にあり、これに対する明快な打開策は未だ見えていない。このような出口戦略が不透明な状況下、本プロジェクトで JICA が県内での普及展開に向けた資金支援や直接的な現場活動をむやみに継続することは前提としていない。代わりに、県の REDD+準備を支援することで REDD+に関連した実施資金及び成果支払いへのアクセスを試みることで、県が自立的かつ持続性のある資金を確保できる素地作りを支援する。とりわけわが国 JCM-REDD+事業実現への側面支援を行うことで、わが国の温室効果ガス排出削減にも貢献することは重要である。さらに、同地域における他ドナー事業 (NUDP、TABI、VALTIP2、等)、REDD+関係資金 (FIP、FCPF-CF)、JICA の別支援 (REDD+プラットフォーム、無償等) との組み合わせも模索すべきである。

(エ) 実施体制

ラオスでは 2011 年の省庁再編を経て、REDD+を含む森林セクター全体取りまとめは新設された MONRE-DFRM を所管となった。しかしながら、森林資源情報整備全般や生産林管理、村落林管理など、実務面の少なからぬ部分は引き続き MAF-DOF が担っている。例えば職員数は DOF 187 名（正規職員 148 名）に対して、DFRM 107 名（正規職員 50 名）などと大きな差があり、DFRM は多岐かつ広範な使命を帯びながらも人員・経験といった点でキャパシティ不足が顕著なのは、ラオス側、ドナー・コミュニティの共通認識である。本プロジェクトの要請も MONRE-DFRM から出されており、実施機関側体制は 2014 年 9 月の M/M では DFRM と DOF をカウンターパートとする旨が合意されている（ルアンプラバン県への言及はないが、協力への同意は確認されている）。

以上の状況から本プロジェクトでは各成果・活動は DFRM と DOF 双方の役割に合わせながらも、両者に共通する事項（各種方針作り、研修等のキャパビル）では可能な限り両者を同じ土俵に乗せて一体的に扱うこととする。これは、5.3 で後述する省庁再々編に備えたリスク低減にも繋がる。

また、本プロジェクトは DFRM を筆頭 CP としながら、DOF 及びルアンプラバン県の関係者が明確な役割認識のもとで協力できるかが成否の鍵となる。そのため、案件形成段階で各成果と活動における各々の役割、関係性、指揮命令系統についての理解と合意を得て、実施段階においても実施機関側による協調的な取り組みへの工夫が求められる。

5.2. 基本計画案（上位目標/プロ目/成果レベルの概略。協力期間、実施体制、投入案）

目標レベル	協力方針
上位目標	REDD+の完全実施（Phase III）により、持続可能な森林経営（SFM）が促進される。 REDD+の完全実施に必要な要件（国家 REDD+戦略、NFMS、FREL/FRL、SIS） ⁵ がラオスに揃い、MRV 結果に基づく排出削減・吸収増加に正の成果が報告され、成果支払いが為されることで、SFM が制度、技術、資金面において促進されることを期待する。
プロジェクト目標	森林セクターにおける REDD+の活用戦略明確化と、森林資源情報の整備を通じて、持続可能な森林経営（SFM）に係る能力が強化される。 ラオス国の SFM 実現を後押しを目的とし、国レベルでの森林情報整備（成果 2）と REDD+管理・協調促進（成果 3）の 2 つを協力の中心に据える。それらの現場パイロットを目的とした県レベル活動（成果 4）を通じて行う。これら 3 つの成果を国の森林セクター政策へとリンクさせる（成果 1）ことで、セクター全体への波及効果を確実にする。
成果 1	中央政府の政策策定、実施、コーディネーション能力が強化される リード：DFRM サブ：DOF 2005 年に策定された森林戦略 2020 は、FSSWG による 2014 年のレビュー結果として、現状に則した改訂の必要性が指摘され、DFRM・DOF も同様の認識を持ちつつある。従って、同戦略の改訂にかかる方向性の決定を促し、成果 2、3、4 の進捗・結果も取り込みながら支援する。他の政策支援ニーズに対しては FSSWG の枠組み下でドナー・コミュニティとしての協業・分業を促進しつつ、本プロジェクトでは特に成果 2、3、4 との関連性を重視する。キャパビルにおいても同様に他ドナーと協調した支援を通じて効率化を図る。これらを円滑に進めるために FSCAP に引き続いて FSSWG 事務局機能への支援を行うが、この JICA の役割はラオス側及びドナー・コミュニティに強く期待されている。尚、FS2020 レビュー等に基づく提言に関する分析及び本プロジェクトにおける対応方向については別添 4 を参照。
成果 2	NFMS の運用を通じて REDD+による国レベルの排出削減・吸収量が測定される リード：DOF サブ：DFRM 具体的には国レベルでの NFMS の構築、NFMS を用いた第 1 回 MRV 実施、FREL/FRL 設定、次期 NFI（2016-17）を支援する。これらが組み合わさって国レベルでの REDD+報告が可能となる。尚、本プロジェクトでは NFMS ⁶ を「MRV に必要な情報を提供するシステム」、すなわち REDD+活動の実施の結果としての排出削減・吸収量を報告す

⁵ Decision 9/CP.19 *Work programme on results-based finance to progress the full implementation of the activities referred to in decision 1/CP.16, paragraph 70*

⁶ Decision 11/CP.19 *Modalities for national forest monitoring systems*

<p>るためのシステムと位置づけるが、セーフガード情報を含めることは想定していない。尚、別添 5 では想定される時間軸と JICA の協力範囲をまとめているが、FREL/FRL は 2018 年中の完成・UNFCCC 提出、第 1 回 MRV は 2019 年に実施して BUR を通じた UNFCCC 報告、という前提を置いているが、UNFCCC への報告窓口である DDRMCC は協力対象外であるため、連携の必要性について理解向上を図るものの、UNFCCC への報告自体は外部条件に設定している。</p>	
成果 3	国レベルの REDD+ の管理・構築、コーディネーション能力が強化される
リード：DFRM サブ：DOF	<p>国家 REDD+ 戦略を始めとする国レベルの政策形成及び NRTF、TWG の運営は資金面も含めて FCPF-RSP が支援の中心を担うとの前提に立ち、基本的には技術的インプットを中心とするが、支援ギャップを充足する協力の余地は残しておく方が良いと考えられる。設置が合意されている 7 つの TWG のうち、特に「FREL/FRL TWG」と「MRV TWG」については本プロジェクト成果 2 に合致するため、主導的な役割と支援を目指す。これらの過程で国レベルの政策・制度（NFMS 関連含む）とルアンプラバン県レベルの相互作用、連携強化を図る。また、両国政府の JCM-REDD+ の進捗に歩調を合わせながら、技術的観点を中心に、その推進に資する中央での側面支援を行う。他ドナーと協調した活動やキャパビル支援が重要であることから、FSSWG 或いは他の場を用いて協調的かつ効率的な支援を目指す。成果 1、2、4 と連動することで成果 3 の効果拡大を図る。</p>
成果 4	ルアンプラバン県の REDD+ 準備が促進される
リード：県 PONRE サブ：県 PAFO	<p>成果 1～3 と連動しながら、県の REDD+ 準備支援を通じて SFM に必要な能力強化を行う。県における REDD+ 実施枠組みの構築、優先政策のパイロット（政策支援であり現場支援ではない）、県 REDD+ に活用する県モニタリングシステムの構築と試行を行う。また、民間企業により提案されている JCM 事業が県及び国の REDD+ の枠組み下に制度的・技術的な整合性をもって位置づけられるような側面支援も行う。PAREDD アプローチはモデルとして一定の完成を見た評価されていることから、本プロジェクトでは対象サイトのモニタリング、拡大・普及への技術的支援や教訓抽出は図るものの、現場活動自体への継続・拡大支援は予定していない。県における PAREDD アプローチを含む森林政策の実施リソースとして、同県をサイトとする ADB 畜産プロジェクト、NUDP、TABI 等、他の事業との連携にかかる県の調整を支援する。</p>
協力期間	<p>2015 年 10 月～2020 年 9 月 *2014 年 9 月 R/D によれば協力期間は専門家派遣開始から 5 年 10 ヶ月。準備フェーズは 2015 年 9 月に終了。</p>
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ● MONRE-DFRM 局長：プロジェクトディレクター。 ● DFRM 計画課長：DFRM を統括するプロジェクト・マネージャー。 ● DOF-REDD+ 室長：DOF を統括するプロジェクト・マネージャー。 ● 成果ごとにリード CP を設定。 <p>詳細は別添 2 の実施体制参照。</p>
投入	<p>【日本側】 2014 年 9 月 M/M によると以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門家：チーフ、業務調整、森林政策、森林情報システム、REDD+ 戦略、REDD+ 実施、リモートセンシング、森林インベントリ、カーボン・アカウンティング、データベース管理。 ● 本邦/第 3 国研修。 ● 資機材 <p>【ラオス側】 2014 年 9 月 M/M によると以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DFRM: PD, PM を含む CP; 執務室(尚、要請書では執務室は成果 1、3 用に DFRM, 成果 2 用に FIPD、成果 4 用に PONRE) ● DOF: DPD, PM を含む CP ● ルアンプラバン県：特に記載なし

尚、各成果レベルの相関関係を明確にすることで、シナジー効果をプロジェクト内部でも生み出すことが可能となる。各成果における中心的な CP は異なるが、プロジェクト関係者内で常にそのような目的意識と

全体像を共有しておくことが、マネジメント上の重要なポイントとなる。

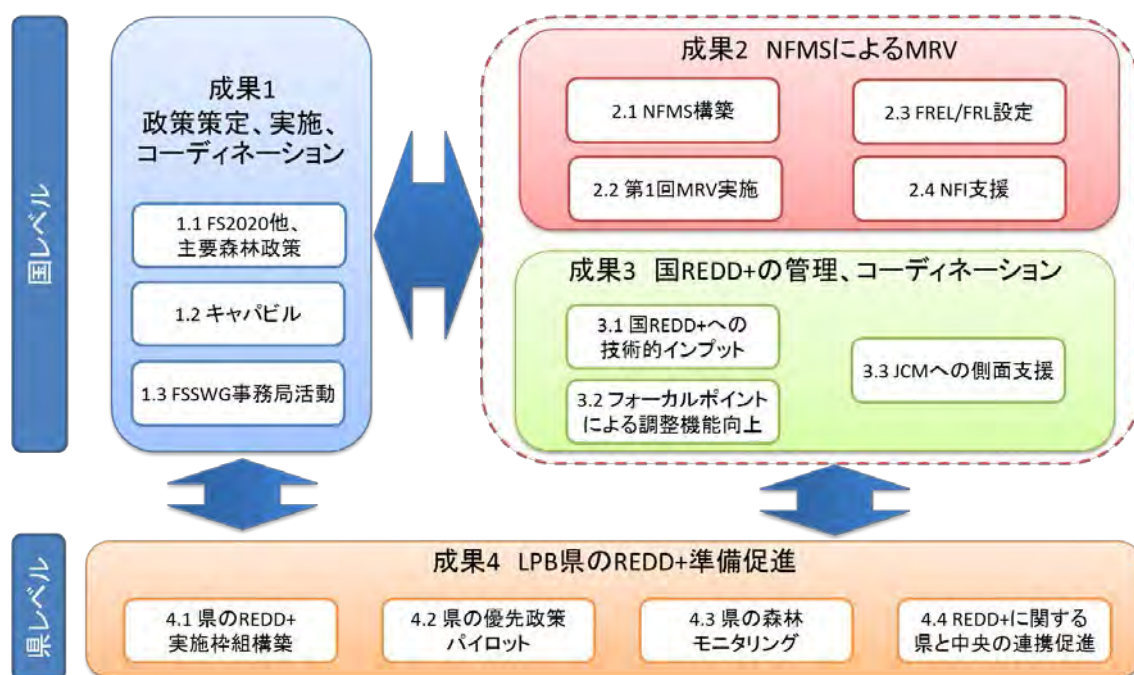


図6 各成果と相関関係

5.3. 案件実施上の留意事項、外部条件、など

(ア) 外部条件の適切なモニタリングと柔軟な軌道修正

前述「5.1. (イ)」で述べたとおり、程度差はありながら、いずれの成果もラオス側並びに他ドナーによる取り組みの進展に影響を受けざるを得ない。一例を挙げるならば、REDD+に関しては世銀 FCPF-RSP が国家 REDD+戦略や NRTF などの支援の中心を担うと期待されているが、同プログラムの準備から開始までには当初想定以上の時間を要しており、多くの対象国でも進捗の遅れが見られている。従って、本プロジェクトではセクター関係者との綿密な情報交換を通じて外部条件を適切にモニタリングし、柔軟な軌道修正の余地を残しておくことが肝要である。常日頃の念入りの情報収集と、本プロジェクトが事務局機能を支援する FSSWG の情報交換ハブを通じて、これら外部条件のモニタリングとリスクの早期発見・対処を重要とする。

尚、JCM については両国政府間の交渉進展に依存することから、本プロジェクトではその推移に注視しながら、求めに応じて的確なタイミングでの日本側、ラオス側に対する技術的なインプットを行う。

(イ) 森林セクターの所管に付随する課題

前述「5.1 (エ)」で述べたとおり、森林セクターの所管が MONRE-DFRM と MAF-DOF に分割されている中、本プロジェクトの筆頭 CP である DFRM のキャパ不足、DFRM、DOF 及びブルアンブラバン県の協力関係と指揮命令系統が円滑に機能しなければならない。さらには、2016 年のラオス共産党大会を機に森林セクター所管の再々編が起きるとの噂もあり、これは中央での全ての活動（成果 1～3）に重大な影響を及ぼし、場合によっては県での活動（成果 4）にも波及しかねない。したがって、これら動向の注視が重要である。

6. 対処方針

（上記 4、5 に関する調査事項の洗い出し、対処方針確認、5 項目評価準備）
→プレ検討会を経てマトリクスで整理

別添

- 別添 1 要請書との基本計画の相違点 → PDM 案を受けて整理
- 別添 2 PDM 案、PO 案、実施体制案、JCC 案
- 別添 3 ファクト・シート
- 別添 4 ラオス REDD+ の状況と想定される時間軸
- 別添 5 FS2020 レビュー等に基づき行われた提言に関する分析及び対応方向(案)
- 別添 6 収集資料リスト

別添2

Project Design Matrix

Project Title:

Version: draft 0 (2015/03/06)

Implementing Agency:

Dated 2015/03/06

Target Group:

Period of Project:

Project Site:

Model Site:

Narrative Summary			
Overall Goal	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
REDD+の完全実施(Phase III)により、持続可能な森林経営が促進される。	1. 国 MRV 結果が隔年更新報告書(BUR)を通じて定期的に報告される。	1. BUR における REDD+ MRV 報告	
	2. FS2020 改訂版に沿って持続可能な森林経営が進展する	2. [FS2020 改訂版の目標の達成度で判断]	
	3. ルアンプラバン県の森林面積が●比で●%増加する。	3. 県森林面積比較結果	
Project Purpose	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
森林セクターにおける REDD+の活用戦略明確化と、森林資源情報の整備を通じて、持続可能な森林経営に係る能力が強化される。	1. FS2020 の改訂版が承認される。	1. 決定文書	UNFCCC 下での REDD+成果支払いに必要な制度条件(i.e. 国家 REDD+戦略、FREL/FRL、NFMS、SG)を満たしている。 NFMS 運用計画に沿って恒常的な運用が行われる。 森林保全の重要性が支持され、適切なリソースが確保される。 森林セクター外に起因するマイナス要因が適切に管理・対応される。
	2. NFMS 恒常的運用が可能な状態にある。	2. NFMS 運用計画の決定	
	3. 第1回 MRV 結果と国 REDD+戦略における PaMs の有効性がステークホルダー参加の元で評価される。	3. 評価報告書[Pjt 用ではなく、BUR Tech Annex としてまとめたいところ]	
	4. ルアンプラバン県への支援結果が国の森林・REDD+政策にフィードバックされる。	4. フィードバック WS 開催記録	
Outputs	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption

1. 中央政府の政策策定、実施、コーディネーションが促進される。 1.1 森林関連法令や政策策定の支援を行う 1.2 森林政策策定能力強化のための研修を実施する 1.3 森林セクターのコーディネーションを支援する	1. FS2020改訂にREDD+の活用戦略が組み込まれる。	1. 改訂版 FS2020 の内容検証	国の森林セクター管理体制に大幅な変更が生じない、乃至、その変更が成果の達成を著しく阻害しない。
	2. 森林セクター関連職員向けの実務研修が実施される。	2. 研修開催記録	
	3. FSSWG が4 半期毎に開催される。	3. 開催記録	
2. NFMS の運用を通じて REDD+による国全体の排出削減・吸収量が測定される。 2.1 NFMS の構築を支援する 2.2 NFMS を活用した第1 回国家 MRV の実施を支援する 2.3 FREL/FRL の設定を支援する 2.4 次期 NFI(2016-2017)を支援する	1. NFMS の仕様が最終化される。	1. NFMS アーキテクチャーの最終承認。	ラオスが FREL/FRL の UNFCCC 提出を決定する。 ラオスが第1 回 MRV 結果の UNFCCC 提出を決定する。
	2. NFMS を用いて第1 回 MRV 結果が取りまとめられる。	2. 第1 回 MRV 報告書	
	3. FREL/FRL が設定される。	3. FREL/FRL 設定の DFRM/DOF 承認	
	4. NFI を通じた森林資源情報が取りまとめられる。	4. NFI (2016-2017) の結果報告書	
3. 国レベルの REDD+の構築・管理、コーディネーションが促進される 3.1 国レベルの REDD+政策・制度へ技術的インプットを行う 3.2 DFRM 及び DOF による国 REDD+の調整機能向上を支援する 3.3 JCM-REDD+の制度・技術的進展に合わせた、ラオスへの導入を側面支援する	1. 国家 REDD+戦略が決定される。	1. 決定文書	国家 REDD+戦略が遅滞なく決定される(2017 年中を想定)。 国の REDD+管理体制に大幅な変更が生じない、乃至、その変更が成果の達成を著しく阻害しない。
	2. プロジェクトが共同議長である●●TWG がTOR に沿って運営される。	2. ●●TWG 開催記録	
	3. 両国政府間の JCM 交渉の進展に合わせ、JCM-REDD+促進に向けた提言が JCM 合同委員会に為される。	3. フォーカルポイントから JCM 合同委員会へのインプット履歴	
4. ルアンプラバン県の REDD+準備が促進される 4.1 県における REDD+の実施枠組みを構築する 4.2 県における優先政策のパイロットを行う 4.3 県 REDD+に活用する森林モニタリングの構築・実施を支援する 4.4 REDD+に関する県と中央の連携促進を支援する	1. 県 REDD+戦略が策定される。	1. 県 REDD+戦略の決定文書	
	2. 県森林セクターの優先政策がパイロットされる。	2. パイロット結果の評価報告書	
	3. 県の森林情報がモニタリングされる。	3. モニタリング結果報告書	
	4. 民間事業体により提案されている JCM 事業が県 REDD+戦略の枠組下に位置づけられる。	4. 県 REDD+戦略の内容検証	

Activities	Inputs		Important Assumption
	Japanese side	Laos side	
<p>1. 中央政府の政策策定、実施、コーディネーション能力が強化される</p> <p>1.1. 森林関連法令や政策策定の支援を行う</p> <p>1.1.1. 現行 FS2020 の改訂を含む政策対応の方向性を確認する。</p> <p>1.1.2. 確認された方向性に沿って FS2020 改訂を支援する。</p> <p>1.1.3. FSSWG 等の枠組みを活用して、政策支援ニーズへの協調された支援を促進する。</p> <p>1.1.4. 上記 1.1.3 を踏まえて、他の主要政策の策定を支援する(e.g. 改訂森林法の関連政令・決定等。REDD+関係は成果 3 で扱う)。</p> <p>1.1.5. ルアンプラバン県における優先政策のパイロット結果を国政策へと反映させる。</p> <p>1.2. 森林政策策定能力強化のための研修を実施する</p> <p>1.2.1. 他ドナーと協調しながら、森林政策分野の国内研修を実施する。</p> <p>1.2.2. 本邦、第 3 国研修を実施する。</p> <p>1.2.3. 他ドナーと協調しながら、国外における森林関連会議や研修等への参加を支援する。</p> <p>1.3. 森林セクターのコーディネーションを支援する</p> <p>1.3.1. FSSWG 事務局の機能を支援する(情報共有促進、政策対話、ドナー協調等)。</p> <p>1.3.2. FSSWG の会合開催を支援する(四半期に一度を基本とする)。</p> <p>1.3.3. FSSWG と上位の NRESWG 及び、他イニシアティブとの連携促進を支援する</p> <p>2. NFMS の運用を通じて REDD+による国レベルの排出削減・吸収量が測定される</p> <p>2.1. NFMS の構築を支援する</p> <p>2.1.1. NFMS の構築計画を決定する。</p> <p>2.1.2. NFMS の運用体制・プロセスを決定する。</p> <p>2.1.3. NFMS の物理システムを構築する。</p> <p>2.1.4. NFMS を運用体制・プロセス、物理システムの両面からテスト稼働、改良する(第 1 回 MRV 前及び後の計 2 回改良)。</p> <p>2.1.5. 第 2 回改良を経て NFMS 運用マニュアルを作成する。</p> <p>2.1.6. NFMS 運用計画を作成する。</p>			<p>FS2020 を始めとする政策の策定予定が遅滞無く進む。</p>

2.2. NFMS を活用した第 1 回国家 MRV の実施を支援する

- 2.2.1. MRV 実施手順(技術手法、作業プロセス、実施体制、等)を決定する。
- 2.2.2. NFMS の第 1 回テストを通じて MRV 実施手順を改良する。
- 2.2.3. 「M」:最新の AD と EF に基づく排出削減・吸収量把握、及び、国 REDD+実施過程の評価を行う(2018～2019 年時点)。
- 2.2.4. 「R」:森林セクターから GHG-I へのインプット・調整を支援する(2019 年末 BUR 提出と仮定)。
- 2.2.5. 「V」:UNFCCC の要件を参照しながら、必要な準備を行う。
- 2.2.6. FREL/FRL と MRV 第 1 回結果の比較による成果の仮算定、評価、各種対応策を検討する(MRV 技術、NFMS 運用、PaMs 等)。

2.3. FREL/FRL の設定を支援する


- 2.3.1. FREL/FRL の作成方針・手順を決定する。
- 2.3.2. ドライバー分析と PaMs を検討する。
- 2.3.3. 2015 年森林図を作成する=AD。
- 2.3.4. 次期 NFI(2016-2017)結果等を含め、利用可能な EF を整理する=EF。
- 2.3.5. 準備された AD と EF を元に 2015 年炭素図を作成する。
- 2.3.6. 2015 年炭素図と過去複数年の炭素図から過去トレンドを作成する。
- 2.3.7. 国情加味、参照シナリオを設定する。
- 2.3.8. 以上を元にステークホルダーによる検討会を開催し、FREL/FRL 設定方法を確定する。
- 2.3.9. FREL/FRL を UNFCCC への提出を促進する。
- 2.3.10. UNFCCC の技術アセスメント結果を受けて、FREL/FRL の改善を支援する。

2.4. 次期 NFI(2016-2017)を支援する

- 2.4.1. 次期 NFI の実施計画を策定する(調査スコープ、実施体制、作業工程、等)
- 2.4.2. 現地調査に対する(技術的)支援を行う。
- 2.4.3. 調査結果の取りまとめを支援する(QA/QC 含む)(データは NFIDB 改め NFMS 格納)。

MRV の「R」を所管する MONE-DDRMCC との協力が円滑に為される。

<p>3. 国レベルの REDD+の管理、コーディネーション能力が強化される</p> <p>3.1. 国レベルの REDD+政策・制度へ技術的インプットを行う</p> <p>3.1.1. 他ドナーと協調しながら、国家 REDD+戦略策定に向けた環境作りを進める。</p> <p>3.1.2. 国家 REDD+戦略への技術的インプットを行う。</p> <p>3.1.3. 他の国レベル REDD+政策・制度に対する技術的インプットを行う(SG、BSM 等)。</p> <p>3.1.4. REDD+フォーカルポイントと気候変動フォーカルポイント(MONRE-DDRMCC)の連携の必要性に対する理解を促進する。</p> <p>3.1.5. ルアンプラバン県の REDD+関連支援結果と国 REDD+政策・制度(NFMS 関連含む)の相互作用を促進する。</p> <p>3.1.6. 他ドナーと協調しながら、FCPF-CF へのアクセスを支援する。</p> <p>3.2. DFRM 及び DOF による国 REDD+の調整機能向上を支援する</p> <p>3.2.1. NRTF の運営に対する技術的インプットを行う。</p> <p>3.2.2. TWG の運営に対する技術的インプットを行う。</p> <p>3.2.3. いくつかの TWG についてはその運営を支援する。</p> <p>3.2.4. 他ドナーと協調しながら、REDD+分野(NFMS 関連含む)の国内研修を実施する。</p> <p>3.2.5. 本邦研修、第 3 国研修を実施する。</p> <p>3.2.6. 他ドナーと協調しながら、国外での REDD+関連会議や研修等への参加を支援する。</p> <p>3.3. JCM-REDD+の制度・技術的進展に合わせた、ラオスへの導入を側面支援する</p> <p>3.3.1. ラオスにおける JCM-REDD+の制度・技術に対する技術的インプットを行う。</p> <p>3.3.2. ラオス側の JCM-REDD+への理解促進を支援する。</p> <p>4. ルアンプラバン県の REDD+準備が促進される</p> <p>4.1. 県における REDD+の実施枠組みを構築する</p> <p>4.1.1. 国の方針に合わせながら、県の実施体制を構築する(県 RTF 他)。</p> <p>4.1.2. 国の方針に合わせながら、県 REDD+戦略(PRS)を策定する。</p> <p>4.1.3. PRS の実施に関する関係者の能力強化を行う(資金的支援ではない)。<small>[PAREDD アプローチ関係で支援あるか?]</small></p> <p>4.1.4. PAREDD のフィールド活動のモニタリング、教訓等の県及び中央への還元を継続する(LFMC と VDF 活動結果を中心に)。</p>			<p>国家 REDD+戦略並びに他の REDD+実施に必要な国レベル政策・制度の形成予定が遅滞無く進む。</p> <p>TWG の設置と TOR が遅滞無く決定される。</p> <p>両国政府による JCM-REDD+が進展する。</p> <p>国方針において、県レベルの REDD+の取り組みが支持される。</p>
--	--	--	--

<p>4.2. 県における優先政策のパイロットを行う</p> <p>4.2.1. 県の森林政策における優先課題を特定する(e.g. 小規模世帯チーク林、伐採税等の規則改善、CFM)</p> <p>4.2.2. 特定された優先課題に対応した政策支援のパイロットを行う。</p> <p>4.2.3. パイロット結果をもとに効果を評価する。</p> <p>4.2.4. 評価結果をもとに、県政策、並びに、国政策へとフィードバックする。</p> <p>4.3. 県 REDD+に活用する森林モニタリング能力の構築・実施を支援する</p> <p>4.3.1. 県森林モニタリング計画を策定する。</p> <p>4.3.2. 県森林モニタリング計画に沿った実施を支援する。</p> <p>4.3.3. モニタリング結果を取りまとめて県森林政策の評価へと活用する。</p> <p>4.4. REDD+に関する県と中央の連携促進を支援する</p> <p>4.4.1. 県 REDD+準備過程からの経験・教訓の中央へ還元する(e.g. NRS、NFMS)。</p> <p>4.4.2. 県の JCM-REDD+への理解促進を支援する。</p> <p>4.4.3. 県森林政策(PRS 含む)の実施を補完する資金源・ドナー事業との調整を支援する。</p>			<p>提案されている JCM-REDD+事業が継続的に実施される。</p>
			Pre-Conditions
			<p>プロジェクト実施方針、体制に係るラオス側・日本側の決定が遅滞なく為される。</p> 
			<Issues and countermeasures>

Tentative Plan of Operation

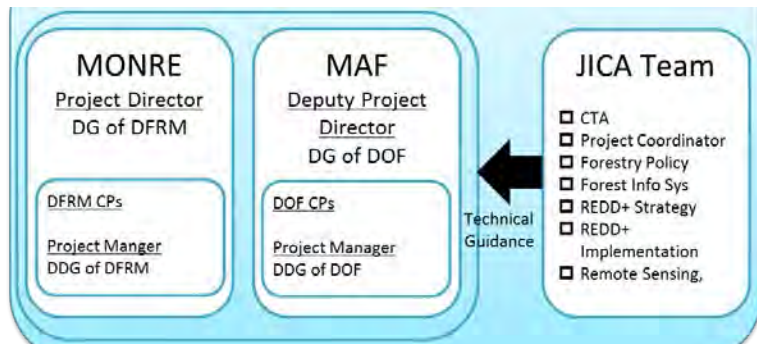
Version 0
Dated 2015/03/06

Project Title:

Inputs				Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Remarks		Issue	Solution
					I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
Expert																																
				Plan																												
				Actual																												
				Plan																												
				Actual																												
				Plan																												
				Actual																												
Equipment																																
				Plan																												
				Actual																												
Training in Japan																																
				Plan																												
				Actual																												
In-country/Third country Training																																
				Plan																												
				Actual																												
Activities				Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Responsible Organization		Achievements	Issue & Countermeasures
Sub-Activities					I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	GO●●●						
Output 1: 中央政府の政策策定、実施、コーディネーションが促進される。																																
1.1. 森林関連法令や政策策定の支援を行う				Plan					FS2020改定の方向性決定・改訂作業、他政策支援・支援コーディネート、成果4との連携																							
				Actual																												
1.2. 森林政策策定能力強化のための研修を実施する				Plan																												
				Actual																												
1.3. 森林セクターのコーディネーションを支援する				Plan					研修、国際会議等参加支援																							
				Actual					FSSWG事務局支援、WG開催																							
Output 2: NFMSの運用を通じてREDD+による国全体の排出削減・吸収量が測定される。																																
2.1 NFMSの構築を支援する				Plan					開発計画、実施体制・プロセス、物理システム、テスト稼動・改良(1)																							
				Actual																												
2.2 NFMSを活用した第1回国家MRVの実施を支援する				Plan					MRV実施手順、NFMSテスト稼動を通じたテストと改良																							
				Actual																												
2.3 FREL/FRLの設定を支援する				Plan					Driver/PaMs、AD、EF、過去トレンド、参照シナリオ、検討、提出																							
				Actual																												
2.4 次期NFI(2016-2017)を支援する				Plan					計画・準備				実施				集計・分析															
				Actual																												
Output 3: 国レベルのREDD+の構築・管理、コーディネーションが促進される																																
3.1 国レベルのREDD+政策・制度に対して技術的インプットを行う				Plan					国家REDD+戦略及び他の成果支払要件																							
				Actual																												
3.2 DFRM及びDOFIによる国REDD+の調整機能向上を支援する				Plan					他ドナーと協調しながらNRTF運営、TWGs運営、研修/国際会議参加支援等																							
				Actual																												
3.3 JCM-REDD+の制度的・技術的進展に合わせて、ラオス国での導入に向けた側面支援を行う				Plan					JCMの進展にあわせた間接的支援(技術的インプット、理解促進等)																							
				Actual																												
Output 4: ルアンプラバン県のREDD+準備が促進される																																
4.1 県におけるREDD+の実施枠組みを構築する				Plan					RTF、県REDD+戦略、能力強化																							
				Actual																												
4.2. 県における優先政策のパイロットを行う				Plan					政策選定、政策化				実施状況のM&E				県・国政策へ還元															
				Actual																												
4.3. 県REDD+に活用する森林モニタリングの構築・実施を支援する				Plan																												
				Actual																												
4.4. REDD+に関する県と中央の連携促進を支援する				Plan					成果4の過程を通じた中央へのフィードバック、県内のJCM事業について理解促進支援																							
				Actual																												
Duration / Phasing				Plan																												
				Actual																												
Monitoring Plan				Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Remarks		Issue	Solution
					I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Monitoring																																
Joint Coordinating Committee (JCC)																																
Set-up the Detailed Plan of Operation (DPO)																																
Submission of Monitoring Sheet																																
JICA Monitoring Mission from Japan																																
Joint Monitoring (JM)																																
Post Monitoring																																
Reports/Documents																																
Annual Progress Progress Report		Plan																														
		Actual																														
Project Completion Report		Plan																														
		Actual																														
Public Relations																																
Quarterly Newsletter		Plan																														
		Actual																														
Project website		Plan																														
		Actual																														

実施体制案

R/D

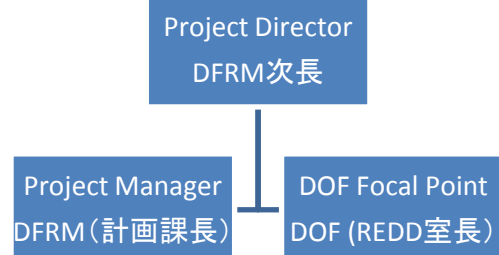


キックオフ会合での議論

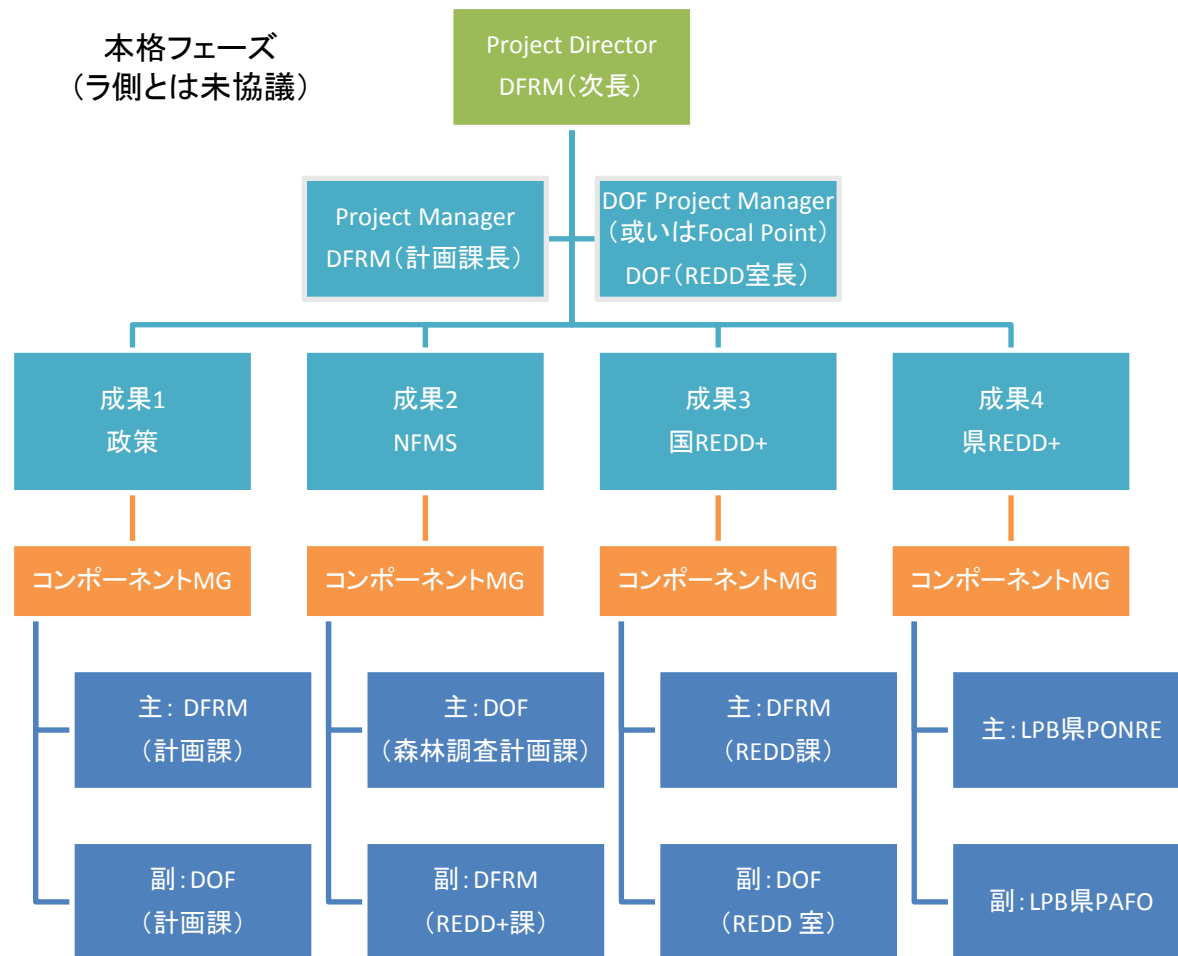
- (DOF)PDは局長・次長ではなく課長レベルが適当。
- (DOF)DFRM次長をPDとし、Deputy PDは置かず、DOFからはPMではなくFocal Pointを指名
- (JICA)DOFからもPM指名されるべき



準備フェーズ



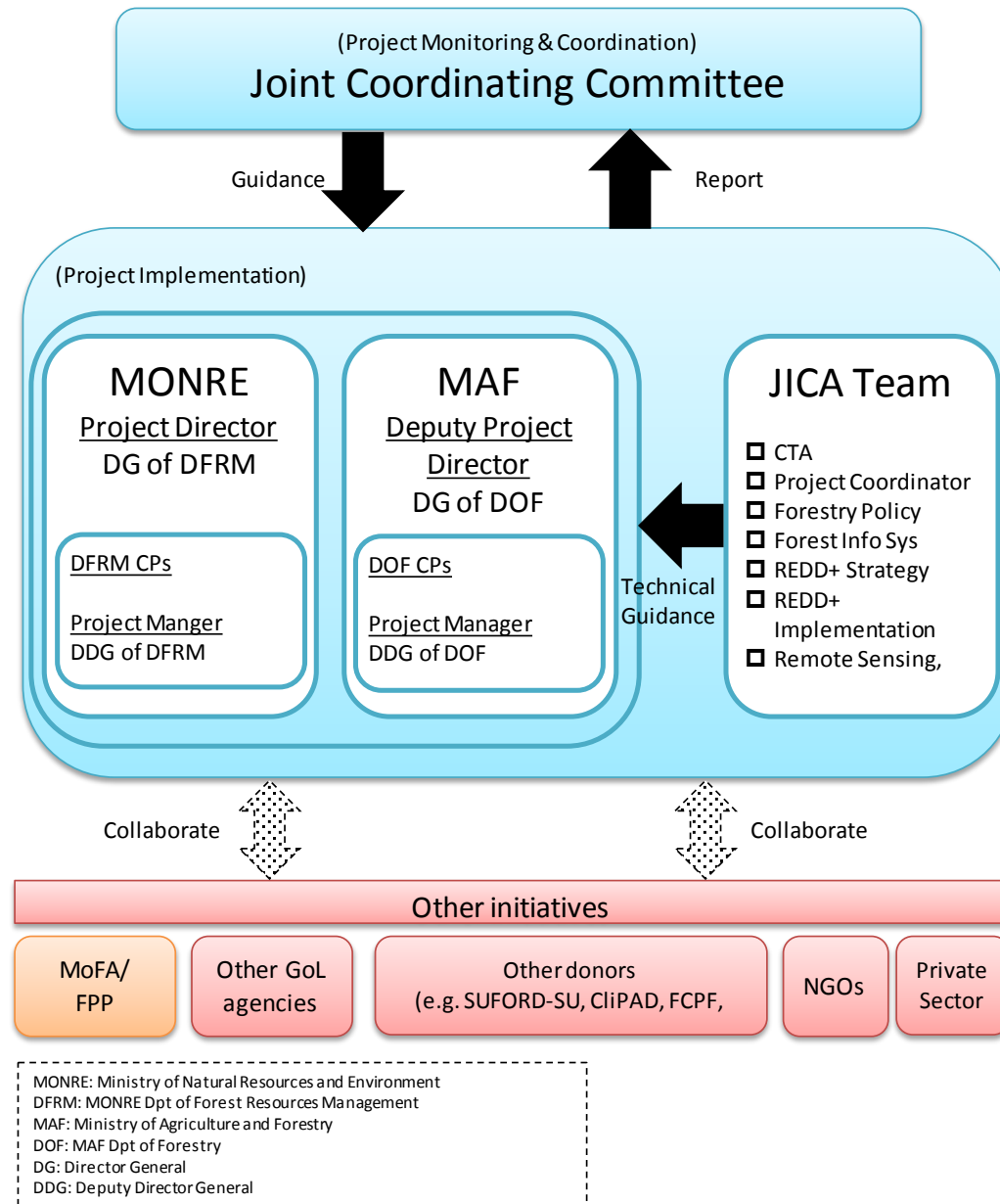
本格フェーズ
(ラ側とは未協議)



検討事項

- PDのレベル
- DPDの必要性
- DOFからはPMとするか、Focal Pointとするか。両PM(或いはDOF Focal Point)のステータス及び役割
- DFRMラインのPD/PMの基でDOF主体活動が円滑に進むか？
- 県の主要CP、実施体制(PONREキャパ低)
- 県レベル活動への中央レベルの関与方法、関係性

JCC案(2014年9月のMMにおける案)



別添3

ファクト・シート

1. 森林状況	3
1.1. 森林被覆率と森林3区分	3
1.2. 県別森林被覆タイプと森林3区分	4
1.3. 国別、地域別森林被覆タイプの変遷	4
1.4. 国が管理する生産林、保護林、保全林	5
1.5. 県別の主要な土地所有状況	5
1.6. 森林セクターの GDP に占める割合	6
1.7. 木材製品の国別輸出高	7
1.8. 木材輸出総額における国連統計（UN Comtrade）と税関局統計の乖離	7
2. MONRE 組織体制	8
2.1. MONRE 組織図（2014 年 12 月時点）	8
2.2. MONRE-DFRM 組織図（2015 年 1 月時点）	9
3. MAF 組織体制	10
3.1. MAF 組織図（2014 年 10 月時点）	10
3.2. MAF-DOF 組織図（2014 年 10 月時点）	11
3.3. MAF-DOF 人員体制（2015 年 2 月時点）	12
4. ラオス森林セクターに対するドナー支援	13
4.1. 国・地方県	13
4.2. ルアンプラバン県	14
5. ルアンプラバン県の森林概況	15
5.1. 県森林分布図	15
5.2. 保全林及び保護林の箇所数と面積	16
5.3. 県森林セクターの 2016-2020 における優先事業と予算	16

5.4.	PONRE 組織体制	17
5.4.1.	PONRE 組織図	17
5.4.2.	PONRE 人員体制	17
5.5.	PAFO 組織体制	18
5.5.1.	PAFO 組織図	18
5.5.2.	PAFO 人員体制	18

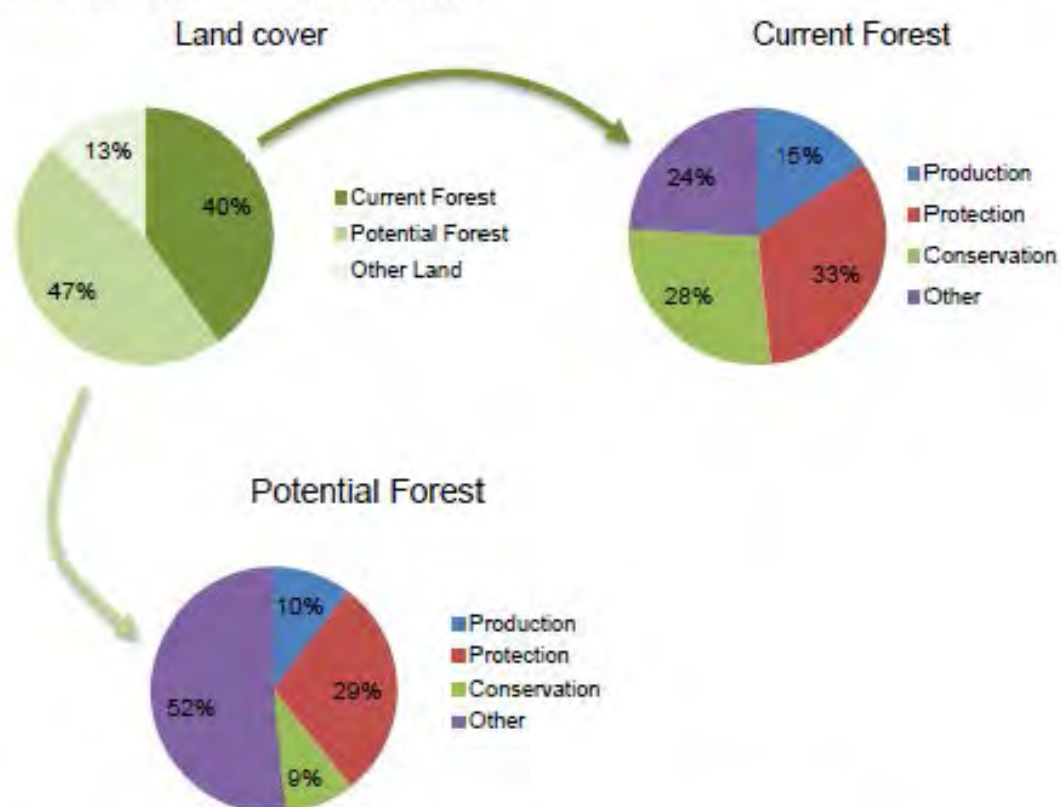
1. 森林状況

(以下出典: Forestry Strategy to the Year 2020 Review Report Part III - Forestry Sector Performance Indicators 2014

(FSPI 2014), Draft Ver. 140921, September 2014)

1.1. 森林被覆率と森林 3 区分

Figure 1-3: Land cover and forest category



Source: Processed from DOF (2012), *Forest Cover Assessment Lao PDR 2010*

1.2. 県別森林被覆タイプと森林3区分

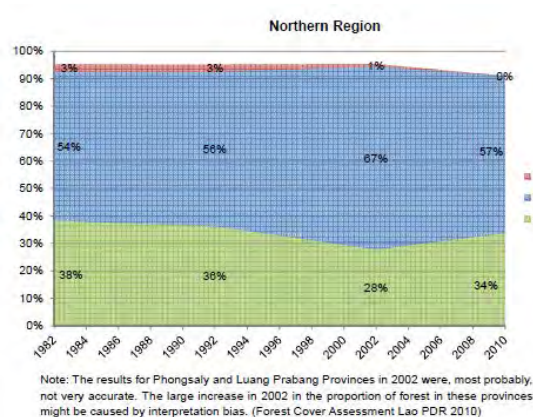
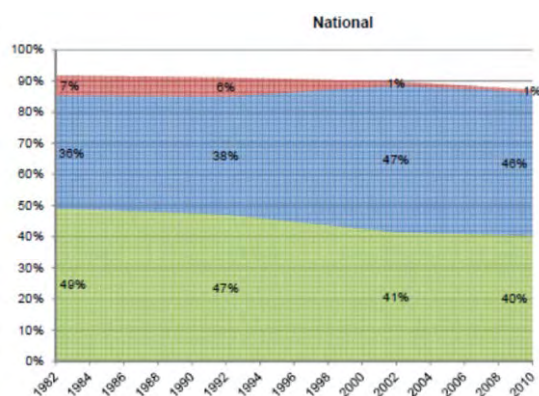
Table 1-3: Forest cover type under three forest categories by province

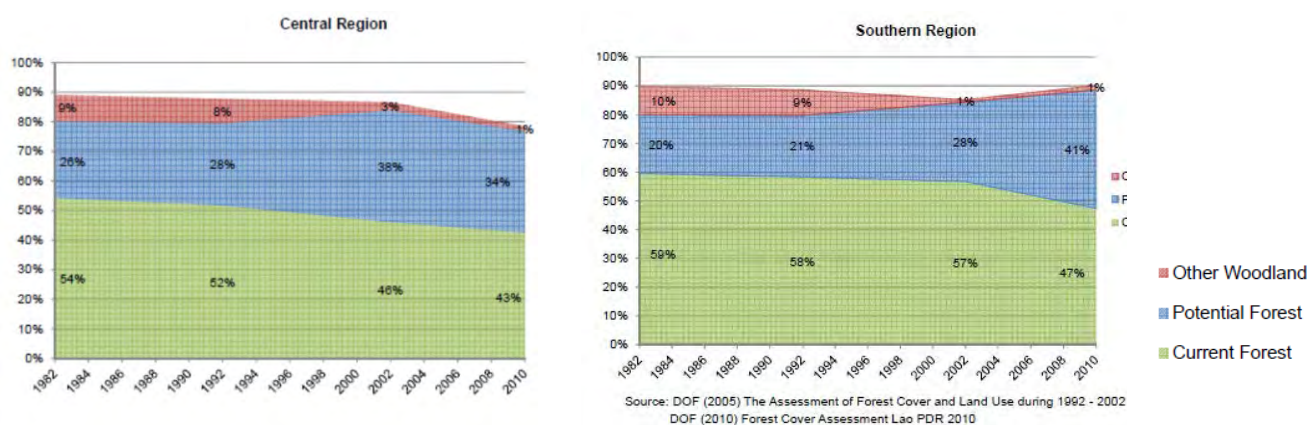
Province	Production Forest			Protection Forest			Conservation Forest		
	Forest Area	Potential Forest	Others	Forest Area	Potential Forest	Others	Forest Area	Potential Forest	Others
Northern Region	36.0%	44.0%	20.0%	31.6%	44.2%	24.2%	60.5%	25.9%	13.7%
Phongsaly	32.6%	41.1%	26.3%	32.4%	37.1%	30.6%	64.0%	21.1%	15.0%
Luangnamtha	51.5%	41.4%	7.1%	30.4%	47.5%	22.2%	70.0%	13.7%	16.3%
Oudomxay	39.1%	48.4%	12.6%	35.4%	45.2%	19.4%	47.5%	40.9%	11.6%
Bokeo	39.8%	44.5%	15.8%	35.5%	53.7%	10.9%	77.7%	16.6%	5.8%
Luangprabang	38.1%	32.5%	29.4%	34.0%	39.8%	26.2%	38.5%	45.3%	16.3%
Huaphanh	20.3%	64.6%	15.1%	19.2%	63.1%	17.7%	43.7%	40.7%	15.5%
Xayabury	39.3%	37.2%	23.6%	33.3%	38.1%	28.5%	76.1%	13.2%	10.8%
Central Region	55.8%	29.1%	15.1%	49.3%	32.6%	18.2%	52.2%	22.6%	25.2%
Vientiane Capital	-	-	-	27.4%	53.6%	19.1%	24.6%	42.9%	32.5%
Xiengkhuang	39.6%	44.5%	15.9%	34.2%	39.9%	25.9%	43.1%	43.3%	13.5%
Vientiane Province	66.2%	28.9%	5.0%	52.6%	38.8%	8.6%	59.7%	33.7%	6.6%
Borikhamxay	78.3%	14.3%	7.4%	63.8%	20.9%	15.3%	65.9%	13.3%	20.8%
Khammuane	46.2%	22.2%	31.6%	39.7%	18.2%	42.2%	59.5%	8.7%	31.8%
Southern Region	52.2%	35.4%	12.4%	45.7%	36.6%	17.7%	67.3%	21.1%	11.6%
Savannakhet	62.5%	23.1%	14.4%	52.2%	27.8%	20.0%	70.2%	22.4%	7.4%
Saravane	31.8%	52.4%	15.8%	26.2%	44.0%	29.9%	58.7%	27.5%	13.8%
Sekong	42.4%	51.9%	5.7%	46.3%	49.5%	4.2%	22.1%	46.8%	31.1%
Champasack	42.3%	36.5%	21.2%	33.7%	38.2%	28.1%	63.9%	20.6%	15.5%
Attapeu	70.7%	20.0%	9.3%	63.6%	29.4%	7.0%	89.9%	6.0%	4.1%
National average	47.1%	36.6%	16.3%	39.0%	39.7%	21.4%	59.8%	23.1%	17.1%

Note: the area of each category of forest in Table 1-3 is not same as the ones in Table 1-2.

Source: DOF (2012), Forest Cover Assessment Lao PDR 2010

1.3. 国別、地域別森林被覆タイプの変遷





1.4. 国が管理する生産林、保護林、保全林

Table 1-2: Conservation and protection forest area as of 2013

Forest Category	Administrative level	2005		2014	
		Number	Area ('000 ha)	Number	Area ('000 ha)
Production	National	106	3,207	51	3,147
	Total	106	3,207	51	3,147
Protection	National	-	-	49	7,479
	Province	23	461	5	142
	District	52	56	85	367
	Total	75	517	139	7,988
Conservation	National	20	3,391	24	3,768
	Corridor	2	(included)	2	77
	Province	57	932	59	627
	District	144	504	93	421
	Total	223	4,826		4,893
Categories total			8,550		16,028
Others			15,130		7,652
Total land area			23,680		23,680

Source: FS2020, DOF, DFRM

1.5. 県別の主要な土地所有状況

Table 6-2: Land holdings by main land use and province

Province	No. of land holdings ('000)	Number of holdings ('000) with:						Percent of land holdings with:			
		Agricultural land					Forest & other wood land	Other land	Shifting cultivation (%)	Rotating cultivation (%)	UXO affected land (%)
		Arable land		Permanent crops	Grazing land						
		Temp. crops	Fallow			Arable land					
<i>Northern Region</i>	287.6	5.9	95.0	283.0	98.3	8.8	39.1	106.2	7.0	55.1	2.1
Phongsaly	28.4	0.5	3.2	27.2	19.4	0.7	2.6	16.3	12.1	42.8	1.8
Luangnamtha	26.2	0.6	2.8	25.0	15.7	1.8	1.6	14.0	13.9	37.0	2.4
Oudomxay	44.5	0.3	16.8	44.0	16.8	0.6	4.4	13.1	5.0	59.2	0.7
Bokeo	24.7	0.5	6.7	24.5	10.3	0.2	3.1	7.9	5.1	53.7	2.0
Luangprabang	59.3	1.3	32.1	58.4	16.6	2.2	17.4	18.1	3.0	72.8	2.2
Huaphanh	42.1	1.5	10.0	41.7	10.0	0.4	1.6	9.6	17.4	62.7	3.7
Xayabury	62.5	1.2	23.3	62.2	9.5	2.9	8.4	27.2	1.0	44.4	1.9
<i>Central Region</i>	333.2	28.1	102.2	327.8	51.9	16.8	37.1	192.0	4.2	14.6	8.5
Vientiane Cap.	40.7	0.9	7.3	39.8	4.8	2.6	3.7	6.0	0.4	5.8	2.1
Xiengkhuang	36.2	12.6	14.6	36.0	9.6	5.1	1.2	15.3	5.6	38.4	35.3
Vientiane Prov.	62.6	0.8	15.8	60.4	8.4	6.5	4.3	58.6	4.8	24.4	1.3
Borikhamxay	34.5	0.6	7.6	34.0	7.8	0.6	5.7	13.8	1.5	17.7	1.8
Khammuane	50.8	5.7	20.7	50.5	11.0	0.2	4.1	21.7	2.9	7.1	11.5
Savannakhet	108.4	7.5	36.1	107.2	10.3	1.8	18.0	76.6	6.3	6.9	7.0
<i>Southern Region</i>	155.8	10.4	30.4	145.8	37.0	1.3	18.2	95.1	3.1	19.5	6.8
Saravane	50.0	4.1	14.2	49.3	10.9	0.6	6.6	38.4	1.5	35.4	8.3
Sekong	12.7	1.7	1.4	12.1	5.7	0.1	2.4	1.0	23.7	35.9	13.7
Champasack	74.2	1.5	7.6	65.8	18.1	0.4	5.3	45.2	1.2	5.7	2.0
Attapeu	18.9	3.1	7.2	18.6	2.3	0.2	3.8	10.6	1.2	20.2	16.9
<i>Total</i>	776.7	752.6	227.5	756.7	187.2	26.9	94.3	393.3	5.1	30.6	5.8

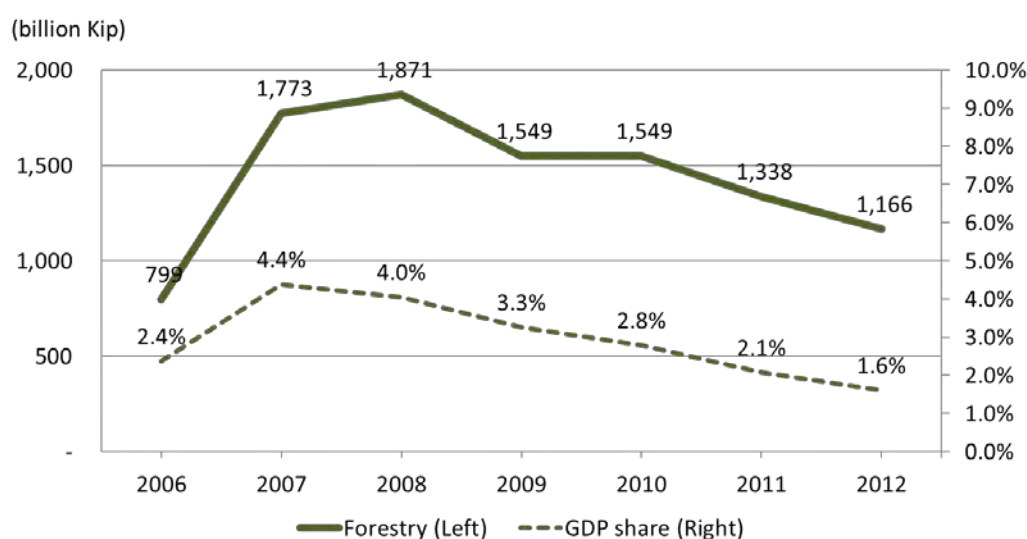
Source: Lao Census of Agriculture 2010/11

Note: Definitions of "shifting cultivation" and "rotating cultivation" are as follows:

Rotating cultivation: land allocated to household in 3 plots at maximum with the village allocated land to the household. (1st year 1st plot: crop-fallow-fallow; 2nd year 2nd plot: fallow-crop-fallow; 3rd year 3rd plot: fallow-fallow-crop and return to the 1st plot).

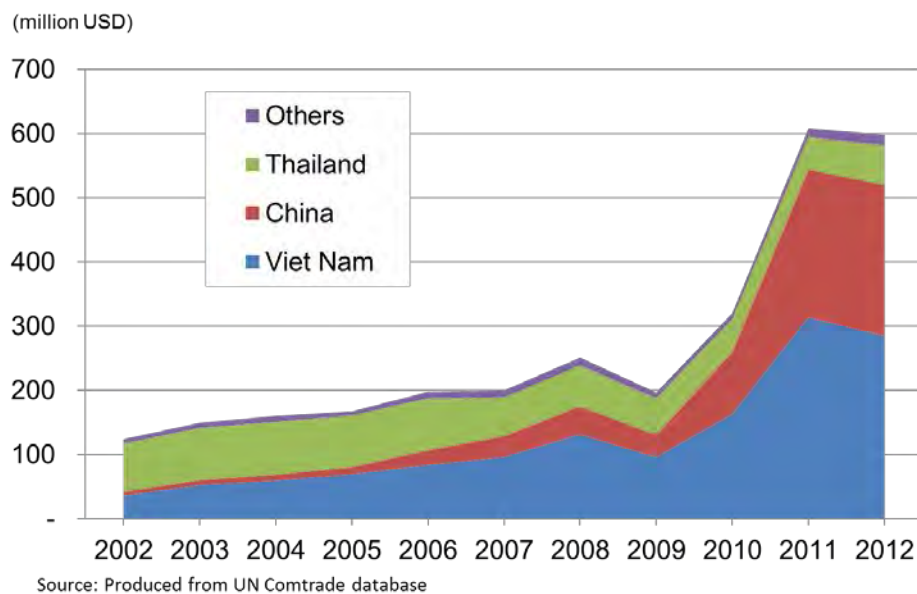
Shifting cultivation: traditional shifting cultivation

1.6. 森林セクターの GDP に占める割合

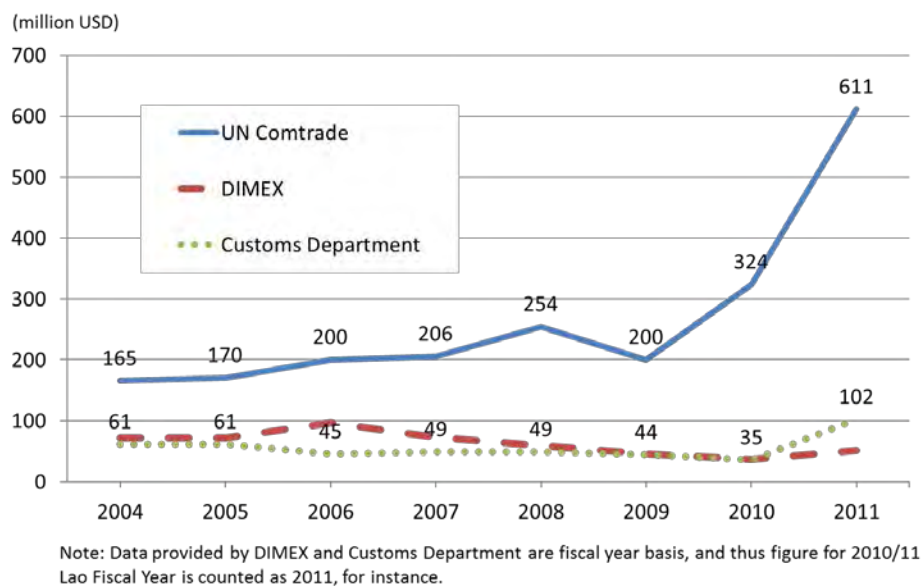


Source: LSB, Statistical year book, each year

1.7. 木材製品の国別輸出高

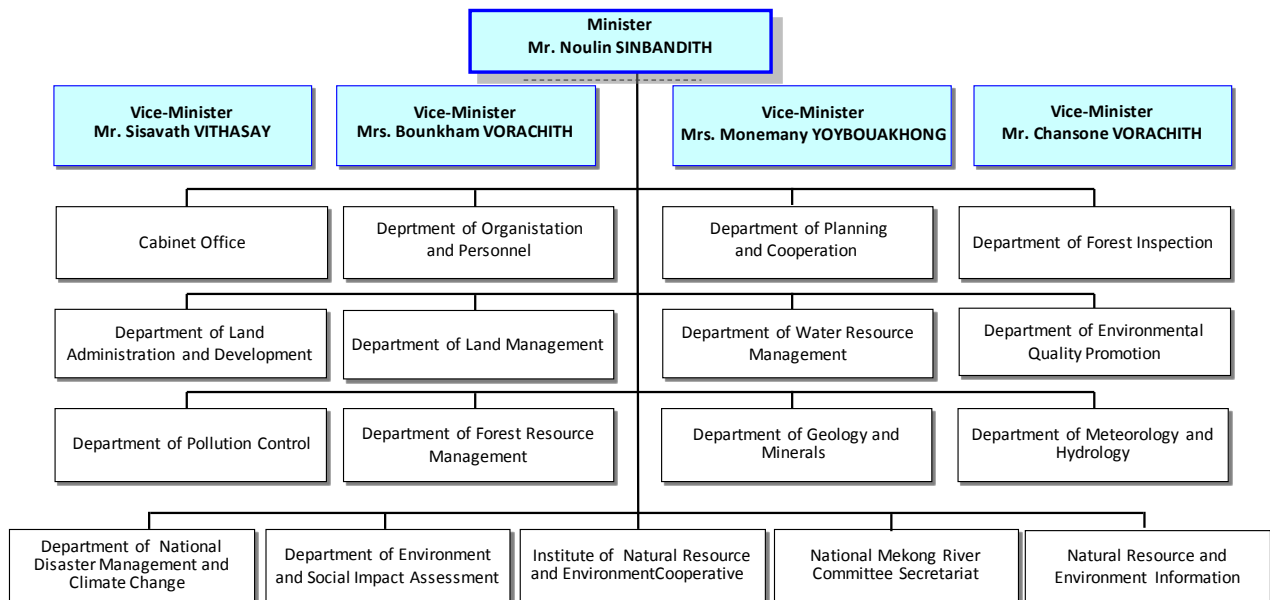


1.8. 木材輸出総額における国連統計（UN Comtrade）と税関局統計の乖離

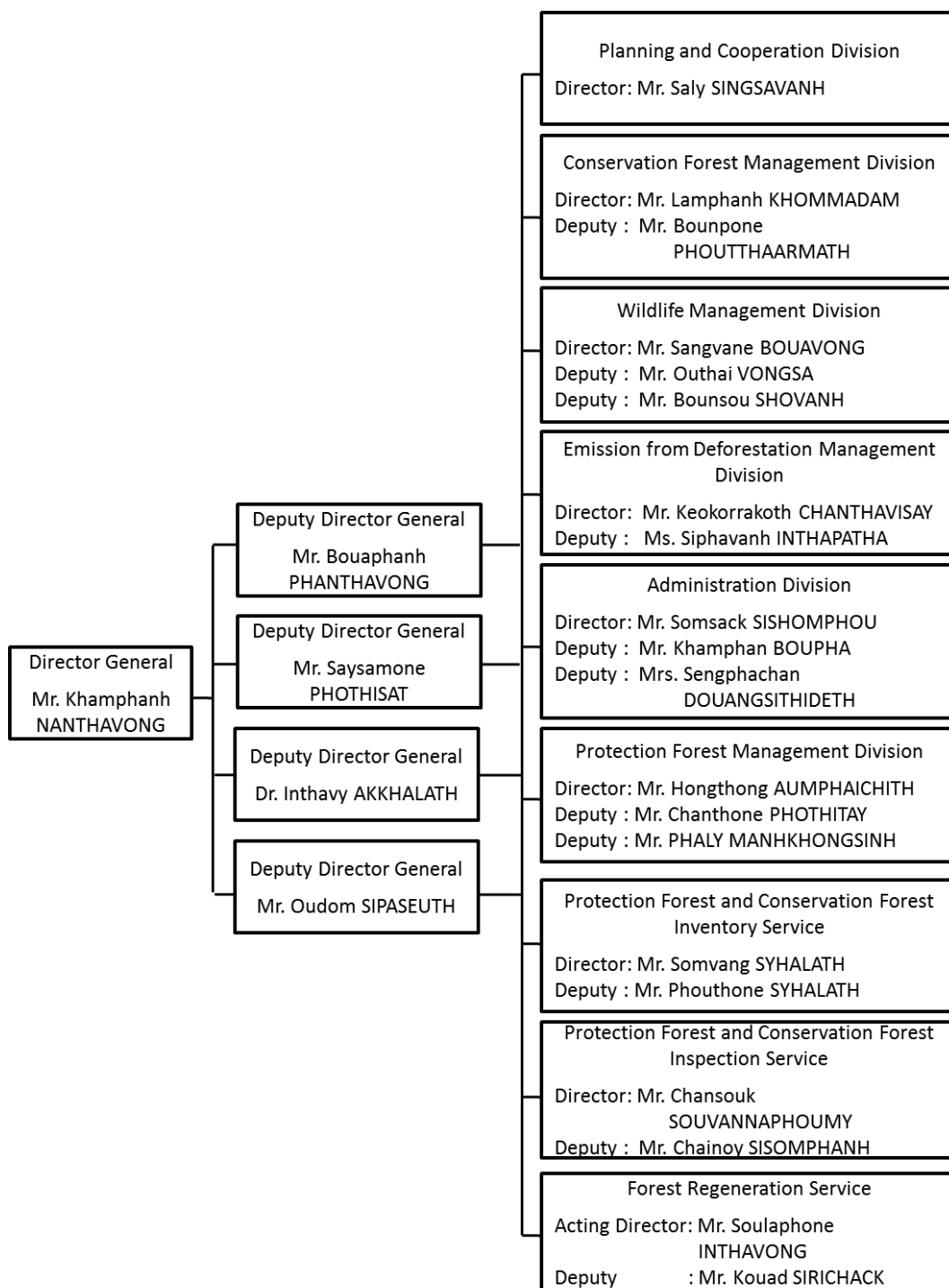


2. MONRE 組織体制

2.1. MONRE 組織図 (2014 年 12 月時点)

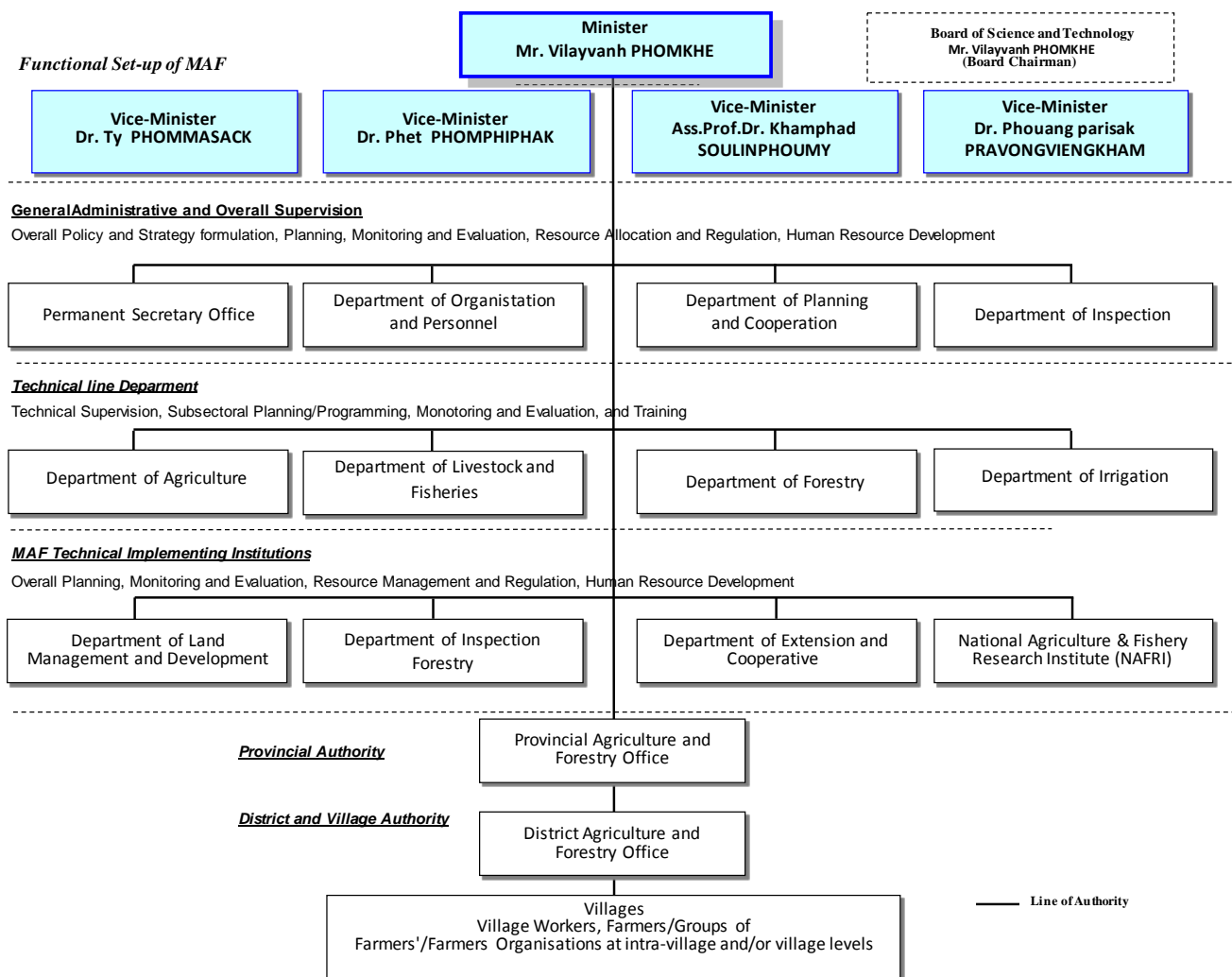


2.2. MONRE-DFRM 組織図 (2015 年 1 月時点)

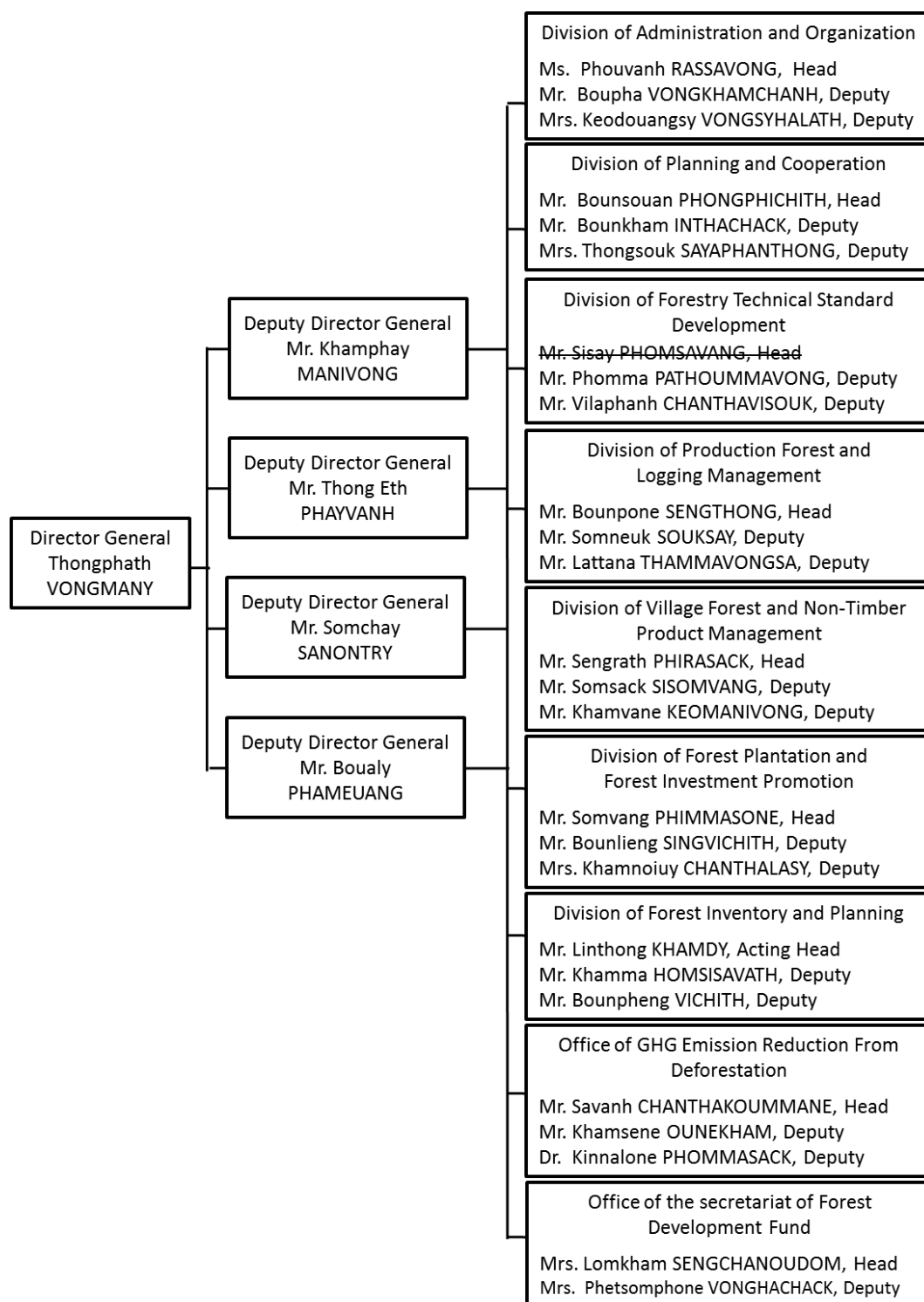


3. MAF 組織体制

3.1. MAF 組織図 (2014 年 10 月時点)



3.2. MAF-DOF 組織図 (2014 年 10 月時点)



3.3. MAF-DOF 人員体制（2015 年 2 月時点）

MAF DOF staff overview					
No.	Organization				Remark
		Total	Gov. Officer	Volunteer	
*	Department of Forestry (DOF)				
1	High-Level Leaders	5	5		
2	Administration and Organization Division	17	17		
3	Planning and Cooperation Division	12	12		
4	Forestry Technical Standard Development Division	10	10		
5	Production Forest and Logging Management Division	13	13		
6	Village Forest and Non-Timber Product Management Division	14	14		
7	Forest Plantation and Forest Investment Promotion Division	10	10		
8	Forest Inventory and Planning Division	52	52		
9	Office of GHG Emission Reduction From Deforestation	8	8		
10	Office of the secretariat of Forest Development Fund	5	5		
11	Study Abroad	2	2		
12	Work at Local Level				
13	Work for International Organizations				
		39		39	
Total		187	148	39	

4. ラオス森林セクターに対するドナー支援

4.1. 国・地方県

プロジェクト名	ドナー 予算	実施機関	期間・予算	内容	本プロジェクト との関係
FCPF Readiness Support Program	WB USD 3.6 百万	MAF-DOF	2014-2017	国 REDD+戦略全般（NSO 他）、県レベル実施体制	国 REDD+全般 県 REDD+（ファパン、チャン パサックのキャパビル）
SUFORD SU	WB: USD 19 百万 FIP: USD 12.8 百万 Finland: USD 14 百万	MAF-DOF	2013ー2018	参加型 SFM の 15 県への拡大。生産林モニタリング・システム、 違法伐採量推定手法、ランドスケープ計画。生産林内村落、或いは、 生産林内に林地を持つ村落の森林管理・生計向上も支援。	生産林管理情報、資源量デー タ、モニタリング・システム （?）
FIP/ADB	ADB USD 13.34 百万	MAF-DOF （暫定）	未開始 （ADB 理事会承 認待ち）	FIP「持続可能な環境サービス提供を通じた森林保全」支援で、CEP II と連携した、REDD+を含む PES の構築、CFM、生計向上、これ らに関する政策支援。	
FIP/IFC-WB	IFC-WB USD 3.3 百万	MAF-DOF （暫定）	未開始 （構成再考中）	FIP「小規模林業」支援で、小規模植林、アグロフォレストリー、 民間との協業向け農民キャパビル、土地利用計画等。	
CEP-BCI Phase II (2012-2016)	ADB 合計 USD 26 百万	MONRE-DFRM	2012-2016	ラオス、カンボジア、ベトナムの 3 カ国を対象に、環境・生物多様 性保全、気候変動適応の支援。REDD+関係はアタプー県を含む南 部生態系コリドーでの REDD+キャパビル、MRV、BSM。SNV が コントラクターの模様。	REDD+キャパビル（主に現場 レベル）。
LEAF	USAID	MONRE-DFRM	2011-2016	東南アジア 6 ケ国対象。Winrock をリードとした SNV, Climate Focus, RECOFTC の JV。ラオスではファパン県、アタプー県の支 援し、森林調査関係の各種マニュアル作成、研修等を実施。	森林及び森林炭素の調査、モニ タリング等の技術面、
ClIPAD/TC	GIZ ドイツ EUR 4 百万	MONRE-DFRM	2009-2018	REDD+能力強化、森林法改正等政策支援。ファパン県で準国 REDD+（JNR）。	国 REDD+全般、県 REDD+（フ アパン）
ClIPAD/FC	KfW ドイツ EUR 10 百万	MONRE-DFRM	2011-2018	TC と共にファパン県で準国 REDD+（JNR）準備、現場活動（70 村）、規制執行、モニタリング、BSM/販売促進	県 REDD+（ファパン）
ProFLEGT	GIZ ドイツ	MAF-DOF	2013-2018	ラオスでの FLEGT の実現に向けたプロセス支援、特にラオスと EU 間の VPA 交渉推進、木材合法性証明システム（TLAS）の構築 とテスト、政策支援（REDD+との関連性含む）。	木材合法性を中心にした国政 策
ICBF	KfW ドイツ EURO15.5 百万	MONRE-DFRM	2014ー2021	ボケオ、ルアンナムター、カムアンの 3 県の保全林及び保護林（生 産林は SUFORD に任せる）を対象にランドスケープアプローチ、	

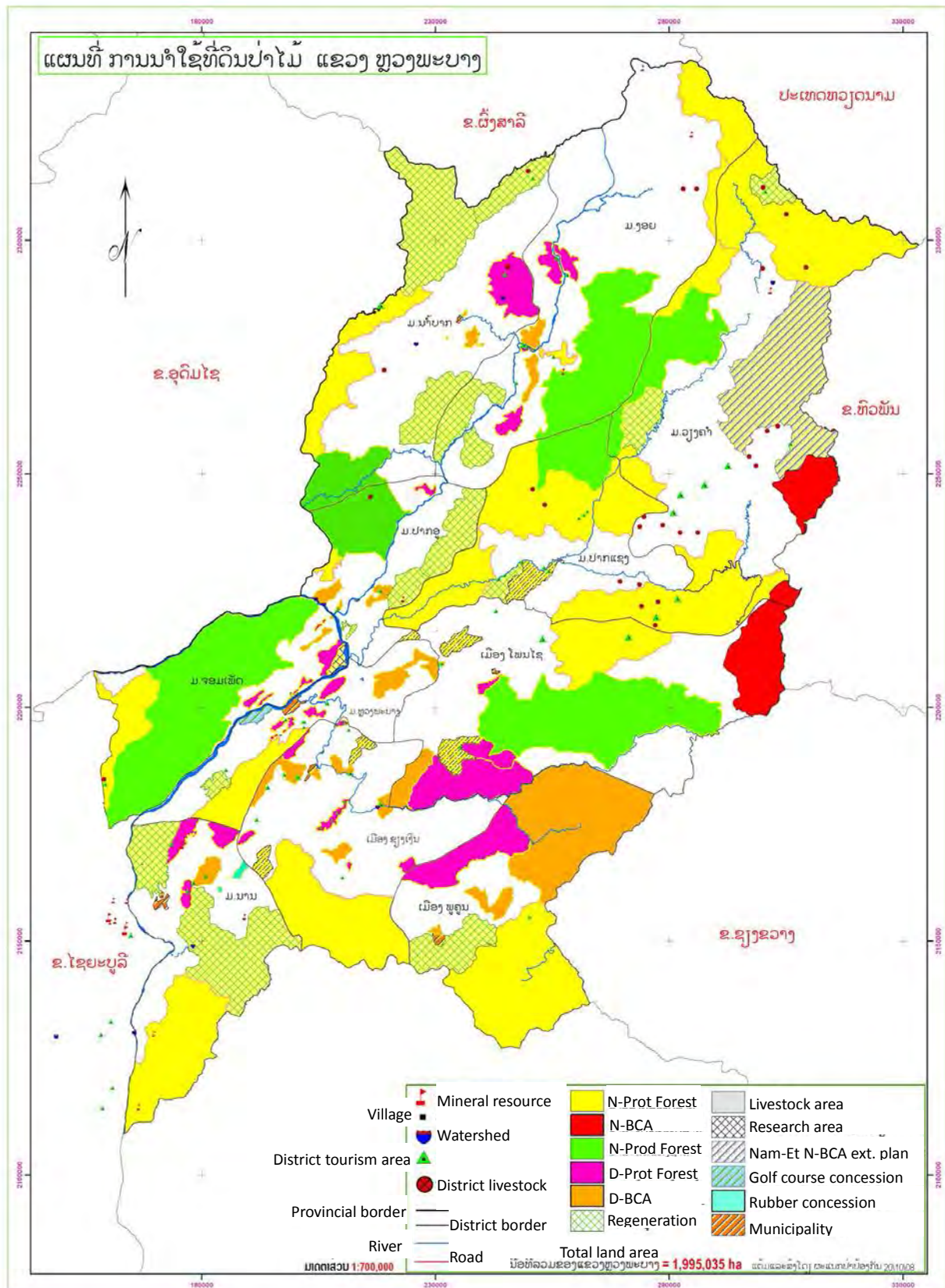
				保護区管理、法執行強化、持続的財政基盤などを支援。	
WWF Xe Pian NP REDD+	オーストリア	MONRE-DFRM, PAFO/DAFO	2011-2013(?)	チャンパサック県/アタプー県 Xe Pian NBCA での VCS(VM0015)を指す。	プロジェクト REDD+ (SG、BSM 等)、ネスティング
Grassroots Capacity Building for REDD+	RECOFTC/Norad	MAF-DOF	2013-2015	「公平性(equity)」の観点からの REDD+の政策的提言、CSOs 強化、啓発。	特に CFM を主体とした政策、REDD+ SG
SN-REDD	NCX Co.,Ltd.	MONRE-DFRM	2014-2016	REDD+に関するキャパビル、戦略、政策、セーフガード、BSM。	プロジェクト REDD+、ネスティング
Understanding risk and coping strategies in forest-agriculture landscapes	CIFOR	NOUL	2010-2015	農民の営農リスク（気候、市場、権利等）と PES 等による環境保全インセンティブによる行動変化の研究。	
WCS				フアパン県で CIPAD と協調した REDD+デモ支援。その他、野生生物保護、民間連携等をテーマに支援。	

4.2. ルアンプラバン県

プロジェクト名	ドナー 予算	実施機関	期間・予算	内容	本プロジェクトの関係
Northern Smallholder Livestock Commercialization Project	USD 32 百万 ADB ローン USD 21 百万 IFAD グラント USD 10 百万.	MAF	2014-2021	フアパン、ルアンナムター、ルアンプラバン、シェンクアンの 4 県の 12 郡を対象に、畜産による小規模農家の所得向上を目指す。畜産のバリューチェーン強化、関連インフラ、クレジットへのアクセス向上等を支援。	PAREDD+アプローチの県内普及への間接的効果（畜産関係）、成果の県政策への取り込み。
Northern Uplands Development Program (NUDP)	EURO 18 百万 EU 8 百万, AfD 2 百万, SDC 2 百万, BMZ 4 百万 EU Food Facility2 百万	MAF	2010-2015	ルアンプラバン、フアパン、ボンサリの 3 県の 9 郡を対象に、農業生産・加工向上、市場アクセスとサプライチェーン改善、政策支援を目指して、土地利用計画、地域開発計画、貧困削減、農民組合、行政の農業サービス、フードセキュリティ、を支援。	プロジェクト残期間～将来の支援予定を要確認。
The Agro-Biodiversity Initiative in the Lao PDR (TABI)	SDC Phase 1: USD 5 百万 Phase 2: USD 6 百万	MAF, PAFOs	Ph.1: 2009-2012 Ph.2: 2012-2016 Ph.3: 2016-（仮）	ルアンプラバン、フアパン、シェンクアンの 3 県の山岳コミュニティを対象に、農業生物資源の持続的管理・利用促進を目指す。ABD に立脚した営農、土地利用計画と所有権、政策支援、ナレッジマネジメント、等を支援。県森林 3 区分再ゾーニング支援も検討中。	PAREDD+アプローチの県内普及への効果（PLUP、生計向上）、森林 3 区分再ゾーニング等の成果の県政策取込み。
Value adding to Lao PDR plantation timber products (VALTIP) Enhancing key elements of the value chain for plantation grown wood in Lao PDR (VALTIP II)	ACIAR Phase 1: 0.9 百万 Phase II: 2.3 百万	NUOL, NAFRI, DOF 他	Ph.1: 2007-2011 Ph.2: 2012-2016	Phase I: 県の木材生産（デザイン、試験、加工、QC 等）に関する技能強化（木材加工業者 9 社を含む）を通じた経済性向上を支援。 Phase II: 県の小規模人工林所有者や加工業者を対象に、バリューチェーン効率化、加工技術向上、付加価値向上（国内・海外向け）による国際競争力の強化を支援。RS によるチーク林資源量把握。	県政策パイロットとの連携、成果の県政策への取り込み。

5. ລຸ່ມປຣາບັນກຸ່ມຂອງປະເທດລາວ

5.1. ກຸ່ມຂອງປະເທດລາວ



5.2. 保全林及び保護林の箇所数と面積

Conservation Forest Area

No.	Forest Categories	Number	Area (ha)
1	National Conservation Forest	1	70,788
2	Provincial Conservation Forest	1	1,370
3	District Conservation Forest	22	88,661
Total			160,819

Protection Forest Area

No.	Forest Categories	Number	Area (ha)
1	National Protection Forest	8	1,193,595
2	Provincial Protection Forest	1	34,934
3	District Protection Forest	12	18,094
Total			1,246,623

5.3. 県森林セクターの 2016-2020 における優先事業と予算

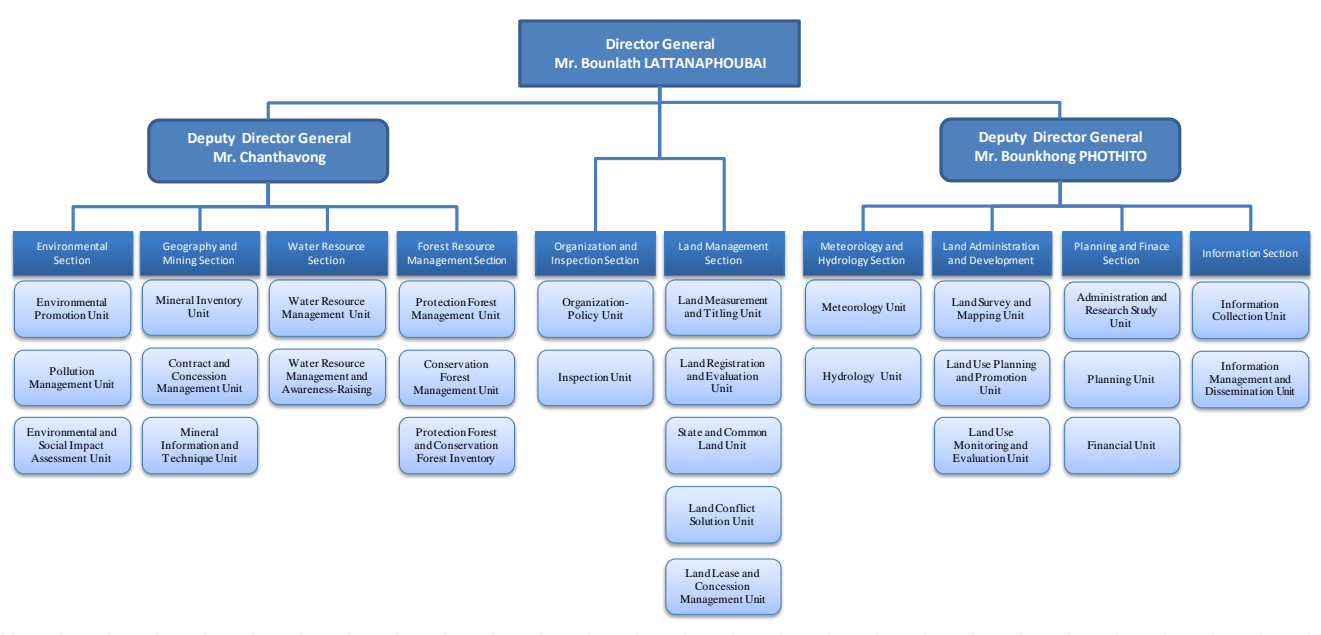
Priority Projects of Forest Resource Management Sector in 2016-2020				
No.	Project Name	Unit	Plan 2016-2020	Financial Source
			Million/LAK	
	Total	LAK	11.300.000.000	GoL
1	Protection Forest Management	LAK	2.200.000.000	GoL
2	Biodiversity Conservation, Conservation Forest Management, and Aquatic and Animal Protection	LAK	2.400.000.000	Aid (2016-2018), GoL(2019-2020)
3	Regeneration of Forestry for Environmental Protection and Economic Development	LAK	2.000.000.000	GoL
4	Forestry and Forest Land Management Planning and Survey	LAK	2.500.000.000	GoL
5	Forest Policies and Regulations Promotion	LAK	750.000.000	GoL
6	Organizational Structure Improvement	LAK	600.000.000	GoL
7	Forest Fire Prevention and Suppression		850.000.000	GoL

注記： PONRE の所管範囲の計画であり、PAFO の所管範囲は含めていないと見られる。

出典: PONRE Forest Resource Management Section

5.4. PONRE 組織体制

5.4.1. PONRE 組織図

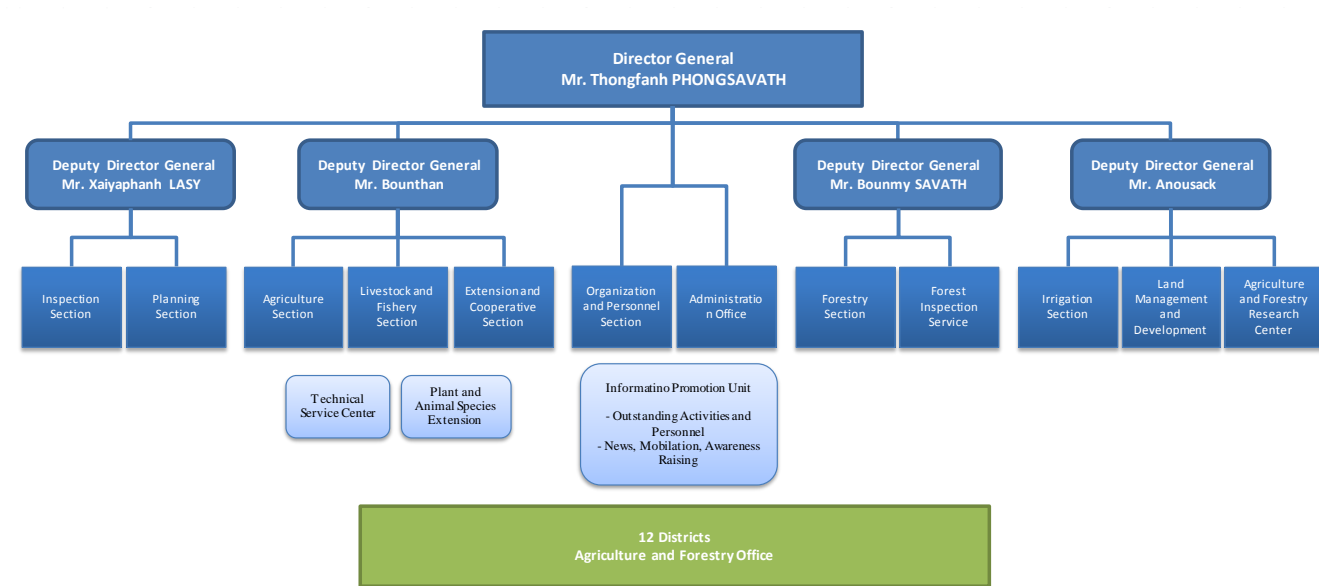


5.4.2. PONRE 人員体制

Luang Prabang PONRE staff overview		
No.	Organization	
		Total
1	High-Level Leaders	3
2	Planning and Finance	13
3	Organization and Inspection Section	8
4	Land Allocation and Development Section	7
5	Land Management Section	21
6	Water Resource Section	5
7	Forest Resource Management Section	11
8	Geography and Mining Section	6
9	Environment Section	10
10	Meteorology and Hydrology Section	11
11	Information Section	6
Total		101

5.5. PAFO 組織体制

5.5.1. PAFO 組織図



5.5.2. PAFO 人員体制

Luang Prabang PAFO staff overview		
No.	Organization	
		Total
1	High-Level Leaders	5
2	Administration Office	14
3	Organization and Personnel Section	4
4	Inspection Section	5
5	Agriculture Section	13
6	Livestock and Fishery Section	18
7	Forest Section	20
8	Forest Inspection Service	18
9	Irrigation Section	10
10	Extension and Cooperative Section	21
11	Land Management and Development Section	14
12	Planning Section	Unknown
13	Agriculture and Forestry Research Center	Unknown
Total		142

FS2020 レビュー等に基づき行われた提言に関する分析及び対応方向(案)

1. 主な提言（2020 年森林戦略改訂ないし新たな戦略策定に関するものを除く）

ア) 違法伐採対策

アー1：木材輸出見直し、特に CITES 付属書への記載

アー2：木材流通・貿易の透明性確保・統計の向上

アー3：生産林及び転用地における伐採量の把握を通じた違法伐採量等の推定

アー4：国際熱帯機関(ITTO)への加盟

イ) 森林セクター資金戦略の策定

ウ) ゴム林の経営戦略の策定；価格変動、ラオス人土地提供者・ゴム林所有者への適正な収入の確保、外国人労働者流入等への対応

2. 提言等の背景

違法伐採及び森林セクター資金戦略

FS2020 レビュー過程において近年における急激な木材輸出増大、特に高級樹種の中国への輸出、が国連貿易統計を通じて確認された。一方、ラ政府は木材生産林での伐採を一時休止していること、水力発電用ダム建設やコンセッション等森林転用からの木材伐採量が不明であるが政府の木材伐採許可量や木材販売収入が著しく減少傾向にあることから、高級樹種を主体にした違法伐採が広範囲に行われ、また、加工されることなく丸太ないし角材として違法輸出されており、森林劣化等の問題ばかりでなく大きな国家収入逸失であることを指摘し、直接の取締り等は別として当面考えうる対策として提言されたのがア)1-4 である。また、イ)は転用に係る森林伐採を正確に把握した上で販売を図り国家収入として計上するとともに、森林管理用資金として使用するよう求めたものである。

ゴム林の経営戦略

同様にレビューの過程において近年ゴム植林面積が急増し、総面積が 30 万 ha を超えていること、ゴム植林ブームの原因となったゴム価格上昇が 2011 年にピークに達した後急落を続けていること、30 万 ha のうち相当数が近々樹脂収穫時期を迎えるが外国人労働者の流入が予想されることなどから、価格変動への対応、ゴム林に投資した農家や契約栽培等を行っている農家への適正な収入確保策、外国人労働者対策等を提言したものである。

3. 提言実施可能性等の分析・対応案

アー1：木材輸出見直し、特に CITES 付属書 III への記載

問題となっている樹種は *Pterocarpus macrocarpus* (ビルマカリン、オオミカリン等)と *Dalbergia bariensis* (和名なし、カリンまたは紫檀として流通の模様)とともに森林法上は政府の許可なしに伐採、運搬、売買等が禁止されている。なお、同じ紫檀でも更に高級材とされる *Dalbergia cochinchinensis* は既に CITES 付属書 II に記載されており、ラオス森林法でも伐採等について許可が必要とされている。レビューのみばかりでなく国際 NGO 報告においても中国のメコン地域からの高級材輸入急増やタイ国内で違法伐採された高級材(*D. cochinchinensis* と思われる)がラオスに密輸入され、ラオス政府輸出許可

を受けてタイ等を通じて中国向けに輸出されている実態も報告されており、相当深刻な状態にあると考えられる(タイがこうした高級材の輸出を例外なく禁止しているかどうかは不明であるがラオスの方が輸出許可を何らかの形で得やすいものと思われる)。

掲載基準主な掲載種規制の内容

附属書 I

今すでに絶滅する危険性がある生き物；ジャイアントパンダ、トラ、ゴリラ、オランウータン、シロナガスクジラ、タンチョウ、ウミガメ科の全種など約 1 0 0 0 種の動植物。

商業のための**輸出入は禁止**される。学術的な研究のための輸出入などは、輸出国と輸入国の政府が発行する許可書が必要となる。

附属書 II

国同士の取り引きを制限しないと、将来、絶滅の危険性が高くなるおそれがある生き物；タテガミオオカミ、カバ、ウミイグアナ、トモエガモ、ケープペンギン、野生のサボテン科の全種、野生のラン科の全種など、約 3 4, 0 0 0 種の動植物（ただしサボテン科とラン科の植物は附属書 I のものもある）。

輸出入には、輸出国の政府が発行する**許可書が必要**となる。

附属書 III

その生き物が生息する国が、自国の生き物を守るために、国際的な協力を求めている生き物

ボツワナのアードウルフ、カナダのセイウチ、南アフリカのミダノアワビ、ボリビアのオオバマホガニーなど約 300 種の動植物。

輸出入する場合には、輸出国の政府が発行する**許可書が必要**となる。

付属書 III に掲載する効果は中国等が該当種を輸入する際に輸出国(掲載希望国)の輸出許可証が必要となり、*D. cochinchinensis* 以外の CITES 非掲載種について一定の貿易抑制効果があると思われるが森林法が適切に実行されていない状況での実効性についてはやや疑問が残る。

対応方向案

付属書 III 掲載のためのデータ、手続き等は現時点で不明であるが DFRM 所管であり本格フェーズにおいて検討、協議、支援を行うことは可能である。なお、「政府による許可」の「政府」が具体的にどの機関を指すのかなど MONRE/DFRM を越えた国内制度・体制の整備支援の必要性も考慮する必要がある。また、Pro-FLEGT プロジェクトを通じた EU との FLEGT 協議、アー3にある SUFORD による違法伐採の推定・モニタリング等との連携が必要。

アー2：木材流通・貿易の透明性確保・統計の向上

レビューによれば丸太販売以降を所管する MOIC の木材生産・加工・貿易統計、また貿易を所管する MOF の貿易統計には連続性や信頼性の点で問題があり、両省の貿易統計にも大きな乖離があり、国連貿易統計への報告もなされていない。なお、MOIC は近年独自の貿易統計収集を止めており、貿易統計については MOF 統計のみとなっている。また、統計同様に木材流通や貿易の透明性は極めて低く改善の余地は大きい。

対応方向案

加工も含め流通・貿易は MAF/DOF の所管外であり本格フェーズで MAF、MONRE 以外へかなり重いと思われる制度・体制整備支援を広げることについては投入量の制約、関係機関とのこれまでの希薄な関係等慎重な検討が必要であろう。なお、EU との VPA 締結について木材合法性確保システム確立等の支援をしている Pro-FLEGT の活動内容を把握し、この提言に関係するもの等について FSSWG 等の場での積極的に紹介を促すなど側面支援を行う。

ア－3：生産林及び転用地における伐採量の把握を通じた違法伐採量等の推定

ラオス森林法(2007 年)及び関連規則によれば木材伐採は生産林及びインフラ開発プロジェクト用の転用予定森林においてのみ可能であり、毎年度の伐採計画は国民議会(6 月)の承認が必要とされている。伐採計画作成は生産林については県からの要請(場所及び量)を基準としている。しかし、生産林については 2015 年末までに全生産林について経営計画を作成し全国での持続可能な伐採量を推定するため、現在はすべての伐採が中止されている。また、インフラ開発経費の支払いとして開発現場での伐採・販売を開発請負会社に委ねる、ないし異なる場所での伐採収入による支払いも認められている模様である。

転用森林については政府が承認したプロジェクト毎に委員会が設置され森林調査、伐採年・量などを決め、政府(MAF)へ申請されている模様である。プロジェクト委員会の構成等は規模により異なるようであるが県知事クラスを議長とし関連セクター及び農林省/林野局代表が含まれているものと思われる。生産林及び転用林での伐採計画は県等からの要請を基準に農林省・政府により調整・決定され、国民議会承認後に各県へ箇所毎伐採量として割当が行われている。

以上のように政府及び県当局により承認・割当された(=合法的な)伐採の箇所・量は把握可能であり、違法伐採量の推定には伐採総量の把握・推定が必要となる。輸出量の推定については国連貿易統計におけるラオス木材輸入国からの報告の丸太量への換算である程度可能であるが、伐採年と輸出年が異なる場合がある、加工度が高いものほど金額表示のみとなるなどの問題がある。国内消費量については製材・家具工場等の生産量から輸出量を差し引けば推定可能であるが、生産量、輸出量ともに統計の信頼度が極めて低く、この改善には大きな投入が必要であること、また、MOIC・MOF 所管であることにも留意が必要である。

さらに、違法伐採量の推定は違法伐採の規模、逸失国家収入(そもそも予定外の伐採であり国家収入となるべきものではないが)の大きさ等を示すには有効であり、それに応じて違法伐採対策のプライオリティを上げることには貢献することが出来る。しかし、推定される違法伐採量は上記のようにいくつかの前提を置いて推定されるものであり、現状の問題意識を更に高めるための投資として投入する意義についての検討が必要である。

なお、SUFORD が画像解析による毎年の違法伐採地域・量の推定手法を開発・試行しており精度的に問題がなければ位置を特定できることから、伐採業者等の特定・司法措置等直接の違法伐採対策に直結することとなり、より効果的な対策となる可能性があることに留意する必要がある。また、我が国の

PALSAR 2 を用いて土地利用変化(森林皆伐)を 3 ヶ月に 1 回程度の頻度での把握を行い、違法皆伐・転用の早期発見・拡大防止に活用する案も検討されており、これとの関連も検討を要する。

対応方向案

基本的な方向としては総生産量推定方法・投入規模等について更に検討を行い適切な手法があれば推定を行い関係当局と協議の上 FSSWG 等で公表する方向でラオス側と調整する。SUFORD の手法については試行・実施等の状況を注視し、本格フェーズにおける統計的手法による推定量との差異などを検討する。加工・輸出統計の改善はア－2)に含まれるが慎重な検討が必要。

ア－4：国際熱帯機関(ITTO)への加盟

ITTO への加盟により持続可能な森林経営への支援(プロジェクト)、木材加工業界発展及び統計能力強化、並びに CITES における熱帯木材種の特定期等について支援を受けることが期待される。上記のように木材関係統計等については本格フェーズで対応するには限界があるが ITTO 等の国際機関は関連する知見を有しており関係省庁との協力関係も築き易い位置にあることから、加盟を促進することには本邦に本部を有する国際機関への加盟と並んで一定の意義があると思われる。

ラオスにおいては過去にも ITTO 加盟を森林サイドから働きかけたが森林セクターの所管は木材の伐採までであり、その後の移動、加工等は MOIC であることから MOIC 所管事項とされ、その後動きは全くない。今回も同様な決定がなされる可能性があるが、前回 MOIC が動かなかったことから、担当を MAF/DOF とするよう政府に働きかけることが必要である。

対応方向案

上記の方向で MAF/DOF が動くことを確認のうえ、関連資料作成、ITTO 会合への出席等を支援する。また、加盟に関する政府決定を行う上での資料整理(ITTA 翻訳等)についても進展状況を見ながら支援する。

イ) 森林セクター資金戦略の策定

レビューでは木材輸出量(=総伐採量)が近年急増しているにも関わらず、一方で木材販売収入が低下傾向にあることから違法伐採対策と並んで違法伐採以外の転用林における伐採収入の確保及びその分配方法の改善、つまり一定量の森林管理への使用を提言しているものと思われる。

森林管理用の政府資金は一般旅費等を除き、特定資金としての森林・森林資源管理基金(以下「森林基金」)が唯一である。収入は生産林における伐採・販売やその他林産物販売収入の一部、森林使用料金等が財源となっている。主な使用としては現場における各種森林の管理、森林調査等である。生産林における伐採・販売収入は 2012 年の大統領令に基づき国庫に 70%、残りの 30%が、県・郡森林セクター及び参加村落間で分配されている。2009-10、2010-11 年には 110-130 億キープ(8000 キープ/\$で約\$1.4 百万-1.6 百万)の総収入があったが生産林での伐採中止等を受け、2012-13 年の収入は約 68 億キープ(約\$85 万)へ減少している。木材を初めとする林産物販売は県レベルで行われるため多くの販売収入のある県では全体収入を低く報告、森林基金への支払いを遅延・行わないなどの問題点も指摘されている。

上記アー3にあるように政府承認を受けたインフラプロジェクトに関する転用林伐採計画等は政府・県等が承知しているが、伐採収入の配分制度については現時点では不明である。しかし、政府承認事項である森林基金の予算計画はここ数年 150 億キープとそれ以前よりも高く設定されており、転用林の伐採収入からの支払いを織り込んでいる、つまり制度的には転用林伐採も収入源とされている可能性もある。

森林基金は伐採収入等を直接森林管理へ還元する財政仕組みとして、また唯一の森林管理用資金源として極めて重要であり適切な収入・使用を確保する必要がある。そのためには現行制度での資金の漏れをなくすとともに、資金対象の拡大等を図る必要がある。また、その使用についても優先度に基づく選定、透明性のある管理等が求められる。なお、2012 年の大統領令はそれまでの財務省令が遵守されていない、特に県からの支払いが滞りがちだったため、SUFORD を中心とした働きかけにより実現したものであることに留意する必要がある。また、保護林の設置・管理に関する首相令(第 333 号 2010 年 7 月)にはインフラ開発業者及びエコツー業者は関連する森林の整備等の資金を提供する義務があるとしているが森林基金への支払いを明記してはいない。

対応方向等

現行制度下での資金漏れ対策は基本的にラオス側に委ねることとなる。新たな資金源としては既存制度下での森林基金割当分の増加、全く新たな資金源の確保・創出が考えられる。従って、現行制度で森林基金へ支払い対象となっている資金源の種類及びその支払い割合等、並びに森林林地の利用に関して定められている税金・費用等の種類などを精査し、現行制度内での新たな資金源の確保・割合の増加可能性等について調査する。

現行制度以外の資金源としては保護林首相令 333 号に定める森林環境サービスへの支払いが考えられるが改訂森林法ではこの規定が盛り込まれる予定であり、他ドナーによる関連活動の動向にも留意しながら REDD+成果支払い資金に関する制度と併せて他ドナーと協力しながら検討・詳細な制度設計等に貢献する。

ウ) ゴム林の経営戦略の策定

DOF 統計(2014 年)によれば 2013 年に植林面積は約 38 万 ha に達し、そのうち約 8 割約 32 万 ha がゴム林となっている。また、その多くが 2011 年をピークとした国際ゴム価格上昇前後に植栽されたものであり、後数年でゴム収穫時期を迎える。しかしながら、ゴム価格はその後下落しており 2014 年 8 月にはピーク時の 3 分の 1 以下となっている。

ゴム林所有形態は 21 万 ha が外国企業、4 万 ha 国内企業、約 7 万 ha が住民となっている。企業所有のうちの多くは中南部のコンセッションであるが、北部ではいわゆる 2 + 3 システム(農民が土地及び労働力、企業が苗・肥料、技術及び市場を提供)ないし 1+4 システム(農民は土地のみ提供)の栽培契約形態が多いとも言われているがその契約実態、履行状況は明らかではない。(ルアンナムター県では個人 56%、栽培契約 33%、コンセッション 11%と報告されている)。なお、新たなゴム林等のコンセッションは鉱業

等も含め許可が中止されている。

レビューではこうした状況を踏まえ、ラオスは変動する国際価格への対応策を持たないこと、市場動向等に関する情報を持たない上記契約下にあるラオス人土地提供者やラオス人ゴム林所有者への適正な価格収入の確保(買い手市場への対応)、今後ゴム採取面積拡大に対応するための外国人労働者流入等への対応、ゴム収穫時までの食糧確保のための焼畑拡大(=森林減少・劣化)等について懸念を示し、総合的なゴム林経営戦略策定を提言している。

LNT 県の状況

LNT 県は中国と国境を接し、ゴム林がラオスで最も早く導入され収穫・加工も進んでおり、ゴム林面積は米も含めた農作物総面積の半分強を占めている。また、個人所有が半分以上を占めるなどの状況にある。県では樹脂の品質・価格・販売ルート等の分析を行い、価格交渉力の強化のためのグループ結成、またグループによる半製品(スモークシート)での生産・販売が有利であるとし、こうしたグループ結成、採取から加工までの技術指導等を行うため PAFO 及び PICO(県商工部)を中心として県ゴム林経営委員会を結成し、こうした活動に当たっている。さらに PAFO ではゴム林セクションを別途設置している。また、樹脂採取面積増加に伴う外国人労働者流入の問題も認識されているが具体的な対策は提案されていない模様。

ゴムは国際商品であり需給の状況により価格が大きく変動する性格である。国による一定価格での買取・備蓄・放出等の対策はあり得るが資金、管理等の面で極めて弱いラオスでは導入は当面難しく、森林セクターの所管でもない。また、ゴム樹脂自体は農産品として扱われ農業サイド所管であり、採取後の加工・販売・輸出は商工サイドの所管でもある。総合戦略の要否は別として LNT 県での取組みに見られるように各地の状況に応じた対応が必要であろう。外国人労働者の大量流入は深刻な社会問題を惹起する懸念があるが森林サイドが政策的に対応すべき課題ではないと思われる。

商品経済の進展、特に商品作物生産拡大は政府・農業セクターの重要政策であるが、地域農民等によるゴムをはじめとする商品作物生産の保全林や残存する優良森林(村落林の一部等)への拡大、またコンセッションの設定は森林保全また自給用食糧確保の面から大きな問題である。森林法上は保全林等内での自給用農業生産以外の商業的利用を禁じるとともに、森林コンセッションは荒廃地等のみに設定可能で規模により各レベル・関係機関の許可が必要とされているが、荒廃地等の基準・位置が不明確であること、一般的に土地管理に関するガバナンスが弱いことなどから森林地帯への拡大が進んでいる。中には森林伐採が隠れた主目的であり、許可された商品作物の植栽等を殆ど行わず放棄してしまう例も報告されている。

FDI の拡大、特に鉱業、水力発電、商品作物プランテーションへの流入により、土地、森林、投資等各種法令の定めが守られないまま投資案件が「許可」されるケースが多く、森林の転用(減少)が進んでいる。また、土地に関して「資産」という概念が地方にも広まりつつあり、これまで慣習的に共同利用されてきた村落林なども将来の転用・販売を見越して実態としての分割、個別所有(特に村内外有力者)が進みつ

つあると言われている。

現在施行中のコンセッション許可中止令は国家土地政策の策定及びそれに沿った関連する森林法を含む土地関係法令の改訂をもって廃止されるとされており、中止令の遵守状況は不明であるが、国家土地政策等の内容は今後の森林保全・管理にも大きな影響を与えと考えられる。(別紙: Revision of FS 2020 参照)

対応方向案

国家土地政策や土地関連法案の内容を入手し、適切かつ必要なコメントを提出するとともに(準備フェーズを含む)、改正後森林法の実施に関する規則等の制定・普及について支援を行う。

Analysis of surrounding conditions and possible action concerning revision of FS 2020 or formulation of a new forestry strategy

I. Policy measures recommended by FS 2020 review

- (a) **Develop an updated strategy for forestry sector as a successor strategy to FS2020.**
- (b) Review the funding strategy focusing on the financial flow of timber revenue derived from out of PFAs and the suspected leakages of the revenue. Revisit the proposed action of FS2020 on funding, which suggests to secure the cost for the appropriate forest management as an necessary investment for avoiding deterioration of the resource base;
- (c) Strengthen the information base and improve the transparencies throughout the sector activities, particularly the timber flow and the concessions. The most urgent need is the improvement of the trade statistics in view of AEC, CITES enforcement and avoidance of the revenue leakages, and join the contributors to the international trade statistics;
- (d) Urgently study and discuss the management of rubber plantation on which the forestry sector has no competence at the moment. Risks raised in FSPI 2014 should be fully addressed;
- (e) Consider inclusion of *Pterocarpus macrocarpus* and *Dalbergia bariensis* into the Appendix III of CITES in cooperation with other range countries.
- (f) Mainstream the timber supply from the development projects. Full control of the legitimate temporary sources is necessary to segregate and purge illegal logging and its timber flow;
- (g) Consider to join International Tropical Timber Organization (ITTO) to seek help for SFM, forest industry development and statistical capacity strengthening as well as the expertise of tropical timber species in CITES Appendices.

II. Analysis and Option

- (a) **Develop an updated strategy for forestry sector as a successor strategy to FS2020.**

1. Related strategies and possible impacts on forestry strategy

Natural Resource and Environment Strategy to 2025 with Vision to 2020 (Department of Planning, MONRE)

Status

Final draft being consulted within MONRE for submission to MPI and GOL

Forest related contents

Strategy Statement 1.4 “Sustainable management of forest and biodiversity to ensure 70% of forest cover by 2020 and improved rural livelihood by promoting forest rehabilitation, sustainable rural livelihood and protection of endangered wildlife” focusing on the following strategy actions (SA):

SA1.4.1 Supporting forest re-survey, allocation, and planning for forest and biodiversity management in the 3 forest categories including protection forest, conservation forest and production forest at national, provincial and district levels with public involvement.

SA1.4.2 Supporting forest survey, allocation, and planning for forest and biodiversity in the forest area that was not categorized in the 3 forest categories (protection forest, conservation forest and production forest) and promoting community land titles for forest land/village forests.

SA1.4.3 Establishing, implementing and monitoring forest rehabilitation and programs in forest degradation and project affected areas to ensure healthy ecology and minimise the impacts of forest cover (loss?).

SA1.4.4 Developing and implementing effective forest administration system by focusing on developing and improving forest survey, monitoring, assessing and reporting systems on forest resources, endangered wildlife and biodiversity status.

SA1.4.5 Promoting sustainable collection and use of NTFP in rural areas to ensure poverty reduction as well as sustainable forest and wildlife protection through community ownership.

SA1.4.6 Promoting the establishment of national parks in conjunction with nature conservation tourism in areas of healthy forest and biodiversity.

SA1.4.7 Establishing all relevant preconditions to participate in and benefit from an international mechanism on “Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation (REDD+)” and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries.

Impact on new forestry strategy

Most of the Strategic Actions proposed in the current draft are general and consistent with GOL forest policy and donor support except the community land/forest titling and community ownership, which is not clearly defined in the current land/forest related laws.

Agriculture Development Strategy to 2025 with Vision to 2030 (Permanent Secretary Office, MAF)

Status

Final draft (only in Lao) in preparation for submission to MPI and GOL in March 2015

Forest related contents

Mostly focus on agriculture and little on forest

Impact on new forestry strategy

Little impact on new forestry strategy

Upland Development Strategy for Agriculture and Rural Development 2016-2020 (Department of Planning and Cooperation, MAF through Northern Uplands Development Programme (NUDP))

Status

Draft Final (Most likely a policy/strategic basis for NUDP. Unlikely to be submitted to GOL for endorsement)

Forest related contents

- 1) Conservation and sustainable use of natural resources is one of 4 Pillars

- 2) Proposed forest related activities; PLUP (for stabilization of land use), nature-based (forest) tourism, policy/support to NTFP, smallholder plantations, village forestry, etc., participatory management of 3 forest types, monitoring/maintaining ecosystem services, etc.

Impact on new forestry strategy

Proposed activities are consistent with current policy and donor support. So, little conflict foreseen.

National REDD+ Strategy (Most likely by the National REDD+ Task Force with endorsement from the National Environment Committee (Chair; Deputy PM) with support from FCPF Readiness Support Project (FCPF RSP), CliPAD, JICA and others)

Status

Drafting not started and will commence when the consulting firm for this is selected by FCPF RSP and arrive in Laos probably in Aug or Sep 2015. It is expected to have a draft REDD+ strategy by mid-2016 and final by 2017-18 for submission to UNFCCC, if possible.

Forest related contents

All of REDD+ strategy will be related to forestry. Its likely main components are; status of deforestation/forest degradation and carbon stock changes, analysis of main drivers and underlying causes, policy and measures to address drivers of deforestation/forest degradation and to promote carbon stock enhancement, institutional and implementation arrangements, benefit sharing/distribution system, consultation process, etc.

Impact on new forestry strategy (new FS)

The basis/scope of NRS is mostly forest resource/carbon changes and related land/forest management, but a new FS will have wider scope and types of data including those of NRS. FS 2020 has 9 thematic areas (land/forest use, production forest, NTFP, tree plantation, log harvest and royalties, wood processing, biodiversity, protection forest and village land/forestry), and 7 cross cutting areas (legal framework, law enforcement, human resource development, R&E, gender, funding/allocation and international cooperation). Because of similarity/difference in contents and probably similar timeframe for drafting, parallel preparation of the two strategies may bring more synergy than duplication/waste of time and resources. However, availability of human resources on the Lao side will be a major constraint.

Formulation of national land policy (NLP) and revision of land related laws including forestry law

Status

NLP; Submitted to the NA session in Jun 2014, but no agreement and no text available. It is widely said this issue has been transferred to the Politburo from NA. Land Issues Group (NGOs+projects) assisted drafting until 2013, and they raised concerns about the following 4 issues; 1) proposed land expropriation by state not only for public works but for private investment, 2) recognition of customary land tenure rights, 3) recognition of communal land titling and 4) establishment of functional grievance system.

Forestry Law; According to DFRM, the final draft has been submitted to GOL and will be revised according to the NLP decisions. Whether the current final is same as the one as of Apr 2014 or not is unknown.

Forest related contents

Main changes to the current law made in the draft as of Apr 2014; addition of physical definition of tree and forest, addition of carbon related definitions including market, carbon credit, financial mechanism, etc., addition of definitions of forest eco-system services and PFES, insertion of logging approval process for infrastructure project areas, addition of a REDD+ section including REDD+ definition, ownership over forest carbon, forest carbon market, PFES, etc., adding new businesses for forest land concession including agro-forestry, ecotourism, mining, forest eco-system service, adding “discussion and agreeing with local people” for granting concessions, expanded revenue sources of the Forest and Forest Resource Development Fund including PFES and proposed it to be a sub-fund of Environment Protection Fund, MONRE and MAF and their local agencies as forest management organizations,

Impact on new forestry strategy (new FS)

New FS will be largely formulated within the legal framework provided in the new NLP and Forestry Law. It can propose new or re-revision of the Forestry Law, but not major changes. PM Decrees and Ministerial Regulations to implement the new Forestry Law will also require fairly large amount of assistance mostly in the areas of REDD+, PFES and forest land concessions.

2. Factors to be taken into account on revision of forestry strategy

- 1) Re-restructuring of Ministries; Many including DG and DDGs say the three forestry related departments i.e. DFRM under MONRE, and DOF and DOFI under MAF will be under single Ministry either MONRE, MAF or Forestry Ministry and this decision will be made after the 9th Party Congress in Mar 2016. This will impact the institutional arrangements of strategy formulation because a multi-ministerial drafting or steering committee should be established and the secretariat should be nominated. Change in the arrangement before and after Ministerial restructuring can be possible, but it will take some time for deciding/functioning of a new arrangement.
- 2) Limited human resources; Parallel formulation of REDD+ strategy and forestry strategy will require assignment and engagement of many GOL staff, but the actual human resource is very limited and this will lead to a donor-driven process.
- 3) Revision of Forestry Law; This may also be delayed until after the Party Congress in Mar 2016 due to anticipated restructuring of forestry sector.
- 4) Views of Mr. Thongphath, DG, DOF and Mr. Khamphay, DDG, DOF; Both said that the Lao forestry sector needs a new strategy under new socio-economic conditions and each sector is required to have a strategy to 2025 with a vision to 2030. They also raised availability of new forest resource data i.e. forest cover rate for 2015, which will be one of important data for strategy formulation. However, Mr. Thongphath suggested to start from data collection and so on without establishing a GOL level arrangement i.e. multi-ministerial steering committee because of expected restructuring of MAF and MONRE in 2016.

- 5) Availability of latest forest related data; Forest cover rate for 2015 in Jun 2015 as a tentative figure and in Nov 2015 as a confirmed figure. National Forest Inventory will be implemented in around 2016-17 and Forest Map for 2015 will be also available almost at the same time. Detailed forest resource data will be available for use in late 2017 or 2018 for construction of REL/RL to be submitted to UNFCCC and possibly for formulation of a new forestry strategy.
- 6) Major projects; Major forestry projects such as SUFORD, CliPAD and FCPF Support Project are to be ended by end 2018. Of these SUFORD and FCPF are likely to be extended, but CliPAD unknown at this moment. So, there will be possible resource sharing and other types of cooperation with these projects even after 2018.
- 7) Forest cover target 70% in 2020; GOL officers say this target cannot be changed in the next 5 year plan (2016-2020) because it is one of GOL long term goals for 2020 even though it is clear that this cannot be achieved. New forestry strategy will have a new forest cover target rate probably lower than 70%, and the conflict with the current target will surface if the new one is proposed to GOL sometime before 2020.

3. Possible option

Taking into account the above and a time period of 2-3 years necessary for strategy formulation, an option for new strategy formulation is proposed as below

Start formulation after forestry sector restructuring in 2016 and finalize in 2019 or 2020 (actual period is 3 years from 2017).

以下の提言について別紙「FS2020 レビュー等に基づき行われた提言に関する分析及び対応方向(案)」を参照。

- (b) Review the funding strategy focusing on the financial flow of timber revenue derived from out of PFAs and the suspected leakages of the revenue. Revisit the proposed action of FS2020 on funding, which suggests to secure the cost for the appropriate forest management as an necessary investment for avoiding deterioration of the resource base;
- (c) Strengthen the information base and improve the transparencies throughout the sector activities, particularly the timber flow and the concessions. The most urgent need is the improvement of the trade statistics in view of AEC, CITES enforcement and avoidance of the revenue leakages, and join the contributors to the international trade statistics;
- (d) Urgently study and discuss the management of rubber plantation on which the forestry sector has no competence at the moment. Risks raised in FSPI 2014 should be fully addressed;
- (e) Consider inclusion of *Pterocarpus macrocarpus* and *Dalbergia bariensis* into the Appendix III of CITES in cooperation with other range countries.
- (f) Mainstream the timber supply from the development projects. Full control of the legitimate temporary sources is necessary to segregate and purge illegal logging and its timber flow;
- (g) Consider to join International Tropical Timber Organization (ITTO) to seek help for SFM, forest industry development and statistical capacity strengthening as well as the expertise of tropical timber species in CITES Appendices.

ラオスREDD+の状況と将来見通し

現状～今後


本資料はコンサルタントによる情報収集・分析結果に基づくものであり、ラオス側の確認を得たものではない。

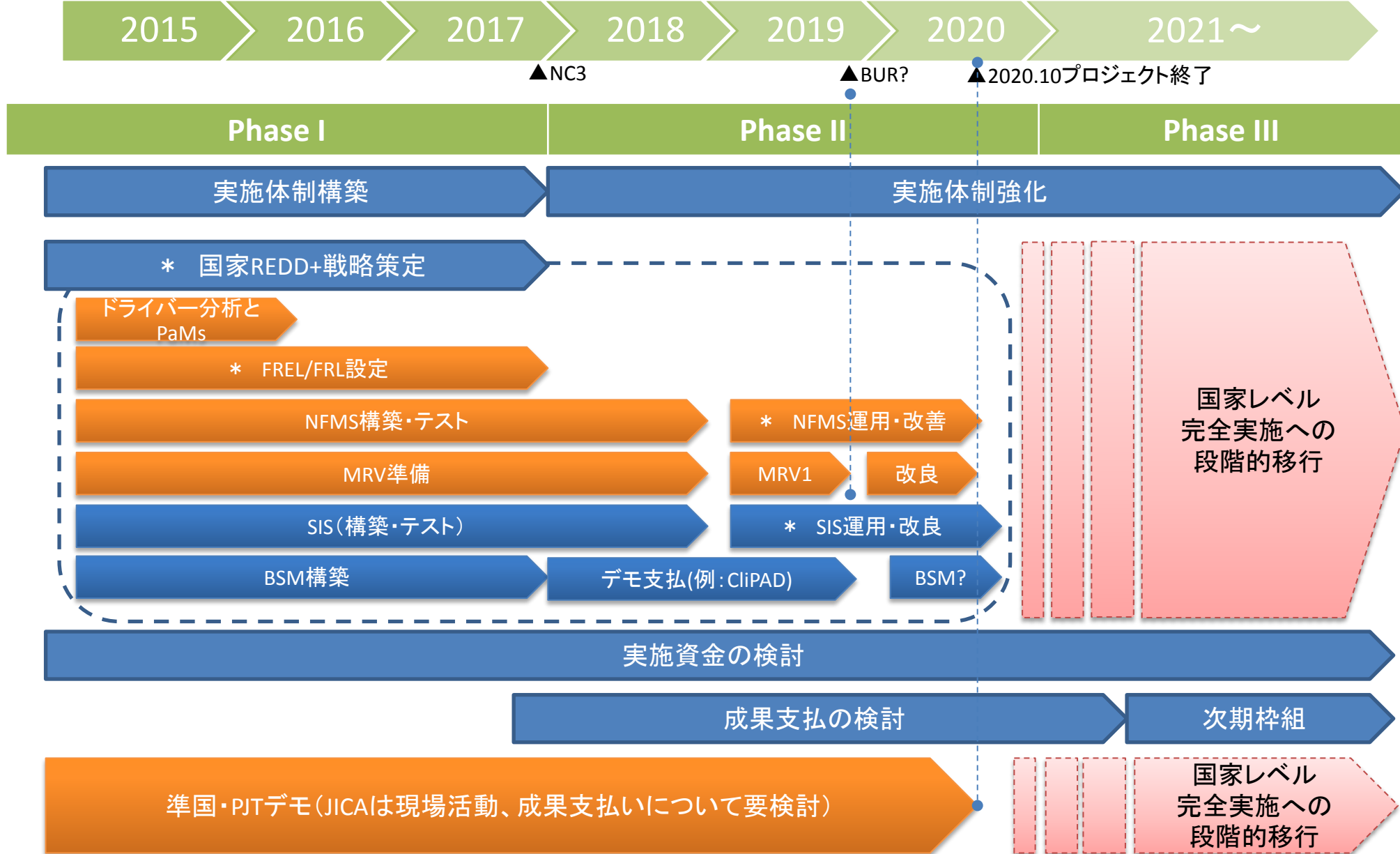
REDD+の実施に必要な要素	～現在までの状況	2015～2020に向けて必要な作業
実施体制	NRTF:設置済み、TOR調整中。 TWG:7つ設置合意済み、未設置。 NRO:設置済み、TOR調整中。 DOF-REDD室:設置済み、TOR調整中。	NRTF/NRO/DOF-ROのTOR確定と本格的稼働; TWGの設置と稼働; 政府と政府外パートナーの協調形式の再整理(或いは既存形式の改良)、人員確保と恒常的なキャパビル。
国家REDD+戦略	未。 (DFRMがREDD+事業実施に係るDecree作成中)	FCPF RSPが中心となって今後作成の見込み。 NRSの位置付け、記載内容、他政策との整合性・補完性、等を要検討。
DD及び+要因分析とPaMs	FCPF申請に際して国レベルでの分析あり。その他、散発的な分析あり。	ドライバー分析とPaMsの設定(或いは、再確認)(2015年森林率調査の活用検討)。 【検討事項】ドライバーの分類; 地域特性; PaMsの実現可能性; PaMsの実施予算。
FREL/FRL (TWGあり)	AD:精度検証付き国レベル2000、2005、2010森林基盤図、炭素図作成中(NFIS)。2015衛星画像(Rapid Eye)をFPP、SUFORD、FCPF-RSPで購入予定。 EF:森林タイプによる層化手法検討中(NFIS)。固有のAE開発パイロット(FPP)。	ADは2015年森林基盤図(準備中)、炭素図が完成すれば2000～2015で4時点変化抽出可能。EFは層化手法と全国レベルAEの開発を検討中。それ次第でTier 2以上を目指す。 【検討事項】90年代NFIを用いたEF推定手法; 対象炭素プール; 過去トレンド設定手法; 国情の加味; 将来シナリオ設定手法; QA/QC; 国⇄準国⇄プロジェクトレベルFREL/LFRLの構造; UNFCCC提出時期・プロセス。
NFMS	衛星画像によるAD: 未。 NFI (EF、GT他): NFI設計改良(NFIS)。次期NFI (2016-2017) 予定。	定義・スコープの(再)確認と決定、システムの(ステップワイズな)構築。 【検討事項】実施体制; 予算; スコープ(PaMS、SG、non-carbon benefitsなど)、NFIと連動したGT、EF; PaMSモニタリング手法; SUFORD検討中の生産林モニタリング・システムとの関係性。
MRV (TWGあり)	未	NFMSを通じたMeasuring, GHG-I (NC或いはBUR)を通じたReporting (R), ●●によるVerification (V)。 2015をFREL/FRL基準年として、第1回目のM, Rは2019年BURにて提出(NC3は2017年提出予定、原則4年おきにつき、BURはその2年後と仮定)。或いは、2010年を基準年、2015年を第1回目のM, RとしてNC3或いは2019年BURにて提出。 【検討事項】NFMSとの関係性; GHG-Iとのリンク; 実施体制; 予算; スコープ

現状～今後(続)

REDD+の実施に必要な要素	～現在までの状況	2015～2020に向けて必要な作業
SG (TWGあり)	未	定義・スコープ、実施体制の決定、システムの(ステップワイズな)構築。 【検討事項】NFMSとの関係性;実施体制;予算;スコープ。
BSM (TWGあり)	未。CliPADがフアパン県用にBSMの検討を開始予定。	BDS設置根拠、分配方法、管理・監査方法等の構築が必要。
実施資金	FIP(SUFORDとADBには配分済み、IFCは未配分)。 他はドナーの各支援に依存(JCM含む)。	
成果支払	未	目標とする成果支払の目星と、それに向けた各種準備(FCPF-CF、GCF)。
準国～ プロジェクトレベル	準国REDD+に関する明文化方針はないが、準国活動(県RTF、REDD+室、REDD+戦略等)の必要性はDFRM、DOF双方に認識されている様子。 【準国・デモ】 フアパン県(CliPAD VCS/JNR, FCPF)、 【プロジェクトレベル・デモ】 チャンパサック県/アタプー県(WWF, Xe Pian NBCA)、サバナケット県(SN-REDD, Xe Ban Nouane NBCA) 【準国(或いはそれ以下)取り組み】 チャンパサック県(FCPF) ルアンパラバーン県(JICA)	フェーズドアプローチ(Decision 1/CP.16, Paragraph 73)に添った実施と成果支払いデモ(Phase II)～MRV可能な成果ベース実施(Phase III)に合わせて、国レベルの枠組み下での準国・PJTデモ、或いは、準国キャパビルの実施と、効果等の検証。

想定される時間軸とJICAの協力範囲

 JICA協力範囲
* UNFCCC成果支払いに必要な制度条件



別添6

収集資料リスト

森林セクター一般			
情報	有無	入手方法	概要
FSSWG 第 1-6 回会合におけるすべてのプレゼンテーション及びミニッツ	英語 電子	入手済み	FSSWG 第 1-6 回会合におけるプレゼンテーション及び議事録一式。
FSSWG より政府・ドナー円卓会議実施会合（Round Table Implementation Meeting: RTIM）に向けた提言案（事務局ドラフト）	英語 電子	入手済み	RTIMに向けた FSSWG から上位 WG である NRESWG への提言案。森林率目標、違法伐採対策、村落林管理、特定樹種の保護、ゴム林管理、FS2020 の後継戦略策定、等を提言。
2014 Round Table Implementation Meeting, Background Document (draft 2014.10.30)	英語 電子	入手済み	MPI による RTIM 背景資料。第 7 次 NSEDP の 2013-2014 進捗報告（セクターごと）、対ラオス ODA 概況、今後に向けて（特に第 8 次 NSEDP）に関する情報。
RTIM 議事録（2014 年 11 月 14 日開催）	日本語 電子	入手済み	RTIM2014 に係る大使館と JICA による非公式メモ。
Report : The Round Table Implementation Meeting 2014, November 2014	英語 電子	入手済み	RTIM2014 に係る MPI の公式報告書。
NRESWG 会合（2013.5.13）における全てのプレゼンテーション	英語 電子	入手済み	NRESWG におけるプレゼンテーション一式。
MPI より第 8 次国家経済社会開発計画(2016-20)の骨子案	英語 電子	入手済み	RTIM2014 に先立ち、MPI より開発パートナーにバックグラウンド・ドキュメントとして共有されたもの。
FSSWG より第 8 次国家経済社会開発計画(SEDP 2016-20)に向けたインプット（案）（事務局ドラフト）	英語 電子	入手済み	SEDP 2016-2020 に向けた FSSWG から上位の WG である NRESWG への提言案。
FSCAP が行った森林戦略 2020 レビュー報告書	英語 電子	入手済み	結論要約（Conclusion）と、本文となる「Part I: Synthesis report of FS2020 review」「Part II: Implementation Framework Review (IFW)」「Part III: Forestry Sector Performance Indicators 2014 (FSPI 2014)の 3

			部構成。
2014 年 4 月時点における森林法改正案	確認中	入手済み	改正ポイントとしては、「森林」の再定義、PES、インフラ開発における伐採許可申請、REDD+と炭素に関する規定（取引、所有権、資金メカニズム等）、森林コンセッション（アグロフォレストリー、エコツーリズム、鉱業、PES など）と事前のコンサルテーション、森林基金の役割、MONRE-MAF 及び県の行政体制、等。
MONRE 2030 ビジョン- 2016-2025 戦略	確認中	確認中	戦略目標 1.4 として、SFM と生物多様性の管理による 2020 年に森林率 70%達成と、森林再生、農村振興、野生生物の保護を通じた農村生計の向上。特に森林 3 区分の再ゾーニング、CFM、森林生態系の調査・モニタリング・報告、NTFP の持続的利用、保護区の管理と適正利用、REDD+等に取り組むこと、等を謳う。
MAF 2030 ビジョン- 2016-2025 戦略	確認中	確認中	大半が農業セクター中心に記載されており、森林への記載は極め少ない。森林については MONRE 2030 ビジョンに統一、という整理。
ラオス森林法令集	ラ語 冊子	入手済み	件名の通り。
RUBBER BARONS; HOW VIETNAMESE COMPANIES AND INTERNATIONAL FINANCIERS ARE DRIVING A LAND GRABBING CRISIS IN CAMBODIA AND LAOS, Global Witness	無し	入手済み	カンボジアとラオスによるゴム林拡大を牽引している民間企業とその背後にいる資金提供者、結果としておきている環境・社会影響等についての調査報告と、両国のガバナンスの脆弱性、国際的取り組みの必要性についての提言。
MAF から MONRE への業務移管（REDD+, UNCCD, FSSWG, CBD）に関する覚書, (No. 0052/MAF, 2013/05/31)	ラ語・英語 電子	入手済み	MAF から MONRE に REDD+に関係する事務局機能、UNCCD、CBD の国フォーカルポイント、FSSWG 議長職を移管。
Global Forest Resources Assessment 2015 Country Report Lao People's Democratic Republic (FAO 提出済み、未公開)	英語 電子		FAO への提出フォーマットに沿ったラオス FRA 報告。
ルアンプラバン県農業・森林開発 5 ヶ年計画 2016-2020 (2015 年 1 月暫定版)	ラ語・英訳	入手済み	PAFO による県農業・森林開発 5 ヶ年計画 2016-2020 の暫定版。基本的には PAFO 所管の森林を対象としている (PONRE は別途)。

REDD+関係			
情報	有無	入手方法	概要
国家 REDD+タスクフォースの設置およびメンバーの任命に関する MONRE 大臣令 (No.7176/MONRE, 2013/10/30)	ラ語・英語 電子	入手済み	件名の通り。
国家 REDD+タスクフォース第 1 及び 2 回会合におけるすべてのプレゼンテーション及びミニッツ	ラ語・英語 電子	入手済み	NRTF 第 1 回、第 2 回会合におけるプレゼンテーション及び議事録
ラオス REDD+におけるガバナンス分析報告書 (要約) (世銀)	英語 電子	入手済み	FCPF の REDD+準備支援プロジェクトの一環として行われた参加型ガバナンス分析の結果。
FCPF の REDD+準備支援プロジェクト 開始 WS 資料	英語 ハードコピー	入手済み	2014 年 12 月の開始 WS における世銀及び DOF 発表資料。12 日のプロジェクトの背景、概要、目的、活動計画、調達計画などについての説明。
ClIPAD TC/FC の中間レビュー結果要約 (2014 年 3 月)	英語 電子	入手済み	同プロジェクトの技術支援 (TC)、資金支援 (FC) の中間レビュー結果のディブリーフィング資料。
環プロ無償森林保全計画 (FPP) による「アロメトリー式開発及び森林炭素量推定」事業実施に関するラオス林野局から在「ラ」日本大使館への要請書 (2014 年 8 月)	英語 電子	入手済み	FPP 残余金を用いたバイオマス破壊調査によるアロメトリー式開発、森林炭素量及び変化量の推定、2015 年森林率調査、に関する要請。
Annual Review of REDD+ Activities in Lao PDR 2012-2013, SUFORD	英語 電子	入手済み	2012-2013 にかけてのラオス REDD+の進展、REDD+の要素ごとの活動内容、関連ドナープロジェクトに関する報告。
Annual Review of REDD+ in Lao PDR 2013-14 (2015 年 1 月時点ドラフト)	英語 電子	入手済み	2013-2014 にかけてのラオス REDD+の進展、活動内容、及び、関連ドナープロジェクトに関する報告。DFRM が取りまとめ中。
REDD+ Glossary, Department of Forestry	冊子	入手済み	件名の通り。
二国間クレジット制度にかかる実施規則及び合同委員会運営規則の署名及び第 1 回日・ラオス合同委員会の開催にかかる書類	Web	https://www.jcm.go.jp/la-jp/information/47 に資料一式あり	件名の通り。

気候変動ワーキンググループの設置にかかる MONRE 大臣令	英語 電子	入手済み	件名の通り。
JICA 内部資料			
情報	有無	入手方法	
PAREDD アプローチの普及展開について（PAREDD 西本専門家 2014/12/08）	日本語 電子	入手済み	PAREDD アプローチと PLUP の要約、ルアンパラバーン県全郡における PLUP の実施状況、今後に向けた課題と可能性に関する提言。
平成 26 年度マイクロファイナンス関連分野 課題対応力強化のための情報収集等準備調査ラオス現地調査報告書ドラフト（未定稿）	日本語 電子	入手済み	ケーススタディとして、ラオスのマイクロファイナンスセクター概況、PAREDD 対象村落の現状と効果、総括と提言。

ラオス国 「持続可能な森林経営及びREDD+推進のための森林セクター政策・戦略プロジェクト 準備フェーズ」
Forestry Sector Policy Strategy for Sustainable Forest Management and REDD+ Promotion Project - Preparation Phase - □

詳細計画策定調査 調査日程案 v.1 (2015/03/06)

Detailed Planning Survey schedule v.0 (2015/03/06)

Date	Place	Agenda	Participants
3/22 (Sun)	[Tokyo - Vientiane]		
		Depart Tokyo - Arrive in Vientiane	
3/23 (Mon)	[Vientiane]		
	@JICA Office	10:00 – 11:00 Internal kick-off meeting with JICA Laos	
	@EoJ	11:00 – 12:00 Courtesy call to EoJ	
	@DFRM, MONRE	13:30 – 16:00 Kick-off meeting DFRM and DOF	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
		- Reconfirm the outputs and schedule of the mission.	
- Recent progress and issues of Lao forestry sector (by DFRM).			
- Discuss the overall outline of the project.			
3/24 (Tue)	[Vientiane]		
	@DFRM, MONRE	9:00 - 11:30 Detailed meeting with DFRM and DOF - Discuss the detailed components and work plan of the project.	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
3/25 (Wed)	[Vientiane]		
	@DFRM, MONRE	9:00 - 11:30 Detailed meeting with DFRM and DOF - (cont.) Discuss the detailed components and work plan of the project. - Discuss the required inputs by both sides. - Agree on the outline of Minutes of Meeting	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
@Project office	13:00 - 14:30 Donor debriefing - Share the outline of the new projects, explore ways of collaboration.	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts	
3/26 (Thu)	[Vientiane]		
	@DFRM, MONRE	9:00 - 11:30 Detailed meeting with DFRM and DOF - Complete the 1st draft of Minutes of Meeting for circulation and commenting.	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
		(PM: Separate meetings with key donors?! e.g. FCPF, CiPAD)	
	[Vientiane - Luang Prabang]		
	17:00 Vientiane - 17:45 Luang Prabang (QV103)		
3/27 (Fri)	[Luang Prabang]		
	@ LPB Provincial Government	8:30 - 9:30 Courtesy call to LPB provincial government - Exchange views on PAREDD outcomes and the next steps in the province. - Discuss the roles of the province in the new project.	DRFM, (DOF), LPB provincial government, JICA mission, JICA experts
	@PONRE	10:00 - 11:30 Meeting with PONRE, PAFO - Discuss the provincial components, work plan, implementation structure, etc.	PONRE, PAFO, DFRM, (DOF), JICA mission, JICA experts
@Xiengngun	12:00 - 18:00 (include lunch) Visit to PAREDD Xiengngun sites	PAREDD project, DFRM, (DOF), JICA mission, JICA experts	
3/28 (Sat)	[Luang Prabang]		
	tbc (e.g. Phongsay sites, LPTP site)	ditto	
3/29 (Sun)	[Luang Prabang – Vientiane]		
	7:40 Luang Prabang - 8:30 Vientiane (QV112)		
3/30 (Mon)	[Vientiane]		
	@DFRM, MONRE	9:00 - 11:30 Meeting with DFRM and DOF - Complete the final draft of Minutes of Meeting.	DFRM, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
3/31 (Tue)	[Vientiane]		
	@ --- Hotel	9:00 - 11:30 Mission wrap-up meeting - Introduce the agreed contents of the new project. - Exchange Minutes of Meeting. - Updates from the Preparation Phase. - Q&A, discussions.	DFR, DOF, JICA mission, JICA LA, JICA experts
	Lunch		
	@JICA Office	13:30 - 14:30 Reporting to JICA Laos	
	(@ EoJ)	(15:00 - 16:00 Reporting to EoJ)	
	[Vientiane - Tokyo]		
	Depart Vientiane		
4/1 (Wed)	[Tokyo]		
		Arrive in Tokyo	

FCPF 炭素基金の現状及びプロセス

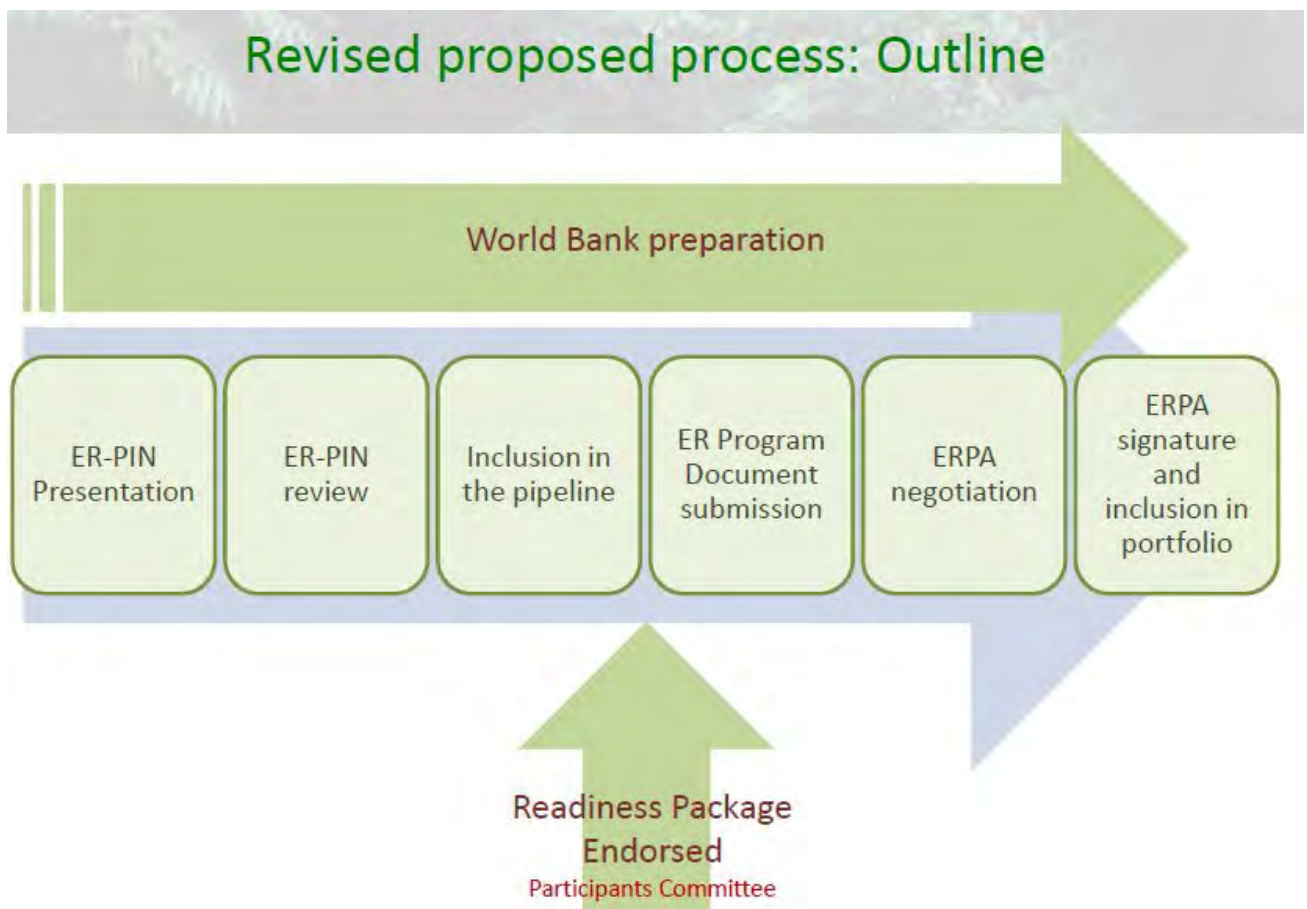
炭素基金の現状

- ・炭素基金(成果支払い)ではこれまで 10 カ国が ER-PIN 承認を受け ERP 作成開始。新たに 3-4 カ国の参加を考えており、ラオスにも参加を呼びかけ。
- ・現時点での総資金額約 5 億ドルで CO2 単価決定手法は未定(カムセン談；\$5 程度)。
- ・対象地域は国または準国であるが準国の場合は「相当な面積」とされている。ベトナムでは北・中部海岸 6 省(約 5 百万 ha)が対象地。
- ・Methodological Framework が合意されている(ER 開始前 10 年間に少なくとも 3 時点での森林炭素推定、REL は基本的に平均等)
- ・2020 年が FCPF 終了期限であるが 2025 年まで延長が議論されており、その可能性が高い模様。

ラオス炭素基金参加プロセス

- ・炭素基金参加意思表明；2 月末表明済み
- ・当初アイデア提示 (PPT)；4 月末 CF 会合 (当初アイデア PPT 提出期限；3 月末)
- ・ER-PIN 説明；10 月 CF 会合 (ER-PIN 提出期限；9 月末)
(ベトナムは当初アイデア提示から ER-PIN 承認まで 2 年間(CF 会合 4 回)。ER-PIN は本文 77 頁、合計 92 頁)

成果支払いまでのプロセス



ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添2 ルアンプラバン県での FCPF Carbon Fund 3 県合同コ
ンサルテーション及び本格フェーズ紹介ワークショップ
資料



Forest Carbon Partnership Facility Carbon Fund

Provincial Consultation workshop for Emission Reduction Program Idea Note (ER-PIN) proposal development



Bokeo
7 August, 2015



Presentation Outline

- Session 1 (60 min) -

1. What is REDD+?
 2. What is FCPF Carbon Fund?
 3. Overview of the proposal
- Q & A

--- Coffee break ---

- Session 2 (70 min) -

4. Discussions



1. What is REDD+?

3

REDD+: an international initiative to promote forestry contributions to mitigate climate change

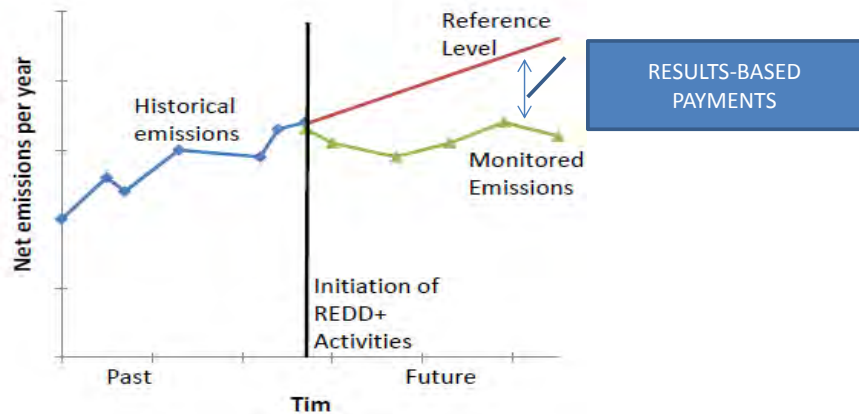
REDD+: Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation [in developing countries]; and [plus] the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks



4

REDD+: incentivizing forest conservation

- **REDD+ payments:** “payments for performance” made on the basis of evidenced and verified reductions and avoidance of greenhouse gas emissions from forests or sequestration of carbon in forests.



Key Idea → encourage developing countries and key stakeholders to reduce emissions and enhance removals of carbon through improved forest management.

5

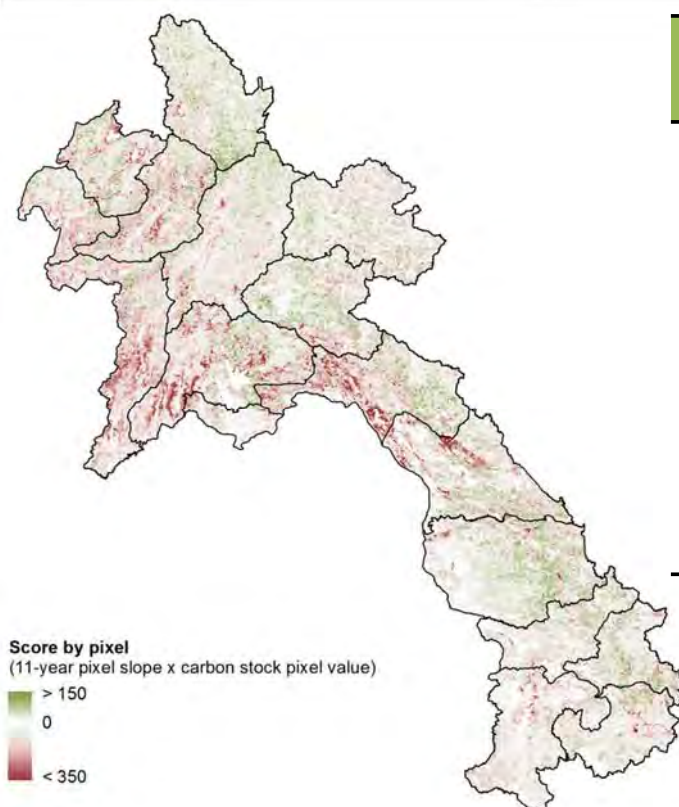
International Support for REDD+ Payments

- REDD+ work ongoing in numerous countries, with multilateral, bilateral, NGO, private sector and government support
- REDD+ payments:
 - Some **pilot projects** have provided payments to stakeholders, either through donor grant funds or sales of carbon credits on voluntary market
 - **Major funding to be available in future**, if new international climate regime agreed in Paris to replace expired Kyoto protocol, with agreement to become effective in 2020

→ United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC): 21st annual Conference of the Parties (COP 21) in Paris in December 2015

6

Lao PDR Areas of Gains and Loss in Forest Cover



Forest Management Categories	Area (M ha)	Forested Area (M ha)	Forest Cover
Protection Forest	8.2	3.13	38%
Conservation Forest	4.7	2.64	56%
Production Forest	3.1	1.48	48%
Plantations	0.3	0.30	100%
Other Areas	6.8	2.00	29%
Total Land Area	23.1	9.55	41%

Source: Forest Cover Assessment, DOF, 2010

Net Forest Loss (2000-2013): 1,110,268 ha
Average: 85,405 ha/year

Source: Hansen et al. 2013

7

Lao PDR REDD+: Overview

- **REDD+ National Task Force**, technical working groups, and two **REDD+ Offices*** working with development partners on **REDD+ readiness** at national level
 - FCPF Readiness Grant
 - Lao Forest Investment Plan
 - Other REDD-related projects
- REDD+ Readiness activities are progressing in **selected provinces**, as part of sub-national approach to REDD+
- **Government and National Assembly** revising **Forest Law**, which will incorporate articles on payment for environmental services and REDD+

*Lao PDR has two REDD+ Offices, which work together to support REDD+:

- National REDD+ Division in Department of Forest Resource Management, Ministry of Environment and Natural Resources and
- Department of Forestry REDD+ Office in Ministry of Agriculture and Forestry

8

Lao PDR REDD+: Recent discussions

- Establishment of 6 TWGs was agreed. Detailed TORs to be developed:
 1. Legal framework
 2. Land use
 3. Law enforcement and the implementation of mitigation activities from deforestation:
 4. REL and MRV
 5. Benefit sharing
 6. Social and environmental safeguard
- **Establishment of Provincial REDD+ Task Force**
 - Director of provincial governor office to be the head of Provincial REDD+ Task Force
 - Members: relevant parties echoing the national level.
- **Provincial REDD+ office**
 - Secretariat: section of forest resource management
- Next meeting (4th meeting of RTF on 2 September 2015):
 - to endorse the ER-PIN
 - to approve TORs of TWGs

9

Lao PDR REDD+: Stakeholder engagement to date

ER-Program

- National level consultations : FSSWG (June 2015), REDD+ Task Force (July 2015)
- Provincial level consultations: Joint workshops with all proposed provinces (provincial leaders) (August 2015)

National REDD+ and FCPF Readiness process

- National level consultations (Dec 2014)
- Provincial level consultations on the FCPF Readiness process (Dec 2014 - ongoing)

Project level consultations

- CliPAD: village forest management planning process in 70 villages
- SUFORD-SU: village level activities guided by the comprehensive Community Engagement Framework
- PA-REDD: PLUP-based forest/land use plan and livelihood improvement in 11 villages

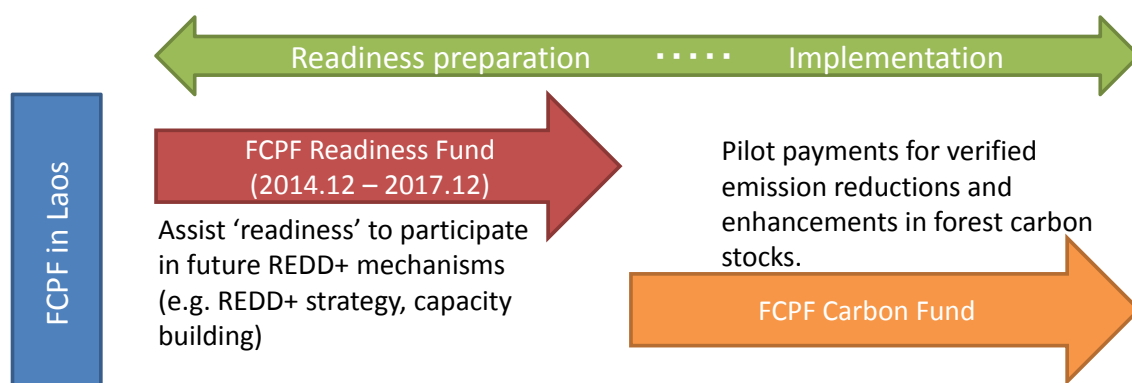
10

2. What is FCPF Carbon Fund?

11

FCPF Carbon Fund - overview

- Forest Carbon Partnership Facility (FCPF) is a global partnership of governments, businesses, civil society, and Indigenous Peoples focused on REDD+.
- FCPF has two separate but complementary funding mechanisms
 - Readiness Fund >>> Laos is already selected
 - **Carbon Fund >>> Laos wants to be selected**



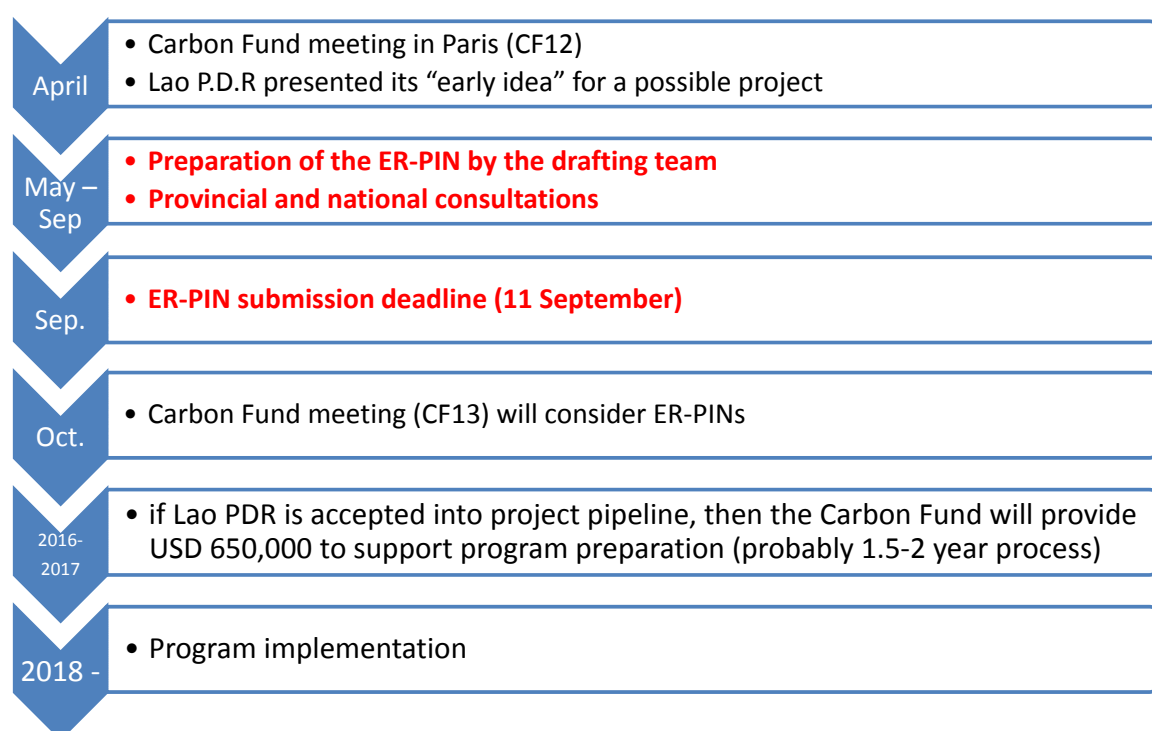
12

FCPF Carbon Fund - objectives

- The goal of the FCPF Carbon Fund is to provide incentives to reduce emissions while protecting forests, conserving biodiversity, and enhancing the livelihoods of forest dependent Indigenous Peoples and local communities.
- Program access criteria:
 - High-quality and sustainable emissions reductions and enhancement of carbon stocks including social and environmental benefits;
 - Sufficient scale of implementation;
 - Consistency with UNFCCC decisions on REDD+ and other regimes;
 - Consistency with the national REDD+ strategy and framework.
 - Clear mechanisms so that the incentives for REDD+ reach those who need them; and
 - **Transparent stakeholder consultations.**

13

FCPF Carbon Fund – key milestones



14



FCPF Carbon Fund – summary

- Carbon Fund is **NOT** a fund to support the implementation of REDD+ activities. It is a fund to **reward the achieved emission reductions and removals**.
- Therefore, Lao P.D.R. need to build the capacity to implement REDD+ activities by its own.
- Some development partners ready to support the national level and provincial level actions.
- Carbon Fund support is on a competitive basis
 - 11 programs (countries) in the pipeline
 - 10 additional programs (countries), including Lao P.D.R, competing to be selected into the pipeline.

Lao P.D.R. must submit a competitive proposal (ER-PIN) by 11 September!

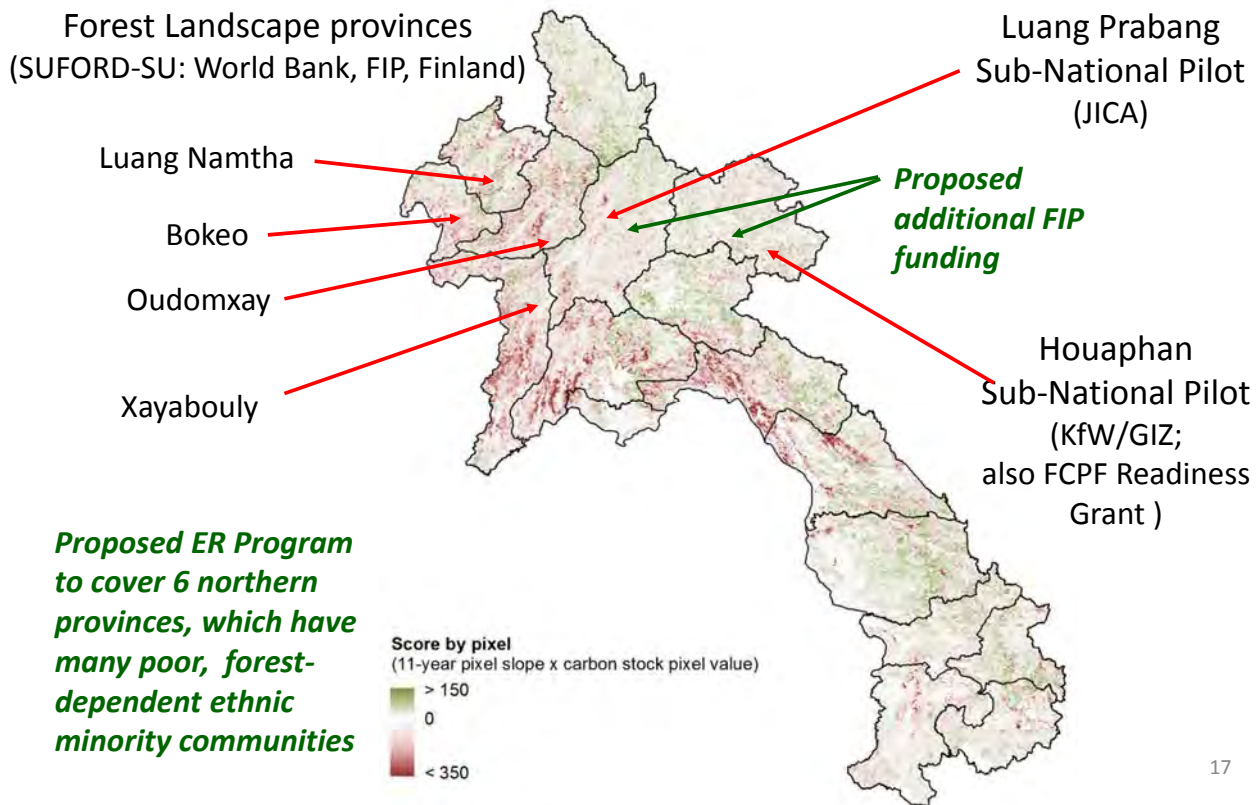
15



3. Overview of the proposal

16

Lao PDR ER Program Scale



17

ER Program Strategies

Lao ER Program (2018-2022) proposed to build on ongoing and future work to address deforestation and degradation:

- National-level **policy** work and **forest and wildlife law enforcement**; Provincial scaling up of FLEGT
- Provincial REDD+ **action plans** and provincial **forest landscape management** agreements and plans
- **Certified sustainable forest management** (scaling up of certification for natural forests, small-scale plantations)
- **Participatory forest land use planning**
- Province-specific mitigation activities, i.e., **alternative livelihood activities, agroforestry**
- Site-specific **forest restoration** (natural regeneration, enrichment planting, gap planting, etc.) to increase carbon sequestration

18

ER Program Strategies: Diversity and Learning Value

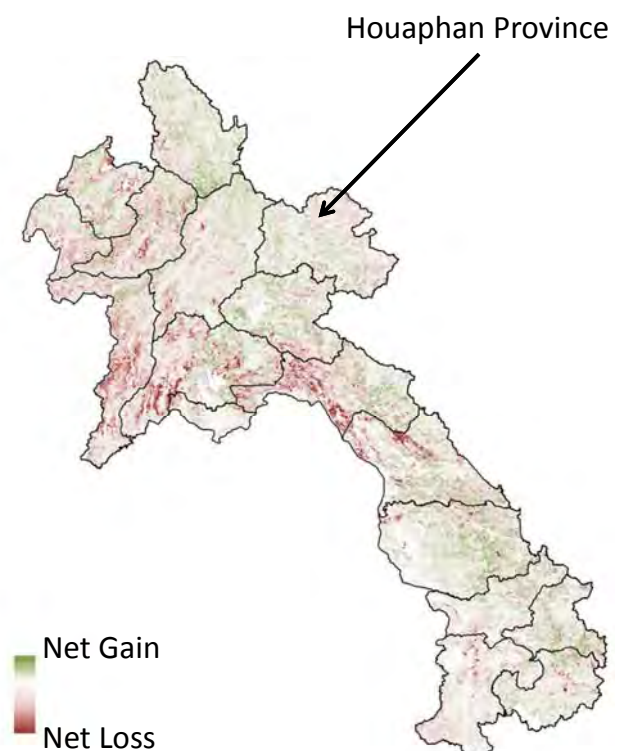
- Lao PDR ER Program has great potential for **forest regeneration** if land use is well managed.
- Lao PDR ER Program would **support piloting approaches to integrated spatial planning, forest landscape management and provincial REDD+ development** to address drivers of deforestation and promote climate sensitive development in an integrated manner.
- By promoting **inter-agency cooperation on planning**, deforestation impacts can be minimized of drivers such as:
 - Hydropower and infrastructure development
 - Agricultural and rubber concessions
 - Pioneering shifting cultivation

19

ER Program Highlights: Houaphan Province

Climate Protection through Avoided Deforestation Project (CliPAD, KfW/GIZ) (2009-2018)

- First Province-wide REDD+ Program
- Mitigation activities in 2 districts and 70 villages :
 - participatory land use planning,
 - village forest management agreements
 - law enforcement action,
 - agricultural extension
- Province-wide forest carbon inventories completed (2014)
- Province-wide REL under development
- Possible forest landscape management



20

ER Program Highlights: Luang Prabang Province

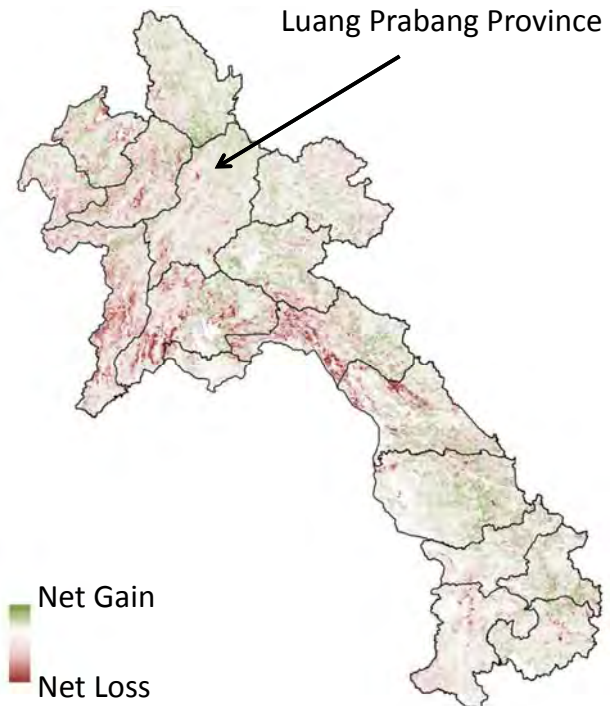
JICA PAREDD (2010-2015) and Sustainable Forest Management and REDD+ Project (2015-2020)

PAREDD Approach

- Participatory land / forest plans and regulations, village forest patrols, livelihood improvement, village revolving fund

Provincial Readiness

- Provincial framework for REDD+ (combined with possible forest landscape management by FIP)
- Pilot priority actions for emission reduction and removal enhancement
- Provincial forest monitoring
- Expand PAREDD approach to key areas under forest landscape management



21

ER Program Highlights: Forest Landscape Management in 4 Provinces

Sustainable Forestry for Rural Development-Scaling Up (SUFORD-SU) (FIP, IDA, Finland) (2013-2018)

Since 2013 working in **Bokeo, Luangnamtha, Oudomxay and Xayabouly Provinces** on:

- **Participatory Sustainable Forest Management** in 12 production forests and with 272 villages; also agroforestry, alternative livelihoods, forest restoration
- **Forest Landscape Management** piloting for all forests in landscape: production, protection, conservation, village forests, plantations, uncategorized forests; and with partners, including KfW
- **Additional FIP support (2016-2020)** could cover remaining 4 provinces (including Houaphan, Luang Prabang)



Projected Emission Reductions

Provinces	Annual Loss * (Gross ha/yr)	Annual Emissions * (tCO ₂ e/yr)	Annual ER Potential (tCO ₂ e/yr)
Houaphan	9,426	2,779,192	277,919
Luang Prabang	8,089	2,384,962	238,496
Luang Namtha	7,114	2,097,678	209,768
Oudomxay	6,100	1,798,714	179,871
Xayabouly	5,774	1,496,145	149,615
Bokeo	3,824	1,127,619	112,762
Selected Pilot Provinces	39,628	11,684,311	1,168,431
Nationwide	98,837	29,141,938	2,914,194

* Average (mean) over period 2000-2013. Deforestation data from Hansen et al. 2013.

The ER Potential will be estimated soon by using national dataset (FIPD).

Need ambitious but feasible target.

23

Support for ER Program

Considerable Political Support

- National REDD+ Office under Department of Forest Resource Management and DOF REDD+ Office under Department of Forestry jointly developing this early idea approach
- Prime Minister's Office supportive
- Forestry Sub-Sector Working Group and National REDD+ Task Force endorsed

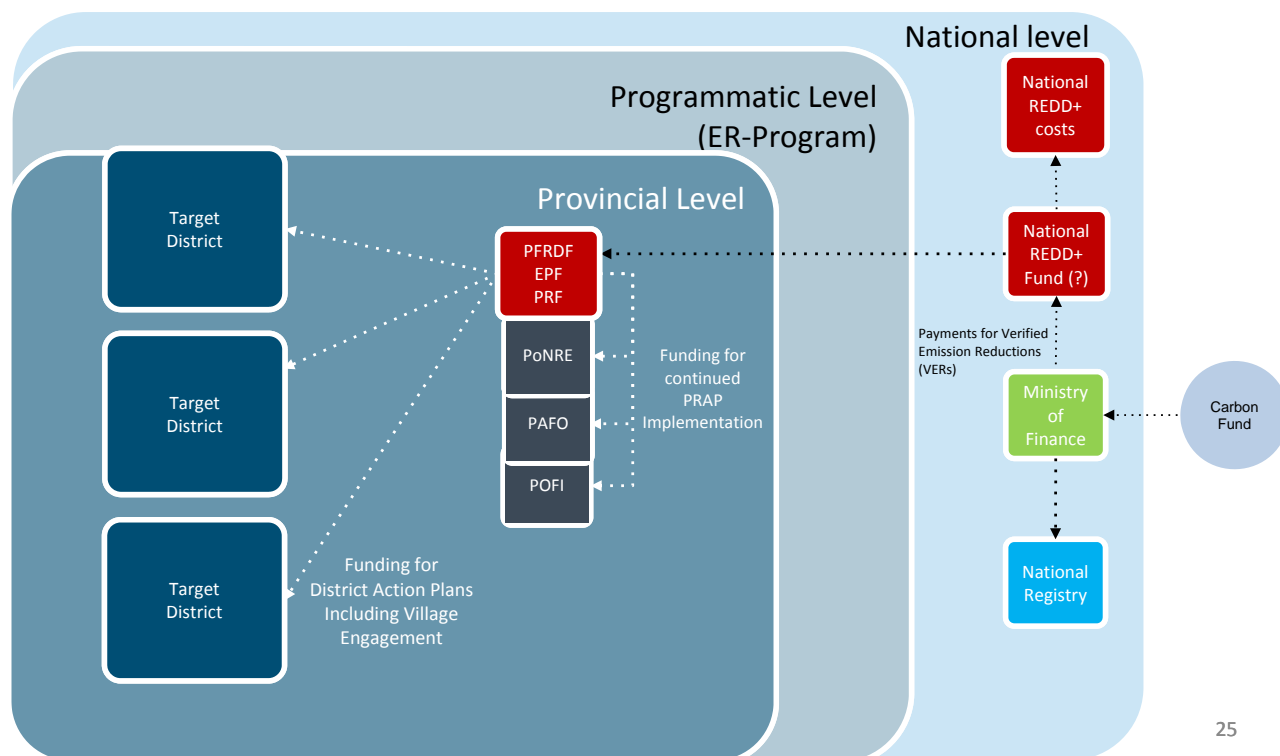
Significant Technical and Financial Support in 6 ER Program Provinces for ER, REDD+ & Other Activities – Donor Support Exceeding USD 60 million

- CliPAD (2009-18): USD 19.8 million
- JICA (2010-2020): USD 9 million
- KfW (2015-21): USD 12.4 million [Integrated Conservation of Biodiversity and Forests, work in Luangnamtha and Bokeo provinces]
- SUFORD-SU (2015-18): USD 7 million
- Possible additional FIP financing for SUFORD-SU (2018-21): USD 13 million
- Government: Forest Development Fund, Environmental Protection Fund, natural resource fees, resource other govt. sources

NOTE: budget figures are only for the proposed provinces; some programs have larger scope

24

Benefit-Sharing (Draft)



25

Social & Environmental (Non-carbon) Benefits



Sacred tree in Bokeo.

Areas with high ethnic minority populations

Social benefits will include:

- Increased incomes and poverty alleviation
- Increased knowledge, skills, participation
- Increased participation of women and ethnic minorities in participatory sustainable forest management, land use planning, and village development activities
- Recognition of local knowledge & customary use of forests
- Improved forest governance

Areas that contain five national biodiversity areas.

Environmental benefits will include:

- Increased watershed protection, protection of streams and water sources
- Increased conservation of natural habitat for wild species
- Increased forest restoration



Khmu woman making rope from bark.

26

Consistency with Methodological Framework

- **Level of Ambition:** 6 of Lao PDR's 17 rural provinces
- **Carbon Accounting:** national-level system accounting under development
- **Safeguards:** Safeguard Information Systems to be developed under FCPF Readiness grant; ongoing work already using social and environmental safeguards, including FPIC
- **Sustainable Program Design and Implementation:** activities being mainstreamed into forest management processes implemented by provinces, districts, and villages
- **ER Program Transactions:** land rights being clarified in revisions of Forest Law, Land Law, and Land Policy; rights to carbon and REDD+ benefit-sharing under development

27

Planned outreach and consultation

Consultation plans for ER-Program design phase:

- National REDD+ Office (DFRM)/DoF REDD+ Office under leadership of RTF will engage and consult with a broad range of stakeholders.
- **Integrated approach and reach across multiple sectors (beyond just forestry and environment sector).**

Overall REDD+ consultation process will strive to connect with the following:

- National Climate Change Strategy,
- National Socio-Economic Development Plan,
- Forest Strategy 2020

The result of multi-level consultations to feed into:

- National REDD+ Strategy/Action Plan and Roadmap
- **Provincial REDD+ Strategy/Action Plan and Roadmap**

28



4. Discussions

29

Drivers of deforestation, forest degradation, and forest regeneration

- The important initial step is to know what is happening in your forests, or namely “drivers analysis”:



Deforestation	Forest degradation	Forest regeneration
<p>... decrease of forest areas</p> <ul style="list-style-type: none"> pioneering shifting cultivation, agriculture expansion, infrastructure development, others 	<p>... degradation of forest quality</p> <ul style="list-style-type: none"> selective logging, fire wood extraction, others 	<p>... increase of forest area and forest quality</p> <ul style="list-style-type: none"> reforestation, assisted regeneration, others

What is the situation in your province?

30

Identifying countermeasures

- Following the “drivers analysis”, explore countermeasures:

Existing countermeasures:	Future countermeasures:
<ul style="list-style-type: none"> ➤ measures which are in place and proven to be effective; ➤ measures which the province intends to further extend. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ measures which are in place but need improvement; ➤ measures which have not been practiced yet, but expected to be effective.

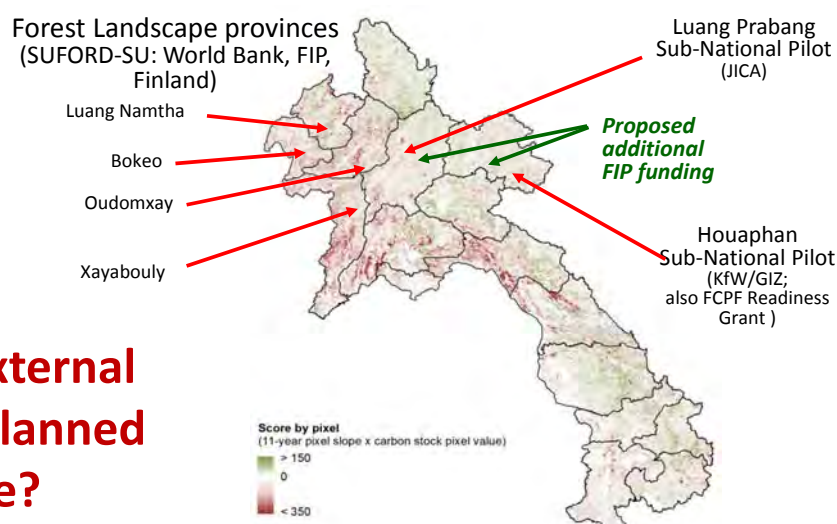
- The proposal envisages, for example
 - National-level policy work and forest and wildlife law enforcement
 - Provincial REDD+ action plans, forest landscape management
 - Certified sustainable forest management (natural forests, small-scale plantations)
 - Participatory forest land use planning
 - Alternative livelihood activities, agroforestry
 - Site-specific forest restoration

What are the countermeasures for your province?

31

Existing/future external support

- Important to have shared understanding on the existing/future external support in the province,
- This will enable to find the gaps, and coordinate to fill the gaps.



What kind of external support exist/planned in your province?

32

Explore non-carbon benefits

- REDD+ is not only about forest carbon – it's a chance to sustainably develop the socio-economy.
- Examples:
 - Poverty alleviation, improved forest governance, participatory land and forest management, gender and ethnic minority inclusive development;
 - Watershed protection, soil conservation, disaster and forest fire risk management;
 - Biodiversity conservation, nature tourism, cultural value.

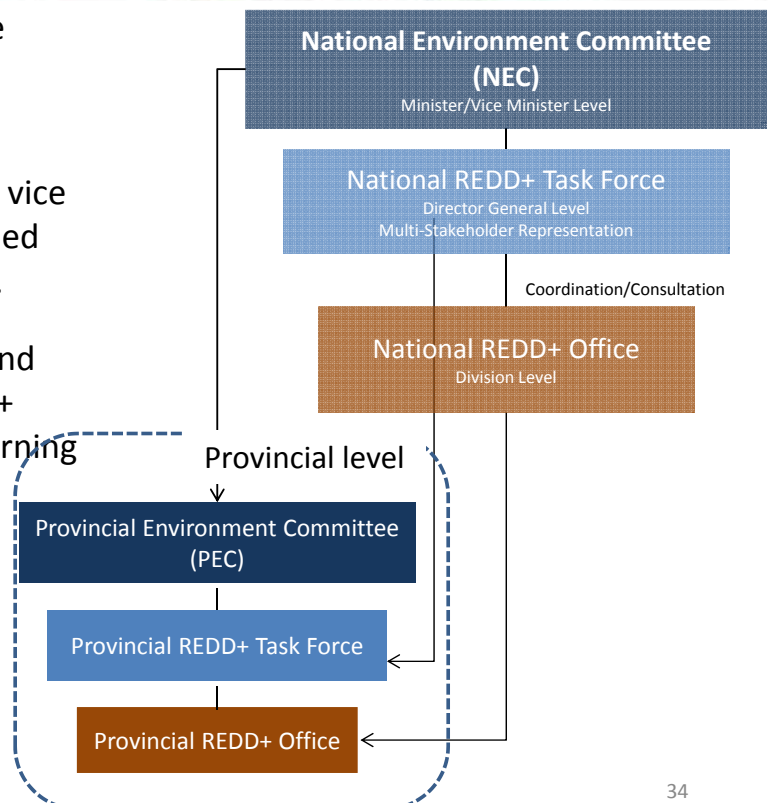
What are the non-carbon benefits that your province wants to explore through REDD+?

33

Institutional arrangement

- MONRE decision to establish the National REDD+ Task Force (No176/MONRE, 2013/10/30)
- MONRE as the chair, MAF as the vice chair, 24 members from concerned ministries, institutes, academics.
- To guide, establish, coordinate and guide the development of REDD+ strategy and legal matters concerning REDD+ framework.

Establish appropriate institutional arrangement at the provincial level



34

Summary

- In summary, by participating in the FCPF Carbon Fund...

Opportunities

- Forest conservation and restoration
- Improved capacity in various aspects
 - Non-carbon benefits
 - Result-based payment

Responsibilities

- Commitment to REDD+
- Inter-agency coordination
- Coordinated action under the national REDD+ framework
- Autonomy and sustainability

- The Carbon Fund payment will be **based on performance (result-based)**.
- **Distribution and use of payment will be subject to the future agreement, as well as the benefit-sharing arrangements of Lao P.D.R.**

The provinces decide whether to participate in the program

35

ຂອບໃຈ!
Thank You!



Introduction to Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project (SFM& REDD+)

Luang Prabang
11 August, 2015
Prepared by F-PREP project



1

Outline

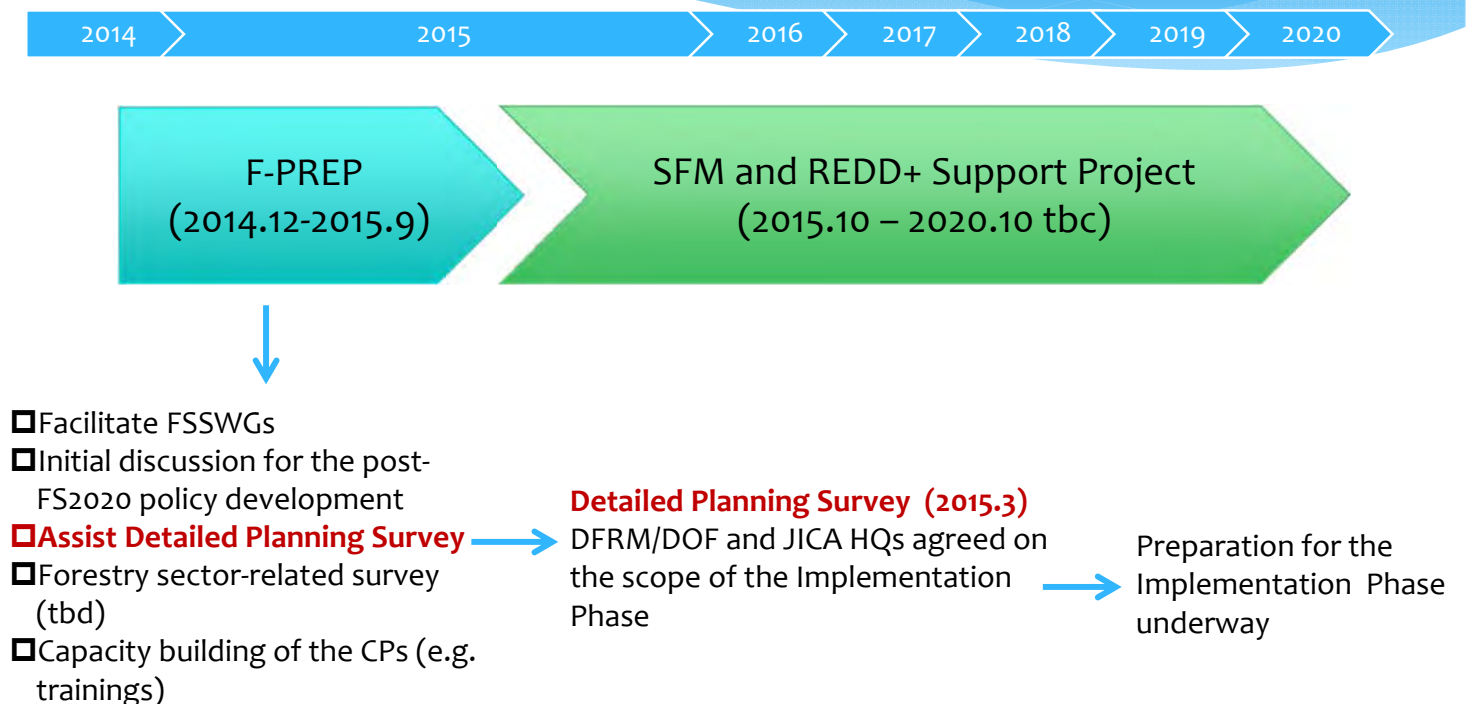
- * Background
- * Project overview
- * Activities in Luang Prabang (Output 4)
- * Key considerations

2

1. Background

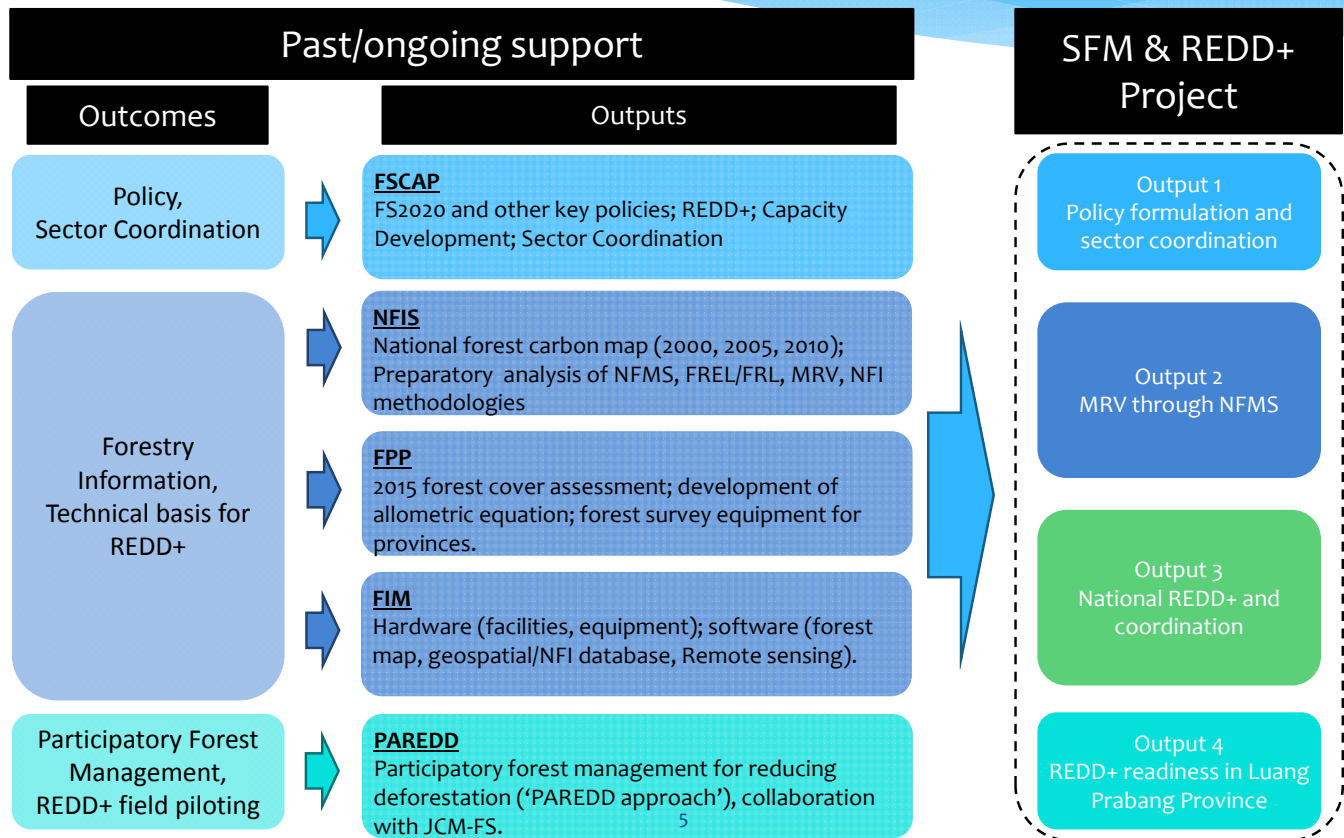
3

Where are we now?



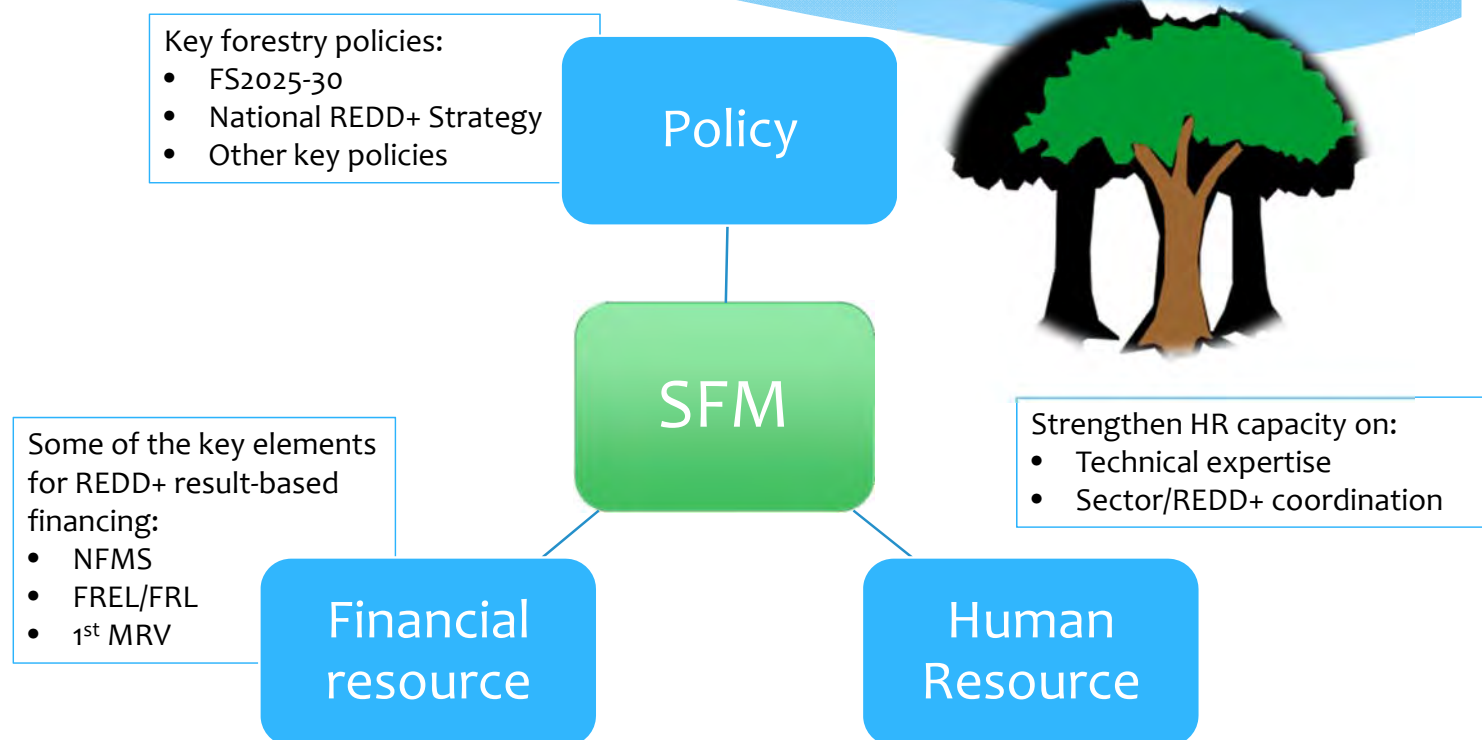
4

Japanese support: past - present - future



2. Project overview

Towards promotion of SFM in Laos...



UNFCCC REDD+ result-based financing requires:

- | | |
|-----------------------|--------------|
| (1) National Strategy | (2) FREL/FRL |
| (3) NFMS | (4) SIS |

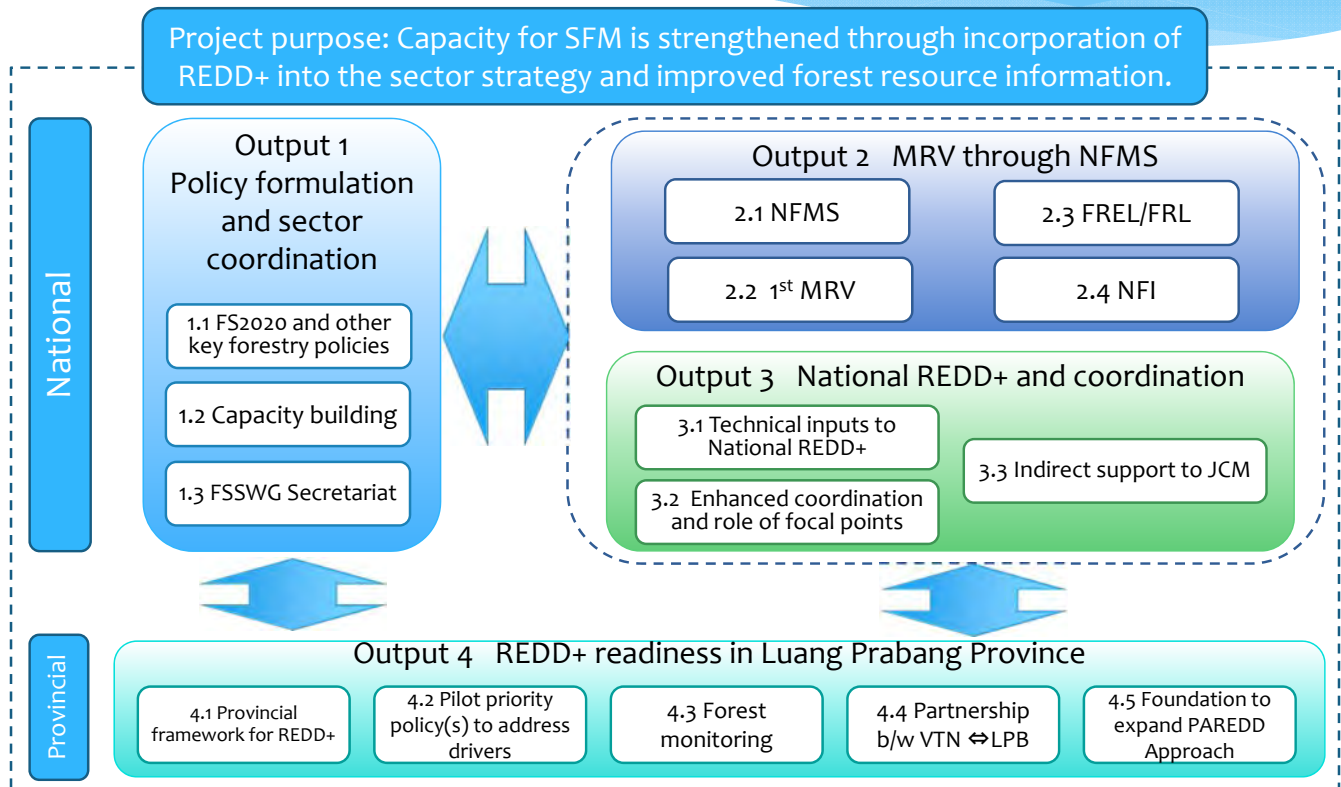
7

General overview and outline

【Project duration】(tbc) 2015.10 - 2020.10	【Project office】(tbc) MONRE, MAF, Luang Prabang
【Implementation structure】 <div> <div><Counterparts> MONRE-DFRM, MAF-DOF, Luang Prabang</div> <div><JICA> Consultants to be mobilized</div> </div>	
【Overall goal】 Sustainable Forest Management is promoted through full implementation of REDD+ and in coordination with the Forest Strategy.	
【Project Objectives】 Capacity for Sustainable Forest Management is strengthened through incorporation of REDD+ into the sector strategy and improved forest resource information.	
【Outputs】 <ol style="list-style-type: none"> 1. Capacity of the central government on policy development, implementation and sector coordination is enhanced. 2. Emission reductions and removals resulting from the implementation of the REDD+ activities are quantified at national scale by using the NFMS. 3. Institutional development, management and coordination of national REDD+ is enhanced. 4. REDD+ readiness in Luang Prabang province is enhanced. 	

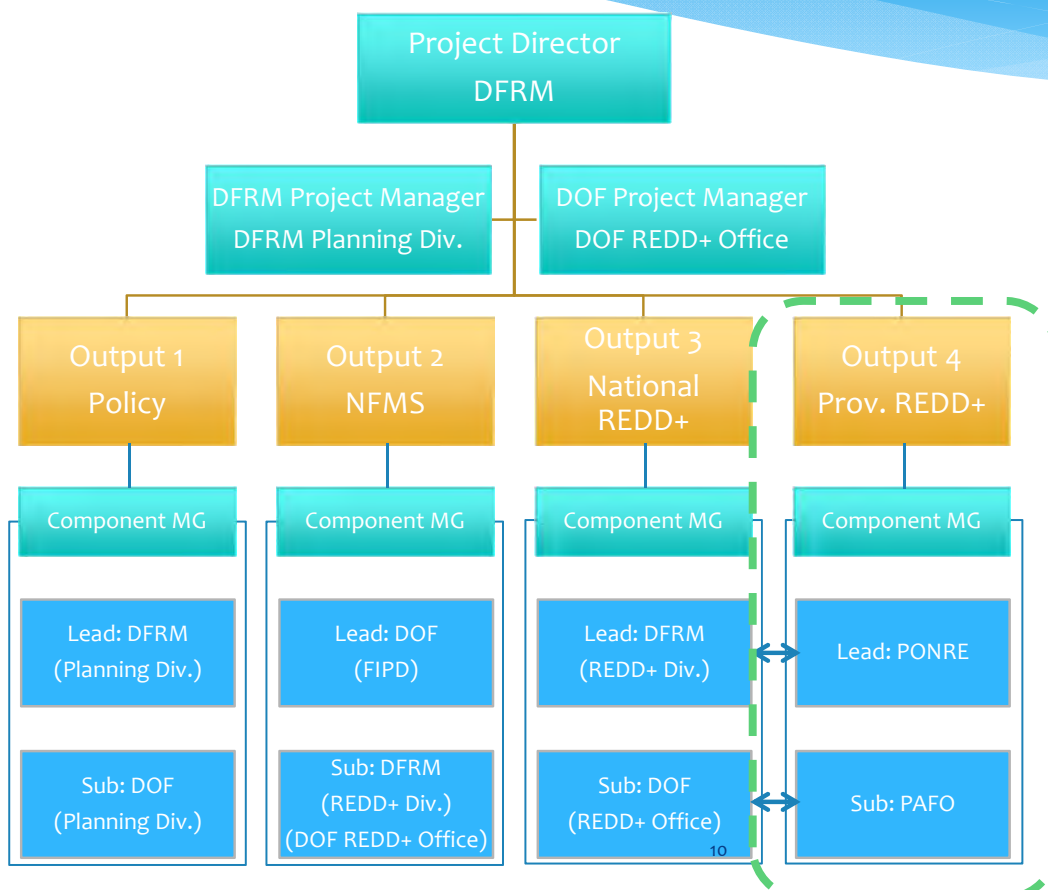
8

Structure of the Implementation Phase



9

Project Organization Chart – Lao side



Collaborate
with JICA
experts/staff

10

3. Activities in Luang Prabang (Output 4)

11

What is expected for Luang Prabang?

- REDD+ is not only about forest carbon – it's a chance to sustainably develop the socio-economy.
- Enhancing 'REDD+ readiness' helps to make use of this chance.
- Tasks of the provincial level need to be defined through learning-by-doing.

Opportunities

- Forest conservation and restoration
- Improved inter-agency coordination
- Capacity development, governance
- Non-carbon benefits
- Result-based payment

Tasks

- Provincial REDD+ Task Force
- Provincial REDD+ office
- Provincial level plan for REDD+
- ... more to be defined...

Enabling environment

- Coordinated action under the national REDD+ framework
- Political commitment
- Autonomy and sustainability

12

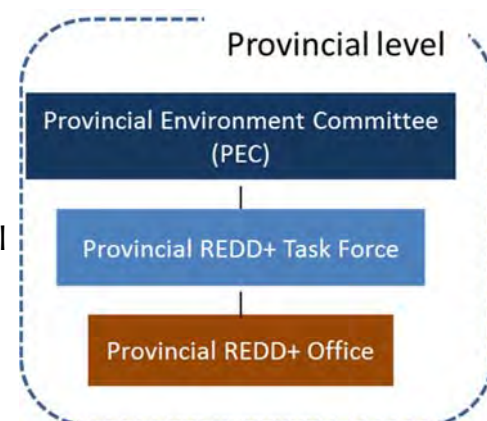
Activities (1)

Output 4

REDD+ readiness in Luang Prabang province is enhanced.

Activity	Result Indicator
4.1 Establish an institutional framework for implementing REDD+ in the province.	Provincial REDD+ Strategy (PRS) approved.

- Institutional arrangement (e.g. provincial REDD+ Task Force).
- Identify the drivers of emissions and removals.
- Develop a REDD+ framework for provincial level 'Provincial REDD+ Strategy' (PRS).
- Capacity building to implement the 'PRS'.



13

Activities (2)

Activity	Result Indicator
4.2 Pilot priority forestry policy(s) to address the drivers of emissions and removals.	Effective policy(s) identified.

- Identify priority forestry policy(s) to address the drivers identified in 4.1
- Pilot identified priority forestry policy(s).
- Evaluate the results of piloting.
- Feedback the evaluated results to the province and the national level.



14

Activities (3)

Activity	Result Indicator
4.3 Pilot forest monitoring as a part of REDD+ monitoring.	Forest monitoring conducted

- Develop the provincial forest monitoring plan.
- Conduct provincial forest monitoring.
- Review and assess the state of the sector.



15

Activities (4)

Activity	Result Indicator
4.4 Promote cooperation on REDD+ between the central level and provincial level.	JCM-REDD+ proposal integrated into the PRS.

- Feedback the lessons from Output 4 to the national level (e.g. NRS, NFMS).
- Foster the understanding on JCM-REDD+.



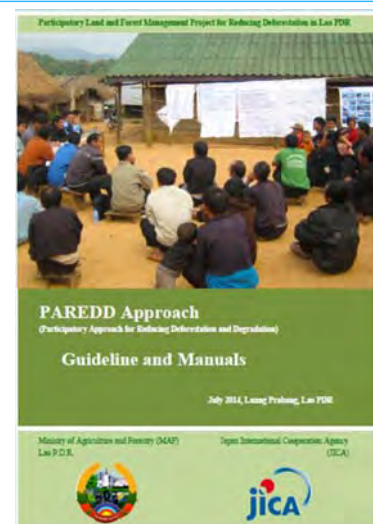
16

Activities (5)

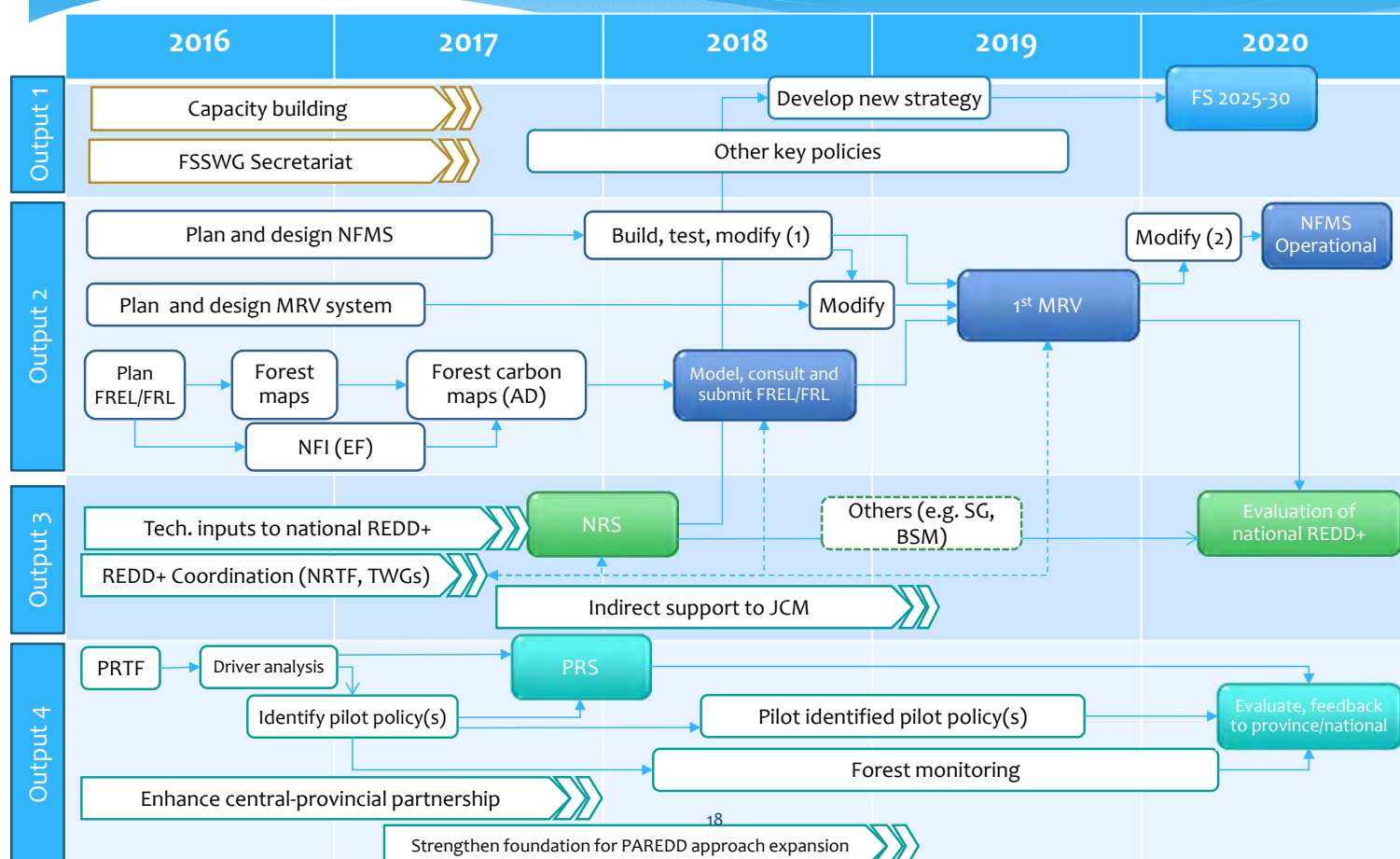
Activity	Result Indicator
4.5.Strengthen the foundation to expand PAREDD Approach.	District staff trained.

- Provide advice to the JCM-REDD+ project proposed.
- Conduct Training of Trainers (ToTs) on PAREDD Approach to other districts.
- Continue field monitoring of PAREDD sites (e.g. VDF) and feedback the lessons
- Assist accessing external funds and other donor projects to extend REDD+ activities including the PAREDD approach.

17



Flowchart and outputs



18

4. Key considerations

19

Key considerations (1)

1. Provincial level coordination

- **‘forestry sector’** – coordinated planning and action within the forestry sector.
- **‘beyond forestry sector’** - coordinated planning and action among different sectors (through the Provincial REDD+ Task Force).
- Need strong **political commitment** to support the process.
- Need thorough awareness raising and capacity building of the stakeholders.

2. Leveraging the actions

- **Harness REDD+ to existing/planned provincial initiatives.**
- **Synergize with other development projects** (e.g. WB/LENS 2, TABI, NUDP, ADB/Livestock, FIP, FAO).
- Explore **result-based financing options** (e.g. Carbon Fund, GCF, JCM)
- JICA project will **not have immediate fund for field-level interventions** (except for piloting policy(s) and forest monitoring).

20

Key considerations (2)

3. REDD+ as a global mechanism – how to localize?

- REDD+ is an **global mechanism** discussed among the countries (UNFCCC).
- **Global ⇔ National ⇔ Provincial** level harmonization is important. This requires close collaboration with the central government.

4. Value as a piloting model

- How provinces should engage in REDD+ still unclear.
- Therefore, Laos need to **acquire experiences through ‘provincial REDD+’ piloting**.
- Luang Prabang expected to be one of the **piloting model**.
- Exchange of experiences with other piloting provinces (i.e. Houaphanh, Champasack) extremely useful.

21

Thank you!

22

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 3 第 3 回 NRTF における発表資料

REDD+ TECHNICAL WORKING GROUPS IN OTHER COUNTRIES

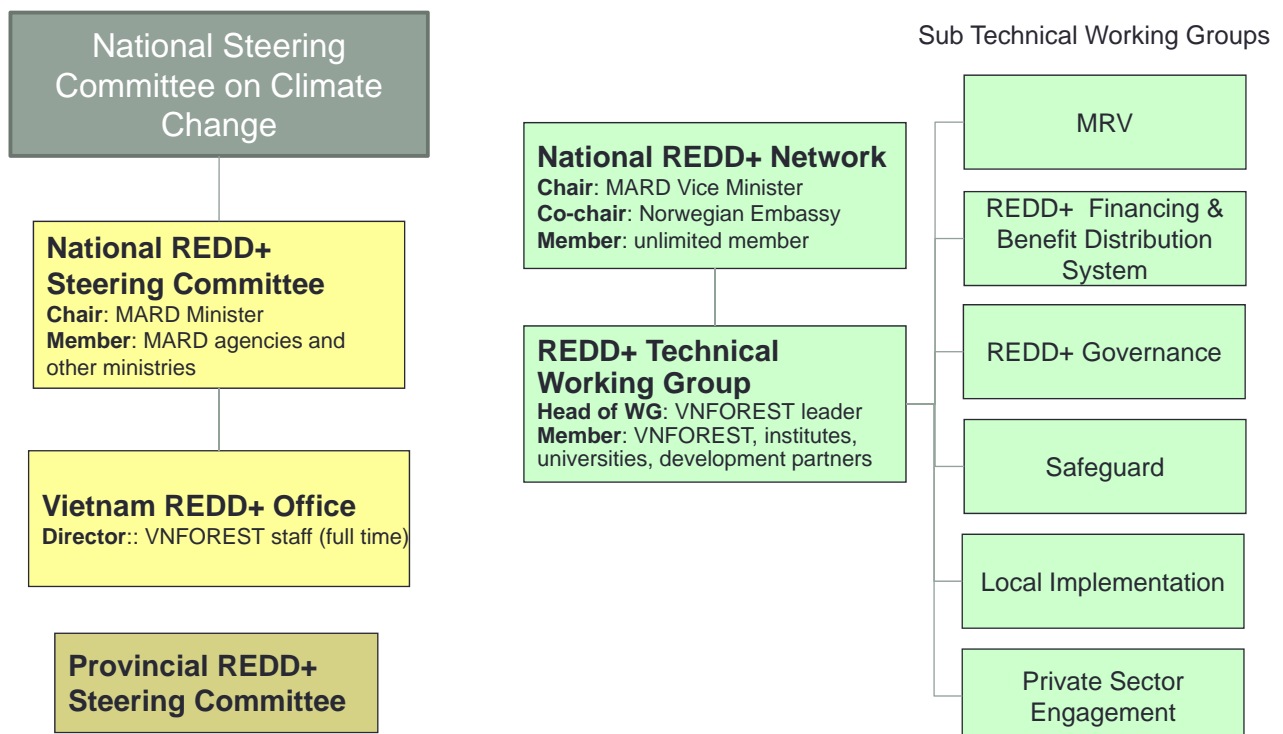
2015/07/09

3rd National REDD+ Task Force meeting

Prepared by JICA F-PREP

2

Vietnam



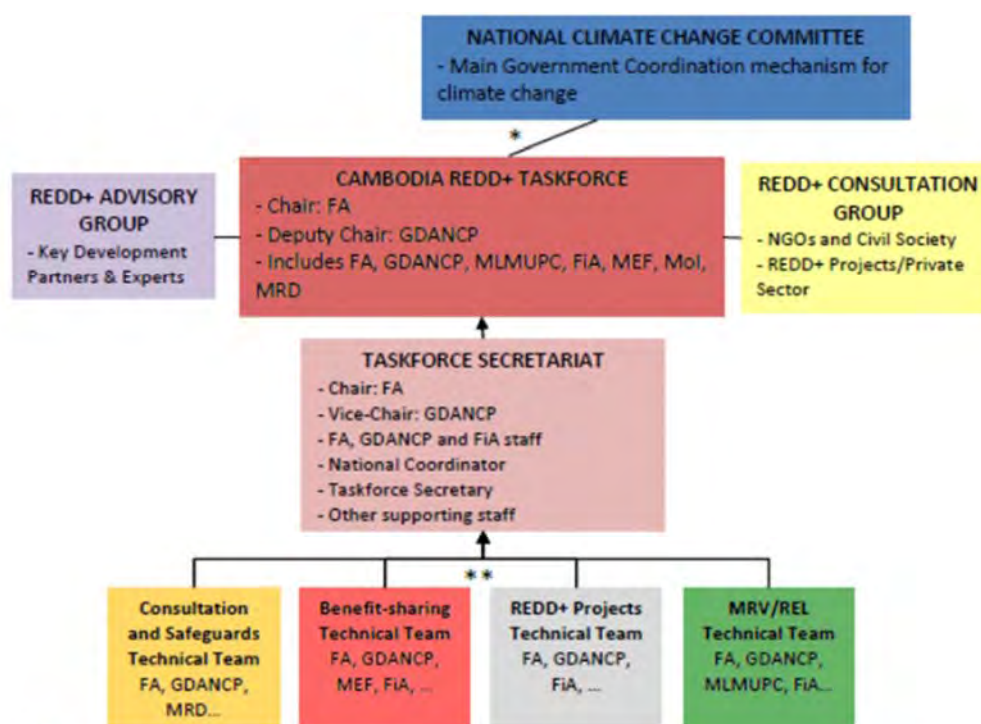
Overview

- There are 6 STWGs covering thematic areas
- Each STWG has its own TOR (some under development)
- Each STWG has its
 - Chair from the government agency
 - Co-chair from development partners
- Operation cost (mostly meeting cost) funded by the co-chair and/or UN-REDD program
- The STWGs report the progress and plan to the National REDD+ Network (1 – 2 times a year)
- Schedule of the STWG meetings and the results (meeting minutes) shared through the REDD+ website and National REDD+ Network mailing list.

Lessons learned

- The activeness differs among the STWGs, due to:
 - Existence of clear targeted topic, goal, work plan
 - Nature of the theme - technical vs institutional
 - Capacity of the chair and co-chair
- REDD+ Technical Working Group has been dormant, due to:
 - Unclear mandate, objective, lack of lead by the government, some overlapping function with the National REDD+ Network
- National REDD+ Network serves as a good mechanism for partnership building and information sharing. However, too broad to discuss anything in detail.

Cambodia



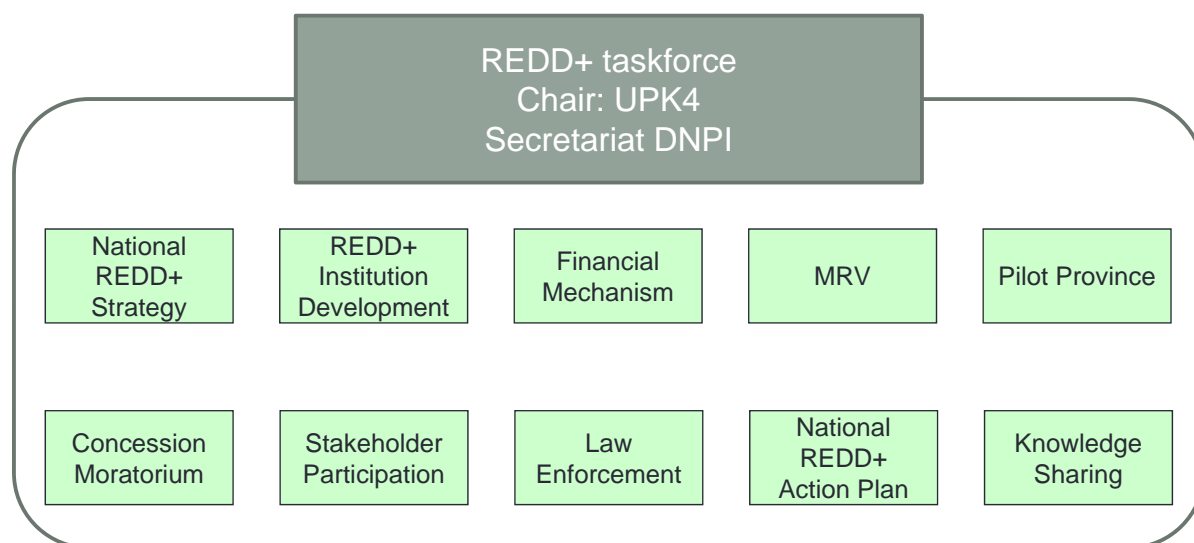
* Represents reports from the Taskforce sent to the NCCC

** Taskforce Technical Teams will include Government and non-Government representatives as appropriate

Overview

- Multi-year work plan is developed and approved by the Taskforce. The development partners provide coordinated support following the Multi-year work plan.
- Taskforce secretariat supported by development partner.
- Taskforce secretariat meets weekly to prepare for events, discuss about procurement and consultant recruitment, and others.
- Each Technical team has its TOR (approved by the Taskforce), members selected by nomination, led by chair and secretary.
- Operation cost of the Technical teams funded by FCPF and/or UN-REDD program.
- REDD+ related information shared through the website.

Indonesia



UPK4: Presidential Working Unit for Supervision and Management of Development
 DNPI: National Council on Climate Change

Source: Indonesian REDD+ Task Force (2012) REDD+ National Strategy

Overview

- It is unclear how the taskforce and the working groups will be framed into the national REDD+ after the government reform.
- Some specific working group reflecting key sector policy (e.g. Concession Moratorium)
- REDD+ Strategy and REDD+ Action Plan --- what is the objective? Only for drafting or also include implementation and monitoring?

Summary and recommendation

1. Establish an **official stakeholder consultation mechanism which includes development partners, CSOs, private sectors and others**. Clarify the inter-relationship with other groups (i.e. NRTF, TWGs).
3. **Thematic areas of the TWGs** may need further consideration. For example TWG on “National REDD+ Strategy” necessary?.
4. **Step wise roll out of the TWGs**. Some TWGs are ready to start (e.g. MRV), while others seem pre-matured (e.g. Safeguard).
5. Develop ‘**Laos REDD+ Roadmap**’ to enhance streamlined and collaborative actions. This can serve as the good basis for the NRTF and TWGs to further define their roles.

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 4 FSSWG 第 1 回会合（FSSWG07）議事録

Record of 7th Meeting of the GOL-Donor Forestry Sub-Sector Working Group (FSSWG) under the Natural Resource and Environment Sector Working Group (NRE-SWG)

1. Time: 08:30-12:15, 3 April 2015
2. Venue: Meeting Room, Department of Forestry (DOF)
3. Chair and Co-chair
Chair: Mr. Khamphanh NANTHAVONG, Director General,
Department of Forest Resource Management (DFRM)
Co-Chair: Ms. Saeda MAKIMOTO, Senior Representative, JICA Laos Office
4. Agenda: Annex 1
5. List of Participants: Annex 2
6. Summary of Discussion

6.1 Lao Forest Investment Program and Early Idea for FCPF-Carbon Fund (CF) presented by Dr. Inthavy Akkharath – Handout 1

Discussion

Mr. Edwin Payuan, SUFORD SU, requested to clarify how systematically consultations will be conducted at national and/or sub-national level in the readiness phase.

Dr. Inthavy replied that at this moment systematic consultations have been mostly at the national level, but each REDD+ related project conducts consultations with local agencies and people.

Dr. Paula Williams, SUFORD SU, added that the FCPF Readiness Project will conduct systematic consultations at various levels. She also provided an outline of FCPF-Carbon Fund (CF) process, which is a result-based payment, and provided the price of around USD5/tCO₂e being negotiated between the countries and the FCPF-CF. If Lao PDR could reduce emission by 1 million tCO₂e per year for 5 years under this program, it would receive USD 5 million in total. Therefore, an appropriate MRV system needs to be in place and investments for forest protection, livelihood improvement, sustainable forest management and so on need to come from the government, donor projects, Forest Investment Program and so on.

Mr. Marc Gross, GIZ, made the following 2 questions. 1. Is there a minimum level of emission reduction target set by the FCPF-CF? 2. Is the calculation of current emission and potential of emission reduction made from any provincial data or other sources?

Dr. Inthavy replied that these figures are from global data-set and more Lao specific carbon stock estimates which are under development will be used in a later stage.

Dr. Paula added that the FCPF-CF would like the supported countries to achieve significant emission reduction, for example, annual reduction of 2 million tCO₂e. In that case, the total reduction for 5 years will be 10 million tCO₂e and the payment of USD 50-60 million, but it looks difficult for Laos to prepare a program with this level. But, this is only an early idea and after receiving comments at the FCPF-CF

meeting in late this month, the idea will be further developed as an Emission Reduction Program Idea Note (ERPIN) of Lao PDR for submission and discussion at the next FCPF-CF meeting in late Oct 2015.

Ms. Akiko, FAO, asked if there is an idea or discussion at this moment on how the fund, if received from the FCPF-CF, will be used. Whether it will be paid to the 6 Provinces as benefits or used as REDD+ investment in other Provinces? This leads to a question of how funds paid by international level will be channelled from central level to Provincial and local levels including farmers. Is there discussion on a national benefit distribution system (BDS)? If not, the discussion on this needs to be started very soon and BDS established in the readiness phase.

Dr. Inthavy replied that the government recognizes the issue of BDS and it would be useful to accelerate and plan discussions on this important issue, once after Laos know when and how much the country can receive from the FCPF-CF.

Mr. Thongsoune, CliPAD, agreed that this is an important issue and without BDS we are not ready for REDD+.

Dr. Paula added that this is something that the national REDD Task Force needs to address. Readiness package, including the BDS, needs to be completed before Laos can sign a carbon procurement agreement with the FCPF-CF. But, the preparation of the ERPIN can proceed in parallel with the readiness preparation, and there will be a fund for the ERPIN preparation once Laos is selected in the pipeline of the FCPF-CF in late Oct this year. ERPIN preparation will take 1.5 or 2 years.

6.2 Updates on government initiatives

(a) Report on NRESW and RTIM meetings in Nov 2014 made by Ms. Phavika KIMANIVONG, Department of Planning and Cooperation (DPC), MONRE, as follows;

- Due to a misunderstanding between DPC and DFRM, a power point presentation is not prepared.
- During the RTIM process 2014, off-track MDGs, esp. forest cover target 65%, have been discussed and clarity of its status and progress was requested.
- At the RTIM 2015 retreat at Landmark Hotel in Mar 2015, a representative from the Ministry of Agriculture and Forestry (MAF) shared that they already reported this issue to the Ministry of Planning and Investment, and as a result, the target will be kept as it is now.
- As for the RTIM 2015 process, there will be a high-level meeting in Oct 2015, earlier than usual, and the first NRESWG meeting is planned to be organized in late Apr 2015 after the Lao New Year.

(b) Outline of draft 8th National Socio-economic Development Plan (NSED) and Introduction of NRE Strategy with focus on forestry presented by Mr. Saly, Director, Planning and Cooperation Division, DFRM --- Handout 2

Discussion

Mr. Noriyoshi Kitamura, F-PREP, reflected that the retreat at Landmark Hotel didn't produce any clear conclusions on the issue of forest cover target. He introduced the handout of comments on 8th NSED prepared by the development partners especially on forestry sector (Handout 3). The comments were sent to both MPI and MONRE with a request for further discussion on these issues. He also mentioned that the draft 8th NSED covers mostly Protection Forests and Conservation Forests which are under DFRM's responsibility, and little focus on Production Forests and village forests under DOF, and thereby requested coordinated planning by both departments.

Mr. Saly replied that achievement of the forest cover target also depends on other sectors, and collaboration with those sectors is a key to success. The current draft 8th NSEDP does not include the areas under MAF's responsibility, but MAF's plan on forestry will be incorporated into the final draft soon.

Mr. Thongphath Vongmany, Director General, DOF, stated that MAF/DOF has already informed MPI that the forest cover target of 65% for 2015 and 70% 2020 will not be changed and this will be achieved through forest protection and rehabilitation of degraded lands as mentioned in the Forestry Strategy 2020. He also stated that the forest definition used by Laos, especially the canopy density - 20% while many other countries use 10%, reflects Lao specific land use, for instance paddy areas with standing trees. If the definition of canopy density - 10% is used, these paddy areas would be wrongly calculated as forests. But the FRA report to FAO will use the definition of canopy density - 10%, which results in higher forest cover rate. He acknowledged that there are many sceptical views about the targets, and also some recommendations to have lower but more realistic ones in response to dynamic land use changes taking place in Lao PDR. However, he confirmed that the Government will maintain these targets and will pay all efforts for achievement. He also shared that with the allocation of 4.5 million ha of land to agriculture and 2.6 million ha to urban and infrastructure areas including 0.5 million ha for reservoir area, it is possible to achieve the targets to rehabilitate 6 million ha of forests and establish 0.5 million ha of plantation forest, which will be added up to the current forest area of 9.5 million ha. As for the forest related figures in the 8th NSEDP, he suggested DPC/DFRM of MONRE to work with DOF/MAF for more correct and coordinated planning.

Ms. Akiko said that forest definition can be defined by countries for themselves, so Laos can have its own definition or combination of Lao and FAO definitions, but an important point is that clear forest definition is provided when setting and discussing forest cover targets.

Dr. Margret Jones Williams, UNDP, stated that as discussed in previous FSSWG Meetings, the forest cover targets need some clarity and the targets need to be realistic. The statement including the details by the DG of DOF should be clearly reflected in the national document, if the GOL is going to keep its position. She also stated that the 2nd National Communication to the UNFCCC submitted by the GOL shows that Laos was a country of a net sink in 1990, but changed to a net emitter in 2000, and the discussion on forest cover should not be limited to percentage cover but on how to reverse this trend to a more positive direction.

Mr. Peter Fugde, BURAPHA/STORA ENSO, asked Margaret whether UNDP considers forest plantation is a part of forest cover or not.

Dr. Margaret replied that in the last FSSWG meeting, there was a reference from the Co-Chair to how Myanmar reported on forest cover, and in that country they separate plantations from natural forests in forest cover assessment. It does not mean that forest plantations do not provide some services that the natural forests do, but it could be good to have them separated as practiced in other countries like Myanmar. The natural forest, whether primary or secondary, provides ecosystem services, which some plantations and tree cover do not. Therefore, the forest definition needs to reflect this and have clarity on this aspect.

Mr. Peter said that it is good to hear UNDP response and forest plantations are definitely part of forests. He also asked DOF's view on this.

Mr. Thnongphath replied that in a FRA meeting in Rome in 2005, which he attended, discussion was whether rubber plantations are forest or not and it was finally agreed that they are forest. In some

countries like Malaysia, forest cover dramatically increased due to the inclusion of rubber plantations into forest cover. Forest plantations are also forest in Laos.

Mr. Scott Stanley, WCS, shared his view that it cannot be allowed to clear natural forests and plant trees, and then claim for forest carbon credits. This is actually contributing to loss of carbon, biodiversity and other values, thus only planting trees on bare land would increase carbon and lead to carbon credits.

Mr. Peter asked DFRM how much budget they estimate for the planned activities, such as regeneration of 120,000 ha by supplementary planting, and how they will be secured.

Mr. Saly replied that budgeting is not done specifically for the implementation of forest regeneration of 120,000 ha. This is to be aimed not only by the forestry sector but by including other sectors. GOL budget is limited, so it is expected that concerned cooperation projects promote forest regeneration in their project areas either in Protection Forests, Conservation Forests or Production Forests.

Mr. Khamphanh, DG, DFRM, added that there are three possible funding sources for forestry activities, especially for forest rehabilitation. First is the Forest and Forest Resource Development Fund (FDF) of GOL, which usually has an annual budget of LAK 15 billion, but the actual revenue is LAK 10 billion. Second is, as Mr. Saly mentioned, various cooperation projects like SUFORD, BCC and so on for promoting sustainable forest management. Third one is development projects/investments, especially hydro-power projects. MONRE/DFRM has been negotiating with various hydro-power investors about their support to forest rehabilitation in their catchment areas, and one new potential is the Nam Ngiep 1 Power Company. They are willing to pay USD 3 million during its construction period and USD 7-8 million in its operation period which will be in total of USD 11 million for watershed management. It is expected that the negotiation on concrete activities and budget will be conclude soon.

Mr. Edwin requested clarification on one of main priorities of NRE Strategy, which is “socialize forest management (for all by all)”.

Mr. Saly replied that it means every stakeholder participate in forest management not only for themselves but also for other stakeholders.

6.3 Introduction of new projects/initiatives

- (a) Report on TOR and consultation of the Village Forestry Working Group (VFWG) workshop, presented by Mr. Somsack Chandara, Deputy Director of Village Forestry and NTFP Division, DOF --- Handout 4a, 4b and 4c**
- (b) Method development for review and re-delineation of boundaries of 3 forest types, presented by Mr. Markus KUKKONEN, SUFORD-SU --- Handout 5**
- (c) Forest Cover Assessment 2015, presented by Mr. Soukanh BOUNTHABANDIT, Deputy Director, Forest Inventory and Planning Division, DOF. --- Handout 6**
- (d) Payment for Forest Ecosystem Services, presented by Dr. Phouphet KYOPHILAVONG, Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos. --- Handout 7**

Discussion, closing

Mr. Thongphath, stated that in addition to the current 3 forest types (i.e. Protection Forest, Conservation Forest and Production Forest), DOF intend to establish another kind of forest administration, which is

“Village Forest”. The villages located inside or near the Production Forests can participate in forest management, and in return, gain benefits from Production Forests, as already articulated in the Presidential Decree 001. Other villages inside the Protection and Conservation forests can also participate in the management of those forests. Approximately 1.6 million ha of forests outside of the 3 forest types can be classified as “Village Forests”, but number of villages are uncertain yet.

He shared from Lao experiences on Participatory Land Use Planning (PLUP) that every village in Laos have forests, however, fragmented and scattered. The lands inside the villages can be used for production activities, and village forest management system can be introduced to the village production forests.

He appreciated the 1.3% forest cover increase as the interim result of the Forest Cover Assessment (FCA), but also pointed out the need of remote sensing results to be verified together with ground truthing, in order to produce the finalize result.

Regarding PES, he shared the idea to enable establishment of a certain fund under the revised forestry law (under drafting), as a contribution fund for forest conservation and rehabilitation. He suggested Dr. Phouphet to highlight in his study that there are still many legal barriers to realize this idea. There are 17 development projects, such as hydropower construction, which have certain fund for reforestation, but the forestry sector is not able to directly access these funds, since the funds go to the MOF first, and then allocated annually to the forestry sector with limited amount.

Peter SCHWAB, Prime Consultant, commented on Mr. Markus’s presentation on review and redelineation of 3 forest types. He agreed on the importance of detecting intact forests as well as fragmented forests, and added that the approach can also consider bringing in the conservation value, in other words the knowledge from conservation biodiversity, since fragmented landscapes can have more biodiversity than intact landscapes, for example from the experiences in Europe. It is important to recognize that fragmented species have higher risks of extinction than those existing in a habitat level.

Dr. Thouthone, Faculty of Forestry, congratulated the increasing trend of forest cover according to the interim results, and also urged the importance of using remote sensing information in conjunction with the ground truthing.

He also stated that PES depends on one’s standing point. For example, elephants may be valuable for conservation purpose, while they can be harmful for farmers.

Markus, responded to the comments from Peter that the analysis software uses the term “protection value”, but this could not be a suitable term, and it could be better to say, for example, “continuously large and unfragmented forest”. He agreed that valuable fragmented habitats do exist. In his opinion, the only problem is the limitation of data in good quantity and quality for Laos to conduct a spatial distribution analysis. SUFORD is doing the 2nd phase of analysis, and expecting to have a biodiversity expert to give inputs on elements that are valuable. Proxy variables, such as human population pressure, amount of deforestation, distance from roads, and so on, are also needed to find out high-risk and low-risk areas.

Esa PUUSTJARVI, SUFORD-SU, added that in addition to the 2nd phase, SUFORD-SU is thinking of a 3rd phase which is to use personal indigenous knowledge and conduct manual checks to find things which people cannot capture from remote sensing. Sets of information obtained from remote sensing which look similar may have different biodiversity values on the ground.

Dietmar BRAEUTIGAM, agreed on the approach of the review and redelineation of 3 forest types, which is starting from the national level and then developing further down to the sub-national levels. The data on

forest fragmentation can also be used as indicators for values other than biodiversity, for example water resource, soil conservation, and other different functions of forest.

He shared his views that the research from Europe may show that fragmented landscapes may have higher biodiversity, but in tropics, usually there are more biodiversity in forests. In Laos, lands outside of forests are mostly maize and cash crops, which don't have much biodiversity. So fragmentation could still be a good indicator for biodiversity.

He also shared his views that village forests in the 3 forest types should fulfil the expected function of each forest type. Outside of this 3 forest types, villages can have their village conservation forests, village protection forests and village use forests together with respective management mechanism. Without such principle, it could be difficult to maintain the original function of the protected forests. Such issues can be further discussed in the VFWG.

Gabriel EICKHOFF, Forest Carbon, raised an idea on 3 forest types in relation with the presentation of the Early Idea note for the FCPF-CF. He thinks that this could be an interesting opportunity to increase liability on REDD+. In REDD+, there is no guarantee and questions on whether focusing on reducing emission from deforestation and forest degradation is a viable approach for Laos. REDD+ could not be viable in Laos without addressing 'reforestation' and 'increasing forest cover'. If Laos only focus on emissions, the result may overlook the potential areas for enhancement. Spatial planning presents opportunities to identify fragmented areas and give those areas a mandate for reforestation by placing them within the conservation zones, not excluding them from the conservation zones. If the focus is only placed on intact forests and exclude the fragmented forests, then the opportunities for enhancement and rehabilitation of those fragmented forests could be lost. The '+' part of REDD+ could be targeted more easily by including fragmented forests into conservation areas and protected areas.

Mr. Thongsoune, appreciated the works done on the VFWG. He recommended that the group will develop a timeframe for its activities in order to have it discussed in the next FSSWG.

Mr. Peter Fugde, commented that FPIC is also important for forest plantation and emphasized the need of FPIC for the villagers to let them understand the different meanings among the forest types. He supported the changes of the forest definition applied in the FCA 2015, but pointed out that the 10cm diameter trees, which could be reached in 3-5 years after the shifting cultivation regrowth, can be gone after two years. So this definition could be a bit risky. He also expressed BURAPHA's interest to participate in finding a viable scheme for PES.

Nelson GAPARE, SNV Laos, introduced SNV's work on two multi-benefit programs: LEAF and ENRICH. He shared SNV's fundamental recognition that the potential of significant amount of carbon payment from avoided deforestation and forest degradation may not be expected in Laos, which is similar to the situation in Vietnam. It requires a shift from REDD to REDD '+', in close relation with renewable energy, agriculture and community engagement. SNV has a program in Attapu where they do forest restoration and enrichment which could be linked to this issue. MB-REDD+ of SNV is developing a recognition that benefits from REDD+ may not be that high, therefore, trying to establish a viable mechanism for the local communities. He thinks that it is a critical time for the country to understand that REDD+ alone may not be the answer.

Mr. Edwin PAYUAN, asked the next steps, timeline, process and direction of the VFWG. He also shared that one of the intentions of the National Assembly on review and redelineation of 3 forest types was to identify possible areas that the villagers can manage.

Regarding land use classification, he asked for clarification on the status of agroforestry in the land use classification, since at one point, agro-forestry was classified as one type of land use, and then it was removed. In the last Land Use Sub-sector Working Group this issue was revived.

Mr. Khamphanh, stated that village forests should be legally recognized and discussed in the land law and the land policy, and the results shall be integrated into the revision of forestry law and associated policies. He also encouraged the VFWG to discuss further on its TOR and present it in the next FSSWG.

Mr. Thongphath, added that the VFWG already came up with its tentative mandate. If the proposed TOR can be further discussed and agreed on, then the VFWG can be officially established as the sub-working group under the FSSWG. This can be done in prior to the next FSSWG meeting.

Ms. Makimoto, Senior Representative, JICA, summarized the meeting as follows:

- More details of the FCPF-CF Early Idea need to be elaborated toward the next CF meeting. Development of some REDD+ mechanisms, for example Benefit Sharing Mechanism (BSM) also need to be considered.
- In the current RTIM process, sub-sector working group is requested to prepare a work plan and submit to the sector working group. Then, each sector working group is requested to submit a work plan to the MPI. Such timeline should be informed among the current development partner's network.
- In relation to the FCA 2015, there seems to be a general consensus on the need of combination of remote sensing and ground truthing for forest survey and monitoring, in order to come up with the correct figure, and decide a realistic target and indicator for the next 5 year plan (8th NSEDP). The 8th NSEDP is scheduled to be submitted to the next National Assembly in June, therefore, it will be useful to have another chance to update everyone with the results of the FCA.
- Tentative TOR for the VFWG was shared. For its official establishment, the TOR needs to be revisited and developed into detail before the next FSSWG.
- PES needs to overcome the legal barriers for its operationalization.

End of document

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 5 FSSWG 第 2 回会合（FSSWG08）議事録

**Record of 8th Meeting of the GOL-Donor Forestry Sub-Sector Working Group (FSSWG)
under the Natural Resource and Environment Sector Working Group (NRE-SWG)**

- 1. Date and time: 19 June 2015 08:15-12:15**
- 2. Venue: Meeting Room, Department of Forestry (DOF)**
- 3. Chair and Co-chair**

**Chair: Mr. Vongdeuane VONGSIHARATH, Director General,
Department of Forest Resource Management (DFRM)**

Co-Chair: Ms. Saeda MAKIMOTO, Senior Representative, JICA Laos Office

- 4. Agenda: Annex 1**
- 5. List of Participants: Annex 2**
- 6. Summary of Discussion**

- 6.1. Report on Carbon Fund meeting in Paris and ER-PIN preparation** presented by Dr.Inthavy Akkharath – Handout 1

Mr. Lorenz Gessner, KfW asked who is actually preparing the Emissions Reduction Program Idea Note (ER-PIN) now.

Ms. Kinnalone Phommasack, DOF REDD+ Office, explained the background that the Government of Lao P.D.R (GoL) received some feedback from the Worldbank colleagues during their trip to Washington D.C, then decided to apply for the FCPF Carbon Fund. The REDD+ Division/DFRM, the REDD+ Office/DOF and several advisors from REDD+ projects, such as SUFORD-SU, CLIPAD, JICA, FAO, are currently generating the ideas and preparing the ER-PIN.

Ms. Paula Williams, SUFORD-SU, added that the ER-PIN is currently prepared by the team which contributed to the preparation of the Early Idea. The FCPF Carbon Fund has a specific template, and the concept with more details need to be filled out by summer. This is ongoing under the lead of Dr. Inthavy, and ideas from other people are welcomed.

Mr. Noriyoshi KITAMURA, F-PREP, also added that as the ER-PIN is currently prepared by the

informal team, it is expected that the National REDD+ Task Force (NRTF) will be held as soon as possible, TWGs established, and this work to be formalized. The ER-PIN needs to be finalized by 11 September.

Katharina Foeldi, Embassy of Germany, asked if there is any news on when the NRTF will meet, since this has been awaited for a long time.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, Director General of DFRM and the Chair of the FSSWG, replied that DFRM is trying to organize the NRTF soon, however, several things, such as the attendee and the lead of the NRTF, need to be clarified beforehand.

6.2. Forestry issue in RTM process, shared by Mr. Noriyoshi Kitamura – Handout 2

Ms. Katharina Foeldi, shared that although she is not certain about the latest deadline, the initial deadline was last week. However, the MPI postponed the deadline in order to receive more comments from the line ministries. If the FSSWG still have comments on the matrix and indicators, such comments should be able to be delivered to the MPI. Once the matrix is finalized, then it will serve as the background document of the high-level Round Table Meeting. All sector working groups need to examine the indicators and prepare a report for its own sector.

Ms. Phavika Kimanivong, Department of Planning and Cooperation (DPC), MONRE, further shared that the DPC received the template from the MPI and worked closely with the DFRM on the inputs. The deadline of the matrix is also unknown to the DPC, but the draft matrix is already submitted to the MPI. The MPI says that they are still waiting for the final version from the MAF, which means, there is still a chance to provide more inputs to the final version.

Dr. Paula Williams, commented on the indicator ‘Illegal trade of timber and wildlife cases published’ that DOFI is not the only actor in law enforcement. There is the army, police and economic police, so many different actors are involved in stopping illegal trade of timber and wildlife. It is not sure how a comprehensive database can be put together from all this different agencies. This indicator is truly what Lao P.D.R would need to address, but achieving this may require some more work.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, confirmed that there is still some time to add inputs before submitting the final draft and report to the MPI. If the FSSWG wants to organize a workshop on this issue, it should be organized very soon.

Mr. Noriyoshi Kitamura, suggested that since organize another workshop takes time, and also the subject is not necessarily related to everyone, in order to be efficient on meeting the deadline, anyone can send comments to him by Wednesday next week, and a small meeting can be organized among those who provided comments to finalize the draft. The results can be shared by email as the final conclusion of the FSSWG.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, agreed on the suggestion from Mr. Noriyoshi Kitamura, and asked him to be responsible for collecting the comments and summarizing the inputs to the draft. The three

departments (i.e. DFRM, DOF and DOFI) will discuss and finalize the draft.

- 6.3. **Report on outcomes of REDD+ at SBSTA 42 in Bonn**, presented by Mr. Khamkene Ounekham – Handout 3

No discussions and Q&As.

- 6.4. **ASEAN Social Forestry Network and discussion**, presented by Mr. Sengrath Phirasack - Handout 4

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, shared that by next week or soon, the Village Forestry Working Group (VFWG) meeting will be organized by the DOF, in order to exchange information and idea on the VFWG. The VFWG will then be established under the FSSWG.

- 6.5. **Institutional capacity building for protected area and protection forest management, and wildlife conservation (LENS2 support to DFRM)**, presented by Mr. Lamphan Kommadam – Handout 5

Ms. Katharina Foeldi, asked the number of protected areas that already have management plans and number of those which still haven't, and whether there is a priority order to address this, since the development partners are always requested to help developing management plans.

Mr. Lamphanh Kommadam, answered that Nam Et - Phou Louey is one of the priority protected areas for developing the management plan, but eventually every protected areas need a management plan. This issue will be explored further after the project is started.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, also agreed on the need of prioritized selection of the target protected areas which will be supported developing its master plan.

- 6.6. **Integrated Conservation of Biodiversity and Forest by DFRM/KfW**, presented by Mr. Dietmar Braerutigam - Handout 6

Ms. Saeda Makimoto, Senior Representative of JICA Laos and the Co-chair of the FSSWG, asked about the project area in Khamuane province where the national road 12 - an economic corridor road linking Bangkok and Hanoi - is included. She wanted to know the mechanism on how this national road is considered under this project among the MONRE, MPWT and other related ministries.

Mr. Dietmar Braerutigam, replied that the project is aware of various development projects. The project will have its first mission to the both sites in July and then update the existing information on the developments project in the two landscapes. It would possibly affect not only the landscape of the central region but also the landscape of the northern region, where hydropower dams are planned and transboundary roads already exist. The project is also aware of the socio-economic development in the region. The project yet have details, thus, expects to use the next few weeks to obtain more details on the situation and evaluate the associated impacts to the aims of this project.

Mr. Noriyoshi Kitamura, asked for any updates from the government partners on the instruction by the office of the national assembly to review and re-delineate the boundaries of 3 forest categories, including reporting back to the national assembly. If the change in boundaries is significant, the basis for planning and activities will be affected. The SUFORD-SU and TABI developed a process on to review and re-delineate the boundaries of 3 forest categories.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, replied that MAF and MONRE are very concerned about this work and currently in the stage to implement the recommendation. The pilot has been conducted by SUFORD and TABI in Luang Prabang province, but the report hasn't be shared yet. A request to the Environmental Protection Fund (EPF) for financial support was not accepted. The GoL is still thinking on how to encourage other development partners on to support this work. Because the 3 forest categories cover more than 70% of the land of the country, implementing this notice requires large financial support and capacity. Now the DFRM and DOFI are collaborating to establish a standing committee or an institutional mechanism, and both departments will continue to collaborate on this issue.

6.7. **Guideline Development for Protection Forest Management Planning under FPP**, presented by Mr. Takayuki Namura – Handout 7

No discussions and Q&As.

6.8. **Progress in FLEGT process**, presented by Mr Keophouvong Chanthapanya – Handout 8

Ms. Katharina Foeldi, commented that the German government provides EURO 6M to this process and is happy to hear this week that the prime minister actually approved the process. This is a good signal, and at the same time, she hoped the work will continue and the negotiation process can start sometime this year.

Dr. Inthavy Akkharat, raised the need to further discuss how the FLEGT and REDD+ should cooperate in law enforcement, since issues such as illegal logging and wildlife trade are also important for REDD+. He suggested DOFI to further consider the way of cooperation with the DFRM and DOF.

6.9. **Lao PDR National Reporting to the Forest Investment Programme**, presented by Dr. Paula Williams – Handout 9

Dr. Inthavy Akkharath, before going to the discussion on FIP, he asked for feedbacks to his presentation on the FCPF Carbon Fund. He particularly asked the opinions of the FSSWG on whether Lao P.D.R should go ahead with the Carbon Fund. Institutional readiness is especially a challenge and for example, the NRTF has been postponed a long time. As he needs to prepare a comprehensive report to explain about REDD+ and the FCPF Carbon Fund to the policy makers, he welcomed feedbacks any time.

Mr. Saly Singsavanh, Planning and Cooperation Division, DFRM, by referring to the last slide ‘Moving Forward’, asked when the Readiness Package will be completed and who will be the signer of the Readiness Package?

Dr. Inthavy Akkharath, explained that country needs to complete the readiness before the national, provincial and district level start to implement REDD+ projects. The country also need to have the TWGs to support evaluation, benefit sharing, and others in place, before more receiving more REDD+ projects.

Dr. Paula Williams, added that the Carbon Fund and the Readiness Grant are both managed by the FCPF. Any country who wants to apply for the Carbon Fund payment needs to complete the Readiness Package. The DOF is the implementing agency of the Readiness Grant and the project will support readiness, such as the National REDD+ Strategy.

Readiness involves stakeholder consultation, SESA, institutional arrangement and so on. After the ER-PIN is accepted to the pipeline of the Carbon Fund, then USD 650,000 will disbursed for the development of Emission Reductions Program Document (ERPD) through 1.5-2 years period.

The Carbon Fund is available on competitive basis, and was originally agreed to run up to 2020, but recently agreed to be extended to 2025. The Carbon Fund is a different approach for result based payment, and it wants to decide soon on which countries will be involved. There are 11 countries currently selected in the pipeline, and 9 more countries wanting to be included into the pipeline. Lao P.D.R needs to prepare the ER-PIN quickly, and to be assessed in the October meeting in Paris.

Mr. Saly Singsavanh commented that following its TOR, the NRTF should be invited into the discussion in the future, as a venue to explain to the higher-level on the REDD+ benefits and so on.

--- Presentation by Dr. Paula Williams---

Dr. Inthavy Akkharath, as the national focal point of Forest Investment Programme (FIP), requested to receive comments from the DOF as the implementing agency of the program.

Dr. Paula Williams explained that the scoring was done together with other SUFORD members, Mr. Bounpone and other people from DOF, and some people from the WB in a small workshop.

Dr. Inthavy Akkharath, also added that if DOF was involved in the scoring, then we can consider this

as the agreed scoring.

Mr. Noriyoshi Kitamura, proposed that although this meeting was expected to discuss and endorse the report, since the participants are shared with the scoring and indicators only now due to the limited time, the FIP team can distribute the report for comments and regard it as the endorsement process.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, concluded that the report should be shared to the FSSWG members by email with a deadline for receiving feedbacks. The report needs to be submitted to the FIP by the end of this month.

Ms. Katharina Foeldi, commented from her experiences in other SSWGs, that it would be useful to share the draft beforehand if the FSSWG meeting is expected to be an approval process.

Dr. Inthavy Akkharath, ensured to circulate the document with a deadline.

6.10. Chairs summary and closing

Ms. Saeda Makimoto, as the co-chair, summarized the meeting as follows:

- Thanks to the active participation and discussion, the meeting was informative and result-oriented;
- In the future meetings, it is suggested to reduce the number of presentations, spare more time for discussions, and share the meeting materials beforehand especially when endorsement is required;
- Congratulates the related members for giving green right to proceed on the FCPF Carbon Fund proposal;
- At the same time, in order to establish the institutional mechanisms as soon as possible, for example the TWGs, the related departments are requested to discuss the details and propose to the FSSWG to ensure the 11 September deadline is met;
- Regarding the RTM, the FSSWG needs to collaborate with the NRESWG, the secretariat shall receive comments to the draft matrix by next Wednesday, and additional meeting will be held if necessary to finalize the matrix.
- As the preparation for the RTM, the forestry sector needs to compile the sector progress report by August or September in coordination with the NRE sector, and the next meeting can discuss on the way of reporting.

Mr. Vongdeuane Vongsiharath, as the chair, concluded as follows:

- Although the time was limited for detailed discussion, the meeting achieved its objectives;

- The FSSWG is supposed to be a quarterly delivery according to the TOR, so the next meeting will be scheduled in September, and the chair, co-chair and the secretariat will discuss the topics for the next meeting.

End of the document

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 6 本格フェーズ Record of Discussion (R/D)

RECORD OF DISCUSSIONS

ON

SUSTAINABLE FOREST MANAGEMENT AND REDD+ SUPPORT
PROJECT

IN

THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC


AGREED UPON BETWEEN

MINISTRY OF NATURAL RESOURCES AND ENVIRONMENT

AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

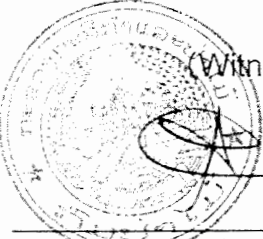

Vientiane Capital, 1st July 2015



Mr. Yusuke MURAKAMI
Chief Representative,
Laos Office,
Japan International Cooperation
Agency



Mr. Vongdeuane VONGSIHARATH
Director General,
Department of Forest Resource
Management
Ministry of Natural Resources and
Environment



(Witness)

Mr. Thongphath VONGMANY
Director General,
Department of Forestry
Ministry of Agriculture and Forestry

In response to the official request of the Government of the Lao People's Democratic Republic (hereinafter referred to as "GOL") to the Government of Japan, the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Department of Forest Resources Management, Ministry of Natural Resources and Environment of GOL (hereinafter referred to as "DFRM") and relevant organizations have been collaborating on the preparation phase of the Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project (hereinafter referred to as "the Project", and formerly called as the "Forestry Sector Policy Strategy for Sustainable Forest Management and REDD+ Promotion Project") since 9 December 2014.

Up to now, JICA, DFRM and relevant organizations held a series of discussions in order to develop a detailed plan for the full implementation phase of the Project. As a result, both parties agreed the details of the full implementation phase of the Project as outlined herewith, with its expected duration for 5 years from October 2015, and the main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2 respectively.

Both parties also agreed that DFRM, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, and coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of Lao P.D.R.

The Project will be implemented within the framework of the Agreement on Technical Cooperation signed on 12th December 2003 (hereinafter referred to as "the Agreement") and the Note Verbales exchanged on 19th May 2014 between the Government of Japan (hereinafter referred to as "GOJ") and GOL.

Present Record of Discussion, which was signed on 16th September 2014 will be expired upon signing of this Record of Discussion.

Appendix 1: Project Description

Appendix 2: Main Points Discussed

PROJECT DESCRIPTION

I. BACKGROUND

Lao P.D.R experienced rapid deforestation and forest degradation for decades. Forest cover in national territory for instance dropped from more than 70% in 1940's to 40% in 2010. Nine drivers of deforestation and degradation of forest were identified in the Readiness Preparation Proposal (R-PP) for Forest Carbon Partnership Facility (FCPF), i.e. fire, unsustainable wood extraction, pioneering shifting cultivation, agriculture expansion, industrial tree plantation, mining, hydropower, infrastructure development and urban expansion, although the magnitude of deforestation of each of these drivers is not well studied.

Such serious deforestation and degradation of forest leads to adverse effects for micro and macro economy of Laos. Majority of the rural population directly rely on forest for food, water, energy, cash income and building material as well as pasture for cattle raising. Hydropower, which is one of the major sources for government revenue, also depends heavily on the function of forest as a mean for soil and water conservation. For such reasons, forest is crucial for sustaining the socio-economy of Laos, and at the same time, the country is vulnerable to the impacts of deforestation and degradation of forest.

Responding to such serious condition over forest in Laos, the Government of Laos (GOL) adopted the "Forest Strategy to the year 2020" (FS2020) in 2005. The FS2020 defines achieving 70% of forest cover by 2020 as its main target, and a set of actions for specific areas and cross-cutting issues, with responsible department for each action. At the same time, with bilateral and multilateral assistance, a number of countermeasures have been undertaken both in field level and in policy development, including "Reducing Emission from Deforestation and Forest Degradation including Forest Conservation, Sustainable Forest Management and Carbon Stock Enhancement in Developing Countries" (REDD+).

Among such efforts, the Government of Japan (GOJ) has been supporting the forestry sector from the central to the local levels through four projects, i.e. Forestry Sector Capacity Development Project (FSCAP) terminated in September 2014, Participatory Land and Forest Management Project for Reducing Deforestation in Lao P.D.R (PAREDD) to be completed in mid-August 2015, Forest Preservation Program (FPP) to be completed in June 2016, and Project on Capacity Development to Establish National Forest Information System for Promoting Sustainable Forest Management and REDD+ (NFIS) to be completed in September 2015.

Japan has been supporting core issues in forestry sector for a long time,

including National Forest Information System, which forms a backbone of all information related to forest. It is rational, therefore, that Japan will play a central role in coordination on Measuring, Reporting and Verification (MRV), development of Reference Emission Level (REL) and other elements of REDD+, in addition to forest policy development and implementation in general.

The FS2020 defines the concrete targets of forest coverage as 65% in 2015 and 70% in 2020. The achievements against the targets should be verified and reported to the National Assembly, based on the forest cover assessment. Forest Resource Assessment 2020 by FAO will require a report on general information about the forest resources from every country, based on the latest information. To meet these demands, capacity of forest administrations for forest inventory and information management system at the national level is an urgent need for DOF and DFRM.

The United Nation's Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) envisages a new framework succeeding to the Kyoto Protocol to enter into force in 2020, and REDD+ mechanism will be mainstreamed into the new framework. As a party to the UNFCCC, Lao P.D.R should be ready for the submission of comprehensive and reliable data including emissions from deforestation and degradation of forest as well as removal of carbon dioxide.

The GOL and the GOJ have been discussing the Joint Crediting Mechanism (JCM) for mitigation of climate change, which creates opportunities for Laos to reduce emissions of Green House Gases (GHG) by investments from Japanese private sector. Since this is a newly developed mechanism, official procedures, rules and technical guidance should be developed and operationalized, while central and provincial authorities must have capacity to manage REDD+ projects properly.

Given such circumstances, the GOL requests the GOJ to support a new strategic project addressing key challenges in the forestry sector which Lao P.D.R is facing.

II. OUTLINE OF THE PROJECT

Details of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex 1-II) and the tentative Plan of Operation (Annex 1-II).

1. Input

(1) Input by JICA

(a) Dispatch of Experts

Chief Adviser, Project Coordinator, Forestry Policy, Forest Information System, REDD+ Strategy, REDD+ implementation, Remote Sensing, Forest Inventory, Carbon Accounting, Database Management

(b) Training

Training courses in Japan and/ or third countries

(c) Machinery and Equipment

Input other than those indicated above will be determined through mutual consultations between JICA ,DFRM and DOF during the implementation of the Project, as necessary.

(2) Input by DFRM

DFRM will take necessary measures to provide at its own expense:

- (a) Services of DFRM's counterpart personnel and administrative personnel as referred to in II-6;
- (b) Suitable office space with necessary equipment;
- (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA;
- (d) Means of transport and travel allowances for the JICA experts for official travel within GOL;
- (e) Suitable furnished accommodation for the JICA experts and their families;
- (f) Information as well as support in obtaining medical service;
- (g) Credentials or identification cards;
- (h) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project;
- (i) Running expenses necessary for the implementation of the Project;
- (j) Expenses necessary for transportation within GOL of the equipment referred to in II-5 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof; and
- (k) Necessary facilities to the JICA experts for the remittance as well as utilization of the funds introduced into GOL from Japan in connection with the implementation of the Project

(3) Input by DOF

DOF will take necessary measures to provide at its own expense:

- (a) Services of DOF's counterpart personnel and administrative personnel as referred to in II-6;
- (b) Suitable office space with necessary equipment
- (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA;
- (d) Means of transport and travel allowances for the JICA experts for official travel within GOL;
- (e) Suitable furnished accommodation for the JICA experts and their families;
- (f) Information as well as support in obtaining medical service;
- (g) Credentials or identification cards for the experts working for DOF;
- (h) Available data (including maps and photographs) and information related

to the Project;

- (i) Running expenses necessary for the implementation of the Project;
- (j) Expenses necessary for transportation within GOL of the equipment referred to in II-5 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof; and
- (k) Necessary facilities to the JICA experts for the remittance as well as utilization of the funds introduced into GOL from Japan in connection with the implementation of the Project

2. Implementation Structure

The Project organization chart is given in the Annex 1-III. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) DFRM, Ministry of Natural Resource and Environment

(a) Project Director

- Deputy Director General of DFRM, Ministry of Natural Resource and Environment shall be assigned as the Project Director.
- Project Director will be responsible for overall administration and implementation of the Project.

(b) Project Manager

- Division Head of the Planning and Cooperation Division, DFRM, Ministry of Natural Resource and Environment shall be assigned as the Project Manager.

(2) DOF, Ministry of Agriculture and Forestry

(a) Project Manager

- Head of the REDD+ Office, DOF, Ministry of Agriculture and Forestry shall be assigned as the Project Manager.

(3) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the counterparts in DFRM and DOF on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(4) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to facilitate efficient planning, smooth implementation and inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and whenever deems it necessary. JCC will approve the annual work plan, review overall progress, conduct evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in the Annex 1-IV.

3. Project Site(s) and Beneficiaries

Direct beneficiaries

Main target groups of the project: DFRM, DOF, and PONRE/PAFO in Luang Prabang Province.

4. Duration

Five (5) years from the first arrival of the JICA experts for the full implementation phase to Lao P.D.R.

5. Reports

The project will prepare final report and necessary reports related to the project.

6. Environmental and Social Considerations

DFRM agreed to abide by 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations' in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

III. UNDERTAKINGS OF DFRM AND GOL

DFRM and GOL will take necessary measures to:

- (1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Lao People's Democratic Republic nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Lao People's Democratic Republic, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of Lao People's Democratic Republic from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project; and
- (2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in II-5 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in the Lao People's Democratic Republic.

IV. MONITORING AND EVALUATION

JICA and the DFRM will jointly and regularly monitor the progress of the Project through the Monitoring Sheets based on the Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO). The Monitoring Sheets shall be reviewed every six (6) months.

Also, Project Completion Report shall be drawn up one (1) month before the termination of the Project.

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, DFRM will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of Lao P.D.R.

VI. MISCONDUCT

If JICA receives information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project, DFRM and relevant organizations shall

provide JICA with such information as JICA may reasonably request, including information related to any concerned official of the government and/or public organizations of the Lao People's Democratic Republic.

DFRM and relevant organizations shall not, unfairly or unfavorably treat the person and/or company which provided the information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project.

VII. MUTUAL CONSULTATION

JICA and DFRM will consult each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VIII. AMENDMENTS

The Record of Discussions may be amended by a Minutes of Meetings between JICA and DFRM with witness by DOF.

A Minutes of Meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.

Annex 1-I Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)

Annex 1-II Tentative Plan of Operation

Annex 1-III Project Organization Chart

Annex 1-IV A List of Proposed Members of the Joint Coordinating Committee

MAIN POINTS DISCUSSED

- The project needs to be implemented under good collaboration of DFRM and DOF. Both DFRM and DOF will take roles and make necessary inputs to achieve the project goal.
- The Project is expected to contribute to mitigation of and/or adaptation to climate change through promoting sustainable forest management and REDD+.
- The project needs to be implemented in line with the REDD+ roadmap (draft) as attached to the Minutes of Meetings on 31st March 2015. It is also confirmed that the government of Lao P.D.R will finalize the REDD+ roadmap in the early stage of the project.
- It is confirmed that the PONRE of Luang Prabang will lead the Output 4 of the project in collaboration with PAFO of Luang Prabang. As the lead of the Output 4, PONRE of Luang Prabang is also requested to provide the inputs described under "5. Inputs" of the R/D.

Project Design Matrix

Project Title: Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Implementing Agency: DFRM-MONRE, DOF-MAF, PONRE and PAFO of Luang Prabang Province

Target Group: Government staff of the implementing agencies

Period of Project: 5 years from 2015

Project Site: Vientiane capital and Luang Prabang (LPB) Province

Version: draft 0

Dated 2015/06/16

ANNEX 1-1

Narrative Summary			
Overall Goal	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Sustainable Forest Management is promoted through full implementation of REDD+ and in coordination with the Forest Strategy.	1. REDD+ MRV periodically reported through BURs.	1. National MRV report through BURs.	
	2. SFM shows progress in line with the revised FS 2020.	2. [assess against the targets of the revised FS2020].	
	3. Forest cover in Luang Prabang increased xx % from year xxxx and thereby contribute to the FS implementation.	3. Comparison of forest cover.	
Project Purpose	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Capacity for Sustainable Forest Management is strengthened through incorporation of REDD+ into the sector strategy and improved forest resource information.	1. Revised FS2020 approved.	1. Approval document.	Laos is equipped with the UNFCCC requirements for REDD+ result-based financing (i.e. National REDD+ Strategy, FREL/FRL, NFMS, SIS). NFMS is in constant operation based on the Operational Plan. Importance of forest conservation is supported, and necessary resources are secured. Negative impacts external to the forestry sector are effectively controlled and managed.
	2. NFMS operational in compliance with the UNFCCC.	2. Approval document of NFMS Operational Plan.	
	3. Based on the information generated by the NFMS, effectiveness of REDD+ activities is evaluated among the stakeholders (e.g. MONRE, MAF, Local Government, Development Partners) through a consultative process.	3. Evaluation summary submitted to the NRTF.	
	4. Results of activities in LPB province are utilized for the formulation of national forestry/REDD+ policies.	4. Feedback workshop report.	

Outputs	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
1. Capacity of the central government on policy development, implementation and sector coordination is enhanced. 1.1. Support development of forestry related regulations and policies. 1.2. Conduct capacity building sessions for targeted technical areas (e.g. PES, NFMS, REDD+). 1.3. Support sector coordination.	1. Role of REDD+ incorporated into the revised FS2020. 2. [number] counterparts are trained through Off-the-Job trainings. 3. FSSWGs held every quarter.	1. Verification of the revised FS2020. 2. Training session reports. 3. Working Group reports.	Administrative structure of the sector remains unchanged, or the impact of change does not substantially risk the achievement of outputs.
2. Emission reductions and removals resulting from the implementation of the REDD+ activities are quantified at national scale by using the NFMS. 2.1. Support development of the NFMS. 2.2. Support the 1 st national MRV for REDD+ by using the NFMS. 2.3. Support development of the national FREL/FRL. 2.4. Support the next National Forest Inventory (NFI) scheduled in 2016-2017.	1. NFMS developed. 2. The 1st national MRV results reported to the national entity or focal point by using the NFMS. 3. The national FREL/FRL developed and submitted to the national entity or focal point. 4. Results of the NFI summarized.	1. Completion report of the 2 nd modification. 2. 1 st national MRV report by DFRM/DOF. 3. FREL/FRL submission by DFRM/DOF. 4. NFI (2016 - 2017) report.	GoL decides to submit the 1 st national MRV report to the UNFCCC. GoL decides to submit the FREL/FRL to the UNFCCC.
3. Institutional development, management and coordination of national REDD+ is enhanced. 3.1. Provide technical inputs to the national REDD+ policies and institutions. 3.2. Support coordination role of DFRM and DOF in national REDD+. 3.3. Provide indirect support to JCM-REDD+ following its progress.	1. National REDD+ Strategy approved. 2. "xxx" TWG co-chaired by the Project operational following the developed TOR. 3. Recommendations made to the JCM-REDD+ Joint Committee along with the bilateral negotiation.	1. Approval document. 2. "xxx" TWG report. 3. Input records from the REDD+ focal point to the JCM Joint Committee.	National REDD+ Strategy is approved without delay (expected within 2017). Administrative structure of REDD+ remains unchanged, or the impact of change does not substantially risk the achievement of outputs.
4. REDD+ readiness in Luang Prabang province is enhanced . 4.1. Establish an institutional framework for implementing REDD+ in the province. 4.2. Pilot priority forestry policy(s) to address the drivers of emissions and removals. 4.3. Pilot forest monitoring as a part of REDD+ monitoring. 4.4. Promote cooperation on REDD+ between the central level and provincial level. 4.5. Strengthen the foundation to expand the PAREDD Approach.	1. Provincial REDD+ Strategy (PRS) approved. 2. Policy (s) effective to address drivers identified. 3. Provincial forest monitoring conducted. 4. JCM-REDD+ under proposal by a private entity integrated into the PRS. 5. 9 districts not supported by PAREDD have at least 4 officers/district trained in PAREDD Approach.	1. Approval document. 2. Evaluation report of the piloting results. 3. Monitoring report. 4. Verification of the PRS. 5. Training records.	

Activities	Inputs		Important Assumption
	Japanese side	Laos side	
<p>1. Capacity of the central government on policy development, implementation and sector coordination is enhanced.</p> <p>1.1. Support development of forestry related regulations and policies</p> <p>1.1.1. Agree on the orientation of FS2020 revision.</p> <p>1.1.2. Support FS2020 revision following the orientation agreed on and by incorporating the National REDD+ Strategy.</p> <p>1.1.3. Facilitate coordinated support to the policy needs of GoL through FSSWG framework.</p> <p>1.1.4. Based on 1.1.3 above, support development of other key policies (e.g. By-laws to the Forestry Law) (REDD+ related policies will be dealt with under Output 3).</p> <p>1.1.5. Feedback the results of policy piloting in Luang Prabang to the national policy.</p> <p>1.2. Conduct capacity building sessions for targeted technical areas (e.g. PES, NFMS, REDD+).</p> <p>1.2.1. In coordination with other stakeholders, conduct in-country trainings on the related fields.</p> <p>1.2.2. Conduct trainings in Japan and third countries.</p> <p>1.2.3. In coordination with other stakeholders, support participation of the counterparts to international conferences and workshops.</p> <p>1.3. Support sector coordination.</p> <p>1.3.1. Support the function of the FSSWG secretariat (e.g. information sharing, policy dialogues, stakeholder coordination).</p> <p>1.3.2. Support organization of FSSWG meetings (quarterly).</p> <p>1.3.3. Promote synergizing the FSSWG and the NRESWG, and other initiatives (e.g. through RTIM process).</p>	<p>1. Team of Japanese experts and national experts (tbd) Chief Adviser, Project Coordinator, Forestry Policy, Forest Information System, REDD+ Strategy, REDD+ implementation, Remote Sensing, Forest Inventory, Carbon Accounting, Database Management</p> <p>2. Equipment and Machinery To be further discussed</p> <p>3. Training To be further discussed</p> <p>4. Project Operation cost To be further discussed</p>	<p>1. Counterpart personnel (tbd) Project Director Project Manager –DFRM Project Manager –DOF Component Manager for each output Component team member for each output</p> <p>2. Office and equipment Office room(s) in DFRM, DOF, Luang Prabang</p> <p>3. Project Operation Cost To be further discussed</p>	<p>GoL commits to progress the revision of FS2020, and development of other policies also progress as scheduled.</p>

2. Emission reductions and removals resulting from the implementation of the REDD+ activities are quantified at national scale by using the NFMS.

2.1. Support development of the NFMS.

- 2.1.1. Decide the NFMS development plan.
- 2.1.2. Decide the scope, institutional arrangement and operational process.
- 2.1.3. Build the physical system based on the NFIS prototype.
- 2.1.4. Test-run and modify the scope, institutional arrangement, process, and the physical system (before and after the 1st MRV).
- 2.1.5. Develop the NFMS Operational Manual after the 2nd modification.
- 2.1.6. Develop the NFMS Operational Plan.

2.2. Support the 1st national MRV for REDD+ by using the NFMS

- 2.2.1. Decide the MRV procedure (e.g. technical methods, work process, institutional arrangement).
- 2.2.2. Modify the MRV procedure after the 1st test-run of the NFMS.
- 2.2.3. "Measuring": Estimate emissions by sources and removals by sinks from the latest available Activity Data (AD) and Emission Factor (EF) (for 2018-2019, tbd).
- 2.2.4. "Reporting": Facilitate inputs from forestry sector to the national GHG Inventory (assuming that the 3rd National Communications will be submitted in 2018-2019, and the BUR in 2019-2020).
- 2.2.5. "Verifying": Facilitate necessary arrangements required under the UNFCCC.

2.3. Support development of the national FREL/FRL.

- 2.3.1. Decide the plan and procedure for developing the national FREL/FRL.
- 2.3.2. Conduct driver analysis and develop Policies and Measures (PaMs).
- 2.3.3. Develop the 2015 forest map for creating the AD, including QA/QC.
- 2.3.4. Organize available EF from the NFI (2016-2017) results and other sources.
- 2.3.5. Develop the 2015 carbon map from the AD and EF prepared.
- 2.3.6. Develop historical trend from the carbon maps of multiple years, including 2015.
- 2.3.7. Define the national circumstances and reference scenario.
- 2.3.8. Hold consultation workshop(s) to decide the national FREL/FRL.
- 2.3.9. Facilitate submission of the national FREL/FRL to the UNFCCC.
- 2.3.10. Support improvement of the national FREL/FRL by reflecting the technical assessment

Cooperation with MONRE-DDMCC, as the responsible agency of "Reporting" of the MRV, proceeds efficiently.

results of the UNFCCC.

2.4. Support the next National Forest Inventory (NFI) scheduled in 2016-2017.

- 2.4.1. Support developing the plan for the next NFI (e.g. scope, institutional arrangement, work procedure)
- 2.4.2. Provide technical supports to the field survey.
- 2.4.3. Support compilation of the NFI survey results, including QA/QC (data will be stored into the NFMS).

3. Institutional development, management and coordination of national REDD+ is enhanced.

3.1. Provide technical inputs to the national REDD+ policies and institutions.

- 3.1.1. In coordination with other stakeholders, facilitate the development of National REDD+ Strategy.
- 3.1.2. Provide technical inputs to the National REDD+ Strategy.
- 3.1.3. Provide technical inputs to other national REDD+ policies (e.g. Safeguard, Benefit Sharing Mechanism).
- 3.1.4. Raise awareness on the need for the REDD+ focal point (i.e. DFRM and DOF) and the UNFCCC national entity or focal point (MONRE-DDMCC) to cooperate.
- 3.1.5. Based on the information obtained through the NFMS, evaluate the effectiveness of REDD+ activities among the stakeholders through a consultative process.
- 3.1.6. Enhance synergy between REDD+ in Luang Prabang and the national level, including the NFMS.
- 3.1.7. In coordination with other stakeholders, support Laos on accessing FCPF-CF (only if Laos is selected as a CF pipeline country).

3.2. 3.2 Support coordination role of DFRM and DOF in national REDD+.

- 3.2.1. Provide technical inputs to the NRTF.
- 3.2.2. Provide technical inputs to the TWGs.
- 3.2.3. Provide technical and operational support to the selected TWGs.

Development of National REDD+ Strategy and other national policies/institutions for REDD+ progress as scheduled.

TWGs are established and the TORs are decided without delay.

3.3. Provide indirect support to JCM-REDD+ following its progress.

- 3.3.1. Provide technical inputs to the institutional and technical aspects of JCM-REDD+.
- 3.3.2. Assist the counterparts to foster their understanding on JCM-REDD+.

4. REDD+ readiness in Luang Prabang province is enhanced.

4.1. Establish an institutional framework for REDD+ in the province.

- 4.1.1. In line with the progress of national policies, develop an institution for REDD+ in the province (e.g. provincial REDD+ Task Force).
- 4.1.2. Identify the drivers of emissions and removals.
- 4.1.3. In line with the progress of national policies, develop the provincial REDD+ Strategy (PRS).
- 4.1.4. Build technical capacity of the stakeholders to implement the PRS.

4.2. Pilot priority forestry policy(s) to address the drivers of emissions and removals.

- 4.2.1. Identify priority forestry policy(s) to address the drivers identified in 4.1.
- 4.2.2. Pilot identified priority forestry policy(s).
- 4.2.3. Evaluate the results of piloting.
- 4.2.4. Feedback the evaluated results to the province and the national level.

4.3. Pilot forest monitoring as a part of REDD+ monitoring.

- 4.3.1. Develop the provincial forest monitoring plan.
- 4.3.2. Support implementation of provincial forest monitoring based on its plan.
- 4.3.3. Review the monitoring result to assess the situation of forestry sector.

4.4. Promote cooperation on REDD+ between the central level and provincial level.

- 4.4.1. Feedback the lessons from the provincial REDD+ readiness exercise to the national level (e.g. National REDD+ Strategy, NFMS).
- 4.4.2. Assist the province to foster their understanding on JCM-REDD+.


4.5. Strengthen the foundation to expand the PAREDD Approach.

- 4.5.1. Provide advice to the JCM-REDD+ project proposed.
- 4.5.2. Conduct Training of Trainers (ToTs) to increase the staff who can apply PAREDD Approach in

JCM-REDD+ progress as intended.

Provincial REDD+ is supported under national policy.

The proposed JCM-REDD+ project continues.

<p>their administrative unit.</p> <p>4.5.3. Continue field monitoring of PAREDD sites (e.g. Village Development Fund as the future basis for REDD+ Benefit Sharing Mechanism), and feedback lessons to the province and the national level.</p> <p>4.5.4. Assist the province to access and/or coordinate external funds and other donor projects, as the resources to implement REDD+ activities, including PAREDD Approach.</p>			
			Pre-Conditions
			<p>Both Lao and Japanese side decide the project framework and implementation arrangement without delay.</p> <p style="text-align: center;"></p> <p><Issues and counter measures></p>

Tentative Plan of Operation

Version 0
Dated 2015/06/16

Project Title: Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

ANNEX 1-II

Inputs	Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Remarks
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
Expert	Plan																									
	Plan																									
	Plan																									
	Plan																									
Equipment	Plan																									
	Plan																									
Training in Japan	Plan																									
In-country/Third country Training	Plan																									

Activities			Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Responsible Organization														
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	GoL													
Sub-Activities																																										
Output 1: Capacity of the central government on policy development, implementation and sector coordination is enhanced.																																										
1.1. Support development of forestry related regulations and policies.								FS2020 review or alternatives, support other key policies, cooperate with Output 4																																		
1.1.1. Agree on the orientation of FS2020 revision.																																										
1.1.2. Support FS2020 revision following the orientation agreed on, and by incorporating the National REDD+ Strategy.																																										
1.1.3. Facilitate coordinated support to the policy needs by donor partners through FSSWG framework.																																										
1.1.4. Based on 1.1.3 above, support development of other key policies (e.g. By-laws to the Forestry Law) (REDD+ related policies will be supported under Output 3).																																										
1.1.5. Feedback the results of policy piloting in Luang Prabang to the national policy.																																										
1.2. Conduct capacity building sessions for targeted technical areas (e.g. PES, NFMS, REDD+).								Trainings, participate in international WS, etc.																																		
1.2.1. In coordination with other donor partners, conduct in-country trainings on the related fields.																																										
1.2.2. Conduct trainings in Japan and third countries.																																										
1.2.3. In coordination with other stakeholders, support participation of the counterparts to international conferences and workshops.																																										
1.3. Support sector coordination.								Support FSSWG secretariat function, FSSWG meetings.																																		
1.3.1. Support the function of the FSSWG secretariat (e.g. information sharing, policy dialogues, donor coordination).																																										
1.3.2. Support organization of FSSWG meetings (quarterly).																																										
1.3.3. Promote synergizing the FSSWG and the NRESWG, and other initiatives (e.g. thorough RTIM process).																																										

Activities			Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Responsible Organization					
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	GoL				
Sub-Activities																																	
Output 2: Emission reductions and removals resulting from the implementation of the REDD+ activities are quantified at national scale by using the NFMS																																	
2.1. Support development of the NFMS.				Plan, decide scope/institutional arrangement/process, develop system, test-run and modify (1), modify (2), Manual, Operational Plan																													
2.1.1. Decide the NFMS development plan.				Plan																													
2.2.2. Decide the scope, institutional arrangement and operational process.				Plan																													
2.2.3. Build the physical system based on the NFIS prototype.				Plan																													
2.2.4. Test-run and modify the scope, institutional arrangement, process, and the physical system (before and after the 1 st MRV).				Plan																								Modify (1)		Modify (2)			
2.2.5. Develop the NFMS Operational Manual after the 2 nd modification.				Plan																								draft		finalize			
2.2.6. Develop the NFMS Operational Plan.				Plan																								draft		finalize & approve			
2.2. Support the 1st national MRV for REDD+ by using the NFMS.				Decide MRV procedure test and modify through NFMS test-run, 1st MRV, Evaluate, improve																													
2.2.1. Decide the MRV procedure (e.g. technical methods, work process, institutional arrangement).				Plan																													
2.2.2. Modify the MRV procedure after the 1 st test-run of the NFMS.				Plan																													
2.2.3. "Measuring": Estimate emissions by sources and removals by sinks from the latest available Activity Data (AD) and Emission Factors (EF) (for 2018-2019, tbd).				Plan																													
2.2.4. "Reporting": Facilitate inputs from forestry sector to the national GHG Inventory (assuming that the 3rd National Communications submitted in 2018-2019, and the BUR in 2019-2020).				Plan																								Collaborate with the 3rd National Communications		Submit through 2019 BUR			
2.2.5. "Verifying": Facilitate necessary arrangements required under the UNFCCC.				Plan																													
2.3. Support development of the national FREL/FRL.				Driver/PaMs, AD, EF, Historical trend, reference scenario, consult, submit to UNFCCC, improve																													
2.3.1. Decide the plan and procedures for developing the national FREL/FRL.				Plan																													
2.3.2. Conduct driver analysis and develop Policies and Measures (PaMs).				Plan																													
2.3.3. Develop the 2015 forest map for creating the AD (including QA/QC).				Plan																													
2.3.4. Organize available EF from the NFI (2016-2017) results and other sources.				Plan																													
2.3.5. Develop the 2015 carbon map from the AD and EF prepared.				Plan																													
2.3.6. Develop historical trend from the carbon maps of multiple years, including 2015.				Plan																													
2.3.7. Define the national circumstances and reference scenario.				Plan																													
2.3.8. Hold consultation workshop(s) to decide the national FREL/FRL.				Plan																													
2.3.9. Facilitate submission of the national FREL/FRL to the UNFCCC.				Plan																													
2.3.10. Support improvement of the national FREL/FRL by reflecting the technical assessment results of the UNFCCC.				Plan																													
2.4. Support the next National Forest Inventory (NFI) scheduled in 2016-2017.				Plan, conduct, compile																													
2.4.1. Support developing the plan for the next NFI (e.g. scope, institutional arrangement, work procedure).				Plan																													
2.4.2. Provide technical supports to the field survey.				Plan																													
2.4.3. Support compilation of the NFI survey results (including QA/QC) (data will be stored into the NFMS).				Plan																													

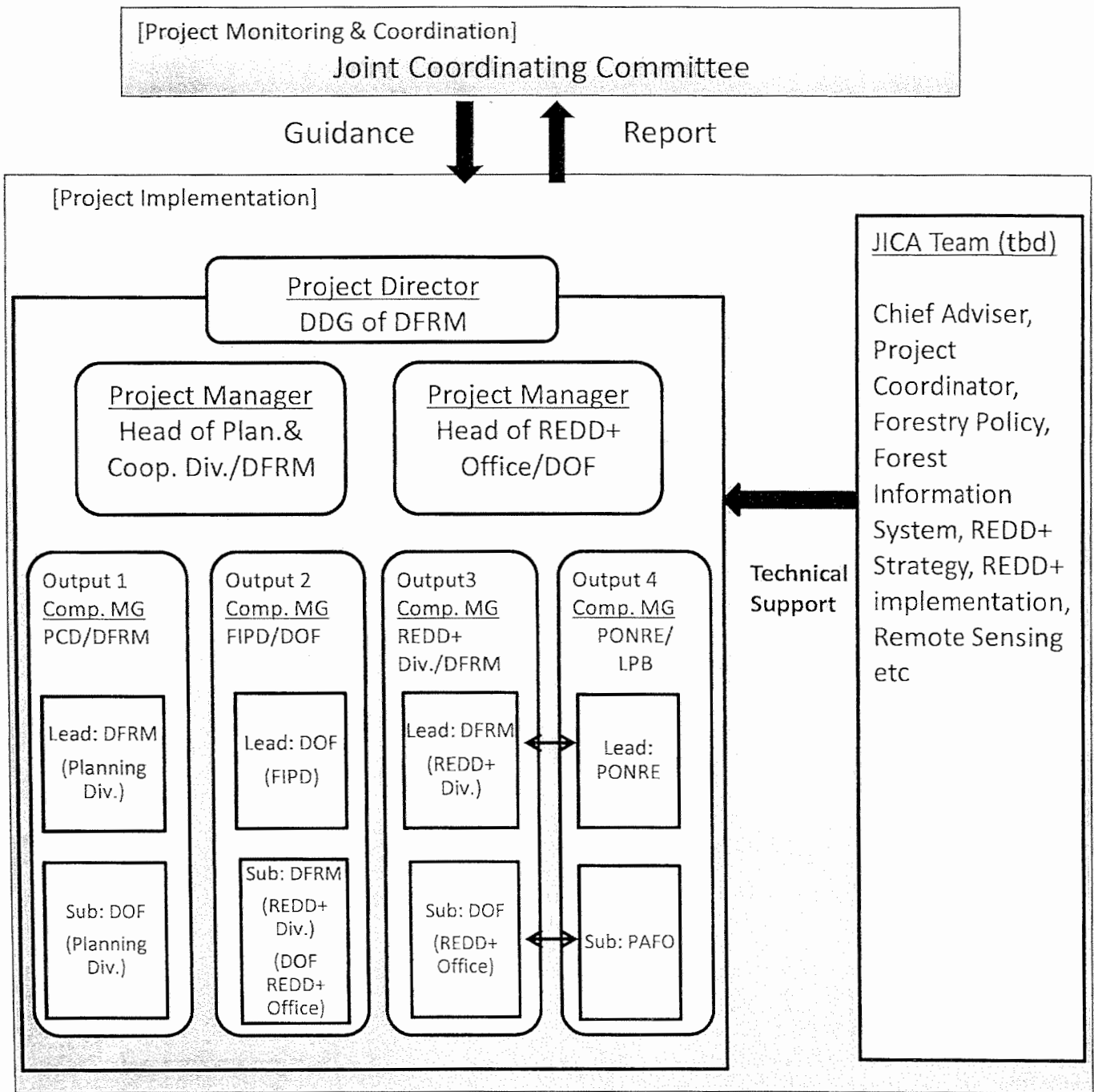
Activities				Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Responsible Organization		
					I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	GoL					
Sub-Activities																															
Output 3: Institutional development, management and coordination of national REDD+ is enhanced.																															
3.1. Provide technical inputs to the national REDD+ policies and institutions.									Technical inputs to National REDD+ Strategy and other requirements for result-based payment, M&E, Cooperate with Output 4																						Lead: R-Div./DFRM Sub: R-Office/DOF
3.1.1. In coordination with other donor partners, facilitate the development of National REDD+ Strategy.																															
3.1.2. Provide technical inputs to the National REDD+ Strategy.																															
3.1.3. Provide technical inputs to other national REDD+ policies (e.g. Safeguard, Benefit Sharing Mechanism).																															
3.1.4. Raise awareness on the need for REDD+ focal point(s) and UNFCCC focal point (MONRE-DDMCC) to cooperate.																															
3.1.5. Based on the information obtained through the NFMS, evaluate the effectiveness of REDD+ activities through a consultative process.																															
3.1.6. Enhance synergy between REDD+ in Luang Prabang and the national level (including the NFMS).																															
3.1.7. In coordination with other stakeholders, support Laos on accessing FCPF-CF (only if Laos is selected as a CF pipeline country).																															
3.2. Support coordination role of DFRM and DOF in national REDD+.									(In collaboration with other donors) support NRTF, TWGs																						Lead: R-Div./DFRM Sub: R-Office/DOF
3.2.1. Provide technical inputs to the NRTF.																															
3.2.2. Provide technical inputs to the TWGs.																															
3.3. Provide indirect support to JCM-REDD+ following its progress.									Indirect support to promote JCM-REDD+ following its technical and institutional progress																						Lead: R-Div./DFRM Sub: R-Office/DOF
3.3.1. Provide technical inputs to the institutional and technical aspects of JCM-REDD+.																															
3.3.2. Assist the counterparts to foster their understanding on JCM-REDD+.																															

Activities			Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Responsible Organization	
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	GoL
Sub-Activities																													
Output 4: REDD+ readiness in Luang Prabang province is enhanced.																													
4..1 Establish an institutional framework for REDD+ in the province.																													
4.1.1. In line with the progress of national policies, develop an institution for REDD+ in the province (e.g. provincial REDD+ Task Force).																													
4.1.2. Identify the drivers of emission and removals.																													
4.1.3. In line with the progress of national policies, develop the provincial REDD+ Strategy (PRS).																													
4.1.4. Build technical capacity of the stakeholders to implement the PRS.																													
4.2. Pilot priority forestry policy(s) to address the drivers of emission and removals.																													
4.2.1. Identify priority forestry policy(s) of the province to address the drivers identified in 4.1.																													
4.2.2. Pilot identified priority forestry policy(s).																													
4.2.3. Evaluate the results of piloting.																													
4.2.4. Feedback the evaluated results to the province and the national level.																													
4.3. Pilot forest monitoring as a part of REDD+ monitoring.																													
4.3.1. Develop the provincial forest monitoring plan.																													
4.3.2. Support implementation of provincial forest monitoring based on its plan.																													
4.3.3. Review the monitoring result to assess the situation of forestry sector.																													
4.4. Promote cooperation on REDD+ between the central level and provincial level.																													
4.4.1. Feedback the lessons from the provincial REDD+ readiness exercise to the national level (e.g. National REDD+ Strategy, NFMS).																													
4.4.2. Assist the province to foster their understanding on JCM-REDD+																													
4.5. Strengthen the foundation to expand PAREDD Approach.																													
4.5.1. Provide advice to the JCM-REDD+ project proposed.																													
4.5.2. Conduct Training of Trainers (ToTs) to increase the staff who can apply PAREDD Approach in their administrative unit.																													
4.5.3. Continue field monitoring of PAREDD sites (e.g. VDF as the future basis for REDD+ BSM), and feedback lessons to the province and the national level.																													
4.5.4. Assist the province to access and/or coordinate external funds and other donor projects, as the resources to implement REDD+ activities, including PAREDD Approach.																													

Monitoring Plan	Year	1st Year (2015)				2nd Year (2016)				3rd Year (2017)				4th Year (2018)				5th Year (2019)				6th Year (2020)				Remarks
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	sc	II	III	IV	I	II	III	IV	
Monitoring																										
Joint Coordinating Committee (JCC)	Plan																									Review progress, approve DPO, etc.
Set-up the Detailed Plan of Operation (DPO)	Plan																									To be approved in the JCC. Harmonize with Lao annual planning cycle (Oct - Sep).
Submission of Monitoring Sheet	Plan																									To be used as the basis for the DPO. Also to be reported to the JCC.
JICA Monitoring Mission from Japan	Plan																									To be scheduled in conjunction with the JCC.
Joint Monitoring (JM)	Plan																									Shall be a process for developing the MS.
Post Monitoring	Plan																									Scheduled in 2021 and 2023 Internal M&E by JICA Laos
Reports/Documents																										
Mid-term Progress Report	Plan																									
Project Completion Report	Plan																									Draft to be submitted at least 1 month before the completion of the project.
Public Relations																										
Quarterly Newsletter	Plan																									
Project website	Plan																									

Handwritten mark in the top right corner.

Project Organization Chart



Handwritten mark in the bottom left corner.

Handwritten mark in the bottom right corner.

8.1

ANNEX 1-IV

JOINT COORDINATING COMMITTEE

1. Function

The Joint Coordinating Committee (JCC) will meet at least once a year or whenever necessity arises. The main functions of JCC are:

- (1) To approve the Plan of Operation and the annual work plan of the Project.
- (2) To review the overall progress of the Project activities as well as the achievement of the above-mentioned annual plan; and
- (3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the Project, and to recommend corrective measures.

2. Membership

(1) Chairperson:

Director General, DFRM, MONRE

(2) Vice chairperson:

Chief Representative, JICA Laos Office

(3) Lao side:

- Deputy Director General, DOF, MAF
- Representative from Department of Planning and Cooperation, MONRE
- Representative from Department of Planning and Cooperation, MAF
- Representative from Department of Disaster Management and Climate Change, MONRE
- Representative from Ministry of Planning and Investment (MPI)
- Representative from Ministry of Finance (MOF)
- Representative from Government Office of Luang Prabang Province
- Representative from PONRE and PAFO of Luang Prabang Province
- Representative from Faculty of Forestry, National University of Laos (NUL)
- Project Director, Project Manager(s), Component Manager(s) and other counterparts
- Other officials mutually agreed upon

(4) Japanese side:

- Representative of JICA Laos Office
- JICA Experts of the Project
- Other relevant personnel mutually agreed upon

Note: Official(s) of Embassy of Japan may attend the JCC as observer(s)

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 7 NFMS 研修日程表（資料一式は CD-R に収録）



Japan International Cooperation Agency



Ministry of Natural Resource and Environment, Lao PDR

Ministry of Agriculture and Forestry, Lao PDR

Concept Note (v.2)

Technical workshop

National Forest Monitoring System, FREL/FRL and MRV for REDD+ in Lao P.D.R.

Forestry Sector Policy Strategy for Sustainable Forest Management
and REDD+ Promotion Project (F-PREP)

Background

Under the UNFCCC, developing countries are requested to develop a national forest monitoring system (NFMS) for REDD+ as an accountable system for monitoring and reporting of the REDD+ activities. An NFMS enables countries to collect information necessary to measure, report and verify (MRV) estimates of emission reductions and/or removals against the established forest reference emissions level/forest reference level (FREL/FRL), and also helps to assess the effectiveness of REDD+ activities on addressing drivers of deforestation and forest degradation or forest recovery. These are inevitable elements for a country to benefit from the future REDD+ result-based financing.

Lao P.D.R. has been making progress in preparing for the NFMS, and its key elements such as forest inventory, satellite-based land monitoring systems, and some database systems for the sector. The new JICA project (2015-2020) will, under its component 2, provide focused technical support to develop a country-led NFMS for Lao P.D.R., including development of FREL/FRL, the next national forest inventory, and the 1st MRV which is expected to be submitted to the UNFCCC through an authorized process.

Objectives of the workshop

The internal workshop will draw on the experiences of the past and ongoing exercises in Lao P.D.R., share the cases in other countries, and intend to facilitate a common understanding between JICA and the Lao counterparts to collaborate in the new JICA project (2015-2020).

The key objectives of the meeting are to:

- Build consistency in basic understanding of key issues relating to NFMS, such as:
 - Purpose of the NFMS and its possible structure;
 - Inter-relationship among NFMS, FREL/FRL, national forest inventory, MRV
 - Key player and stakeholders to be involved;
 - Up-to-date progress of Lao P.D.R. in the above elements.
- Obtain broader viewpoints and ideas on NFMS through the case study of other countries (tbd);
- Identify capacity gaps and plan follow-up activities for support by the new JICA project (2015-2020).

Expected outputs and results

The main results of the meeting will be:

- a greater understanding of NFMS for REDD+ and potential processes related to their development;
- shared common understanding on the needs and challenges of country-led NFMS processes in terms of both institutional and technical aspects;
- enhanced understandings on the activities to be undertaken by the new JICA project.

Expected participants

Approximately 20 participants.

Please send the list of nominees for the workshop to the contact below no later than **20 May 2015**.

Government staff and technical experts from the following fields are invited. The participants are strongly expected to be in a position who will apply the outputs and results of the workshop in the national REDD+ development, and also who are expected be a part of the counterpart team of the new JICA project (2015-2020):

Decision maker, Coordinator on REDD+	Person in a suitable position to orient and coordinate REDD+ of Lao P.D.R., with particular focus on NFMS. This may include: Leaders/DFRM, leaders/DOF, REDD+ Division/DFRM, REDD+ Office/DOF, Dpt. of Disaster Management and Climate Change (DDMCC)/MONRE.
Remote sensing and GIS expert	Technical expert with basic knowledge, skill and involvement in the national application of satellite-based forest monitoring using remote sensing and GIS tools. Technical expert with basic knowledge, skill and involvement in the national application of GIS in the forestry sector.
Forest inventory expert	Technical expert who is familiar with activities relating to national forest inventory and/or national forest mapping systems and data.
Database management expert	Technical expert who is in charge of, or will be in charge of the development and management of forestry database (e.g. National Forest Information Database under concept designing by NFIS project, SUFORD project, CliPAD project).

Dates and venue

28-29 May

Meeting room ofDOF-MAF

Language

The workshop will be delivered with a combination of English and Lao. An interpretation service will be provided but having basic listening, reading and conversation skill in English are valued.

Presentations by international experts will be delivered in English, while presentations by Lao experts in Lao. These will be followed by Q&As and discussions basically in English.

Contact

For more information, please contact **Mr. Eiji Egashira** <egashira.eiji@gmail.com> (project coordinator) and/or **Ms. Southida SOULIYAVONG** <southidajica@gmail.com> (technical assistant) or call 021-222-536 (F-PREP project office).

Focal points of the Lao side are:

For MONRE: **Mr. Saly SINGSAVANH**, Head of Planning and Cooperation Div, DFRM (as the project manager of F-PREP).

For MAF: **Mr. Savanh CHANTHAKOUMMANE**, Head of REDD+ Office, DOF (as the DOF focal point of F-PREP)

Day 1 28 May		
8:45 – 9:00	Registration	
9:00 – 9:10	Opening remark	DG or DDG, DFRM
9.10 – 9:20	Introduction to the workshop and agenda	F-PREP
9:20 – 10:15	【Session 1】 NFMS, FREL/FRL, MRV and other key elements under the UNFCCC Q&A Discussion	Kitamura/ F-PREP
10:15 - 10:30	Break	
10:30 – 11:15	【Session 2】 How ready is Lao P.D.R.? – 1. National forest information and NFMS	Haraguchi/ NFIS
11:15 – 12:00	【Session 3】 How ready is Lao P.D.R.? – 2. Satellite-based forest monitoring and preparation of Activity Data (AD) for REDD+	Kajiwara/NFIS and Sombath/FIPD
12.00 – 13.00	Lunch	
3.00 – 13.45	【Session 4】 How ready is Lao P.D.R.? – 3. National forest inventory, Allometric equations for forest biomass, and preparation of Emission Factor (EF) for REDD+	Soukhan/FIPD
13:45 – 14:00	Break	
14:00 – 14:30	【Session 5】 How ready is Lao P.D.R.? – 4. Reporting to the UNFCCC (GHG Inventory)	Mr. Immala INTHABUALY /DDMCC
14:30 – 15:00	Wrap-up of Day-1 and closing	F-PREP

Leaders of DFRM and DOF are expected to participate particularly in Sessions 1.

Day 2 29 May		
8:45 – 9:00	Registration	
9.00 – 9:20	Recap of Day-1 Introduction to Day-2	F-PREP
9:20 – 10:40	【Session 6】 Country case study - Vietnam (Akiko/UNREDD-FAO) 40 min - PNG and Peru (Haraguchi) 40 min	Akiko/ UNREDD-FAO Haraguchi/ NFIS
10:40-11:00	Break	
11:00 – 11:30	【Session 7】 Discussion: Institutional challenges <ul style="list-style-type: none"> ● Key player and stakeholder mapping ● Institutional design 	Co-facilitator Saly/DFRM, Kitmamura/ F-PREP
11:30 – 12:00	【Session 8】 Introduction to the new JICA project with particular focus on the Output 2 - NFMS, FREL/FRL, MRV, etc. <ul style="list-style-type: none"> ● Expected outputs and work plan ● Identification of challenges and support needs 	Egashira/ F-PREP Co-facilitator Saly/DFRM, Kitamura/ F-PREP)
12.00 – 13.00	Lunch	
13:00 – 13:45	【Session 9】 Additional time for Q & A and discussion Wrap-up of the workshop	Co-facilitator Saly/DFRM, Kitamura/ F-PREP
13: 45 – 14:00	Closing remark	DG or DDG, DFRM

Leaders of DFRM and DOF are expected to participate particularly in Sessions 7, 8, 9.

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 8 REDD+等国際森林行政に係る現地講習

参加者リスト



21st Century School
ໂຮງຮຽນສະຕະວັດທີ 21

PO Box 77
074/6 Sisangvone Rd.
That Luang Tai
Vientiane, Lao PDR

P: +856 21 45 2500
F: +856 21 45 2927

Latest List of student for English Training

Group 1 (Elementary) **Room 4**

No.	Name and Surname	Organizations
1	Mr. Dada VONGLATHSAMY	Planning and Cooperation Division/DFRM
2	Mr. Mone SUPHUNKONE	Protection Forest/ Conservation Forest Invent Services/DFRM
3	Mr. Lerdvilay SINBANDITH	Emission from Deforestation Management Division/DFRM
4	Mr. Sythat SETTHAVANSAY	Aquatic and Wild Animal Management Division/DFRM
5	Mr. Chantha PHETPHOMMY	Village Forest and NTFPs Management Division/DOF
6	Mr. Phouthavonh PHONGPHICHIT	Organization and Administration Division/DOF
7	Mrs. Phaysouphet PHILAKONE	Planning and Cooperation Division/DOF
8	Mrs. Sommay VANNASOUK	Planning and Cooperation Division/DOF
9	Mr. Phouthasack PHAFONG	Office of the Secretariat of Forest Development Fund/DOF
10	Mr. Phouthone PHOUTTHAVONGSA	Technician of Inventory Section/FIPD
11	Mr. Bounlang SILIVONG	Technician of Administration Division/MAF
12	Mr. Syvone SONTHIPANYA	Technical Standard Development Division/DOF
13	Mr. Douangchai XAYPANYA	Forest Plantation/ Forest Investment Promotion Division/DOF
14	Mr. Khamdy CHAXONGTOUR	Forest Cover Estimation Unit/FIPD

Group 2 (Pre- Intermediate) **Room 16**

No.	Name and Surname	Organizations
1	Mr. Souililath KEOVILAY	Forest Management Division/DFRM
2	Mr. Monkham VONGKHILEE	Protect Forest/ Conservation Forest Inspection Services/DFRM
3	Mr. Khammanh THAMMAVONG	Forest Regeneration Service/DFRM
4	Mr. Sonekham SATDICHAN	Administration Division/DFRM
5	Ms. Manadnay XAVONGXAY	Forest Management Division/DFRM
6	Ms. Khonmany CHANTHAVONG	Organization and Administration Division/DOF
7	Mr. Sadavouth MANIVONG	Office of GHG Emission Reduction Deforestation/DOF
8	Mr. Linthong KHAMDY	Director General of FIPD
9	Mr. Bounpheng VICHITH	Deputy Director General of FIPD
10	Ms. Phetsamone THAMMAVONG	Planning and Cooperation Division/DFRM



21st Century School
ໂຮງຮຽນສະຕະວັດທີ 21

+856 21 45 2500

PO Box 77
074/6 Sisangvone Rd.
That Luang Tai
Vientiane, Lao PDR

P:

F: +856 21 45 2927

To added 4

more persons from FIPD:

- 1. Mr. Linthong KHAMDY, Director General of FIPD**
- 2. Mr. Mr. Khamma HOMSAVATH, DDG of FIPD**
- 3. Mr. Bounpheng VICHITH, DDG of FIPD**
- 4. Mr. Phouthone KHOUTHAVONGSA, Technician of Inventory Section**

Duration of the Study

54 sessions of training for each class on Mondays, Wednesdays, Fridays

Start from 4:30-6:15, 1 hrs 45 minutes per class, 87 hr 30 minutes per class total.

Start date: 20th April 2015

Expected Finish date: 25 August 2015

Expiration date: 11 September 2015

This comes with my best wishes

Yours sincerely

Alastair Maitland
Director

ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 9 FCPF Carbon Fund 会合（CF12）ラオス発表資料



Forest Carbon Partnership Facility

Lao PDR Early Idea Forest Landscape Approach to REDD+ Emissions Reductions

Twelfth Meeting of the Carbon Fund (CF12)

Paris, France

April 28-30, 2015



Land Use Change in Lao PDR

- Lao PDR is land-locked, or land-linked, between 5 of the most rapidly industrializing countries in Asia. It has among lowest population densities in Asia, with over 6.5 million people of 49 ethnic groups, but a **rapidly growing economy**.
- Primary domestic **drivers of deforestation and degradation**: Illegal logging, pioneering shifting cultivation, fire, agricultural expansion, agro-industrial plantations, hydropower dams, mining, roads, infrastructure development, urban expansion



Fire



Urban expansion



Agro-industrial plantations, i.e., maize and rubber



Hydropower development

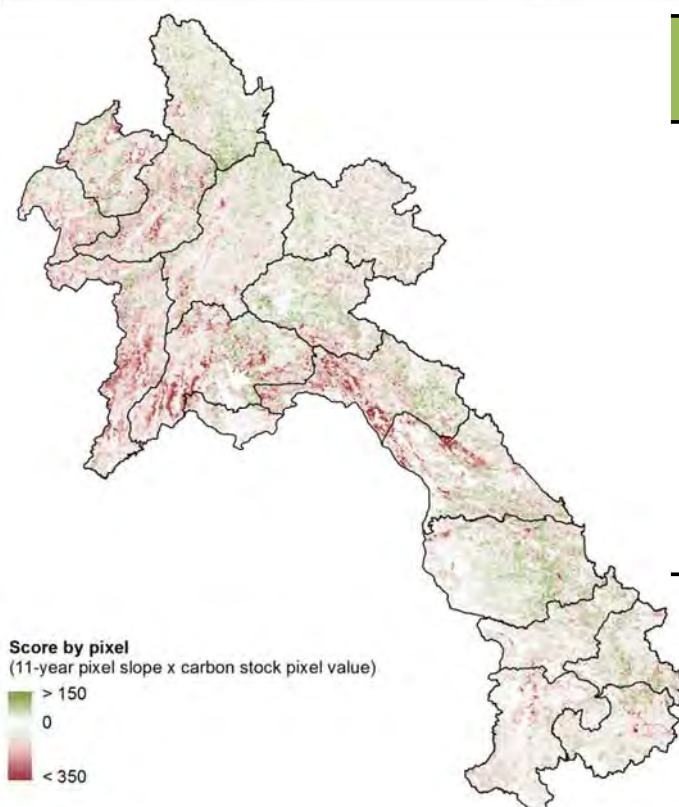


Mining



Road construction

Lao PDR Areas of Gains and Loss in Forest Cover



Forest Management Categories	Area (M ha)	Forested Area (M ha)	Forest Cover
Protection Forest	8.2	3.13	38%
Conservation Forest	4.7	2.64	56%
Production Forest	3.1	1.48	48%
Plantations	0.3	0.30	100%
Other Areas	6.8	2.00	29%
Total Land Area	23.1	9.55	41%

Source: Forest Cover Assessment, DOF, 2010

Net Forest Loss (2000-2013): 1,110,268 ha
Average: 85,405 ha/year

Source: Hansen et al. 2013

3

Lao PDR REDD+ Overview

- **REDD+ National Task Force**, technical working groups, and two **REDD+ Offices*** working with development partners on **REDD+ readiness** at national level
 - FCPF Readiness Grant
 - Lao Forest Investment Plan
 - Other REDD-related projects
- REDD+ Readiness activities are progressing in **selected provinces**, as part of sub-national approach to REDD+
- **Government and National Assembly** revising **Forest Law**, which will incorporate articles on payment for environmental services and REDD+

*Lao PDR has two REDD+ Offices, which work together to support REDD+:

- National REDD+ Division in Department of Forest Resource Management, Ministry of Environment and Natural Resources and
- Department of Forestry REDD+ Office in Ministry of Agriculture and Forestry

4

Lao PDR's FCPF Readiness Grant

- Readiness Process Management and Stakeholder Consultation
 - Support REDD+ Offices at various levels and 2 pilot provinces (Houaphan, Champasack)
 - Stakeholder working group, update and implement stakeholder consultations
- REDD+ Strategy Development
 - Policy analysis and other studies, identify REDD+ strategy options, and prepare national REDD+ Strategy;
 - Carry out the Social and Environmental Strategic Assessment (SESA) and prepare the Environmental and Social Management Framework (ESMF)
- Other REDD+ Readiness Implementation Arrangements
 - Work on revenue management, benefit-sharing, grievance and redress mechanisms, and build capacity in information and knowledge management
- Reference Emission Level (REL) and Monitoring Systems
 - Develop of REL and system to monitor, report and verify the forest carbon stock
 - Develop Safeguard Information System (SIS) for monitoring non-carbon co-benefits
 - Establish of a carbon registry, to be used for both carbon and non-carbon requirements

5

Lao PDR ER Program Scale

Forest Landscape provinces
(SUFORD-SU: World Bank, FIP, Finland)

Luang Namtha

Bokeo

Oudomxay

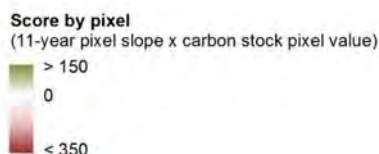
Xayabouly

Luang Prabang
Sub-National Pilot
(JICA)

*Proposed
additional FIP
funding*

Houaphan
Sub-National Pilot
(KfW/GIZ;
also FCPF Readiness
Grant)

*Proposed ER Program
to cover 6 northern
provinces, which have
many poor, forest-
dependent ethnic
minority communities*



6

ER Program Strategies

Lao ER Program (2018-2022) proposed to build on ongoing and future work to address deforestation and degradation:

- National-level **policy** work and **forest and wildlife law enforcement**; Provincial scaling up of FLEGT
- Provincial REDD+ **action plans** and provincial **forest landscape management** agreements and plans
- **Certified sustainable forest management** (scaling up of certification for natural forests, small-scale plantations)
- **Participatory forest land use planning**
- Province-specific mitigation activities, i.e., **alternative livelihood activities, agroforestry**
- Site-specific **forest restoration** (natural regeneration, enrichment planting, gap planting, etc.) to increase carbon sequestration

7

ER Program Strategies: Diversity and Learning Value

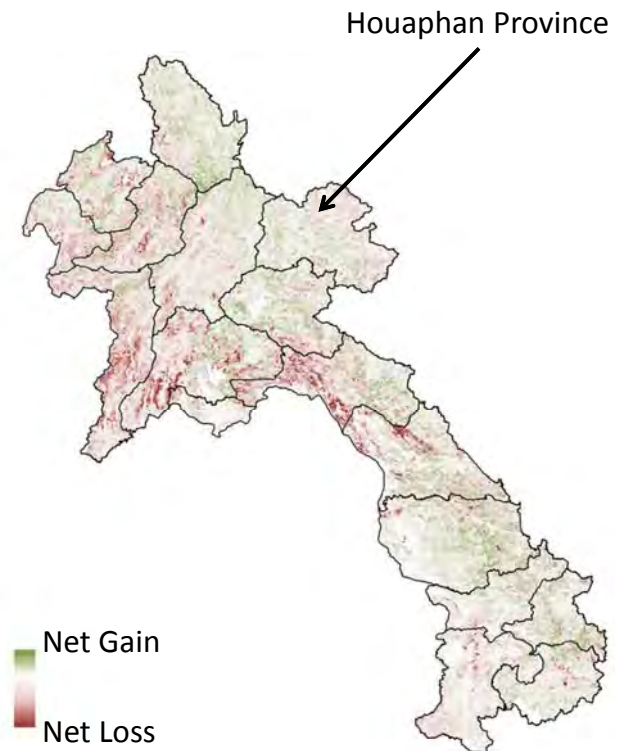
- Lao PDR ER Program has great potential for **forest regeneration** if land use is well managed.
- Lao PDR ER Program would **support piloting approaches to integrated spatial planning, forest landscape management and provincial REDD+ development** to address drivers of deforestation and promote climate sensitive development in an integrated manner.
- By promoting **inter-agency cooperation on planning**, deforestation impacts can be minimized of drivers such as:
 - Hydropower and infrastructure development
 - Agricultural and rubber concessions
 - Pioneering shifting cultivation

8

ER Program Highlights: Houaphan Province

Climate Protection through Avoided Deforestation Project (CliPAD, KfW/GIZ) (2009-2018)

- First Province-wide REDD+ Program
- Based on Jurisdictional and Nested REDD+ (VCS-JNR) Requirements
- Mitigation activities in 2 districts and 70 villages :
 - participatory land use planning,
 - village forest management agreements
 - law enforcement action,
 - agricultural extension
- Province-wide forest carbon inventories completed (2014)
- Province-wide REL under development
- Possible forest landscape management



9

ER Program Highlights: Luang Prabang Province

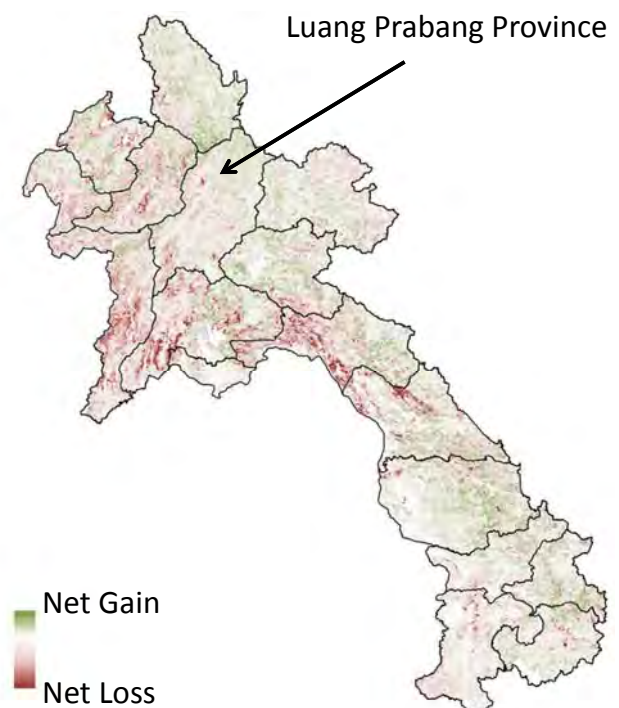
JICA PAREDD (2010-2015) and Sustainable Forest Management and REDD+ Project (2015-2020)

PAREDD Approach

- Participatory land / forest plans and regulations, village forest patrols, livelihood improvement, village revolving fund

Provincial Readiness

- Provincial framework for REDD+ (combined with possible forest landscape management by FIP)
- Pilot priority actions for emission reduction and removal enhancement
- Provincial forest monitoring
- Expand PAREDD approach to key areas under forest landscape management



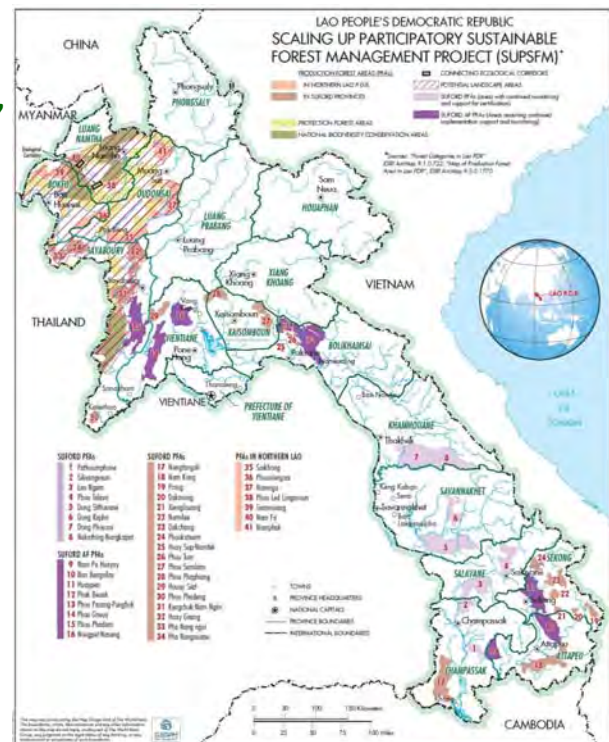
10

ER Program Highlights: Forest Landscape Management in 4 Provinces

Sustainable Forestry for Rural Development-Scaling Up (SUFORD-SU) (FIP, IDA, Finland) (2013-2018)

Since 2013 working in **Bokeo, Luangnamtha, Oudomxay and Xayabouly** Provinces on:

- **Participatory Sustainable Forest Management** in 12 production forests and with 272 villages; also agroforestry, alternative livelihoods, forest restoration
- **Forest Landscape Management** piloting for all forests in landscape: production, protection, conservation, village forests, plantations, uncategorized forests; and with partners, including KfW
- **Additional FIP support (2016-2020)** could cover remaining 4 provinces (including **Houaphan, Luang Prabang**) & more support to 4 original landscapes



Projected Emission Reductions

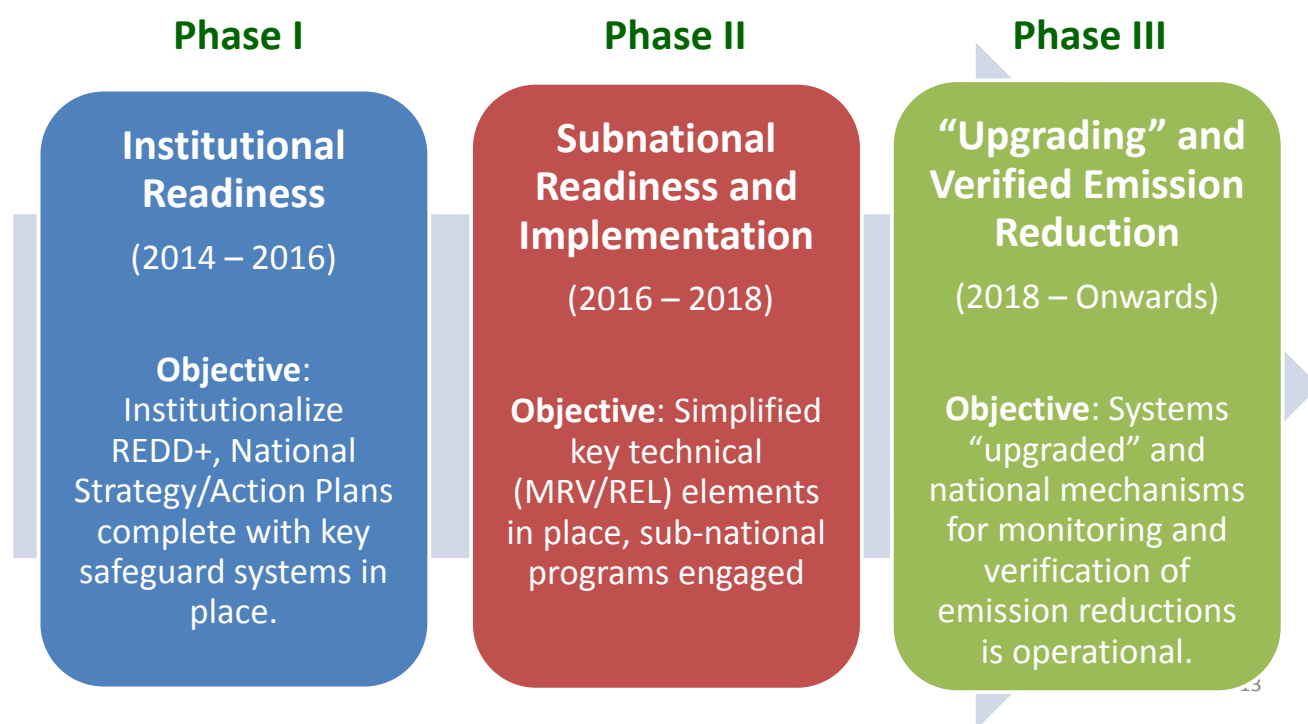
Provinces	Annual Loss * (Gross ha/yr)	Annual Emissions * (tCO ₂ e/yr)	Annual ER Potential (tCO ₂ e/yr)
Houaphan	9,426	2,779,192	277,919
Luang Prabang	8,089	2,384,962	238,496
Luang Namtha	7,114	2,097,678	209,768
Oudomxay	6,100	1,798,714	179,871
Xayabouly	5,074	1,496,145	149,615
Bokeo	3,824	1,127,619	112,762
Selected Pilot Provinces	39,628	11,684,311	1,168,431
Nationwide	98,837	29,141,938	2,914,194

- ER Program would produce emissions reductions of 5.8 mil. tons of carbon dioxide equivalent (tCO₂eq) over 5 years in 6 provinces (over one-third of the national total).
- At \$5/ton, payments would amount to USD 29 million over 5 years.
- Proposed Lao ER-Program period is 2018-2022.

* Average (mean) over period 2000-2013. Deforestation data from Hansen et al. 2013.

National REDD+ Program Key Features

Lao PDR phased approach to REDD+:



Selected REDD+ Readiness Since 2008

Project	Donor	Focus	Scope	
CLIPAD	KfW/GIZ	Sub National Piloting	Houaphan Province	Subnational Piloting
PAREDD	JICA	Sub National Piloting	Luang Prabang Province	
SUFORD-SU	WB/FIP Finland	Sustainable Forest Management in Production Forests, Forest Landscapes, Village Forestry, monitoring	13 of 17 rural Provinces [Additional FIP funds for 4 remaining rural provinces proposed]	Mitigation And Enhancement
Lao Forest Investment Plan (FIP Laos)	FIP/WB/ADB/IFC	3 projects: SUFORD-SU (WB); smallholder plantations (IFC); biodiversity corridors / forest ecosystem services (ADB)	Multiple provinces	
FLEGT	European Union/GIZ	Law Enforcement	Multiple Provinces	
LEAF	USAID/SNV	REDD+ Technical Inputs	Multiple Provinces	
ENRICH	SNV	Carbon Stock Enhancements	Faculty of Forestry	REDD+ Technical Systems and Policy
FSCAP	JICA	Forestry Policies and Capacities	National Level	
NFIS	JICA	2 nd National Forest Inventory	Country-wide	
FPP	JICA	National Forest Cover Assessment	Country-wide	
Project Level Activities	RECOFTC, WWF, SNV,WCS	Various activities, NGO and private.	Multiple Locations	

Support for ER Program

Considerable Political Support

- National REDD+ Office under Department of Forest Resource Management and DOF REDD+ Office under Department of Forestry jointly developing this early idea approach
- Prime Minister's Office supportive
- Forestry Sub-Sector Working Group and National REDD+ Task Force endorsed

Significant Technical and Financial Support in 6 ER Program Provinces for ER, REDD+ & Other Activities – Donor Support Exceeding USD 60 million

- CliPAD (2009-18): USD 19.8 million
- JICA (2010-2020): USD 9 million
- KfW (2015-21): USD 12.4 million [Integrated Conservation of Biodiversity and Forests, work in Luangnamtha and Bokeo provinces]
- SUFORD-SU (2015-18): USD 7 million
- Possible additional FIP financing for SUFORD-SU (2018-21): USD 13 million
- Government: Forest Development Fund, Environmental Protection Fund, natural resource fees, resource other govt. sources

NOTE: budget figures are only for the proposed provinces; some programs have larger scope

15

Social & Environmental (Non-carbon) Benefits



Sacred tree in Bokeo.

Areas with high ethnic minority populations

Social benefits will include:

- Increased incomes and poverty alleviation
- Increased knowledge, skills, participation
- Increased participation of women and ethnic minorities in participatory sustainable forest management, land use planning, and village development activities
- Recognition of local knowledge & customary use of forests
- Improved forest governance

Areas that contain five national biodiversity areas.

Environmental benefits will include:

- Increased watershed protection, protection of streams and water sources
- Increased conservation of natural habitat for wild species
- Increased forest restoration



Khmu woman making rope from bark.

16

Consistency with Methodological Framework

- **Level of Ambition:** 6 of Lao PDR's 17 rural provinces
- **Carbon Accounting:** national-level system accounting under development
- **Safeguards:** Safeguard Information Systems to be developed under FCPF Readiness grant; ongoing work already using social and environmental safeguards, including FPIC
- **Sustainable Program Design and Implementation:** activities being mainstreamed into forest management processes implemented by provinces, districts, and villages
- **ER Program Transactions:** land rights being clarified in revisions of Forest Law, Land Law, and Land Policy; rights to carbon and REDD+ benefit-sharing under development

17

ຂອບໃຈ!
Thank You!



ラオス国持続可能な森林経営及びREDD+推進のための
森林セクター政策・戦略プロジェクト
準備フェーズ

業務完了報告書

別添 10 ルアンプラバン県カウンターパートに係る県決定

Lao People's Democratic Republic
Peace Independence Democracy Unity Prosperity

.....

Governor of Luang Prabang Province

No....313..... /GoLPB

Date: 26/June/2015.....

DECISION

**Appointment of the Provincial Steering Committee, Coordinator and Secretariat for
Implementation of the Forestry Sector Policy Strategy for Sustainable Forest Management and
REDD+ Promotion Project in Luang Prabang Province**

- According to an official letter of the Luang Prabang Province Natural Resource and Environment Office (PONRE)
No. 2695/PONRE, dated 18 June 2015

Governor of Luang Prabang Province issues this DECISION as follows:

Article 1. Appointment of the provincial steering committee, coordinator and secretariat for implementation of the forestry sector policy strategy for sustainable forest management and REDD+ promotion project in Luang prabang province, which includes:

I. Provincial Steering Committees

1. Dr. Bouakhong NAMMAVONG	Vice-Governor of Luang Prabang Province	Leader
2. Mr. Soukanh BOUNYONG	Governor of Luang Prabang District	Secondary
3. Mr. Somphone SYOUDOMPHANH	Governor of Xieng Ngeun District	Member
4. Mr. Sychanh LATHSAMY	Governor of Phon Xai District	Member
5. Mr. Chanthavong PHONNACHIT	Deputy Director General of PONRE	Member
6. Mr. Sayaphanh LASY	Deputy Director General of PAFO	Member

II. Coordinators

1. Mr. Chanthavong PHONNACHIT	Deputy Director General of PONRE	Leader
2. Mr. Sayaphanh LASY	Deputy Director General of PAFO	Secondary
3. Mr. Somphet SAYADETH	PONRE	Member
4. Mr. Phonkeo PHONPHALY	PONRE	Member
5. Mr. Vilaphong KANYASON	PONRE	Member
6. Mr. Tui PHOMMACHANH	PONRE	Member
7. Mr. Bounpheng PHOUTHAVONG	PONRE	Member

8. Mr. Sontisith LOUNYALATH	PONRE	Member
9. Mr. Chanthavong SOULIVONG	PAFO	Member
10. Mr. Bounpheng PHENGCHANH	PAFO	Member
11. Mr. Som aok LITHIPHONG	PAFO	Member
12. Mr. Bounma SAVATHDY	DONRE (Xieng Ngeun District)	Member
13. Mr. Phetsavong VUETHOR	DAFO (Xieng Ngeun District)	Member
14. Mr. Souvanthong SOUKPHANSAY	DONRE (Luang Prabang District)	Member
15. Mr. Somvang PHOMMAKON	DAFO (Luang Prabang District)	Member
16. Mr. Khamphat SILIPASERTH	DONRE (Phon Xai District)	Member
17. Mr. Khamphout KEOBOUNMA	DAFO (Phon Xai District)	Member

III. Secretariat

1. Mr. Khattiya VANNASACK	PONRE	Leader
2. Mr. Xang SANAPHON	PAFO	Secondary
3. Ms. Chanpheng PHETDARA	PONRE	Member

Article 2. PONRE and the appointed persons are assigned to collaborate with concerned agencies for efficient implementation of the project activities, which based on their own roles and responsibilities.

Article3. This DECISION shall come into force from the date of signature

Governor of Luang Prabang Province
Singed and stamped by

Dr. Khampheng XAISOMPHENG

Cc:	Copy
PONRE	1
Appointed persons	1
Filing	2



ສາທາລະນະລັດ ປະຊາທິປະໄຕ ປະຊາຊົນລາວ

ສັນຕິພາບ ເອກະລາດ ປະຊາທິປະໄຕ ເອກະພາບ ວັດທະນະຖາວອນ

ເຈົ້າແຂວງຫຼວງພະບາງ

ເລກທີ. 2695/ພຊສ.ຫຼບ

ລົງວັນທີ. 18/6/2015

ຂໍ້ຕົກລົງ

ວ່າດ້ວຍການແຕ່ງຕັ້ງຄະນະຊີ້ນຳລວມ, ຄະນະປະສານງານ

ແລະ ກອງເລຂາຂັ້ນແຂວງ ໃນການຈັດຕັ້ງປະຕິບັດ ໂຄງການຍຸດທະສາດ ນະໂຍບາຍ

ຂະແໜງການປ່າໄມ້ ກ່ຽວກັບການຄຸ້ມຄອງປ່າໄມ້ແບບຍືນຍົງແລະ REDD+ ຂອງແຂວງຫຼວງພະບາງ

- ອີງຕາມ ໜັງສືສະເໜີຂອງພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງຫຼວງພະບາງ
ສະບັບເລກທີ 2695/ພຊສ.ຫຼບ, ລົງວັນທີ 18/6/2015.

ເຈົ້າແຂວງຫຼວງພະບາງຕົກລົງ:

ມາດຕາ 1. ເຫັນດີແຕ່ງຕັ້ງຄະນະຊີ້ນຳລວມ, ຄະນະປະສານງານ ແລະ ກອງເລຂາຂັ້ນແຂວງ ໃນການຈັດຕັ້ງປະຕິບັດ ໂຄງການຍຸດທະສາດ ນະໂຍບາຍຂະແໜງການປ່າໄມ້ ກ່ຽວກັບການຄຸ້ມຄອງປ່າໄມ້ແບບຍືນຍົງ ແລະ REDD+ ຂອງແຂວງຫຼວງພະບາງ, ເຊິ່ງປະກອບມີບັນດາທ່ານດັ່ງນີ້:

1. ຄະນະຊີ້ນຳລວມ:

1. ທ່ານ ດຣ ບົວຄົງ ນາມມະວົງ	ຮອງເຈົ້າແຂວງຫຼວງພະບາງ	ເປັນຫົວໜ້າ
2. ທ່ານ ສຸກັນ ບຸນຍົງ	ເຈົ້າເມືອງຫຼວງພະບາງ	ເປັນຮອງ
3. ທ່ານ ສົມພອນ ສີອຸດົມພັນ	ເຈົ້າເມືອງງຊຽງເງິນ	ເປັນຄະນະ
4. ທ່ານ ສີຈັນ ລັດສະໝີ	ເຈົ້າເມືອງໂພນໄຊ	ເປັນຄະນະ
5. ທ່ານ ຈັນທະວົງ ຜົນນະຈິດ	ຮອງຫົວໜ້າພະແນກ ຊສ ແຂວງ	ເປັນຄະນະ
6. ທ່ານ ໄຊຍະພັນ ລາສີ	ຮອງຫົວໜ້າພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຄະນະ

2. ຄະນະປະສານງານ:

1. ທ່ານ ຈັນທະວົງ ຜົນນະຈິດ	ຮອງຫົວໜ້າພະແນກ ຊສ ແຂວງ	ເປັນຫົວໜ້າ
2. ທ່ານ ໄຊຍະພັນ ລາສີ	ຮອງຫົວໜ້າພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຮອງ
3. ທ່ານ ສົມເພັດ ໄຊຍະເດດ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ
4. ທ່ານ ພອນແກ້ວ ຜົນຜາລີ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ
5. ທ່ານ ວິລະພົງ ກັນຍາສອນ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ
6. ທ່ານ ດຸ້ຍ ພິມມະຈັນ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ
7. ທ່ານ ບຸນເພັງ ພຸດທະວົງ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ

8. ທ່ານ ສອນຕິສິດ ລຸນຍະລາດ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ
9. ທ່ານ ຈັນທະວົງ ສຸລິວົງ	ພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຄະນະ
10. ທ່ານ ບຸນເພັງ ເພັງຈັນ	ພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຄະນະ
11. ທ່ານ ສິມອິກ ລິດທິພົງ	ພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຄະນະ
12. ທ່ານ ບຸນມາ ສະຫວັດດີ	ຫ້ອງການ ຊສ ເມືອງຊຽງເງິນ	ເປັນຄະນະ
13. ທ່ານ ເພັດສະວົງ ວິທິ	ຫ້ອງການກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ເມືອງຊຽງເງິນ	ເປັນຄະນະ
14. ທ່ານ ສຸວັນທອງ ສຸກພັນໄຊ	ຫ້ອງການ ຊສ ເມືອງຫຼວງພະບາງ	ເປັນຄະນະ
15. ທ່ານ ສິມຫວັງ ພິມມະກອນ	ຫ້ອງການກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ເມືອງຫຼວງພະບາງ	ເປັນຄະນະ
16. ທ່ານ ຄຳພັດ ສິລິປະເສີດ	ຫ້ອງການ ຊສ ເມືອງໂພນໄຊ	ເປັນຄະນະ
17. ທ່ານ ຄຳພຸດ ແກ້ວບຸນມາ	ຫ້ອງການກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ເມືອງໂພນໄຊ	ເປັນຄະນະ

3. ກອງເລຂາ:

1. ທ່ານ ຂັດຕິຍະ ວັນນະສັກ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຫົວໜ້າ
2. ທ່ານ ຊ້າງ ຊະນະຜົນ	ພະແນກກະສິກຳ ແລະ ປ່າໄມ້ແຂວງ	ເປັນຮອງ
3. ທ່ານ ນາງ ຈັນເພັງ ເພັດດາລາ	ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ	ເປັນຄະນະ

ມາດຕາ 2. ມອບໃຫ້ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ, ບັນດາທ່ານທີ່ຖືກແຕ່ງຕັ້ງ ແລະ ທຸກພາກສ່ວນທີ່ກ່ຽວຂ້ອງຈົ່ງຮັບຮູ້ ແລະ ພ້ອມກັນຈັດຕັ້ງປະຕິບັດຕາມພາລະບົດບາດຂອງຕົນ ຢ່າງເຂັ້ມງວດ, ຖືກຕ້ອງຕາມລະບຽບການ ແລະ ໄດ້ຮັບຜົນດີ.

ມາດຕາ 3. ຂໍ້ຕົກລົງສະບັບນີ້ ມີຜົນສັກສິດ ນັບແຕ່ມີລົງລາຍເຊັນເປັນຕົ້ນໄປ.

ບ່ອນນຳລົງ:

- ພະແນກຊັບພະຍາກອນທຳມະຊາດ ແລະ ສິ່ງແວດລ້ອມແຂວງ
- ບັນດາທ່ານທີ່ຖືກແຕ່ງຕັ້ງ(ທ່ານລະ)
- ສຳເນົາ

01 ສະບັບ
01 ສະບັບ
02 ສະບັບ



ເຈົ້າແຂວງຫຼວງພະບາງ

ດຣ.ຄຳແພງ ໄຊສົມແພງ